

平成18年度

大学院生による授業評価実施報告書

平成19年8月

鳴門教育大学 学校教育学部

本学学部では平成8年度、平成10年度の「授業に関する学生の意識調査」を経て、平成12年度からFD推進事業のプログラムが策定され、FD推進のための講演会、研修会、公開授業・授業研究会等とともに、「学生による授業評価」が実施されてきた。大学院でもこのFD推進事業のプログラムに呼応した形で平成12年度から「大学院生による授業評価」が全国に先駆けて実施され、毎年、評価内容や実施方法についての改善が重ねられる中で授業評価の実施体制も整えられきたといえる。本報告書は今回で6回目となった平成18年度実施の「大学院生による授業評価」の結果を、授業を担当した教員が自ら分析・考察したものをまとめたものである。

本学大学院の目標は「教育に関する専門職としての高度な資質や能力を有し、学校教育の創造に主体的に取り組むことのできる実践的力量を涵養すること」である。当然のことながら、大学院の授業はこの目標を達成すべく実施されるべきものである。そのためには、大学院における授業が現在の学校現場が抱える課題に対応したものであり、かつ大学院生が実践的力量を伸ばすためのニーズに合致したものでなければならない。

「大学院生による授業評価」は、まさにこの点についてチェックするための最大の機会であるといえよう。授業評価では、「授業内容の適切性」、「教員の授業の進め方の適切性」、「受講生の授業への取り組み」、「授業全体の満足度」といった4つの観点に関わる項目について問われている。その中でも特に「授業内容の適切性」には教師の実践力の育成に役立つ内容であったか否かについて質問され、さらにその理由について記述が求められている。受講生がこれに答えることによって、授業の内容が受講生にとっての教育実践力育成に貢献するものであるか否かがチェックされるとともに、その理由が明らかになり、教育実践力育成に貢献する授業にはどのような内容が必要なのかが明示される。これによって、教員は授業内容を教育実践力育成に貢献できるように改善するための視点や具体的な方策について明確に認識することができるといえよう。

さらに、授業評価では受講生が授業に対して「どのような問題意識や期待をもって受講しようと思ったか」や「授業の良かった点、改善してほしい点、授業に取り入れられるアイデア」についても問うているため、受講生がこれらに答えることによって、教員が受講生の問題意識やニーズについて理解し、具体的な授業の改善点、工夫などについても明確に認識できる。特に現職教員の大学院生が持つ問題意識やニーズは、学校現場の課題やニーズを直接反映するものであり、それを知ることは、より実際的な教育現場の課題やニーズに対応した授業のあり方を考える上で大きな糧になると考えられる。

それらに加え、本報告書で他の教員が良い評価を得ている点や、どのように改善に取り組んでいるかについても知ることができることから、自らの授業にそれらを生かすことも可能であり、本授業評価の果たす役割は極めて大きなものであるといえる。

これらの点において、本報告書を大いに役立てていただければ幸いである。

最後に、授業評価の主旨に理解を示し、快くアンケート調査に協力してくれた大学院生、並びに本事業実施にご協力いただいた関係各位に厚く御礼申し上げる次第である。

平成19年8月

大学院学校教育研究科教務委員会
大学院生による授業評価専門部会主査

田村隆宏

目次

1 部

教育哲学研究 木内 陽一	1
比較教育社会学研究 伴 恒信	4
発達健康心理学研究 山崎 勝之	7
人間形成文化史研究 梶井 一暁	10
教育認知心理学研究 皆川 直凡	13
教育組織開発研究 佐古 秀一	16
教職研究 佐竹 勝利	19
認知学習科学研究 田中 淳一	22
教育工学研究 川上 綾子	26
道德教育指導論研究 兼松 儀郎	29
教育課題探究(教育臨床-生徒指導教育相談論) 兼松 儀郎・小坂 浩嗣	32
生徒指導教育相談論演習A・B 小坂・栗飯原・中津・葛上・佐藤・末内	35
学校精神保健学演習 今田 雄三	38
臨床心理学演習 葛西真記子	41
臨床心理査定演習Ⅱ 葛西真記子	44
臨床心理基礎実習 小坂・井上・山下・栗飯原・今田・葛西・中津・佐藤・久米・末内	47
臨床心理実習 小坂・井上・山下・栗飯原・今田・葛西・中津・佐藤・久米・末内	50
幼年期教育学研究 橋川喜美代	53
こころの発達支援演習 浜崎 隆司	56
幼年発達心理演習 田村 隆宏	59
幼年期福祉演習 木村 直子	62
幼年発達と幼児教育内容論 塩路 晶子	65
障害児教育課程特論演習 八幡ゆかり	68
特別支援教育コーディネーター概論 井上とも子	71
障害児教育指導特論演習 大谷 博俊	74
障害児学習支援演習 島田 恭仁	77

2 部

文化間教育総論 小西 正雄・太田 直也	81
総合学習総論 小西 正雄・谷村 千絵	84
教育課題探究(現代社会と総合学習) 近森 憲助・西村 宏・藤村 裕一・太田 直也	87
地球惑星物質学特論 西村 宏・村田 守・香西 武	90
日本文学研究Ⅱ 赤松 万里	93

言語教育基礎論Ⅰ	原 卓志・茂木 俊伸	96
日本文学研究Ⅰ	松原 一義	99
日本文学演習Ⅰ	松原 一義	102
日本語教育学演習	小野由美子	105
国語科授業研究	幾田 伸司	108
現代日本語研究	茂木 俊伸	111
日本語音声表現研究	永田 良太	114
英語科教育特論Ⅰ	伊東 治己	117
教育課題探究(英語科/英語教育基礎論)	太田垣正義・前田 一平・藪下 克彦	120
英米文化研究Ⅱ	前田 一平	123
英語科教育演習Ⅱ	山森 直人	126
歴史学研究Ⅰ	大石 雅章	129
哲学・倫理学研究	齋木 哲郎	132
現代の諸課題と社会認識教育	西村 公孝	135
法学・政治学研究	麻生 多聞	138
社会科教材開発演習Ⅱ	梅津 正美	141
社会科教育学研究	草原 和博	144
歴史学研究Ⅲ	原田 昌博	147
歴史学演習Ⅱ	町田 哲	150

3 部

数学科教育学研究	齋藤 昇・秋田 美代	153
幾何学研究	松岡 隆	156
解析学演習	成川 公昭	159
数学科教材開発研究	秋田 美代・齋藤 昇	162
数学科教材開発演習	秋田 美代・齋藤 昇	165
数理科学研究	鳥巢伊知郎	168
有機化学特論	今倉 康宏	171
分子生物学特論	清水 宏次	174
電磁気学特論	松川 徳雄	177
地球科学特論Ⅱ	村田 守・香西 武・西村 宏	180
自然科学史	栗田 高明・村田 勝夫・清水 宏次	183
進化生物学特論	工藤 慎一	186
物理化学特論	武田 清	188
物性物理学特論	本田 亮	191

4 部

歌唱表現演習 草下 實	193
声楽発声法 頃安 利秀	196
楽曲分析研究 松岡 貴史	199
ピアノ演奏基礎演習 村澤由利子・森 正	202
塑造制作演習 長岡 強	205
平面造形演習 西田 威汎	208
美術科教育学研究 橋本 泰幸	211
視覚デザイン演習 松島 正矩	214
油画制作演習 鈴木 久人	217
映像デザイン演習 内藤 隆	220
石彫制作演習 野崎 窮	223

5 部

運動学演習 乾 信之	227
体育・スポーツ心理学研究 賀川 昌明	230
体育・スポーツ心理学演習 賀川 昌明	233
運動生理学研究 田中 弘之	236
学校保健学研究 吉本佐雅子	239
スポーツ社会学研究 木原 資裕	242
学校体育経営研究 藤田 雅文	245
スポーツ・バイオメカニクス研究 松井 敦典	248
スポーツ・トレーニング研究 南 隆尚	251
スポーツ人間学研究 綿引 勝美	254
信号情報処理研究 菊地 章	257
エネルギー工学研究 木下 凱文	260
機械工学演習 宮下 晃一	263
画像情報処理研究 伊藤 陽介	266
食生活学研究 前田 英雄・西川 和孝	269
住生活学研究 金 貞均	272
衣生活学研究 福井 典代	275

附属教育研究施設等

版面制作演習 武市 勝	279
漢字文化史研究 蓑毛 政雄	281
数学科授業研究 服部 勝憲	284

地学実験法特論 小澤・村田(守)・香西・西村	287
健康科学研究 廣瀬 政雄	290

第 1 部

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

		評価実施日	平成 18 年 7 月 20 日		
授業科目名	教育哲学研究	学期・曜日・時限	前 期 木 曜 日 3 時 限		
授業区分	1. 教職基礎科目 (2) 専門科目				
担当教員名	木内陽一	回答者数	11 名		

1 アンケート [1] の集計と分析について

[5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない]
 [2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 未記入]

番号	評 価 項 目	評 価 番 号					
		5	4	3	2	1	無
1	授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。	3	3	4		1	
2	授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。	3	3	3	2		
3	授業の内容には一貫性があった。	4	3	1	3		
4	教師の実践力の育成に役立つ内容であった。	4	2	3	2		
5	授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。	3	4	4			
6	授業をよく準備し、熱心に教えた。	4	4	2		1	
7	授業の進む速さは適切であった。	3	3	4		1	
8	受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。	4	1	5	1		
9	受講生に授業への参加（質問、発言、討議など）をよく促した。	5	4	2			
10	教科書や参考書の使い方は適切であった。	3	3	3	2		
11	視聴覚機器の使用は適切であった。	3	3	4	1		
12	配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。	5	4	1	1		
13	受講生に分かりやすく説明した。	5	2	3		1	
14	教員の声は聞き取りやすかった。	6	3	1	1		
15	板書の文字は見やすかった。	3	4	2		2	
16	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	3	5			
17	この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	5		4	1	1	

<分 析>

- ・ おおむね高い評価を得ている
- ・ 配布資料、文献等は授業内容を理解する上で役に立ち、授業も満足している院生が多い。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分 析>

・考え方の幅を広げる、教育哲学全般を知りたい、教育について深く知りたい、などの意見が多かった。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

以下のような意見が出ていた

- ・ 教育を哲学的に議論すると、知識が深まった。
- ・ 現代の教育に役立つ部分がいくつかあり参考になった。
- ・ 教育を根本的に考え直すヒントとなった。
- ・ 教育や現代について、深く考えさせられることばかりだった。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点，改善してほしい点を具体的にお書きください。また，この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

よかった点

- ・ 話題が面白く刺激的だった。

改善してほしい点

- ・ 視聴覚教材の中に、パソコン・パワーポイントを使うとさらにわかりやすい。

5 本授業の成果と今後の課題について

基本的には講義形式をとったが、受講者の人数が少ないので、より受講者の発言の機会を多くすればよかったのではないかと、反省している。事実、発言を促すと、実に様々な意見が出て、意見交換が活発に行われた。このような点にかんがみ、さらに内容・形式を改善したい。

使用機器については、さらに検討したい。OHPを要所に使用したが、更に最新の機器も使用していきたい。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

		評 価 実 施 日	平成 18年 7月 10日
授業科目名	比較教育社会学研究	学期・曜日・時限	前期 月 曜日 4 時限
授業区分	1. 教職基礎科目 ○ 2. 専門科目		
担当教員名	伴 恒信	回答者数	8 名

1 アンケート [1] の集計と分析について

(5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない)
 (2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 --- 未記入)

番号	評 価 項 目	評 価 番 号					
		5	4	3	2	1	無
1	授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。	3	4	1			
2	授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。	4	4				
3	授業の内容には一貫性があった。	4	3		1		
4	教師の実践力の育成に役立つ内容であった。						
5	授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。	3	2	3			
6	授業をよく準備し、熱心に教えた。	6	1	1			
7	授業の進む速さは適切であった。	2	4	2			
8	受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。	2	3	2	1		
9	受講生に授業への参加（質問、発言、討議など）をよく促した。	3	4	1			
10	教科書や参考書の使い方は適切であった。	3	4	1			
11	視聴覚機器の使用は適切であった。	5	3				
12	配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。	5	2	1			
13	受講生に分かりやすく説明した。	4	3	1			
14	教員の声は聞き取りやすかった。	5	2	1			
15	板書の文字は見やすかった。	2	2	3	1		
16	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	4	1			
17	この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	3	4	1			

<分 析>

本学大学院は開学当初より、現職教員の院生と学部卒の院生との間に学力および問題関心に関してギャップが大きかったのではあるが、特に3年制の教職課程の院生が入学するようになった近年、そのギャップがさらに一層拡大しているようである。諸外国の道德教育の実情とその背景を探ろうとする本講義についても、学校現場で実際に道德教育の実践に携わり、日本の道德教育のあり方に大いに疑問を持ちながら熱心に受講している現職の院生に対し、学部卒の院生のなかにはアメリカの首都や初代大統領名も知らず、社会事象に全く関心も持たずに受講している院生がいて、現職院生の要望に応えるような講義をすると、一部の学部卒院生は内容についていけずに居眠りをしている。かといって、学部卒院生の理解度レベルに話を下げると小学校の社会科の基礎知識の確認に終始し、とても大学院としての内実のあるまともな講義ができない。おそらくこの種の学生と思うが、1人だけ、ほとんどの項目で2と3の評価をしている者がおり、こうした人物が果たして授業評価を行う資格があるのか疑問に思う。

ともあれ、8名中6名が5の評価をした項目は、「授業をよく準備し、熱心に教えた」という項目であり、「視聴覚機器の使用は適切」「資料・文献等は理解する上で役に立った」「教員の声は聞き取りやすかった」など5人が5と評価する項目と併せて考えると、諸外国の道德教育の事情をヴィヴィッドに伝えたいという当方の努力は受講生に通じていたようである。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分 析>

「他文化における倫理・道徳的観念に興味があり、それぞれ自殺をどうとらえているか知りたかった。社会背景などの比較から浮き出る、日本の倫理観がどんなものか勉強したいと思った。」「子どもは社会を映す鏡であるということで、その国の子どもや教育、心の教育など世界の道徳教育に興味を持っていました。」「日本の教育は体験しているのである程度分かっていますが、他国のそれを学び、考えることで新しい視点を手に入れることができると思った。」などの叙述が見られ、単なる諸外国の教育の表層的な見聞に終わらない、その思想的・文化的背景の理解に達しようとする本授業の目的に沿って受講を考えてくれている者もいるようである。ただ、先述のように受講動機の浅薄な一部学生によって講義内容を深められないジレンマが存在する。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

本授業の主たる目的ではない。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点、改善してほしい点を具体的にお書きください。また、この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

「各国の道徳今日言うとその利点欠点が明確でわかりやすかった。」「映像資料が多く使われていたので、事実や問題を動きで見ることができたのが良かったです。」「テキストも貸していただいた上、発表用の本も貸していただけて、とても親切だと思いました。」などの感想が述べられていた。

5 本授業の成果と今後の課題について

受講者のほとんどは基本的に、講義者側の意図に沿った形で授業を受けとめてくれていたようで、その点では成果を挙げられたと思うが、繰り返し述べているように、一部の学生の中には小学生レベルの知識や常識に欠ける者もいて、「大学院に相応しい」授業が展開できない悩みがある。定員充足を至上命題として大学院を維持することが、大学院本来の機能の崩壊を招き、ひいては本学大学院全体の社会的評価を低下させることになるのではないかという危惧を一層強くしている。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

		評価実施日	平成 18 年 7 月 27 日		
授業科目名	発達健康心理学研究	学期・曜日・時限	前期 木 曜日 4 時限		
授業区分	1. 教職基礎科目 (2) 専門科目				
担当教員名	山崎 勝之	回答者数	12 名		

1 アンケート [1] の集計と分析について

(5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない)
 (2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 --- 未記入)

番号	評 価 項 目	評 価 番 号					
		5	4	3	2	1	無
1	授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。	5	7				
2	授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。	6	6				
3	授業の内容には一貫性があった。	11	1				
4	教師の実践力の育成に役立つ内容であった。	6	5	1			
5	授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。	7	5				
6	授業をよく準備し、熱心に教えた。	11	1				
7	授業の進む速さは適切であった。	2	9		1		
8	受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。	4	6	2			
9	受講生に授業への参加（質問、発言、討議など）をよく促した。	9	3				
10	教科書や参考書の使い方は適切であった。						
11	視聴覚機器の使用は適切であった。	10	2				
12	配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。	8	4				
13	受講生に分かりやすく説明した。	8	3	1			
14	教員の声は聞き取りやすかった。	10	2				
15	板書の文字は見やすかった。	5	3	3			1
16	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	6	1			1
17	この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	6	6				

<分 析>

授業評価は概ね好評であったと思われる。最高評価の5が少ないという点では、授業の進む速さに問題があったのであろうか。授業は限られた時間なので、少しでも多くのことを伝えようとする思いの中で、授業の速度が自然と上がってしまう。ただ、早すぎるという評価はほとんどなく、このあたりの速度が内容量とのかねあいから言っても適切なものと感じる。

この授業は、授業外でもインターネット上で十分な討議の機会をもち、受講者の積極的な関与も確保されたと判断する。願わくば、授業中の討議時間を増やしたいが、そのためには、授業時間外の授業要素を増やしていく必要がある。インターネットやメールの利用度が増してくる中で、週一度の固定された授業の意味とあり方が根本的に問われる状況になりつつある。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分 析>

まず、シラバスの内容に興味をもって受講した学生が多かったように思われる。また、昨年度の受講生からのすすめで受講した学生も多かった。

授業ではシラバスの内容はほぼ網羅したし、学生の参加も積極的に促せたと考えられ、この点ではある程度受講者の期待に応えられたと判断する。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

従業内容は教師の実践力を独自の観点と内容から高めることであったので、この点の評価は高かったものと判断される。ただ、あまり他で接することがない新しい教育が対象なので、その点でどれほど理解できたか不安なところが多い。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点，改善してほしい点を具体的にお書きください。また，この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

あたらしい試みを山ほど取り入れた授業であったので、部分的に戸惑いがあった学生もみられた。おそらく、始めて経験するであろう授業要素は、その要素をこなせる準備も必要であったろう。

また、学生の積極的な討議に十分に答える機会と時間がなかったことは授業者として大きな反省点である。自律的な授業と教員主体的な授業のバランスをどうとるか、今後の大きな課題である。

5 本授業の成果と今後の課題について

結論として、この授業を構成する要素と方法論に大きな問題はなく、この方向でさらに発展させる必要があるということが強調される。しかし、学生のニーズは多様で、10名ほどの受講者で、このような評価を行うことの意味付加とその結果の活用には慎重な考察が必要になろう。

ともあれ、大学院の授業は最新の専門性がたっぷりの話題をどう受講者に吸収させるかがポイントになる。個々の受講者のニーズは毎年のように変わるので、そのことに敏感になりながら、さらに斬新な教育方法を導入し展開したい。大学院の授業とは何か、この点は毎年のように問い、考え続けたい。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

		評 価 実 施 日	平成 18 年 7 月 27 日	
授業科目名	人間形成文化史研究	学期・曜日・時限	前期 木曜日 4時限	
授業区分	1. 教職基礎科目 ②. 専門科目			
担当教員名	梶井一暁	回答者数	16名	

1 アンケート [1] の集計と分析について

[5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない]
 [2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 未記入]

番号	評 価 項 目	評 価 番 号					
		5	4	3	2	1	無
1	授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。	9	7	0	0	0	
2	授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。	9	5	2	0	0	
3	授業の内容には一貫性があった。	7	8	1	0	0	
4	教師の実践力の育成に役立つ内容であった。	6	8	2	0	0	
5	授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。	5	6	4	0	1	
6	授業をよく準備し、熱心に教えた。	13	2	1	0	0	
7	授業の進む速さは適切であった。	6	8	2	0	0	
8	受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。	6	7	3	0	0	
9	受講生に授業への参加（質問，発言，討議など）をよく促した。	10	6	0	0	0	
10	教科書や参考書の使い方は適切であった。	11	4	1	0	0	
11	視聴覚機器の使用は適切であった。	10	6	0	0	0	
12	配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。	6	9	1	0	0	
13	受講生に分かりやすく説明した。	10	6	0	0	0	
14	教員の声は聞き取りやすかった。	12	4	0	0	0	
15	板書の文字は見やすかった。	4	3	9	0	0	
16	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	8	5	2	1	0	
17	この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	10	5	0	1	0	

<分 析>

全体の平均は4.39である。おおむね受講者の満足を得られた授業を行うことができたと考える。

評価された点は、授業者がよく準備し（項目6）、配付資料や視聴覚機器を活用し（項目10,11）、受講者の授業参加もうながしつつ（項目9）、授業を進めたことである。そのことは分かりやすい授業にもつながった（項目13）。

とくに改善すべき点は、授業進度がはやかったこと（項目7）、板書が親切でなかったこと（項目15）などである。成績評価の方法については、後述する。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分 析>

- ・教育の歴史と人間形成の歴史の関係について興味があった。
- ・教育の歴史に興味があった。
- ・近代教育史を詳しく知ることを目的とした。
- ・これまで日本史などの歴史を学ぶ機会が少なく、人間形成からみた歴史に興味があった。
- ・教育も歴史も詳しくないので一から勉強しようと思った。
- ・人間を形成づける要因とは何か。
- ・幅広い視野を身につけたいと思った。
- ・将来、教員になったときに生きる知識習得をこころがけた。

以上のような記述があり、①教育史や人間形成史への関心、②歴史的視角の獲得、③実践的知識の習得などの受講動機が確認される。

とくに授業者が留意すべきと感じたのは、受講動機の多様さとともに、受講者の学習背景である。これまで歴史をあまり学んだことのない初学的な受講者と、すでに相当程度学んでおり、より専門的な内容を期待する受講者がいる。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

- ・歴史を通して考えることにより、新たな思考を身につけることができた。
- ・歴史上の学びのさまざまな行為が現代の教育とどのように関連しているかを学ぶことができた。
- ・物の見方やさまざまな知識を身につけられた。
- ・過去を知ることによって現在の問題点がみえた。
- ・実践力に直につながるかわからないが、教師として底に必要なものと思う。
- ・受講者側の発表の機会があり、調べて皆のまえで発表することは、子どもたちのまえで授業をするさいにも役立つ経験。
- ・自分でテーマを決め、調べ、聞く人にわかりやすいように発表する機会がよかった。
- ・自分で興味のあることを調べて討議すること。
- ・レジュメやパワーポイントを作り、プレゼンする機会が設けられていた。
- ・いろいろな発表を聞くことで幅広い視野や考え方を身につけることができた。
- ・多くの人の考えを聞くことができ、考えが広がった。
- ・各分野においていろいろな視点での見方ができる内容であった。

以上の記述から、主に①歴史的な思考や知見の実践的意義、②受講者間での発表や意見交換を通じた学習効果が認められる。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点、改善してほしい点を具体的にお書きください。また、この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

- ・発表の意見や質問を交えながらの話し合いがよかった。
- ・それぞれテーマを決めて発表するというのがよかった。
- ・自分の興味のなかった話、知らなかったことについても新しく聞くことができた。
- ・さまざまな分野でとらえることができた。

以上の記述が認められ、①受講者の発表機会が設定された参加的な授業構成、②幅広い歴史問題群のテーマ化が、良い点として評価されている。

5 本授業の成果と今後の課題について

本授業における重要なねらいとして考えているひとつは、教育に関する営みを歴史的視角からとらえる作業の意義である。複数人の受講者が自由記述のなかでこのことに言及している。授業者の意図が一定程度伝わっていることを示唆し、成果といえる。

また、受講者が行う個人発表の機会を通じ、受講者間での討議や交流を促進することも、ねらいのひとつである。友人の問題関心を知ることによる視野や興味の広がりとともに、発表経験が実践力育成にもつながると記す受講者もいた。前年度からひきつづいて個人発表の機会を設定している。発表時間やテーマ選択をより工夫し、次年度も継続したい内容である。

今回のアンケート結果は、とくに成績評価の方法について課題を残すものとなった。昨年度の方法を維持している。授業者はいつそうの工夫を要するということであろう。受講者の授業への参加度をどう客観的に成績に反映させるかが課題となる。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

		評価実施日	平成 18 年 7 月 28 日		
授業科目名	教育認知心理学研究	学期・曜日・時限	前 期 金 曜 日 2 時 限		
授業区分	1. 教職基礎科目 (2.) 専門科目				
担当教員名	皆 川 直 凡	回答者数	40 名		

1 アンケート [1] の集計と分析について

(5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない)
 (2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 --- 未記入)

番号	評 価 項 目	評 価 番 号					
		5	4	3	2	1	無
1	授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。	16	14	7	3		
2	授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。	13	18	8	1		
3	授業の内容には一貫性があった。	21	18	1			
4	教師の実践力の育成に役立つ内容であった。	12	19	8	1		
5	授業開始時や途中の成績評価の方法の説明は、具体的であった。	15	16	7	2		
6	授業をよく準備し、熱心に教えた。	18	14	6	2		
7	授業の進む速さは適切であった。	13	18	6	3		
8	受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。	5	15	16	4		
9	受講生に授業への参加（小課題、質問など）をよく促した。	12	16	9	2	1	
10	教科書や参考書の使い方は適切であった。	12	13	11	2		2
11	視聴覚機器の使用は適切であった。（パワーポイント、プロジェクター）	18	17	5			
12	配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。	14	23	3			
13	受講生に分かりやすく説明した。	9	13	14	3	1	
14	教員の声は聞き取りやすかった。	12	13	11	3	1	
15	板書の文字は見やすかった。	-	-	-	-	-	-
16	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	6	17	13	4		
17	この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	10	19	8	2	1	

<分 析>

評価項目別、回答者別の両面から分析する。前者では評価番号4以上の回答者比率を、後者では各回答者別平均評価値を指標とする。授業内容に関する評価項目（1～4）では、高評価者率（評価番号4以上の回答者の比率）が75～98%であったことから、授業内容はおおむね満足できると評価されたといえよう。教員の授業の進め方についての項目に対する評価は3水準に分かれた。項目5・6・7・9・11・12に対する高評価者率はかなり高かった（70～93%）。項目13と14に対する高評価者率は半数を超えた（55%、63%）。項目8に対する高評価者率は50%であった。これらのことから、教員の授業の進め方は、おおむね満足されているが、受講生の理解度の確認にはかなりの工夫が必要であり、説明のわかりやすさや声の聞き取りやすさについても改善の余地があることが示唆された。受講生の授業への取り組みを問う項目16の高評価者率は過半数を占めた（58%）。このことから、受講生の主体的積極的取り組みを促す授業展開がおおむねなされたが、改善の余地もあるといえよう。授業全体への満足度を問う項目17に対する高評価者率は73%を占めた。回答者別平均評価値は、4.5以上が12名（30%）、4.0～4.3が9名（22.5%）、3.5～3.9が11名（27.5%）、3.0～3.4（17.5%）が7名、2.1が1名（2.5%）であった。このように、全体としてはかなり高い満足感が得られたと考えられるが、個別項目において示唆された問題点を克服する方向で、授業改善をはかりたい。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分 析>

29名 (72.5%) の回答者がなんらかの記述をおこなっていた。

各年齢段階の教育対象者 (子ども) の認知機能についての心理学的知識の習得, その教育への応用可能性についての理解のいずれか, あるいはその両方についての問題意識や期待が記述されていた。これらは, シラバスの記載趣旨とほぼ符合する。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について, その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

28名 (70.0%) の回答者がなんらかの記述をおこなっていた。

評価番号5・4の回答者は, 身近な素材 (俳句, 絵本など) を取り上げて教育への応用可能性を示した点, 授業内容の教育への応用可能性について自ら考える機会を設けた点, 教育現場での実践に対して理論的裏付けを与えたり新たな視点もしくは具体的な実践方法を例示した点, 教師の感性の重要性を示した点, さまざまな資料が提供された点, 自らの関心領域に直接関わるテーマについて解説した点などをあげていた。

評価番号3の回答者は, 「まだ授業内容を十分に理解できていないため, これから考えていきたい」といった趣旨のことを記述していた。

評価番号2の回答者は, 「メカニズムについての説明が多く, 自分の考える実践とは異なっていた」と記述していた。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点，改善してほしい点を具体的にお書きください。また，この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

16名（40.0％）がなんらかの記述をおこなっていた。

良かった点としては，授業者の真摯な姿勢，熱心な授業準備，豊富な配布資料，パワーポイントによるプレゼンテーション，小課題によって知識を活性化したり整理したりすることができたことなどがあげられていた。

改善すべき点としては，話し合いの機会を設けるなどして受講生の参加の機会を増やすこと，配布資料のキーワード部分を空欄として受講生自身が書き込んで完成させる形式とすることにより緊張感や参加意識を高めることなどがあげられていた。

5 本授業の成果と今後の課題について

授業評価においては，全体としてかなり高い満足感が得られた。受講生による提出物の内容も，知識の定着と考察の深まりを示していた。

これらのことから，本授業はかなり高い水準の成果をあげたと考えられる。個別項目に対する評価得点によって示唆された問題点を克服し，自由記述によって指摘された本授業の良かった点をいっそう伸長させ，改善点についてはそれを取り入れ実現する方向で，本授業内容と授業担当者の教授能力のさらなる向上をはかることを今後の課題とする。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

		評価実施日	平成 16 年 7 月 21 日		
授業科目名	教育組織開発研究	学期・曜日・時限	前 期 木 曜 日 2 時 限		
授業区分	1. 教職基礎科目 (2) 専門科目				
担当教員名	佐古 秀一	回答者数	17 名		

1 アンケート [1] の集計と分析について

(5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない)
 (2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 --- 未記入)

番号	評 価 項 目	評 価 番 号					
		5	4	3	2	1	無
1	授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。	13	3	1			
2	授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。	12	5				
3	授業の内容には一貫性があった。	15	2				
4	教師の実践力の育成に役立つ内容であった。	12	5				
5	授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。	8	7	1			
6	授業をよく準備し、熱心に教えた。	17					
7	授業の進む速さは適切であった。	7	8	2			
8	受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。	9	6	2			
9	受講生に授業への参加（質問，発言，討議など）をよく促した。	8	7	2			
10	教科書や参考書の使い方は適切であった。						
11	視聴覚機器の使用は適切であった。	8	6	3			
12	配布された資料・文献等は，授業内容を理解する上で役に立った。	13	3	1			
13	受講生に分かりやすく説明した。	14	2		1		
14	教員の声は聞き取りやすかった。	16	1				
15	板書の文字は見やすかった。	4	7	3	3		
16	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	10	5	2			
17	この授業は，自分自身にとって満足できるものであった。	13	3	1			

<分 析>

本授業は，主に学校改善の具体的な事例をもとにして，学校の組織開発に関する基礎的な知識と実践的な方法論を取り扱った。授業のねらい，内容に関しては，おおむね肯定的な評価を得ているといえる（No.4）。内容の一貫性などについても，肯定的な評価を得ている。他方，授業の速度，授業の理解度を考慮した授業展開，板書の仕方，授業への参加の促進，などについては，相対的に肯定的な評価が減少している。授業の理解度に関しては，学卒院生と現職院生とでは，授業内容の理解のしやすさが異なっていると思われる。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分析>

受講生のアンケートの記述内容

小学校の個性をいかに打破し、協働的な体制をつくり、実践していけるか、
学校の現状がどうなっているのか、学校がどのように組織として動いているのかを知りたい、
学校現場でさまざまな問題をどうとらえることが重要なのかなど、学校現場の状況を学ぶことを期待した、
教育問題を改善する視点を得ようと考えた、
組織のあり方について興味があった、
学校という組織が生徒にどのような影響を与えているのか、
学校が現在もっている課題とそれをどう改善すべきかを理解し、実践につなげたい、
今日の教育問題について、自分なりの理解と方向づけをもちたいと考えた、
学校を組織としてとらえる考え方、論理、方法等を勉強してみたかった、
教員の異動や教員の抱え込みなどによって、学校の問題解決が困難になる現状があり、それがどうすれば改善できるかを学びたかった、
教育改革のなかで学校を変えていくための方法や事例を知りたい、
十分な教育活動ができていない学校をどうすれば立て直せるのか、そのための方策はどのようなものかを学べると思った、

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分析>

アンケートの記述内容

実践校の事例を詳しく講義してくれた、
具体的事例をさまざまな角度からみていったので、実際の現場と照らし合わせやすかった、
実際の事例を素に説明した、
講義内容が学校現場で十分に導入できるものだと感じた、
講義の内容が教師がどのように課題を認識し、生成していくものであるかを述べられたものであるから、
教育問題を解決する理論や解決策を示してもらえたから、
「教育の質の向上」について、考えさせられた、
実践に役立つかどうかは別にして、学校改善について考える良い機会になった、
学校の中でどのように連携し、どのように関わるのが必要かという点について学んだ、
学校の実践例をその特殊性に目を向けるのではなく、一般化することで、学校が取り組まなければならない方向性を理解するのに役立った、
現場に直接結びつけることのできるものが多かった、学校を改善するヒントとなる考え方を示した、
現場の実践例とその背後にある教師たち（その他の人も含む）の葛藤やそれが一つになっていくところ、またしんどい子どもたちをどうしていくか、具体例を示してくれた、
個業で頑張ってきた現職として、「眼からうるこ」の内容が多かった、
理論だけでなく、実践事例を具体的に示してくれた、
今の職場の状況は、授業で解説されたことと当てはまることが多くあり、学校組織の問題としてとらえる観点が参考になった、
教師は自分の経験を頼りにしているが、それに常に不安を持っている、授業で学んだ「元気システム」は、教師に自信をもたせることになり、実践力の育成に役立つ、

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点、改善してほしい点を具体的にお書きください。また、この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

肯定的な記述

単なる理論で終わらず現場で自分を見つめ直し考えることができた、
具体的な事例や資料があつて理解しやすかつた、
現職教員でないので想像がつかないこともあつたが、教員になれたとき、また受講してみたいと思つた、
多くのことを提供しおてもらえたので、飽きることがなかつた
毎回復習してくれたので、ポイントを整理し理解することができた、適切な資料を豊富に用意して
いたので理解しやすかつた、具体的な事例をとりあげてわかりやすかつた、
自分のなかでぼんやりとしていたことが、明確なかたちとして落ち着いていった部分がたくさんあ
つた、
前時の復習から入り、授業の基本をおさえることを大切にしていた、90分がいつも短く感じられ
る楽しい授業だつた、

改善点に関する記述

講義はためになるが、板書が見にくいときがある、
ワークショップ等がもっとあれば、面白かつたと思う
中学校で「元気システム」を導入している実践例を紹介してほしいかつた
自分を振り返ることができたが、授業の容量が多く、完全に消化しきれない面もあつた、

5 本授業の成果と今後の課題について

受講生のアンケートより

学校事例を中心にしながら、学校の組織の特性とそれを変革する理論と方法論を考えていく授業であつたが、学校事例をもとにした授業展開については、肯定的に評価されていると思われる。アンケートにも「当初はそれほど深い目的や期待はなかつた。しかし、現場の具体例や改善方法が述べられ、役に立ち、最も大切にしたい講義になつたと思つた」という記述があつた。また、講義から実践へのつながりについても、そのような見通しを持ちえた受講生が見出せたことは、喜ばしいことと感じている。

他方で、板書、授業の進度等については、改善すべき余地がある。とくに学卒院生にとって、理解がしにくい内容であつた可能性がある。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

		評価実施日	平成 18 年 7 月 26 日		
授業科目名	教職研究	学期・曜日・時限	前期 水 曜日 1 時限		
授業区分	1. 共通科目 ○2. 専攻科目 (○専門分野・教科教育分野)				
担当教官名	佐竹 勝利	回答者数	10 名		

1 アンケート [1] の集計と分析について

(5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない)
 (2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 ---- 未記入)

番号	評 価 項 目	評 価 番 号					
		5	4	3	2	1	無
1	授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。	6	4				
2	授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。	5	4	1			
3	授業の内容には一貫性があった。	6	4				
4	教師の実践力の育成に役立つ内容であった。	7	2	1			
5	授業開始時や途中の成績評価の方法の説明は、具体的であった。	5	2	2			
6	授業をよく準備し、熱心に教えた。	6	3	1			
7	授業の進む速さは適切であった。	6	4				
8	受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。	6	4				
9	受講生に授業への参加（質問、発言、討議など）をよく促した。	7	2				
10	教科書や参考書の使い方は適切であった。	5	4	1			
11	ディスカッションは授業の内容を深めるのに有効であった。	9	1				
12	配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。	8	2				
13	受講生に分かりやすく説明した。	8	2				
14	教官の声は聞き取りやすかった。	8	2				
15	教員のコメントは適切であった。	8	2				
16	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	7	3				
17	この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	7	3				

<分 析>

全体には評価が5と4に集中しており良好であると思われる。平均値を取ると、全体には4.6であった。項目ごとには最高が番号11の4.9で非常に高く評価された。12～15も次いで高かった。これは、ディスカッション主体の授業にしたためや、受講生に工夫した資料を用意させたことや時々解説を加えたことなどが奏功したものであると思われる。最低は番号5の3.9であったが、これはディスカッション中心の授業における評価法が明確ではないためと思われる。

全体に高い評価であるし、2と1の評価が皆無であるのはあまりないことである。

なお、前述のようにディスカッションを主として行ったので、番号11をその評価項目に変えた。また、教員のコメントがどうかを把握するために15をその設問とした。両者ともその評価はかなり高かったため、今後も続けたい。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分 析>

記入されたものを書き抜くと以下の通りである。

- ①教職について、全般的に復習できるのではないか。
- ②自らの職務の振り返りの場としたい。
- ③今までの現職経験を振り返る場として、またいろいろな現職・ストレートの方の意見を聞きたい
と思い受講させていただきました。
- ④教職の資質・能力を高めたいと思った。
- ⑤教職について理解しようと考えたため。
- ⑥教員としての自覚や知識を深めるために受講しようと思いました。
- ⑦授業でやっている内容をつねに現場に当てはめて考えていた。
- ⑧生の声を聞きたかった。

ほぼ予想した意識や期待である。特には現職教員には①、②、③を、ストレートマスターには⑤と⑧を予想していた。そしてそれをある程度意識して進めた。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

平均値を出すと 4.6 であり、3 の評価が一人あった。その回答者は、「全般的な内容は十分に復習でき、実践力の育成ではなく課題を確認できる時間となった。」と書いている。現職教員のものと思われるが、課題は確認できたが実践力の育成には至らず、ということであろう。

その他に書かれたものの要点を示すと以下の通りであった。

ストレートや現職の意見を聞き、他面的な見方を得た。地域、校種、年齢も違う人から、いろいろな体験（実践）や思いを聞くことができた。様々な経験や考えを実践に活かした方が多く、討議が深まった。様々な学校の課題に基づいて考えることができた。様々な県の現状が分かったので、よかった。校種や県の異なる先生の話がきけてよかった。現職教員とストレートマスターのディスカッションがよかった。

ストレートマスターらしいコメントには以下のようなものがあった。現職の先輩の先生の話がきけた。意見やコメントも授業中に優しく聞いて下さり、よく対応していただきました。

「非常に良い授業だったと思います。」という高い評価もあった。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点、改善してほしい点を具体的にお書きください。また、この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

まずよかった点については、「積極的に討論できた。」「レポートをA4 1枚に簡潔にまとめるよう指示があったので、それによりポイントを絞った報告がなされ、討議時間がしっかり確保された。」「ストレートがしゃべる事ができる、先生や現職の配慮(雰囲気)があった。これからも続けて欲しい。」「地域連携センターでできたのがよかったのではないかと討議形式に適した机の配置であった。」であった。A4で1枚というのは今年初めての実施であるが、その効果があったようだ。またストレートへの配慮は、今年の現職教員が特に気配りしてくれたお陰である。討議形式は例年行っているのですが、今後もセンターに限らず討議がしやすい部屋で行いたい。また、ストレートの院生のもと思われるが、「現職の先生方の話を聞いて、現状が分かりやすくよかったです。」というものもあった。これも例年あげられている点であるので、さらに続けたい。

一方、意見交換がまだまだ十分ではないことを示す回答が見られる。「先生の説明をもう少し聞きたかった。」「討議するより深める時間をもう少し多くしてはどうでしょうか。」「討論のまとめの時間がもう少し欲しかった。」これらのことから、しゃべりっぱなしの状態で終わったことがあることを示しているようだ。深める、まとめる時間をとる工夫がいるだろう。また、「若い人たちと現職がもっと意見交換できるものであってもよいかと思う。」このことからストレートの意見がもっと出る工夫がいるようだ。

5 本授業の成果と今後の課題について

この講義は、受講生の人数の関係ではじめの3回を佐竹が講義を行い、後は毎回、院生がテキストの中から選んだ章について資料を使いながら報告し、それについて全員でディスカッションを行い、最後に佐竹がコメントする、という流れで実施した。このディスカッション方式は毎年好評で、今年も同様であった。

反省点としては、佐竹のコメントが十分できなかつたことと、討議が十分まとめられなかつたこと、ストレート生がディスカッションに十分には加われなかつたことである。前者の2つ(コメントとまとめ)については、院生の発言が相次ぎ、終了間際にコメントすることが多かつたためである。しかし昨年よりは少し時間が確保できた。後者(ストレート院生の発言)についても、昨年よりは発言が多かつたが、それは現職院生の気配りが例年よりもあつたからである。今後もストレート生の発言(特には疑問点の質問であろう)をさらに促したい。大学院全体としてストレート生が増えつつあるので、しかも当然のことながら意識もニーズもさまざまな院生がいるので、一層の改善が求められる。

それにしても、今年も現職教員の受講生の発言が多く、彼らの思いの丈が強く感じられるとともに、学校現場の課題山積がひしひしと伝わってきた。本授業が、少しでも彼らの課題解決の糸口を見出す場になればと思う。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

		評価実施日	平成 18 年 7 月 27 日		
授業科目名	認知学習科学研究	学期・曜日・時限	前期	木曜日	4 時限
授業区分	1. 基礎科目 (2.) 専攻科目 (専門分野) 教科教育分野)				
担当教官名	田中 淳一	回答者数	8 名		

1 アンケート [1] の集計と分析について

[5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない]
 [2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 未記入]

番号	評 価 項 目	評 価 番 号					
		5	4	3	2	1	無
1	授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。	1	3	4			
2	授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。		3	5			
3	授業の内容には一貫性があった。	4	3	1			
4	教師の実践力の育成に役立つ内容であった。		1	6	1		
5	授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。	4	2	2			
6	授業をよく準備し、熱心に教えた。	1	4	2	1		
7	授業の進む速さは適切であった。	4	2	2			
8	受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。	1	4	2	1		
9	受講生に授業への参加（質問，発言，討議など）をよく促した。			5	2	1	
10	教科書や参考書の使い方は適切であった。		4	4			
11	視聴覚機器の使用は適切であった。	3	4	1			
12	配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。		5	1	2		
13	受講生に分かりやすく説明した。		4	4			
14	教官の声は聞き取りやすかった。	1	4	3			
15	板書の文字は見やすかった。	2	4	2			

16	授業に主体的・積極的に取り組んだ。		4	4			
17	この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。		4	4			

<分 析>

平均4.0以上は5項目、3.5-3.9は7項目であり、ある程度の評価は得られているが、改善を要する項目が残された。例年、教育実践に役立つ内容の評価が低いため、教育実践と密接に関係している講義内容を多くしようと努力しているが限界がある。今後、間接的にでも教師の実践力の育成に役立つ内容を増やしていきたい。また、積極的に受講生へ質問等を行い、授業に積極的に参加させるように心がけることの必要性が指摘された。ある程度の専門的知識が要求される内容のため、講義内容の理解に個人差があるので、説明を行なう際に十分に理解できているかどうかを考慮しつつ進めていくことも重要であると思われる。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分 析>

アンケートの分析から、問題意識および期待については、以下の3点があげられる。

- 1) 脳に関する知識が、教育とどのように関連づけられるのか、あるいは役に立つのか（脳科学の教育的利用法）について知りたい。
- 2) 人間の行動や学習する時に、脳がどのように働くのか、といった脳についての知識を学びたい。
- 3) 認知心理学を理解する上で、脳科学の知識が役に立つと思った。

本講義の中で、「行動とそれを司る脳機能」、「認知、記憶、学習の神経機構」については、相当の時間をさいているので、受講者の興味、関心についてはある程度こたえているものと思われる。脳に関する知識と教育との接点や今後の展開については講義の中でふれているが、十分な理解が得られているのか、また受講生が希望する内容について調査することを考えている。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

脳のリズムや栄養など現場での子供たちの生活指導に関わる内容であった、学習環境の重要性が理解できた、現場での取り組みや研究の下支えとなる知識や理論を知ることができた、などが書かれている。また、脳に関する知見は教育に役に立つと思うが具体的にどう役に立つのかまだ見えない、実践には直接関わってくるかという点と必ずしもそうでないとの意見も述べられている。

毎年感じる点であるが、講義内容を現場でどのように役立てていくかについては、受講生の考え方やとらえ方によって違うようである。子供達の学習や認知において、どこでどのようなメカニズムによって行なわれているかについては理解されたようであるので、今後の実践には多少なりとも役立つのではないかとと思われる。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点、改善してほしい点を具体的にお書きください。また、この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

良かった点としては、「複雑な脳の役割について面白く話しをしてもらえた」、「実生活につながっていく身近な話で興味をもてた」であり、昨年と同様であった。

改善してほしい点としては、「パワーポイントの文字をもう少し大きくして欲しい」、「授業の後に質問等には答えていたが、その時間がもう少しあればよかった」があげられた。

専門的知識のない受講生にも理解できるように、基礎の部分から説明等を行い理解を深めるように努力した。可能な限り、現場における事例をあげて説明し、興味をそそる内容にしていく必要があると考えられる。パワーポイントや資料の文字等の大きさの改善が指摘された。

5 本授業の成果と今後の課題について

昨年に引き続き、授業全体としてはある程度の評価が得られていると判断できる。受講者が興味を持てる内容の授業を行うことができたと思われる。本授業が間接的でも現場での指導等に役立つことが期待される。今後も授業内容について検討を行い、常に新しい情報を提供していく。例年のことであるが、講義内容の理解に個人差が大きいと感じられる。これは、受講生の興味、関心の強さのみならず、基礎的なことを学んでいるかどうかによるところが大きいと思われる。質問、発言、討論が行える演習形式で授業をすることで、より一層の理解が得られると思われるので、これらの形式を積極的に取り入れたていきたい。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

		評 価 実 施 日	平成 18 年 7 月 19 日		
授業科目名	教育工学研究	学期・曜日・時限	前期 水曜日 2 時限		
授業区分	1. 教職基礎科目 ② 専門科目				
担当教員名	川上 綾子	回答者数	6 名		

1 アンケート [1] の集計と分析について

[5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない]
 [2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 未記入]

番号	評 価 項 目	評 価 番 号					
		5	4	3	2	1	無
1	授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。	4	1	1			
2	授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。	4	1	1			
3	授業の内容には一貫性があった。	4	1	1			
4	教師の実践力の育成に役立つ内容であった。	5	1				
5	授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。	2	3	1			
6	授業をよく準備し、熱心に教えた。	5	1				
7	授業の進む速さは適切であった。	3	3				
8	受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。	4	2				
9	受講生に授業への参加（質問，発言，討議など）をよく促した。	2	4				
10	教科書や参考書の使い方は適切であった。	—	—	—	—	—	—
11	視聴覚機器の使用は適切であった。	3	3				
12	配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。	4	2				
13	受講生に分かりやすく説明した。	4	2				
14	教員の声は聞き取りやすかった。	3	2	1			
15	板書の文字は見やすかった。	—	—	—	—	—	—
16	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	2	2			
17	この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	5	1				

<分 析>

上記の回答結果については概ね肯定的な評価を得られたと思われるが、昨年度よりも評価番号の4ないし3を選択した受講生の割合が5の選択者数に対して相対的に増えたことにより、評定平均値としては昨年度に比べ低くなった項目が多かった。特に低下の幅が大きかった項目は(5)・(9)・(14)・(16)であったが、なかでも(9)については、一方的な説明に終始してしまう場面の多かったことが原因として考えられ、また(16)の低い評価結果ともつながる部分であると思われるため、来年度、重点的に改善を図っていきたい点である。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分析>

本授業に対する今年度の受講生の問題意識や期待を集約すると次の2点になった。

①教育学とはどのような学問か知りたい。

②授業の設計や分析にあたっての具体的な方法や知識を学び、実践場面で生かしたい。

つまり、「教育学という学問そのものに対する興味関心」と「授業実践に直結するニーズ」としてそれらはまとめられる。また、この質問項目への回答としては具体的に記述されていなかったが、次の [3] への回答から、現職教員においては「自身の実践の理論的捉え直し」という面もあったと考えられた。したがって、受講生のもつ問題意識の傾向は例年と同様であったと言える。受講生における授業者あるいは学習者としての経験を引き出しつつ、こちらから提供する理論的枠組みとそれらの融合を図り、実践に直結するニーズと理論的側面へのニーズの両方を満たせるよう常に心がけたい。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分析>

回答は全般的に肯定的な意見であった。その内容を整理すると、おおよそ次のようになる。

①実践における有用性及び理論とのつながり

・意欲化、評価etc. 実際に現場で課題意識の高い内容を分かりやすく教えてもらったこと。

・これまでの実践の中で行ってきていたことの意義を、理論を学ぶことで知ることができ、次に実践の中でよりよく変えていきたいという意欲をかりたてるものがあった。

・日ごろ自分の授業で（中略）を意識しているが、さらにその必要性和留意するポイントを勉強することができた。

・教師1人に対し40人近くの生徒たちの個々にできるだけあわせた授業をしたいといつも考えている。だから、この講義で教えていただいた1つひとつが学校現場に生かせると思うし、私の視野を広げて下さいました。

②学問的な特性

・授業や学びの基盤となるものだったため。

・何気なく行っていることを形に表すことで、自分が（中略）自覚でき、反省、発展へつなげていけそうだったため。

③授業方法の有効性

・ただ一方的に教えられるだけでなく、考える時間をもらったり、グループワークをしたりしたこと。

その他、次のような回答もあった。

・現在教員として仕事をしておられる方々が活発に意見交換をされていたので、現場に直結しているなあと感じたからです。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点、改善してほしい点を具体的にお書きください。また、この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

「良かった点」としては、

- ・常に大画面スクリーンに分かりやすい図や表を映し、時にはビデオを用い、分かりやすく説明いただきました。
- ・難しい専門用語でも分かりやすく説明してくれた。
- ・とてもおもしろく、興味を持てる内容でした。(中略) 実践的・具体的でよかったです。
- ・先生の研究とこれまでの先輩の修士論文がミックスされ、より具体的でよく分かった。
- ・毎回、手元にいただける資料が簡潔にまとめられていて分かりやすく、今後も役に立つものとなりそうです。

「改善してほしい点」としては、

- ・先生とのやりとり、学生どうしのやりとりがさらにあれば、さらに深まりがあると思います。
- ・IT活動も(内容として取り上げると)おもしろいと思います。(※カッコ内は筆者補足)
- ・授業の最後には必ず質問コーナーを設けてほしい。
- ・スライドの項目にflashのアニメーションを用いるとさらに効果が上がると思いました。

などの反応がよせられた。[1]の項目(9)で相対的に低い評価結果となったことが、「先生とのやりとり、学生どうしのやりとりがさらにあれば…」 「質問コーナーを設けてほしい」といった改善点の指摘に現れていると考える。情報伝達に終始せず、質疑応答や意見交換の場を意識的に設定していきたいと思う。

5 本授業の成果と今後の課題について

例年努めていることであるが、今年度も本授業では、受講生の経験を引き出しながら何らかの課題について考えそれを発言する機会を設けるなどして、受講生の持つ具体的経験や実践的知識、あるいはそれを基盤とする彼ら自身の考え方等と、学問上の理論やアプローチとを関連づけられるよう意識して進めた。現職院生の修士論文研究をいくつか題材として取り上げたのも、実践と研究とが結びついた結果ひとつの形になったものとして分かりやすい例になるだろうと考えたためである。そのようなねらいに基づく授業の内容と大まかな構成は、概ね肯定的な評価を得られたと思う。

ただ、今年度は毎週の授業終了時に時間的余裕がなくなり、つい慌ただしくまとめの一言を言って終わり、といったかたちになってしまったことが多かった。そのため、上でも触れたように、最後に質問や意見交換のできなかつた授業が大半であったように思う。毎時間の授業設計においてもっと余裕をもった時間配分を行うこと、またそのためには全授業(15時間分)の構成にあたり内容を精選することが必要である。来年度は、授業終了時に質問や意見を受け付ける時間を設けること、また、授業中にも授業者と受講生並びに受講生同士の相互作用を活発化する手だてを導入することを心がけていきたい。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

		評 価 実 施 日	平成 18年 7月 18日		
授業科目名	道徳教育指導論研究	学期・曜日・時限	前期	火曜日	2時限
授業区分	1. 教職基礎科目 (2) 専門科目				
担当教員名	兼 松 儀 郎	回答者数	11名		

1 アンケート [1] の集計と分析について

〔 5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない 〕
〔 2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 未記入 〕

番号	評 価 項 目	評 価 番 号					
		5	4	3	2	1	無
1	授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。	3	5	3			
2	授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。	3	7		1		
3	授業の内容には一貫性があった。	5	4	2			
4	教師の実践力の育成に役立つ内容であった。	3	8				
5	授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。	5	6				
6	授業をよく準備し、熱心に教えた。	11					
7	授業の進む速さは適切であった。	5	5	1			
8	受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。	3	6	2			
9	受講生に授業への参加（質問、発言、討議など）をよく促した。	7	4				
10	教科書や参考書の使い方は適切であった。	3	7	1			
11	視聴覚機器の使用は適切であった。	8	3				
12	配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。	3	7	1			
13	受講生に分かりやすく説明した。	3	5	3			
14	教員の声は聞き取りやすかった。	6	5				
15	板書の文字は見やすかった。	4	6	1			
16	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	6	2			
17	この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	3	8				

<分 析>

すべての項目について、平均値は4.00以上であった。

特に平均値の高い項目を順にあげると、「6 授業をよく準備し、熱心に教えた。」(5.00), 「11 視聴覚機器の使用は適切であった。」(4.73), 「9 受講生に授業への参加（質問、発言、討議など）をよく促した。」(4.64), 「14 教員の声は聞き取りやすかった。」(4.55)である。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分 析>

主な内容は次のとおりである。

- 道徳教育をしても、どれだけ生徒の心に届いているのか、いつも疑問に思っていたので、何かヒントがあるかと思って受講した。
- 子どもたちの規範意識の低下が問題となっている現代、どのように道徳教育を進めていったらよいか、示唆を得たいと思った。
- 現場での教育実践に生かせる理論や考え方を学びたいと思った。
- これまでの自分の道徳教育を振り返るとともに、現場にもどって役に立つ知識やスキルを学びたいと思った。
- 道徳教育のこれからの在り方についての指針を得たいと思った。
- 道徳教育に対する自分の考えを見つめ直すために受講した。
- 大学時代から、また教員になってからも、関心の高い道徳教育について、より深く研究してみようと思った。
- 現職教員からたくさん学べるのではないかと思った。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

主な理由は次のとおりである。

- 道徳の授業で実践したことや、やってみたい道徳の授業を、それぞれの受講生が発表したことが参考になった。
- 「私のやってみたい授業」というテーマで、教材や資料を準備し、それについて討議した。小・中・高の教員が含まれており、今までとちがった視点から道徳教育について考えることができた。また、現場で実践してみたいと思うことも多くあった。
- 異なった校種ごとに実態を踏まえ、指導案を持ち寄り、討論できたことは大変参考になった。
- 受講生が道徳の授業を提案し、相互に討議する中で、道徳の授業に関するいろいろな考え方が話し合われ、今後の道徳教育の在り方を考える上で、とても参考になった。
- さまざまな指導案や実践事例を検討することによって、生きた内容の授業となり、単に道徳に関する理論を教わるのではなかった。
- ディスカッションを通して得たものがたくさんあった。いろいろな視点から意見を出し合ったのが勉強になった。
- 道徳というものがどのようなものかが理解でき、道徳教育に取り組んでいこうとする自分自身の態度が養われた。
- 「道徳教育とは何か」という問題に対して、じっくり考えることができた。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点、改善してほしい点を具体的にお書きください。また、この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分析>

【良かった点】

- 教員の講義と受講生の発表とのバランスがよく、道德教育の問題点についても自分なりに考えることができた。
- ディスカッションも楽しく大変勉強になった。
- 学校現場においては、他校種の現職教員や、ストレートマスターの考えを聞く機会がなかなかないので、興味深く参加できた。
- 現職教員の意見が多く聞けた。
- 視聴覚機器や文献資料を用いて、「道德とは何か」「道德教育とは何か」について、受講生の意見を出し合いながら、教員と共に考えていくという点が大変よかった。
- ビデオや写真を使った授業は分かりやすく興味をもてた。
- 参考文献や資料は財産となった。

【改善してほしい点】

- 内容が高度すぎるところもあった。
- 配布資料が多く、読むのが大変だった。資料を精選していただけるとありがたい。

【アイデア】

- 模擬授業を行う。

5 本授業の成果と今後の課題について

平成18年度は次の方針を設け、授業を行った。

- 1 受講生は小・中・高の現職教員及びストレートマスターから構成されており、この多様性を生かし、道德教育に対する多面的な検討と理解を図る。
- 2 「演習」と比べて「研究」は、講義形式の授業展開が中心となるという考え方を改め、特に受講生による発表や討論を大幅に取り入れる。
- 3 実践事例や指導案を取り上げ、道德教育に関する基礎的理解を踏まえながら、これまでの枠を越えた柔軟な発想に根ざす道德教育の創造を目指す。
- 4 参考資料については、できるだけ多面的に原資料を配布し、説明を加えた上で、リーディングとして課する。

記述式による回答等を見ると、1, 2, 3については、当初の方針どおり授業を進めることができたと考えられる。しかし、4の参考資料については、授業前に指導を徹底することが必要であると感じた。

後期に開講する「道德教育指導論演習」については、受講生がほぼ同じであるので、この「道德教育指導論研究」との関連を図りながら取り組んでいきたい。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

		評価実施日	平成 18 年 7 月 24 日
授業科目名	教育課題探究(教育臨床- 生徒指導教育相談)	学期・曜日・時限	前期 月 曜日 5 時限
授業区分	①. 基礎科目 2. 専攻科目(専門分野・教科教育分野)		
担当教官名	兼松儀郎, 小坂浩嗣	回答者数	74 名

1 アンケート [1] の集計と分析について

5 まったくそう思う
4 かなりそう思う
3 どちらともいえない
2 あまりそう思わない
1 まったくそう思わない
無 未記入

番号	評 価 項 目	評 価 番 号					
		5	4	3	2	1	無
1	授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。	6	26	26	1	0	0
2	授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。	7	22	21	9	0	0
3	授業の内容には一貫性があった。	11	30	15	3	0	0
4	教師の実践力の育成に役立つ内容であった。	18	29	12	0	0	0
5	授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。	14	22	19	3	1	0
6	授業をよく準備し、熱心に教えた。	24	25	8	2	0	0
7	授業の進む速さは適切であった。	12	27	20	0	0	0
8	受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。	5	22	25	6	1	0
9	受講生に授業への参加(質問, 発言, 討議など)をよく促した。	18	26	13	2	0	0
10	教科書や参考書の使い方は適切であった。	7	19	25	5	1	2
11	視聴覚機器の使用は適切であった。	6	30	19	2	2	0
12	配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。	12	33	14	0	0	0
13	受講生に分かりやすく説明した。	7	31	18	3	0	0
14	教官の声は聞き取りやすかった。	29	24	6	0	0	0
15	板書の文字は見やすかった。	15	32	11	1	0	0
16	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	15	29	13	2	0	0
17	この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	12	29	16	2	0	0

<分 析>

質問全体の平均が 3.887 で総合的に概ねよい評価が得られた。観点別では、授業の内容については 3.811, 教員の授業の進め方については 3.899, 学生の授業への取り組みについては 4.000, 授業全体への満足度については 3.946であった。特に学生の授業への取り組みについては、授業形態の一部に毎週課題を提示し、その課題に基づいて次時の授業では小グループによるディスカッションするという授業方法をとったことが、受講者に高い評価を受け、受講者のニーズに応える授業であったことが窺えた。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分 析>

全般に、「先生という立場でどのように子どもたちと関わってこられたのか、興味があったから」「学校での教師の取り組みを知りたかったから」「学校現場の生の様子や取り組みなどを知りたかったから」「学校現場での教育指導や生徒指導の実際について知りたい」という学校現場での生徒指導等の教育実践に対する関心が非常に高かった。また、「教師として実践に役立つことを期待した」「実際に役立つことを知りたい」「現場での実践力をつけるために」「生徒指導や教育相談の理論と実践力を身に付けるため」になど教育実践力の向上を期待する受講者が多かった。

一方、臨床心理士養成にかかわって、「学校現場での生徒指導と臨床心理の統合という側面からも、実践力養成という意味でも期待した」「学校現場の実状について、教師とSCがどのようにかかわっているのか知りたかった」「教育現場における心理臨床のあり方」「SCの養成に必要」など将来の学校臨床心理士としての職業や立場等を想定した問題意識を高く持って授業に臨んだ受講生も多かった。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

「事例研究などを通して実践力の育成に役立ったと思う」「具体的な事例等に触れることができ、知識を得られるとともに実践に役立つ見識を学ぶことができた」「事例研究は現場での対応を考える上で参考になった」「今後の問題事象への対応のヒントを得ることができた」など、学校現場に関連した事例研究論文を現職と非現職の混合した10人程度の小グループでディスカッションした授業形態が評価された。また、「今までの経験を振り返り整理することができ、何となく感じていたことが具体的にまとまった」「事例研究を通して自分の実践を振り返るとともに今後の参考とすることができた」「具体的な事例をもとにディスカッションしていったので自分自身の考えや視点を深めることができた」など、授業を通して教師としての教育実践について省察と洞察をもとに実践力の向上に役立ったとする意見も多かった。

現職以外の受講者は、「ストレートであるがSCとして教師としての意見を考えることで役立つと思った」「事例をグループで研究することで将来教師になったときこのように対応したらいいのかという解決案を学ぶことができたから」「現場にこれから出るものとして実状を聴くことができ新たな視野が広がった」など、数多い学校現場の事例に接し、多角的視点からのディスカッションをする機会が得られたことから、多くの気づきを得て学ぶことが多かったとの意見が大半を占めた。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点、改善してほしい点を具体的にお書きください。また、この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

前半の教育活動に関する生徒指導や道徳教育等についての理論的概説と検討については、現場屋実践を身近に感じ取れるような具体例を求める意見があった。後半の問題事象に対する心理臨床的教育実践についての検討については、教室の窮屈さや時間配分などの授業環境の改善、話し合う観点の明確化や意見・感想のフィードバックによって話し合いを深めるなどの授業方法の改善を求める意見があった。

5 本授業の成果と今後の課題について

総合的に概ねよい評価が得られた。特に、受講者の授業に対する関心・意欲が高く、今後の研究課題や学校現場の実践的課題について、受講者が主体的に探求できるように授業形態を工夫したことが評価されたと考えられる。しかし、教師や心理臨床家としてのより高い資質と実践力の育成を目指すならば、本授業では授業形態や授業展開にさらなる改善・工夫を加える必要があるだろう。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

		評 価 実 施 日	平成 19年 1月 25日		
授業科目名	生徒指導教育相談論演習A・B	学期・曜日・時限	後期 木曜日 2時限		
授業区分	1. 教職基礎科目 ②. 専門科目				
担当教員名	小坂・粟飯原・中津・葛上・佐藤・末内	回答者数	59名		

1 アンケート [1] の集計と分析について

〔 5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない 〕
2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 未記入

番号	評 価 項 目	評 価 番 号					
		5	4	3	2	1	無
1	授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。	10	35	14	0	0	0
2	授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。	4	13	33	6	3	0
3	授業の内容には一貫性があった。	21	27	8	2	1	0
4	教師の実践力の育成に役立つ内容であった。	25	25	8	0	1	0
5	授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。	12	25	15	4	3	0
6	授業をよく準備し、熱心に教えた。	/	/	/	/	/	/
7	授業の進む速さは適切であった。	/	/	/	/	/	/
8	受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。	/	/	/	/	/	/
9	受講生に授業への参加（質問、発言、討議など）をよく促した。	14	24	12	1	2	6
10	教科書や参考書の使い方は適切であった。	/	/	/	/	/	/
11	視聴覚機器の使用は適切であった。	/	/	/	/	/	/
12	配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。	/	/	/	/	/	/
13	受講生に分かりやすく説明した。	14	31	11	1	0	2
14	教員の声は聞き取りやすかった。	22	28	6	1	0	2
15	板書の文字は見やすかった。	/	/	/	/	/	/
16	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	16	30	12	1	0	0
17	この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	16	26	14	2	1	0

＜分 析＞回答を求めた10項目全体の平均は4.11であった。カテゴリー別では、＜授業内容について＞4項目は4.07、＜教員の授業の進め方について＞4項目は4.08、＜あなたの授業への取り組みについて＞1項目は4.19、＜あなたの授業全体への満足度について＞1項目は4.28であった。以上の結果から、総合的に一定以上の評価を得たと考えられる。

項目別では8項目に4.0以上の高い評価を得た。本授業が学校での実践事例を受講者と教員で討議する形態であったことから、本授業の目的を概ね達成できたと考えられる。その一方、(5)は平均3.73と低く、次年度においては早急に授業改善し、対処したい。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分析> 以下の3点に集約された。

1. 自己自身の見つけ直しを期待した内容
 - 自分の実践事例について振り返ろうと思った。
 - 教師として実践に役立つことを期待した
 - 事例を参考にして、現場で生かせるようにしたいと思った。
 - 事例の中からどう関われば良かったのか、自己を振り返りたいと思った。
2. 学校現場の実態への関心
 - 学校現場の教師や生徒たちの生の様子などを知りたかったから
 - 現場の実態を学ぼうと思った
 - 現場の出来事や問題に対する教師集団の対応を知りたかった
3. 将来のスクールカウンセラー（SC）としての力量アップを目指して
 - 将来SCとして現場で活動するときに、役立つ知識が得られように
 - SCを目指しているので
 - SCになったとしたら、役立つ知識を得たい

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分析> 教職経験の有無によると見られる異なる理由が多かった。

1. 現職教員の受講者にとって
 - 自身を振り返り、考え直したり深く捉えようとしていたから
 - 教師にとってはいろいろな視点が得られるよい機会だった
 - 教師の実践力を高めるためには、具体的事例を学ぶことの必要性を感じた。
 - 自身の経験を冷静に見つめることができ、教職への自信につながった。
 - 視野が広がり、いろいろな資源を利用できることに気づいた。
2. 現職教員以外の受講者にとって
 - 現場での体験や実際の関わりの関わりを通しての事例であったから
 - 現場の第一線で奮闘している教員の生の声を聞くことができ、非常に有益であったから
 - 将来SCで働くときの様々な視点を得ることができたから

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点，改善してほしい点を具体的にお書きください。また，この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

授業のよかった点については、これまでも指摘されてきたように○現職教員にとって自らを振り返るよい機会であった、○学校現場の実態を多面的に知ることができた、等の実践事例をに基づいた授業内容の効果が現れていたと考えられる。

一方、改善して欲しい点については、小グループによるテーマ別討議など授業形態や成績評価の在り方についての指摘があった。以上の改善点については、次年度以降も検討していきたい。

5 本授業の成果と今後の課題について

事例発表した現職教員と他の受講者との満足度にやや隔たりのあった点は、本年度も解消されなかったことが推測される。改善点でも指摘があったように多人数による討議になったため、事例発表者にとっては十分に内容を深めるに至らなかったし、他の受講者にとっても討議への積極的な参加を促すことに支障があったと考えられる。次年度は、少人数やテーマ別での討議形態による授業展開を検討したい。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

		評価実施日	平成 19 年 2 月 16 日		
授業科目名	学校精神保健学演習	学期・曜日・時限	後期 金曜日 2時限		
授業区分	1. 基礎科目 ② 専攻科目 (専門分野・教科教育分野)				
担当教官名	今 田 雄 三	回答者数	49 名		

1 アンケート [1] の集計と分析について

5 まったくそう思う	4 かなりそう思う	3 どちらともいえない
2 あまりそう思わない	1 まったくそう思わない	無 未記入

番号	評 価 項 目	評 価 番 号					
		5	4	3	2	1	無
1	授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。	33	15	1			
2	授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。	-	-	-	-	-	-
3	授業の内容には一貫性があった。	36	12	1			
4	教師の実践力の育成に役立つ内容であった。	26	22		1		
5	授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。	32	14	2	1		
6	授業をよく準備し、熱心に教えた。	46	2		1		
7	授業の進む速さは適切であった。	23	18	8			
8	受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。	28	18	3			
9	受講生に授業への参加（質問，発言，討議など）をよく促した。	41	6	2			
10	教科書や参考書の使い方は適切であった。	-	-	-	-	-	-
11	視聴覚機器の使用は適切であった。	42	7				
12	配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。	39	9	1			
13	受講生に分かりやすく説明した。	34	14	1			
14	教官の声は聞き取りやすかった。	27	17	5			
15	板書の文字は見やすかった。	20	19	9			1
16	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	35	12	2			
17	この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	38	10	1			

<分 析>

本授業では毎回実際の精神保健に関する事例を提示し、受講者全員が課題について考察し個人演習用紙に記入した上で、少人数のグループに分かれてディスカッションを行い、グループの見解を集約して全体へ発表するという形式を採用した。また発表の後、その回に取り上げた事例に関連する精神疾患や精神的問題についての概説を行った。さらに次回の授業では、必ず前回の事例演習の記載を集計し、受講者の着眼点の傾向を提示したり、疑問点として挙げられた事柄については補足して説明する等、受講者へのフィードバックを行った。

受講生の大半が授業に主体的、積極的に取り組み、授業は満足できるものであったと回答していた。全ての質問項目において評価の平均点は4点を上回っており、本授業は非常に高い評価を得られたものとする。

今後は3「どちらともいえない」との回答がやや多かった、(7)「授業の進む速さは適切であった」、(14)「教員の声は聞き取りやすかった」、(15)「板書の文字は見やすかった」などの点についての対応・工夫を行いたい。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分 析>

「精神保健・精神医学の実践的な知識を得ること」「事例を見立てる力の向上」「学校と精神保健関連諸機関との連携について知りたい」と回答した者が多かった。他には「具体的な事例について自分ならどう対応するかを考える」「事例を通して心理臨床の力量を高めたい」「学校現場では通り一遍の対応では解決が難しくなった事例が増えており、そうした事例への実践的な対応を学びたい」といった各自のニーズや問題意識と関連した回答もみられた。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

「ディスカッションにより多面的な見方を学ぶことができた」「医療・心理などの専門機関との連携について知ることができた」「生徒理解につながった」「実際にどうかかわるのかを考えることができた」「身近な事例が取り上げられていたのがよかった」「精神保健の知識を得ることができた」などと評価する意見が多かった。

なお一部には「学校ではなく病院での事例が中心なのは残念だった」「専門的すぎると感じた」などとする意見も寄せられた。

今後とも授業内容と教師の実践力の育成との関連をより明確に提示する等の対応・工夫を行うようにしたい。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点、改善してほしい点を具体的にお書きください。また、この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

「充実した授業だった」「興味を持って授業に臨めた」「しっかり授業の準備がなされていた」「教員のアイデアが感じられた」「演習用紙に毎回コメントをもらえるのが有り難かった」などの回答が多く寄せられた。

なお「個人演習・グループ演習・ふりかえりの時間配分を工夫して、後半駆け足ぎみにならないようにしてほしい」「他のグループの意見のまとめを配布してほしい」「持ち帰れる資料があった方がよかった」「Powerpointの提示はメモが取れるようにゆっくりしてほしい」「前期の『学校精神保健学研究』とのつながりを意識できるような説明があるともっとよかった」などの意見も寄せられた。今後更に受講者のニーズに合わせた授業の内容・方法を工夫することも必要であろう。

5 本授業の成果と今後の課題について

本授業は、具体的な事例を毎回提示し、まず受講生一人一人が、診断や見立て、具体的な支援の方向性、事例本人や家族の心理等について、「自分はどう考えるか?」「どう対応するか?」という点について個人演習を行い、次に小グループに分かれて各自の意見を述べ合い、グループとしての見解を集約して全体に発表するという形式で行った。また個人演習に対してきめ細かくフィードバックを行った。こうした授業実践を通して、学校精神保健の知識の習得と、心理的な困難を抱えた事例に関わる際に求められる実践力の養成に高い効果が得られたものと思われる。

今後は、個別の事例を検討することを通して、学校精神保健の知識を習得するのみにとどまらず、より普遍的な「現場での支援・実践力」と関連させ、発展的な授業内容となるように演習課題等を工夫していきたい。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

		評 価 実 施 日	平成 19年 2 月 14 日		
授業科目名	臨床心理学演習	学期・曜日・時限	後期	水曜日	2時限
授業区分	1. 教職基礎科目 ②. 専門科目				
担当教員名	葛西真記子	回答者数	7 名		

1 アンケート [1] の集計と分析について

[5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない]
 [2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 未記入]

番号	評 価 項 目	評 価 番 号					
		5	4	3	2	1	無
1	授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。	5	2				
2	授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。	1	1	4			1
3	授業の内容には一貫性があった。	6	1				
4	教師の実践力の育成に役立つ内容であった。	4	1	2			
5	授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。	2	3	2			
6	授業をよく準備し、熱心に教えた。	6	1				
7	授業の進む速さは適切であった。	7					
8	受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。	7					
9	受講生に授業への参加（質問，発言，討議など）をよく促した。	7					
10	教科書や参考書の使い方は適切であった。	1	1	4			1
11	視聴覚機器の使用は適切であった。	3	2	2			
12	配布された資料・文献等は，授業内容を理解する上で役に立った。	1	1	4			1
13	受講生に分かりやすく説明した。	7					
14	教員の声は聞き取りやすかった。	7					
15	板書の文字は見やすかった。	1	2	3			1
16	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	7					
17	この授業は，自分自身にとって満足できるものであった。	7					

<分 析>

受講生ほぼ全員が5と回答している項目は、「授業の内容には一貫性があった」「授業をよく準備し熱心に教えた」「授業の進む速さは適切であった」「受講生の理解度を確認しながら授業を進めた」「受講生に授業への参加をよく促した」「受講生に分かりやすく説明した」「教員の声は聞き取りやすかった」「授業に主体的・積極的に取り組んだ」「自分自身にとって満足できるものであった」という9項目であった。本演習は、心理療法の実践を行う授業であり、受講生一人一人のコメントや感想を大切にし、自分自身の心理療法の技法等について振り返りが行えるよう配慮したものであったので、それが十分達成された結果だといえる。しかし、授業のテキストや資料は特に教員から配布したものはなく、それらに関する項目は無回答であったり、どちらとも言えないというものになっていた。受講生が授業時間以外にも学習できるように参考書・テキスト・プリント等の配布も今後実践する必要があると思われる。また、受講生が積極的に取り組んでいることがアンケート結果に現れていた。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分 析>

ほとんどの受講生がこれまでの講義や演習で学んだ心理療法・カウンセリングの初の実践の場として本授業を捉えていた。その中で、カウンセリングの技術の習得を目的としていた者や、自分自身のカウンセラーとしての課題の発見を目的としていた者がいた。これは、本授業自体の目標と一致しており、受講生の期待に応えることができたと思う。また、本演習は6つの選択肢の中から受講生が選んだものであったので、受講生の授業の内容の理解がオリエンテーションの時点で十分行き届いていたことも明らかとなった。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

本演習の受講生は、ほとんどが現職教師ではなく、また教師を目指している者ではなかったため、質問と評価にズレがみられた。しかし、「教師としての実践力だけでなく、人間として、カウンセラーとしての実践力が身についた、役に立った」という回答や、「自分自身の視野がひろがった。」「人と向き合う機会になった」という回答から、個人的な成長に役立つ内容であったことが伺えた。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点、改善してほしい点を具体的にお書きください。また、この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分析>

本授業に対する改善点についての回答はなく、よかった点についていくつかの記述があった。それらは、「自分自身のできていること、できていないことがわかった」「受講生間の話し合いが活発でそれを促すような発言が多くあった」「教員のコメントも学ぶものが多かった」「実習の振り返りで問題点がはっきりした」「少人数でそれぞれの意見を出し合えた」「積極的なディスカッションが促され、生徒もそれによく応じていた点がよかった」であった。まとめると、①少人数、②ディスカッションが活発、③実際の実習の振り返り、④教員のコメント、などが受講生にとって良かった点としてあげられていた。今後も少人数で具体的なカウンセリングの技法を教える演習としての本授業のあり方を維持していきたいと考える。

5 本授業の成果と今後の課題について

本授業は、受講生自身がカウンセラーとして実際のカウンセリング体験を行い、それを少人数でディスカッションを中心に振り返るといった形式をとっている。毎年、最大10名程度で行っているため、受講生間のディスカッションも活発であり、そのコメントにより、受講生が自分自身の問題点、課題点を見つけることができる。これは、修士課程2年になってから、「心理教育相談室」で実際の事例を担当する前に行っておく必要のある課題であり、この授業がその役割を果たし、受講生の期待に応えていることが明らかとなった。

今後は、臨床心理士養成コースの院生全員が実際の事例を担当する前に、この演習が受講できるように時間割や担当教員の増加等を考えていく必要があると思われる。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

		評価実施日	平成 19年 2月 19日		
授業科目名	臨床心理査定演習Ⅱ	学期・曜日・時限	後期 月曜日 3 時限		
授業区分	1. 教職基礎科目 ②. 専門科目				
担当教員名	葛西真記子	回答者数	23名		

1 アンケート [1] の集計と分析について

[5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない]
 [2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 未記入]

番号	評 価 項 目	評 価 番 号					
		5	4	3	2	1	無
1	授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。	8	15				
2	授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。	20	3				
3	授業の内容には一貫性があった。	13	8	2			
4	教師の実践力の育成に役立つ内容であった。	3	1	19			
5	授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。	9	12	2			
6	授業をよく準備し、熱心に教えた。	10	13				
7	授業の進む速さは適切であった。	3	8	12			
8	受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。	3	14	6			
9	受講生に授業への参加（質問，発言，討議など）をよく促した。	9	13	1			
10	教科書や参考書の使い方は適切であった。	14	8	1			
11	視聴覚機器の使用は適切であった。	12	9	2			
12	配布された資料・文献等は，授業内容を理解する上で役に立った。	16	7				
13	受講生に分かりやすく説明した。	9	12	2			
14	教員の声は聞き取りやすかった。	18	5				
15	板書の文字は見やすかった。	9	14				
16	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	13	9	1			
17	この授業は，自分自身にとって満足できるものであった。	6	15	2			

<分 析>

- ・ 評価の平均点が4.0以上の項目が17項目中14項目であり、全体の評価の4.32であったので、授業評価としては、かなり満足のいく結果であった。
- ・ 特に高得点の項目は、「テキスト・参考書は役に立った」「教科書・参考書の使い方は適切であった」「配布された資料は役に立った」「声は聴き取りやすかった」と、受講生が「主体的・積極的に授業に取り組んだ」という項目であった。
- ・ 比較的得点の低かった項目は、「教師の実践力の育成に役立った」というものであり、これは、この授業で扱っている内容が臨床心理学の中でも中級から上級にあたる投影法であるため、学校現場での利用の難しさを表していると思われる。
- ・ 「授業の進む速さが適切であった」「受講生の理解度を確認しながら進めた」という項目も他の項目に比べ少し評価が低かったが、これは、授業の内容の難しさが影響していたのであろう。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分 析>

多くの受講生が、臨床心理査定法の中の投影法であるロールシャッハテストを学ぶという問題意識・期待を持って受講していた。特に、ストレートマスターは、大学院修了後の就職においても、投影法が行えるかどうかというのが課題になるので、また臨床心理士の資格試験においても、重要な役割を果たすものであるので、受講したという者が多かったと思われる。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

この項目は、全17項目の中でもっとも評価の低い項目であり、その理由として、多くあげられていたのは、「学校現場での利用は難しいことがわかった」「臨床心理学の専門性が高いので、教師は使えないと思った」「学校での利用法についての内容がなかった」などであった。一方、教師が直接ロールシャッハテストを学校現場で実施することはないと思うが、他の専門機関との連携の中で、このような査定があること、その解釈の仕方を知っていることは、役に立つと思うというような内容の回答もあった。本演習を受講していた現職教員は、現職教員でありながら、臨床心理士の資格取得を目指している者がほとんどであり、専門的な知識として知っておく必要は感じていたようである。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点、改善してほしい点を具体的にお書きください。また、この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

この授業の良かった点に関しては、「少人数である」「テキスト・資料が適切である」「実際にグループで実践してみる」という点が上げられていた。これは、3年ほど前より、大人数での投影法の中級以上の演習を行うことが困難であるという考えより、受講生を2つのグループに分け、教員が2人で別々に担当するようになったので、その効果があらわれているといえる。特に大学院での演習形式の授業は、少人数でないと学べないものが多く、今後、他の臨床心理学の授業も少人数制にしていく必要があると思われる。

改善点としては、「内容がむずかしすぎる」「進むスピードが速すぎる」というものがあり、この点に関しては、ロールシャッハを実践できるまでには、数年の訓練が必要であり、それを半期の演習で行うことは困難であることの表れである。これに関しては、授業を通年にする、あるいは、この演習は入門だけにして、さらに学びたい者は、別の研究会への参加を促すかである。実際、学内では、より専門的な研究会を行っており、これに修士課程2年生になってから参加する者もいる。

5 本授業の成果と今後の課題について

本授業の成果は、評価は全体として高かったが、今後の課題がいくつか考えられる。

1. 授業の内容が難しいということについては、できるかぎり、受講生の理解度を確認しながら、進む。あるいは、グループ分けを理解度別にするなどが考えられる。また、終了後の進路に応じたグループ分けにするということも考えられる。現職教員と病院等に就職を希望するストレートマスターを分けるということも考えられる。
2. 授業内容を徹底させるために、今回は、授業の途中でテストを一度行ったのであるが、これが、ある程度の習熟に効果を示していたようであるので、今後は、達成度テストだけでなく、予習・復習・宿題・課題などを課し、授業の前後での学習も積極的に院生が行うようにしていく方法も考えられる。
3. 昨年度は、コンピューターによるドリルを作成し、それを行うことを課していたが、今年度は、ハードの都合上それをおこなうことができなかった。ドリルによって、復習・宿題とすることも可能なので、来年度は、再度活用を考えたい。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

		評 価 実 施 日	平成 19年 2月 15日
授業科目名	臨床心理基礎実習	学期・曜日・時限	通年 木曜日 3時限
授業区分	1. 教職基礎科目 ②. 専門科目		
担当教員名	小坂, 井上, 山下, 栗飯原, 今田, 葛西, 中津, 佐藤, 久米, 末内	回答者数	59名

1 アンケート [1] の集計と分析について

[5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない]
 [2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 未記入]

番号	評 価 項 目	評 価 番 号					
		5	4	3	2	1	無
1	授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。	12	22	12	1	0	0
2	授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。	8	11	23	1	2	2
3	授業の内容には一貫性があった。	23	22	2	0	0	0
4	教師の実践力の育成に役立つ内容であった。	14	19	13	0	1	0
5	授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。	7	10	24	4	2	0
6	授業をよく準備し、熱心に教えた。	18	15	13	0	0	1
7	授業の進む速さは適切であった。	16	21	7	2	1	0
8	受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。	6	10	28	3	0	0
9	受講生に授業への参加（質問，発言，討議など）をよく促した。	23	11	11	1	1	0
10	教科書や参考書の使い方は適切であった。	5	7	29	0	2	4
11	視聴覚機器の使用は適切であった。	17	16	12	0	1	1
12	配布された資料・文献等は，授業内容を理解する上で役に立った。	25	11	10	1	0	0
13	受講生に分かりやすく説明した。	12	23	12	0	0	0
14	教員の声は聞き取りやすかった。	9	17	11	7	3	0
15	板書の文字は見やすかった。	7	6	32	0	0	2
16	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	15	20	12	0	0	0
17	この授業は，自分自身にとって満足できるものであった。	13	25	8	1	0	0

<分 析>回答を求めた17項目全体の平均は3.86であった。カテゴリー別では、<授業内容について>4項目は3.84、<教員の授業の進め方について>11項目は3.82、<あなたの授業への取り組みについて>1項目は4.06、<あなたの授業全体への満足度について>1項目は4.06であった。以上の結果から、総合的に一定以上の評価を得たと考えられる。

本授業は心理・教育相談室での実習事例を受講者と教員で討議する形態であったことから、本授業の目的を概ね達成できたと考えられる。その一方、全体平均より低い項目が6項目あった内容については、今後の授業の進め方を改善する必要がある。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分 析>

本授業が修士1年を対象にしていることから、次年度の面接担当に当たり面接の実際と力量向上を目指して受講したとの意見が大半を占めた。

- 実際のケースが具体的にどのように展開されるのを知りたかった。
- 心理臨床の力量や面接技術の向上。
- ケースの流れを知ることや、ケースをどう見立て、どう進めていくのかを学びたいと思った。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

直接・間接に学校現場での実践力に役立つだろうとの意見があった一方、教師とカウンセラーの立場や役割の違いから教師との実践力に役立たないとの意見もあり、分かれた。

- 教員の仕事に、間接的には実践力に育成に役立てられるだろう。
- 問題事象を多面的に見ることの大事さを考えさせられた。
- 親面接などの事例は、学校現場での保護者への対応に応用できることだと思う。
- △教師とカウンセラーの共通点と相違点があるため、必ずしも教師の実践力とは関係が薄い。
- △教育相談との手法の違いによる混乱が解消されなかった。
- △教師の実践力とカウンセラーの実践力は違うものであろう

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点，改善してほしい点を具体的にお書きください。また，この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

改善して欲しい点

小グループにするなどして意見を出しやすく工夫してもらいたい

時間的にコンパクトにしてほしい

受講者全員が着席できる教室の使用

マイクなどの使用により声の通りをよくしてほしい

最初に具体的な説明とカンファレンスの意義を説明してもらいたい

以上の改善点については，教室の確保，授業趣旨の説明，視聴覚機器の利用は次年度には改善したい。また，受講者の満足度を上げるためにも授業形態の工夫を検討したい。

5 本授業の成果と今後の課題について

アンケート結果の分析でも触れたように，授業に対する学習意欲が高いにもかかわらず，授業当初での趣旨説明が不十分であったこと，マイクの利用や教室の確保等の学習環境の整備にも改善点が明らかになった。いずれも早急に対処して改善したい。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

		評価実施日	平成 19年 2月 15日		
授業科目名	臨床心理実習	学期・曜日・時限	通年 木曜日 4時限		
授業区分	1. 教職基礎科目 ②. 専門科目				
担当教員名	小坂, 井上, 山下, 粟飯原, 今田, 葛西, 中津, 佐藤, 久米, 末内	回答者数	59名		

1 アンケート [1] の集計と分析について

[5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない]
 [2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 未記入]

番号	評価項目	評価番号					
		5	4	3	2	1	無
1	授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。	5	32	23	0	0	0
2	授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。	7	6	39	3	3	2
3	授業の内容には一貫性があった。	26	23	8	2	1	0
4	教師の実践力の育成に役立つ内容であった。	11	18	26	4	1	0
5	授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。	4	13	29	10	3	1
6	授業をよく準備し、熱心に教えた。	12	20	22	4	0	2
7	授業の進む速さは適切であった。	12	24	20	3	0	1
8	受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。	5	17	30	6	1	1
9	受講生に授業への参加（質問、発言、討議など）をよく促した。	21	13	18	5	2	1
10	教科書や参考書の使い方は適切であった。	2	7	41	3	2	5
11	視聴覚機器の使用は適切であった。	10	17	28	1	1	3
12	配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。	18	22	15	2	1	2
13	受講生に分かりやすく説明した。	11	26	19	2	1	1
14	教員の声は聞き取りやすかった。	13	16	25	6	0	0
15	板書の文字は見やすかった。	4	6	40	2	2	6
16	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	28	26	5	0	1	0
17	この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	27	24	4	1	4	0

<分 析>回答を求めた17項目全体の平均は3.64であった。カテゴリー別では、<授業内容について> 4項目は3.66、<教員の授業の進め方について>11項目は3.52、<あなたの授業への取り組みについて> 1項目は4.33、<あなたの授業全体への満足度について> 1項目は4.15であった。以上の結果から、総合的に一定以上の評価を得たと考えられる。

項目別では (16), (17) の2項目に4.0以上の高い評価を得た。本授業は心理・教育相談室での実習をもとに、受講者が担当した面接事例について発表し、受講者と教員で討議する形態であったことから、受講者が主体的に参加し満足を得られた結果から本授業の目的を概ね達成できたと考えられる。ただ、成績評価に関しての説明が十分にされなかったとの指摘があり、次年度からはオリエンテーションにて説明をしたい。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分 析>

大まかに下記の2点に関する授業への期待があった。

1. 将来の臨床活動に関わる技能習得を期待したもの
 - 将来、心理臨床に携わっていく上での実践的な技能を身に付けようと思った。
 - クライアント理解やセラピストの態度などを学ぼうと思った。
 - 将来のカウンセラーとして、カウンセリング技能を学ぼうと思った。
 - 実際の事例について検討とすることを通して、臨床的資質、考え方、見立てや面接方針等について力をつけたいと思った。
 - 将来の臨床心理士としての知識力や経験を養うため
2. 自己の臨床活動について振り返ることにより、力量向上を目指したいもの
 - 他者の担当ケースを聞いて自らのケースを振り返りたいと思った。
 - 様々なケースから自分の考えをまとめたかった。
 - 自己成長できることを期待した。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

肯定的意見と否定的意見に分かれた。

1. 肯定的意見
 - 教育実践において今後必要になってくる内容であった。
 - 教師として、生徒や保護者に関わる上で役立つ内容もあった。
 - 面接することは、教師にも必要な力であると思う。
 - 教師としては、異なる視点を得られたと思う。
2. 否定的意見
 - 教師の実践力には結びつきにくい。
 - カウンセリングには役立つが、教師としてはどうかと思った。
 - セラピストにとって役立つ内容であったが、教師が現場でどのように生かしていけるかは疑問
 - カウンセラーとしての実践力は高まったが、教師としては結びつきづらかった。
 - 相談室のケースなので学校現場で役立つのかは疑問

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点，改善してほしい点を具体的にお書きください。また，この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

今年度から新しく授業内容に加えたインテーク・カンファレンスについて，下記のような多くの意見が出された。

- インテーク・カンファレンスの進行を見直した方がよい。
- インテーク・カンファレンスの意義や指針等に関する説明が必要
- インテーク・カンファレンスの時間増を検討して欲しい。

以上の点を含めて，インテーク・カンファレンスの内容や進め方については，今後も学生の意見も聞きながら改善したいと考える。

5 本授業の成果と今後の課題について

アンケート結果の分析でも触れたように，将来の心理臨床活動に関わって実践的力量向上を目指した授業内容であり，学生が心理・教育相談室で実習した事例を発表・検討することからも，実践に直結した知識や技能の向上，自己理解と資質向上に寄与している点において，高い評価をしたと考えられる。しかし，今後，授業内容を深めたり心理臨床に関わるより高い技能向上を目指していく上で，授業形態，授業展開，インテーク・カンファレンスを含めた授業内容，資料作成など学生に対する細かな教育指導など，多くの課題について検討し，改善していきたい。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

		評 価 実 施 日	平成 18 年 7 月 25 日		
授業科目名	幼年期教育学研究	学期・曜日・時限	前 期	火曜日	2 時限
授業区分	1. 教職基礎科目 ②. 専門科目				
担当教員名	橋 川 喜 美 代	回答者数	17 名		

1 アンケート [1] の集計と分析について

[5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない]
 [2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 未記入]

番号	評 価 項 目	評 価 番 号					
		5	4	3	2	1	無
1	授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。	8	7	2			
2	授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。	9	6	2			
3	授業の内容には一貫性があった。	9	8				
4	教師の実践力の育成に役立つ内容であった。	9	8				
5	授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。	3	7	7			
6	授業をよく準備し、熱心に教えた。	12	5				
7	授業の進む速さは適切であった。	9	7		1		
8	受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。	6	10	1			
9	受講生に授業への参加（質問、発言、討議など）をよく促した。	9	8				
10	教科書や参考書の使い方は適切であった。	5	10	2			
11	視聴覚機器の使用は適切であった。	3	9	5			
12	配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。	12	5				
13	受講生に分かりやすく説明した。	10	6	1			
14	教員の声は聞き取りやすかった。	12	5				
15	板書の文字は見やすかった。	13	3	1			
16	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	6	9	2			
17	この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	7	10				

<分 析>

1. 評価項目17「授業に対する満足度」の平均値は4.4である。平均値が4.5以上の評価項目は、3・4・6・12・14であり、昨年よりも全体的に低下したことが明らかになった。評価項目5と11の「成績評価の方法」「視聴覚の使用」の平均値が3.8、3.9と4点を下回り、次年度への大きな課題となった。
2. 今年度は観察実習の保育園を変更し、それに伴う授業計画の狂いが授業の進む速さや授業内容の一貫性、さらには成績評価のレポート課題にまで影響を及ぼす結果となった。とはいえ、次年度から慎重に計画を立てるための大きな手がかりが得られたことは幸いであった。
3. 最大の課題であった評価項目16でも、平均点は昨年より若干下がった。学卒院生が殆どであった昨年と比較し、主体的・積極的に授業に取り組んだという回答が4.2であったことにほっとしている。とはいえ、現職者が多かったことを考え合わせるなら、嬉しい結果とはいえない。受講生の積極的な質問を引き出すような工夫や手だてをさらに検討していく必要がある。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分 析>

半数を占める現職者は、自らの実践の見直しや、悩んでいる部分、振り返りから受講したという回答が多いようである。その一方で、学卒院生（ストレート・マスター）は、理論面を期待して受講しており、実践と理論を繋ぐ内容を充実させる必要性を感じている。

実践面と関連した内容の回答

- ①子どもたちについてより理解を深めることが、これから子どもたちとかかわっていく際に役立つと思った。
- ②これまでの保育・教育を見直し、確信を持って実践を行う手がかりを得るために受講した。
- ③自分の保育で悩んでいる部分を解決できるのではないかと思った。
- ④自らの実践を理論で裏付け、実践と理論を繋ぐために受講した。
- ⑤子どもの観察力を身につけ、実践に役立つ知識を得たいと思った。
- ⑥今までの保育を振り返り、これからの研究内容を見つけられることを期待して受講した。
- ⑦自分の保育実践がどのように教育的なのか、またないのかを知ることができるのではないかと期待して受講した。

理論面と関連した内容の回答

- ⑧幼児教育の歴史を踏まえ、現在の幼児・小学校教育がどのように変化してきたのかを知りたかった。
- ⑨幼年期教育についての理解を深めようと思った。
- ⑩幼年期における子どもの学びをいろいろな角度から知りたいと思った。

その他の回答

- ⑪現職の方が多いので、現職の方の話聞く機会が多くあればと思った。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

理由を書いてくれた受講生は15名。とくに多かったのが、保育園への観察実習が現場を実際に知り、子どもたちと触れ合う機会になったという回答であった。それ以外の回答を順に記しておく。

- ①就学前の子どもの姿や学びの実態、教師の姿勢を学ぶことができた。
- ②実践記録など歴史的に意義ある文献を知ることができた。
- ③実践を振り返ることのできる授業内容だったので、日々の保育の中に気付いたことを取り入れるなど、子どもを見る視点を変えていくことができた。
- ④実際に恩物に触れ、遊び方も知ることができた。
- ⑤幼稚園の歴史や保育園への実習などがあり、とても貴重な体験ができた。
- ⑥現場に長年居ると、普段気付かないこと、見落としていることなどがあるが、そのことも気付いていない場合がある。改めて気づかされ、反省させられたことなど、実践に使える内容であった。
- ⑦自分の保育や子どもに対する意識をしっかりと持つことができた。
- ⑧いろいろな文献や実践を知ることができた。
- ⑨先人の理論や現役の保育者の実践など、さまざまな立場の人々の保育や考え方が学べた。また、読んでみたいと思う本にも出会えた。
- ⑩子どもの見方を考える機会になった。
- ⑪受講者同士のディベートを通じて学ぶことができた。
- ⑫現職者の話に教員が加わることによって、理論と実践を重ねることができた。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点、改善してほしい点を具体的にお書きください。また、この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

良かった点

- ①少人数なので身近でよく集中できたこと
- ②いろいろな文献や実践などが学べたこと
- ③レポートがあると「うーん」と思ったが、これを機に邁進しようと思う気持ちを起こさせてもらったこと
- ④他の受講生の意見や考えを聞く機会が得られたこと
- ⑤保育園の観察実習があったこと
- ⑥さまざまな意見交換ができたこと

改善してほしい点

- ①レポートの提出が重なり、仕事と他のレポートとの調整がなかなか厳しいこと

昼夜開講制の院生がレポートの課題に、かなり厳しいと感じる一方で、もっと頑張ろうと奮起してくれたことが、こうした回答からわかって嬉しい反面、もう少し時期を考えなければと反省している。また、今年は急ぎすぎて、受講者への質問の内容が伝わりにくいなど、反省材料を残す結果になった。

5 本授業の成果と今後の課題について

全体的に昨年より評価点が減少していることは気になる。最も落ち込んだ評価項目5と11の改善に努めたいと思うが、なかなか機器の使用についての合格点は難しいようである。評価結果から受講生は概ね満足していると安心する反面、受講者の顔ぶれや知識の習熟度が異なり、授業計画の調整に追われたことが反省点として残された。例年、現職者を含む年と学卒院生（ストレート・マスター）だけの年と比較すると、評価項目の1～3の授業内容についての評価点に若干異なる傾向が見られた。今年度は、現職者とストレート・マスターがほぼ同数という珍しい年であり、例年以上に明確な意識や期待をもって授業に臨んでくれたことに安堵している。とくに、現職者が自らの実践とのかかわりから、授業の内容を評価してくれたことは嬉しい結果であった。今後も授業概要や方法の工夫を図り、現職者やストレート・マスターに加え、長期履修の院生の学習意欲を喚起する必要があるだろう。

現職者が多く、話し合いを何度となく持つ中で、ストレート・マスターの受講生が意欲を喚起し、理論と実践を繋ぐことができたという回答が得られたことは現職者の意識や自覚の高さだと感謝する次第である。ストレート・マスターだけでは、どうしても話が進まず、授業の重苦しさをどう改善するかが昨年の課題であったが、今年は現職の院生に助けられた感が強い。

なお、良かった点にもあがっていた保育園での観察実習は、実践力を育成する上で欠かせないものであるが、受け入れ側との調整、場所や時間の制約などを考えれば問題も負担も大きい。今後の課題として残されているのは、子どもとの積極的なかかわりをさらに深め、子ども理解へと繋いでいくことだと認識している。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

		評 価 実 施 日	平成 19 年 2 月 27 日		
授業科目名	こころの発達支援演習	学期・曜日・時限	後 期 火曜日 1 時限		
授業区分	1. 教職基礎科目 ②専門科目				
担当教員名	浜崎隆司	回答者数	6 名		

1 アンケート [1] の集計と分析について

〔 5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない 〕
〔 2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 未記入 〕

番号	評 価 項 目	評 価 番 号					
		5	4	3	2	1	無
1	授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。	2	4				
2	授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。	3	3				
3	授業の内容には一貫性があった。	2	4				
4	教師の実践力の育成に役立つ内容であった。	2	4				
5	授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。	4	1	1			
6	授業をよく準備し、熱心に教えた。	5	1				
7	授業の進む速さは適切であった。	5	1				
8	受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。	4	2				
9	受講生に授業への参加（質問，発言，討議など）をよく促した。	6					
10	教科書や参考書の使い方は適切であった。	1	4	1			
11	視聴覚機器の使用は適切であった。						
12	配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。	3	2	1			
13	受講生に分かりやすく説明した。	6					
14	教員の声は聞き取りやすかった。	5	1				
15	板書の文字は見やすかった。	3	2	1			
16	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5	1				
17	この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	5	1				

<分 析>

演習なので、発表や討論を中心とする授業である。6名の受講生ではあるがおおむね主体的に講義に参加し重厚の満足度も高かったのではないと思われる。反省点としては、成績評価の説明は講義最初に説明したつもりであったが、全員の受講生の中には十分理解されなかったことが指摘された。今後、授業の途中でも成績評価について説明が必要である。板書の文字についても改善は必要である。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分 析>

- ・前期でこちらの発達支援研究をとって興味があり後期も履修しようと思った。
- ・講義の内容が興味ある向社会的行動であったため

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

- ・内容が向社会的行動を中心にしていたので、それらは親子関係や教師—子どもとの関係においても重要であり、教師として重要なスキルである。
- ・他の受講生の興味あることを知ることも興味深かった。
- ・論文の内容を要約するスキルアップにつながった。また、引用文献・参考文献により、関連論文を孫引きして研究に役立てるので非常に参考になった。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点、改善してほしい点を具体的にお書きください。また、この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

- ・発表を中心にしたのがよかった
- ・受講者と討論できたのがよかった
- ・討論の内容を深めるために発表論文のレジメを一週間前に他の受講者にも読んでもらうことで、論文の説明の時間が節約でき、討論も充実すると思う。
- ・発表者が立って発表するよりも座ったままのほうが緊張なくてよい。
- ・自分では読まない論文や、分野の違う人からの意見が聞けてよかった。

5 本授業の成果と今後の課題について

・おおむね受講者の意見はこちらの意図した講義内容と一致しており、満足感も高かったので、次年度も同様の授業を展開していきたい。ただし、成績評価や板書、発表形式については改善点もあるので、受講者と相談して次年度の授業に生かしていきたいと思う。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

		評 価 実 施 日	平成 19年 2月 15日		
授業科目名	幼年発達心理演習	学期・曜日・時限	後 期 木 曜 日 4 時 限		
授業区分	2. 専門科目				
担当教員名	田村隆宏	回答者数	9 名		

1 アンケート [1] の集計と分析について

(5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない)
 (2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 --- 未記入)

番号	評 価 項 目	評 価 番 号					
		5	4	3	2	1	無
1	授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。	3	6				
2	授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。	1	7				1
3	授業の内容には一貫性があった。	5	4				
4	教師の実践力の育成に役立つ内容であった。	4	5				
5	授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。	5	3				1
6	授業をよく準備し、熱心に教えた。	5	4				
7	授業の進む速さは適切であった。	5	4				
8	受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。	5	4				
9	受講生に授業への参加（質問，発言，討議など）をよく促した。	9					
10	教科書や参考書の使い方は適切であった。	5	4				
11	視聴覚機器の使用は適切であった。	7	2				
12	配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。	7	2				
13	受講生に分かりやすく説明した。	7	2				
14	教員の声は聞き取りやすかった。	7	2				
15	板書の文字は見やすかった。	4	4				1
16	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	7	2				
17	この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	7	2				

<分 析>

全項目について4以上の評定値を得たことから、各項目に関わる目標は概ね達成されたと考えられる。しかし、最も高い評定値である5が比較的少なかった項目2では、授業中に紹介したテキスト・参考書の適切性が問われているが、この点については今後、テキスト、参考書をさらに吟味する必要がある。次に5の評定値が少なかった項目1では、授業概要で紹介された授業計画のわかりやすさと適切性が問われているが、今後、さらに授業計画のわかりやすさ、適切性を追求する必要がある。加えて、5の評定値が半数以下であった項目4では教師の実践力育成に役立つか否かを問うものであったが、この結果から、今後の授業では授業で扱う内容として今以上に教育実践力育成に関わるものを取り上げていくことを心がけたい。同じように5の評定値が半数以下であった項目15は板書の見やすさを問うものであった。授業中の提示はパソコンの画面をプロジェクターに写したものをを用いたが、その際の文字の大きさをさらに大きくする工夫が必要であろう。

これ以外の項目については、5の評定値が半数以上であったので、概ね適切であったと考えられる。今後の授業では、さらに5の評定が増えるよう、改善していきたい。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分 析>

本講義ではテキストの内容の発表に加えて、受講生が自発的にテーマを選んで研究発表を展開したことから、「様々な人の研究について学べるので、自分が研究を進める際の参考になる」、「他の受講生の発表を聞いて、自分も研究をどのように進めていったらいいのかについての手がかりをつかむことができた」、「他専攻、他ゼミの受講生から様々な意見をもらえることで、自分のテーマを多角的に捉えることができ、研究を進める上で大いに参考になった」といった意見が大勢を占めた。演習という授業の性質上、受講生が自らが発表者として話題を提供し、また他の発表者に対して発展的なコメントをすることで、受講生の学びが深まったことは授業の本質的な意義からも、概ね目標は達成されたものと考えられる。今後もこの点についてはさらに洗練された演習のあり方を目指す。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

ここでのコメントとしては、「相手の人に対するプレゼンのあり方を考えられるので、発表や授業の仕方などの練習ができて良い」、「プレゼンの仕方や伝え方に役だった」といった、授業展開の技術的な側面で役に立ったというものと、「研究の要旨のまとめ方が習得できた」、「発表の時、色々なアイデアがあって参考になった」といった、教材研究に関わる面で役に立ったというもの、さらに「幼児教育の実態がよく理解できた」という、保育・教育現場の実情を理解するという点で役だったというものが挙げられた。どれも肯定的な評価であったため、「教師の実践力育成に役立つ内容であった」ことは、概ね達成されたと考えられる。今後の授業でもこの点について、さらに洗練された内容を目指す。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点、改善してほしい点を具体的にお書きください。また、この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

この授業の良かった点については、「積極的に意見を発表することができたのでよかった」、「十分配慮して討論時間を摂ってあるので、受講者全員が意見を言うことができ、人の発表に対して真摯な態度で臨むことができた。授業に参加して、充実感を覚えることができた」、「自分が自発的に選んだテーマを発表することが、とてもよかった」、「他の人の研究内容や問題意識を聞く機会となり、大変面白く、楽しい授業だった」といったコメントが挙げられた。以上のコメントから、発表・討論とも受講生にとっては学びを深める良い機会になったことが伺える。今後の授業では、引き続き、受講生が自主的に選んだテーマを発表することと、討論時間を十分に用意し、活発な討論ができる環境を整えることに心がけ、さらに受講生の学びが深まる形になるように心がけたい。

この授業で改善して欲しい点については「テキストについての発表が内容的に難しく、細切れになってしまう所もあって、概要がわかる様な資料などがあれば、わかりやすかった」とのコメントが挙げられた。このコメントから、テキストの内容については、さらに吟味を要する点と、補足資料などを十分に用意する必要がある点が、今後の改善課題である。

全般的に肯定的なコメントが大勢を占めていたことから、受講生にとっては概ねよかった授業として認識されているものと思われる。今後の授業では、このよかった点をさらに充実させ、指摘された改善すべき点については十分に配慮していくことを目指す。

5 本授業の成果と今後の課題について

本授業では、アンケート [1] の項目すべてにおいて、受講生全員が「かなりそう思う」の4、もしくは、「まったくそう思う」の5の評定値を示したため、授業に求められる基本的な課題は概ねクリアしていると考えられる。さらに、演習形式という受講生自らが自発的に研究を深める形をとっているという点でも、受講生の多くから肯定的な意見が寄せられ、演習としての目的は達成されたと捉えられる。加えて、教育実践に役立つという面でも、受講生1人1人に研究発表を科したことから、授業の技術的な面、教材研究の面で役立ったとの意見や、内容的な面で保育現場の実態が理解できたとの意見が挙げられたことから、教育実践力の育成についても少なからず役に立ったことが窺える。総じて、受講生のほとんどが良かった点を挙げていることから、受講生にとっては有意義に感じられた授業であったことが示唆され、望ましい成果が得られたものと思われる。

今後の課題としては、授業で用いたテキストの発表に関して、そのあり方をさらに吟味する必要がある。内容的に難しい点が目立ったとの意見が出されたので、理解を助ける補足資料を加えとか、発表の順序を、基礎的なものから応用的なものへと、順を追って理解しやすいように工夫していくといったことが必要になると思われる。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

		評 価 実 施 日	平成 19 年 2 月 22 日		
授業科目名	幼年期福祉演習	学期・曜日・時限	後 期 木曜日 3時限		
授業区分	1. 教職基礎科目 (2). 専門科目				
担当教員名	木村直子	回答者数	5 名		

1 アンケート [1] の集計と分析について

[5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない]
 [2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 未記入]

番号	評 価 項 目	評 価 番 号					
		5	4	3	2	1	無
1	授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。	5					
2	授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。	5					
3	授業の内容には一貫性があった。	4	1				
4	教師の実践力の育成に役立つ内容であった。	5					
5	授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。	4	1				
6	授業をよく準備し、熱心に教えた。	5					
7	授業の進む速さは適切であった。	4	1				
8	受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。	5					
9	受講生に授業への参加（質問、発言、討議など）をよく促した。	5					
10	教科書や参考書の使い方は適切であった。	5					
11	視聴覚機器の使用は適切であった。	4	1				
12	配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。	5					
13	受講生に分かりやすく説明した。	5					
14	教員の声は聞き取りやすかった。	4	1				
15	板書の文字は見やすかった。	3	2				
16	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5					
17	この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	5					

<分 析>

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分 析>

問題意識としては、「現代の福祉に関する問題や障害に対する支援のあり方、研究の進め方などの知識を増やしたいと思い、受講した」と記述している院生が多かった。中には、「オリエンテーションでの授業の趣旨、進め方を聞いて、受講しようと思った」と書いている院生もいた。

10月からの着任ということもあり、シラバス（電子・紙媒体）がなかったにも関わらず、5名と少ないながらも、オリエンテーション実施後、問題意識を持って授業に参加してもらえたことは、よかった点である。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

院生の回答は、「自分の知らなかった専門的な知識を知ることができた」「今後の勉強のきっかけとなった」「授業の内容に関して、分かりやすい資料を準備し、活用してあったので、すごく役立つと感じた」「現場でどういう風に生かせばよいか具体的な話し合いを持つ場があり、実践で何とかやっていけそうな自信が出た」「

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点、改善してほしい点を具体的にお書きください。また、この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

院生の回答は、良い点ばかりが書かれていた。恥ずかしながらも具体的に列挙すると、「とてもわかりやすく、もっと授業を受けたいぐらいだ」「来年度、授業履修可能であれば、この先生の関連の授業を履修したい」「受講したメンバーと先生でさまざまなことをディスカッションできる雰囲気よかった」「大変面白く、障害に対するイメージががらっと変わった自分にびっくりしている」「本当にこの授業を受講してよかった」「実際の事例や支援法をきき、どう対応するのかというやり方を、いくつか提示されたことがよかった」である。

大学院生に向けた授業をはじめて行った自分にとっては、身に余る評価を頂いた。今後も初心を忘れず、院生の視線を組み込んだ授業を行えるよう、準備にしっかりと時間をかけてやって行きたいと思っている。

5 本授業の成果と今後の課題について

履修届けを提出した院生は、5名であった。他にも、履修届けを出さずに授業に参加した院生が数名いた。授業は、講義+ディスカッション、院生による発表+ディスカッション、の2パターンであった。院生による発表についても、講義の中で身に付けた知識が援用されており、受講した院生に知識が定着していることが伺えた。

大学院生に向けた授業をはじめて行った自分にとっては、本当に身に余る評価を頂いた。授業の準備の際には、どうすれば、分かりやすく、かつ適切に院生に伝えることができるか、を意識した。今後も初心を忘れず、院生の視線を組み込んだ授業を行えるよう、準備にしっかりと時間をかけてやって行きたいと思っている。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

		評価実施日	平成 18 年 7 月 21 日		
授業科目名	幼年発達と幼児教育内容論	学期・曜日・時限	前期	金曜日	4 時限
授業区分	1. 教職基礎科目 ②. 専門科目				
担当教員名	塩路 晶子	回答者数	11 名		

1 アンケート [1] の集計と分析について

[5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない]
 [2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 未記入]

番号	評 価 項 目	評 価 番 号					
		5	4	3	2	1	無
1	授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。	1	9	1			
2	授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。	5	5	1			
3	授業の内容には一貫性があった。	2	7	2			
4	教師の実践力の育成に役立つ内容であった。	3	7	1			
5	授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。	5	5	1			
6	授業をよく準備し、熱心に教えた。	6	5				
7	授業の進む速さは適切であった。	2	5	4			
8	受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。		6	5			
9	受講生に授業への参加（質問、発言、討議など）をよく促した。	4	3	4			
10	教科書や参考書の使い方は適切であった。	3	6	2			
11	視聴覚機器の使用は適切であった。	3	6	2			
12	配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。	4	7				
13	受講生に分かりやすく説明した。	3	6	2			
14	教員の声は聞き取りやすかった。	4	3	4			
15	板書の文字は見やすかった。	4	2	4	1		
16	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1	8	2			
17	この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	5	6				

<分 析>

総合的には概ね受講生にとって満足できる授業であったという評価が得られた。
 改善しなければならない主な点としては、項目 (8) (9) の評価に現れているように、受講生の理解度の確認と、それを反映した授業の進む速さの設定である。
 また項目(15)によると、板書の文字が若干、見にくいようであるので、もう少し改善したい。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分 析>

受講生の授業への期待は、①専門的な立場から見た現在の幼児教育のあり方や問題点を理解したい、②諸外国の教育・保育の内容を理解したい、という2点に集約される。

受講生の期待にこたえることができるような授業構成にすると同時に、シラバスにもなるべくそれを明示していきたい。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

・教育実践とのつながりについて

「幼小の連携など、具体的な実践例が多く提示された」「系統的な知識技能を高める教育と生活の中で学ぶ教育のバランスやカリキュラムについて、大変勉強になった」「保育現場に復帰しても役立つ」という意見が挙げられ、受講生の実践力の育成に少しは寄与できたようである。

・諸外国の保育内容について

「諸外国の理論や実践を知ることができてよかった」「日本の教育・保育と比較して、考える幅が広がられた」などの意見が挙げられた。

・「『実践力』を幅広い見地からとらえ、諸外国や歴史等を学ぶことに意味がある」といった意見もあり、「実践を単なるHow Toに終始しない」という教員のねらいとするところへの評価もあった。

・今後はさらに、日本の幼児教育や諸外国の幼児教育の保育内容についての具体的事例や理論を提示するにあたって、受講生自身が自ら課題を持ち、考えることができるようなものを工夫していきたい。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点、改善してほしい点を具体的にお書きください。また、この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

・良かった点

「動画なども見ることができた」「グループに分かれての話し合い」「話しやすく聞きやすい雰囲気」といった意見が挙げられた。

・改善点及びアイデア

「内容が盛りだくさんすぎるので、1つにもう少し時間をかけてほしい」「資料をわかりやすく簡潔に」「資料の補足説明」「資料のコピーのうつりが悪い」といった意見にみられるように、資料の多さと受講生への提示の仕方については改善が必要である。

「Q&Aのようなコーナーがほしい」「毎回授業の最後に書く感想が少し苦だった」といった意見にみられるように、学生からの意見を取り上げたり質問に答えたりすることは、あまりできていなかった。授業ごとにコメントカードを書いてもらっていたが、その意図も十分に伝わっていなかったようである。今後の課題としたい。

5 本授業の成果と今後の課題について

本講義がめざしていた「子どもの生活や遊びを中心にした保育」の日本と諸外国（主にアメリカ）の保育内容を歴史的・現代的かつ多角的な観点から学ぶ、という目的は概ね達成されたと考えている。それは、評価の対象とした期末レポートを見ても、講義において取り上げた具体的実践や理論の中から、受講生一人ひとりの課題意識を深めた論考が概ねできていたからである。

今後の課題としては、より受講生が主体的に講義に参加できるように、受講生の理解度や進捗を確かめる工夫、資料の提示方法の工夫等をしていきたい。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

		評価実施日	平成 19年 2月 22日		
授業科目名	障害児教育課程特論演習	学期・曜日・時限	後期 木曜日 3時限		
授業区分	1. 教職基礎科目 ②. 専門科目				
担当教員名	八幡 ゆかり		回答者数	11名	

1 アンケート [1] の集計と分析について

(5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない)
 (2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 --- 未記入)

番号	評 価 項 目	評 価 番 号					
		5	4	3	2	1	無
1	授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。	8	3				
2	授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。	5	3	3			
3	授業の内容には一貫性があった。	9	2				
4	教師の実践力の育成に役立つ内容であった。	7	3	1			
5	授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。	5	5	1			
6	授業をよく準備し、熱心に教えた。	7	3	1			
7	授業の進む速さは適切であった。	6	3	2			
8	受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。	5	4	2			
9	受講生に授業への参加（質問、発言、討議など）をよく促した。	5	6				
10	教科書や参考書の使い方は適切であった。	4	3	3			1
11	視聴覚機器の使用は適切であった。	6	3	1			1
12	配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。	6	3	1			1
13	受講生に分かりやすく説明した。	8	2	1			
14	教員の声は聞き取りやすかった。	9	2				
15	板書の文字は見やすかった。	5	2	3			1
16	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5	4	2			
17	この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	8	3				

<分 析>

評価は、5と4が多かった。5が最も多かったのは、設問3「授業の内容には一貫性があった」と、設問14「教員の声は聞き取りやすかった」で11人中9名の回答であった。設問4の「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」については、5の評価が7名（約64%）、4の評価が3名（約27%）で計91%で、高い評価を得た。そして、総合的評価とし位置づけられる設問17「この授業は、自分自身にとって満足できるものであった」については、5の評価が8名（約73%）、4の評価が3名（約27%）であり、両方を合わせると100%であった。このことから、本授業科目は受講生にとって高い評価を得ることができたと言える。

一方、授業者として重要視した「受講生が主体的に取り組む」ということに関連する設問16「授業に主体的・積極的に取り組んだ」ということについては、5の評価が5名（約46%）、4の評価が4名（約36%）と計82%であった。このことから、授業者の意図どおりの授業を展開できたと言える。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分 析>

回答結果から、以下のように分けることができた。

1. 自身の学習を深める、という観点。
 - ① 教員としてのスキルアップを目的とした。
 - ② 現代の特別な支援内容について学びたい。
 - ③ 教育課程や学習指導要領に関する理解を深める。
 - ④ 教育の成立背景や問題点について理解を深める。
2. 演習形式(方法) に着目して、お互いの情報交換を通して学ぶ、という観点。
 - ① 多角的に学び、自らも調べて学びたい。
 - ② 実践経験がないため演習形式で様々な実体験や現場での話を教えてもらいたかった。
 - ③ 最新の話題や考え方、実践等について学びたい。
 - ④ グループ課題や個人課題での意見交換をとおして問題点や課題を追求したい。
3. 専門性を深める、という観点。
 - ① 諸課題について専門的に追求したい。
 - ② 重要課題について問題点や今後の展望を知りたい。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

5の評価(11名中7名)の回答は、以下のとおりであった。

- ① 演習発表後、全員で議論を深め、現職の方などの様々な意見を聞くことで理論と実践について深く理解できた。
- ② これまで文献を深く読解したり、テーマについて一つ一つ考えることがなかったが、本授業でそれらができて、問題意識が深まった。
- ③ 演習をとおして、調査研究して発表することでより理解が深まり、人に伝える方法の工夫ができた。
- ④ 演習形式をとおして、実践に役立つ「今」と「現状」を知ることができた。
- ⑤ これからの特別支援教育の方向について、見解をもつことができ、現場では学習できない大切な知識を得ることができた。
- ⑥ 基礎的・応用的な情報を多く学べた。

4の評価(11名中3名)の回答は、以下のとおりであった。

- ① 障害児教育に対する考え方や教育方法など、現状について知り、教育の場ですぐに実践できる。
- ② 現場での教育で忘れかけている理想や本来あるべき姿が確認され、有意義であった。
- ③ 小・中学校での特別な支援が必要な子どもへの支援体制や制度を知ることができ有意義であった。

3の評価(11名中1名)の回答は、以下のとおりであった。

- ① 理念的な話が多く、臨床に直接的に結びつくものがなかった。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点、改善してほしい点を具体的にお書きください。また、この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

この授業で良かった点として、以下の回答があった。

- ① 個々の学生たちの意欲が表れた授業であった。
- ② 演習として、わかりやすい課題で学習でき、よかった。
- ③ いろいろな文献等について多く深く読むことができた。
- ④ みんなで議論を深めて貴重な意見を沢山聞いたのが良かった。

改善してほしい点については、「特になし」が多かった。また、「このままでよい」、「この方法で続けてほしい」という回答がみられた。

この授業に取り入れるアイデアとして、以下の点が挙げられた。

- ① 論文や書籍の研究手法のガイダンスと演習を最初に行ってから本題に入るとよい。
- ② 与えられた課題について話し合うだけでなく、自分たちでテーマを設定して考えていくのも良い。

5 本授業の成果と今後の課題について

本授業の成果について、回答結果から全般的に5の評価が最も多かったことから、受講生にとって満足度の高い授業であったと言える。また、演習形式をとおして受講生が自ら学び、考えてお互いに高めあえたことが窺え、授業者が意図した「受講生の主体性」を引き出した授業であったと言えた。

このような主体性を引き出すために、授業者として工夫したのは演習課題や方法をオリエンテーション時に資料を配付して明記したことや、受講者が発表したり意見交換をするときに、肯定的に発言を促したことで授業を活気づけることができたと考えられた。また、理解を深めることができたとの回答を得たのは、受講生の発表後、授業者が係わった例を挙げながら補足説明したことが効果的であったと考えられた。

今後の課題について、受講者によっては、「4. アイデアの提案」にあったように、基本的な学び方（論文などの研究方法）を求める者がいたので、オリエンテーション時に説明しておきたい。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

		評価実施日	平成18年 7月 24日		
授業科目名	特別支援教育コーディネーター概論	学期・曜日・時限	前期 火曜日 3 時限		
授業区分	1. 教職基礎科目 ② 専門科目				
担当教員名	井上とも子	回答者数	2名		

1 アンケート [1] の集計と分析について

(5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない)
 (2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 --- 未記入)

番号	評価項目	評価番号					
		5	4	3	2	1	無
1	授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。		1	1			
2	授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。		2				
3	授業の内容には一貫性があった。		2				
4	教師の実践力の育成に役立つ内容であった。		2				
5	授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。		2				
6	授業をよく準備し、熱心に教えた。	1	1				
7	授業の進む速さは適切であった。		1	1			
8	受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。		2				
9	受講生に授業への参加（質問、発言、討議など）をよく促した。		2				
10	教科書や参考書の使い方は適切であった。		2				
11	視聴覚機器の使用は適切であった。	1	1				
12	配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。		1	1			
13	受講生に分かりやすく説明した。	1	1				
14	教員の声は聞き取りやすかった。	1	1				
15	板書の文字は見やすかった。	1		1			
16	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1	1				
17	この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。		2				

<分析>

この授業を受けることのできる院生は、特別支援教育コーディネーターコースを選択した2名に限られており、授業評価を一般化することは難しいが、受講した2名の院生は、おおむね、授業に満足を得ているように思われる。今年度から新しく開設された授業であり、配付資料は少なく、参考文献紹介にとどまっており、書き写すなどに苦労があったと思われる。

毎週（毎回）出す課題への取り組み状況や、院生の発表など、反応をその都度くみ取りながら、授業を進めていくように心がけ、また、課題提出物を検討してコメントを入れるなどでき、受講生の少なさから、丁寧に対応できたと考える。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分析>

- ・受講は必須であった。具体的なコーディネーションの仕方や留意点を見出そうとして、受講した。
- ・この授業で、コーディネーターの役割から基本的注意事項までを理解および確認したかった。

概論であり、基本的な役割の理解と、それまでの巡回相談経験を振り返りながら確認しようとする授業への構えは、的を射たものと考えられる。

2名共に現職教員であり、それぞれに地域や学校の中でコーディネーションの役割を担ってきた経験のあるものとして、積極的に自身の問題意識をもって参加していることは予想された。

しかし、それぞれの問題意識を引き出すために、毎週の課題の提示や内容に工夫が必要で、できれば、授業に何を期待しているのかを把握した上で組み立てることができれば、もっと、院生のニーズに応じた授業展開ができたのではないかとと思われる。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分析>

- ・具体的な場면을想定した話が多かったため。
- ・他県の取り組み例が示されたことや人を引きつける話し方、コーディネートの具体例・留意点が述べられていたため。

双方、具体的な事例や場면을挙げており、実践に役立つと考えていることが分かる。受講する限り、何につけ、身につくこととして積極的に授業に参加している様子がうかがえ、現職教員の院生であるため、具体例提示は自身の振り返りにもなり、彼らが、この授業から実践力育成に役立てることができたと考える。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点、改善してほしい点を具体的にお書きください。また、この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

- ・コーディネーターには校内型と地域型の2タイプがあることが分かってから、話の内容が腑に落ちるようになった。はじめの方で大枠を示してほしかった。
- ・問いかける質問に対して応えづかった。設問の仕方を工夫してほしい。話の進行が早く、ノートが取れなくて苦労した。

課題や参考文献紹介は、書き写さなくてもよいようにプリントを用意する方がよかったと考える。2名の受講生であるため、加減を見ながら進められると考えたことで、「待つてほしい」と言いづらかった受講者の気持ちを十分くみ取れていなかった。

また、今年度開設授業であり、手探り状態であった。現職教員であることから、校内型と地域支援型は、自明のように進めてしまったことで受講生をとまどわせてしまった。概論として基本的な事項にはいるため、今後の改善点に入れたい。

5 本授業の成果と今後の課題について

受講生2名の他、聴講として常に8名程度の他専攻の院生2年がこの授業に参加しており、教育現場に戻ろうとする教育経験のある院生にとっては、この授業は教育現場のトピックス的な授業であると感じた。また、最後、5分の1程度、坑内員会を模して院生にはコーディネーション経験を、聴講生には、課題の持ち方や、具体的な校内支援のあり方経験をしてもらうべく時間を当てたが、後期の実践論においても、2名で演習は難しく、前期は聴講生の参加が、授業の幅を生んだと考える。

受講生2名は、毎週、課題が与えられ、調べてきたことを書いたり発表したりと負担感があつたようではあるが、少ない人数の授業ではディスカッション形式で、それぞれの課題や問題意識の深まりと解決に向けた積極的な授業参加が、欠かせないと考えため、今後も、この形をとって進めていきたいと考える。2名ともに熱心に課題に取り組む中、他の聴講生をリードするなど、概論とはいえ、他をリードし、まとめる意識をもって授業に望まざるを得ず、コーディネーターとしての実践的な体験にもなったと考える。

今後は、早く、受講生の受講に対する問題意識や期待を把握し、それぞれのニーズに応じた授業展開を図るように心がけたい。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

		評 価 実 施 日	平成 18年 7月 25日
授業科目名	障害児教育指導特論演習	学期・曜日・時限	前期 火曜日 2時限
授業区分	1. 教職基礎科目 2. <u>専門科目</u>		
担当教員名	大谷博俊	回答者数	12名

1 アンケート [1] の集計と分析について

[5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない]
 [2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 未記入]

番号	評 価 項 目	評 価 番 号					
		5	4	3	2	1	無
1	授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。	8	4				
2	授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。	7	2	3			
3	授業の内容には一貫性があった。	12					
4	教師の実践力の育成に役立つ内容であった。	9	3				
5	授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。	10	1	1			
6	授業をよく準備し、熱心に教えた。	9	3				
7	授業の進む速さは適切であった。	10	2				
8	受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。	4	7	1			
9	受講生に授業への参加（質問，発言，討議など）をよく促した。	10	1	1			
10	教科書や参考書の使い方は適切であった。	—	—	—	—	—	—
11	視聴覚機器の使用は適切であった。	8	4				
12	配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。	4	6	2			
13	受講生に分かりやすく説明した。	6	6				
14	教員の声は聞き取りやすかった。	9	2		1		
15	板書の文字は見やすかった。	—	—	—	—	—	—
16	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	6	6				
17	この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	6	6				

<分 析>

平均評価得点を見つみると全項目について4点以上であり、受講生は本授業を肯定的に評価していると考えられる。項目別に見ると授業の一貫性に関する評価がとりわけ高く、授業内容の構成の適切さが伺える。また、授業進度や実践力の育成、授業準備や成績評価の提示、受講生の授業参加を促したという点などにおいても評価が高かった。授業内容や教授の姿勢などについて受講生の期待に応えることができたと思われる。授業者としてもやり甲斐のある授業であった。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分 析>

受講生の記述を見ると、本授業内容に関する知識、関連実践等がなく、シラバスを読み本授業の内容に関心を持ち受講したという意見とこれまでの知識、経験を本授業内容に沿ってより深めたいという意見に大別できた。

受講生のこれまでの経験や知識には違いが見られたが、受講動機は授業テーマへの関心によるところが大きいことが伺える。シラバスによる授業内容の提示は、受講生にとって有益であるだけでなく、授業者にとってもそうであると感じた。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

受講生の記述を見ると、①現職教員の意見や学校実践の現状などがテーマに沿って示され、討議によって深まっていくことを感じた、②一貫したテーマでありながら幅広い知識を得ることができた、③授業テーマに沿った受講生参加による協議によって授業内容の全体像が把握できたという3点にまとめられた。

アンケート [1] の評価が反映された内容だといえる。具体的は授業内容の一貫性による内容理解の深化と教員による授業への参加の促しによる協議の深化が挙げられる。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点、改善してほしい点を具体的にお書きください。また、この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

授業構成・計画（各授業のテーマ設定と内容の配置）、授業展開（個人の発表に沿った全体での協議を重視）についての肯定的な意見が多かった。教員による説明を追加して欲しい旨の希望も一部にあった。

アンケート [1] の評価が反映された内容だといえる。また、アンケート [3] の回答も反映されているのではないかと感じる。受講による実践力の育成への期待の大きさが感じられる。また、設定していた課題に関する受講生間の討議に対する評価が高く、有効に機能していたことが伺える。

5 本授業の成果と今後の課題について

本授業は昨年度と同授業の反省を踏まえて、計画、実施されたものである。その意味において、単年度だけの成果ではなく、昨年度からの積み上げであるといえる。授業を顧みることの重要性を改めて感じることができ、本授業の重要な成果であると考えている。また、本授業は受講生にとって満足いく授業であったと思われるが、授業者にとってもやり甲斐のある授業であった。このことも本授業の成果としてあげておきたい。今後はより一層受講生にとって有益な資料、参考書等を準備し、授業の充実に努めたい。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

		評 価 実 施 日	平成 19年 2月 5日
授業科目名	障害児学習支援演習	学期・曜日・時限	後期 月曜日 4時限
授業区分	1. 教職基礎科目 2. 専門科目		
担当教員名	島田 恭仁	回答者数	12名

1 アンケート [1] の集計と分析について

[5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない]
 [2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 未記入]

番号	評 価 項 目	評 価 番 号					
		5	4	3	2	1	無
1	授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。	2	10				
2	授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。	4	8				
3	授業の内容には一貫性があった。	9	3				
4	教師の実践力の育成に役立つ内容であった。	6	5	1			
5	授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。	7	3	2			
6	授業をよく準備し、熱心に教えた。	5	7				
7	授業の進む速さは適切であった。	6	5		1		
8	受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。	3	6	3			
9	受講生に授業への参加（質問、発言、討議など）をよく促した。	1	8	3			
10	教科書や参考書の使い方は適切であった。	4	6	2			
11	視聴覚機器の使用は適切であった。	-	-	-	-	-	-
12	配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。	7	3	1			1
13	受講生に分かりやすく説明した。	4	7	1			
14	教員の声は聞き取りやすかった。	5	7				
15	板書の文字は見やすかった。	4	6	2			
16	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	8	1			
17	この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	3	7	2			

<分 析>

問1・2・3・6・14では受講生の全員が5または4の高い評定を行った。特に問3で5の評定を行った院生が多かったことから、授業内容に一貫性をもたせることはできたと言える。LD・ADHD・高機能自閉症に関する心理学的な研究を紹介した上で、言葉の表現に困難のあるLD児を例に挙げて、アセスメントに基づく個別指導計画の立案について、院生自身に考案させ発表させる形式で授業を進めた成果だと考えられる。また問6・14の評価から、授業の準備、説明のし方は適切だったと言え、問1・2の評価から、授業計画、参考文献の紹介についても適切だったと言える。

しかしながら、問7では2の評定をした院生が1名いたことから、授業中に説明した事項に関する予備知識や関心の度合いが院生によって異なり、中には進み方が速すぎると感じる受講者のいることが分った。従って、今後は、特別支援教育の知識をもつ院生のみを念頭において授業を進めるのではなく、初心者や長期履修者のことも念頭におきながら授業を進める必要があると考えられた。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分 析>

「生徒一人ひとりに適した個別指導計画を立案する方法を学びたかった」と回答した院生が3名いた。今回の授業では、言葉の表現に困難のあるLD児を例に挙げて、アセスメントのし方や個別指導計画の立案のし方について、院生自身に考案させ発表させる実習形式の授業を取り入れたため、このような院生のニーズには応えることができたと思われる。

また「これからの勉強や研究に活かしたかった」と回答した院生も3名いたが、今回の授業では、LD・ADHD・高機能自閉症に関する様々な心理学的な研究について、可能な限り多くの実験例や臨床例を含めて紹介したため、これらの院生のニーズにも応えることができたと思われる。特に、昨今の学会において話題にされることが多くなった、LDにおける読み書き障害について、最新の研究知見を紹介したことは、効果的であったと思われる。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

「教師の実践力の育成に役立つ内容であったか？」という問いに対して、5または4の評価を行った院生11名の内、「実際に例を用いて、検査結果の読み取りと、個別指導計画の立案をすることができ、実践について学ぶことができたから」と答えた院生が4名、「基礎・基本の大切さに気づくことができたから」と答えた院生が1名いた。

これらの意見から、アセスメントのし方や個別指導計画の立案のし方について、院生自身に考案させる実習形式の授業を取り入れたことが、実践力の育成に役立ったことが分った。また、授業中に紹介した技法が、心理学的指導法の基礎・基本であり、学校において実用的に用い得る有効な方法であることについて、理解を促すことができたと思われる。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点、改善してほしい点を具体的にお書きください。また、この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

「授業内容が分りやすく、黒板も整理されていて、見やすくよかった」「個別の指導計画を立案するにあたって、注意する点、難しい点などが分かって良かった」という肯定的な感想が認められた。12名という少人数のクラスであったため、授業内容を詳細な点まで伝えることが可能であったこと、実習的な授業により知識の精緻化と定着を図れたことが、功を奏したのだと思われる。

一方、「グループ討議を取り入れたほうが、もっと良いと思う」という改善案も認められた。半年間の授業で、多くの内容を説明しなければならない点で限界はあるが、今後は、個別指導計画作成の実習を終えた後に討議の時間を設けて、指導計画をより良いものにする工夫について、院生自身に考案させる機会をもたせたいと思う。

5 本授業の成果と今後の課題について

本授業の成果のひとつは、LD・ADHD・高機能自閉症に関する心理学的な研究について、可能な限り多くの実験例や臨床例さらに最新の研究知見を含めて紹介したことにより、内容を詳細に伝えることができた点にある。そのため、授業内容に一貫性があり、授業計画も説明のし方も適切だったという、肯定的な評価が多く得られた。

本授業の第2の成果は、LD等の児童に対する個別指導計画の立案という実践的なテーマに関して、実習形式の授業を取り入れたことで、アセスメント法や個別指導計画の立案の仕方について知識の精緻化と定着を図れた点にある。その結果、「教師の実践力の育成に役立つ内容であったか？」という問いに対しても、肯定的な評価が多く得られた。

今後の課題としては、特別支援教育の知識をもつ院生のみを念頭において授業を進めるのではなく、初心者や長期履修者のことも念頭におきながら授業を進める必要があるという点、個別指導計画作成の実習を終えた後に、指導計画をより良いものするための討議の時間を設ける必要があるという点が考えられた。限られた授業時間内で出来る事には限界があるが、これらの諸点での改善を今後も進めてゆきたい。

第 2 部

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

		評価実施日	平成 18 年 7 月 24 日		
授業科目名	文化間教育総論	学期・曜日・時限	前 期	月曜日	4時限
授業区分	1. 教職基礎科目 (2). 専門科目				
担当教員名	小西正雄、太田直也	回答者数	12 名		

1 アンケート [1] の集計と分析について

[5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない]
 [2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 未記入]

番号	評 価 項 目	評 価 番 号					
		5	4	3	2	1	無
1	授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。	5	5	2			
2	授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。	2	4	5			1
3	授業の内容には一貫性があった。	4	5	2	1		
4	教師の実践力の育成に役立つ内容であった。	2	6	3	1		
5	授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。	4	4	3	1		
6	授業をよく準備し、熱心に教えた。	11	1				
7	授業の進む速さは適切であった。	4	6	2			
8	受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。	1	8	3			
9	受講生に授業への参加（質問、発言、討議など）をよく促した。	3	4	5			
10							
11	視聴覚機器の使用は適切であった。	6	6				
12	配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。	6	3	2	1		
13	受講生に分かりやすく説明した。	5	6	1			
14	教員の声は聞き取りやすかった。	10	2				
15							
16	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	6	2			
17	この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	5	5	2			

<分 析>項目 17 に示されているように、おおむね良好な結果であったと言える。本授業は、前半を太田、後半を小西が担当し、言語を中心にした文化論から、次第に教育に近づいてゆくという授業構成を採った。取り扱った内容がやや難解なものであったため、担当教員も十分に準備をして授業に臨んだが（項目 6、13 参照）、一部の受講生には理解しがたい内容もあったようである。例えば項目 3 には数字のばらつきが見られるが、これは若干名の受講者にとっては授業内容が難しかったことを表わしているとも考えられる。しかし、基本的に受講生の学習態度は大学院生に相応しいもので（項目 16）、担当教員、受講生双方にとって緊張感のある、また実り多い授業であったと言えるだろう。

担当教員にとって唯一残念な点があるとすれば、昨年度の反省に立って留意していた項目 9 での評価がやや低かったことである。来年度の課題となるであろう。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分 析>

主として以下の記述があった。

- ・ 世界を取り巻く言語・文化の現在の状況を知りたかった
- ・ 自分の質を高めたいと思った
- ・ 異文化について子どもたちをどのように教育すれば良いのかを考えたかった
- ・ 小学校で英語を教えるべきか否かを考えたかった
- ・ 自分の質を高めたいと思った
- ・ 考え方の幅を広げたいと思った
- ・ 担当教員がすごいという噂を確認したかった

大別すると、1) 従来の「国際理解教育」に限界を感じて、新たな方向を模索している受講者、2) 小学校英語教育を根本から考え直したい受講者、3) 自己の向上を求める受講者に分けられるが、担当教員が本授業を構成するにあたって考慮した事柄とほぼ一致している。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

主として以下の記述があった。

- ・ 実践力に直結するとは思わないが教師が知らなければならない、学んでおかねばならないことを教えていただいた。
- ・ 概念的な内容であったが、現場でなされている安易な国際ショー的な授業に対する疑問を持った。
- ・ 実践主義教師に客観視させる機会を与える授業。
- ・ 国際理解教育の授業を組み立ててゆく時に役に立つ授業。

この項目に関しては、「実践力育成に役立たない」と受け取れる記述も中にはあったが、このような見解を記した受講生が例外なく「教師が知るべきこと」、「現在の授業への疑問」という内容を書いたことに傾注する必要がある。つまり、本授業は従来型の「国際理解教育」に必要な実践力には直結していないように見えるが、小手先の実践力ではなく、新たな「国際理解教育」の基礎をなすもの、「新しい」実践力につながるものを与えていると受講生が理解していると言える。上記の4番目の記述がそれを明らかにしている。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点、改善してほしい点を具体的にお書きください。また、この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

主として以下の記述があった。

- ・ 講義全体の構成が素晴らしかった。
- ・ 大学院らしい内容であった。
- ・ 質疑の時間を増やして欲しい。
- ・ すべて満足。

記述の多くは極めて肯定的で、本授業のあり方と内容を強く支持するものであった。改善点として唯一求められたのは質疑の時間を増やして欲しいというものであったが、記述のように、この点に関しては前年度の反省として今年度は意識的にその時間を設けたつもりである。結果的に今年度も同じ店を指摘されたということは、「質疑」に関する担当教員と受講生との意識の違いがあるということの意味しているだろう。受講生にいかにして発言させるかということが、次年度も課題として残る。

5 本授業の成果と今後の課題について

基本的には担当教員の想定していた成果をあげることが出来たと言える。文化を巡ってどのような議論がなされてきたのか、また現在いかなる視点が存在するのか、「国際理解教育」を行うにあたってどのような事柄に留意すべきか、といった事柄を鳥瞰し考察することができた。来年度もこのような姿勢に基づいて授業が展開されるであろうが、さらに反・反本質主義などについても詳細に説明する必要性が生じると考えられる。

課題としては、受講生にいかん発言機会を与えるか、という事が挙げられる。受講生全体に対して発言を求める場合と個人に対して発問する場合とのバランスを考えたい。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

		評価実施日	平成 18 年 7 月 25 日		
授業科目名	総合学習総論	学期・曜日・時限	前 期 火 曜 日 3 時 限		
授業区分	1. 教職基礎科目 ②. 専門科目				
担当教員名	小西正雄・谷村千絵	回答者数	20 名		

1 アンケート [1] の集計と分析について

[5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない]
 [2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 未記入]

番号	評 価 項 目	評 価 番 号					
		5	4	3	2	1	無
1	授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。	7	10	3	0	0	0
2	授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。	10	8	0	2	0	0
3	授業の内容には一貫性があった。	10	7	3	0	0	0
4	教師の実践力の育成に役立つ内容であった。						
5	授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。	8	9	3	0	0	0
6	授業をよく準備し、熱心に教えた。	13	7	0	0	0	0
7	授業の進む速さは適切であった。	11	8	1	0	0	0
8	受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。	8	9	3	0	0	0
9	受講生に授業への参加（質問，発言，討議など）をよく促した。	9	10	1	0	0	0
10	教科書や参考書の使い方は適切であった。	12	5	3	0	0	0
11	視聴覚機器の使用は適切であった。	11	4	5	0	0	0
12	配布された資料・文献等は，授業内容を理解する上で役に立った。	11	7	2	0	0	0
13	受講生に分かりやすく説明した。	11	5	4	0	0	0
14	教員の声は聞き取りやすかった。	13	4	3	0	0	0
15	板書の文字は見やすかった。	9	7	4	0	0	0
16	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	6	10	4	0	0	0
17	この授業は，自分自身にとって満足できるものであった。	11	5	3	1	0	0

<分 析>

授業担当教員2名の講義と合同でのテキスト講読（3回）を組み合わせた授業構成としたが、概ねよい評価が出されている。5と回答した者が半数に満たない（5が10名以下）6つの項目について分析すると、1は、教員の都合で担当時間の順番を入れ替える必要が生じ、シラバスの授業展開と異なってしまったためと考えられる。5は、7月に2度、説明を行ったが、いずれも口頭で伝えたため周知が徹底しなかったのかもしれない。8は、とくに後述の〔4〕にあるようにテキスト講読の内容について消化不良が残ったと考えられる。9は、授業中（とくにテキスト講読時）に発言を促したが、必ずしも全員から活発に意見が出るとは限らなかった。15については、より丁寧な板書を心がけたい。16については、テキスト講読において議論に積極的に加わらなかった学生は、受身の姿勢になりやすかったのではないかとと思われる。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分析>

学生のコメント：

○「総合的な学習の時間」について・・・

どのような意義があるのか／考え直してみようと思った／何たるか？というのを本質的なところまで学びたかった／改めて勉強をしておきたいと思った／全体像をつかみたいと思った。細かいところまで話がすすみ、たいへん勉強になった／基本的なことが分かったと考えた／知見を深めるため／ポスト近代的意義の探求／どのようにすれば有効に使用できるのか期待があった／教科の関わり合いについて

○近代教育との関連

近代教育について、総合的な学習と関連づけて考えたかった／近代教育のあり方と総合学習

○人間や教育の本質

人間の本質を学びたかった

「『学ぶことって何だろう、生きることって何だろう』という教育の本質にかかわる議論を行うことを目的とする」というシラバスの言葉にひかれて、それについて考えてみたいと思った

○その他

考え方の幅が広がることを期待して受講しました

分析：

全体的に「総合的な学習の時間」への関心の高さがうかがわれる。また、教育や人間に関する本質的・哲学的考察への関心や、近代教育の見直しとの関連において総合をとらえることに関心を寄せる学生もある。実際の授業においても意欲的な学習への取り組みが見られたが、授業の目的と受講生の目的意識がほぼ合致していることが分かる。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分析>

項目なし

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点、改善してほしい点を具体的にお書きください。また、この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分析>

学生のコメント：

○良かった点

バーチャルデート・ゲームでセミラティスを体験するのが面白かった／総合的な学習の時間の本質的なところについて知ることができ、しかもそれは自分の今までの考えとは全く異なるものであったため勉強になりました／参考図書がとても参考になるものであり、ありがたかった／職員の研修会でネタにできそうなエッセンスをたくさん頂けました／一つの問題に討議できたこと／とても考えさせられることの多い授業内容で良かったです／授業内容にもあった様々な形態で学べたのがよかった

○改善点

『シティズンシップの教育思想』の討議に参加しにくかった／『シティズンシップの教育思想』は理論のための理論という感が否めない。あの著者こそソフィストであると感じた。次年度は『文化変容のなかの子どもたち』（こちらは分かりやすかった）か、他の本を使っていたらいい／テキストの講読について、内容を含め一考したい／文献講読の際のレポーターのレポートの仕方について私見が入りすぎてよくなかった／セミラティスとツリーについて、もう少し時間をとってほしかった／教室を変更しすぎて連絡が間違えているときがあるので困る／教室は変更しないでほしい。広々としたところでやりたいです

分析：

学生にとって、受講動機に即しながら同時に新しい思考の展開を促すものであったと思われる。テキストはアンケート項目 [1] の2で見える限り全体的にその意義は理解されたようだが、内容の精選・議論の進め方等、あらためて検討したい。なお、テキスト講読時は議論がしやすいように、学期途中であったが、ラウンドテーブル式の教室に変更した。ライブキャンパス（掲示・メール通知）・学内掲示・当日板書の4重で連絡を行い、連絡間違いは把握していないが、前授業時に連絡できるよう心がけたい。

5 本授業の成果と今後の課題について

学生の教育観や人間観に揺さぶりをかけること、つまり、学ぶこと、生きることの根底から教育をとらえなおすところを一つの目的としたが、学生の評価結果を見ると、それは、ある程度達成されたといえるのではないだろうか。実践のVTRを用意したり、体験ゲームを取り入れたりするなど、抽象的な理論展開にとどまることなく、具体的に内容を提示する工夫が生きたように思われる。

テキスト講読に疑問を残した受講生が4名あった。講義とテキストには厳密な一貫性があるのではなく、テキストを各論の一つとして読んでほしいという説明を授業内において簡単に行ったが、テキストの説明をさらに丁寧にする、講読内容の精選、レジュメ発表や議論の進め方の指導等をあわせて、今後の検討課題としたい。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

		評 価 実 施 日	平成 18年 7月 24 日
授業科目名	教育課題探究 (現代社会と総合学習)	学期・曜日・時限	前期 月曜日 5時限
授業区分	1. 教職基礎科目 2. 専門科目		
担当教員名	近森憲助、西村 宏、藤村裕一、太田直也	回答者数	52名

1 アンケート [1] の集計と分析について

5 まったくそう思う
4 かなりそう思う
3 どちらともいえない

2 あまりそう思わない
1 まったくそう思わない
無 未記入

番号	評 価 項 目	評 価 番 号					
		5	4	3	2	1	無
1	授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。	17	25	8	2		
2	授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。	13	18	18	3		
3	授業の内容には一貫性があった。	11	22	15	3	1	
4	教師の実践力の育成に役立つ内容であった。	7	26	17	1	1	
5	授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。	17	17	15	3		
6	授業をよく準備し、熱心に教えた。	27	22	3			
7	授業の進む速さは適切であった。	24	25	2		1	
8	受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。	13	21	16	1	1	
9	受講生に授業への参加（質問、発言、討議など）をよく促した。	12	22	14	4		
10	教科書や参考書の使い方は適切であった。	11	14	22	3	1	
11	視聴覚機器の使用は適切であった。	29	19	3	1		
12	配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。	23	22	6	1		
13	受講生に分かりやすく説明した。	23	24	4	1		
14	教員の声は聞き取りやすかった。	34	16	1	1		
15	板書の文字は見やすかった。	20	15	12	2	1	
16	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	13	25	12	2		
17	この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	17	26	7	1	1	

<分 析>

おおむね良好な結果と言える。特に項目17に対して大多数の受講生が5もしくは4を付けたことをその理由としても良いであろう。ほぼすべての項目で高い評価を得ているが、2及び10の二項目では3がやや多くなっている。本授業ではテキストを使用しなかったためと考えられるが、授業形態を考慮して、アンケートに際して評価項目からは除外しておくべきであった。4人での授業であるため、項目3での評価が低くなる可能性もあると予想していたが、担当教員の意図が理解され高評価を得ることができた。授業概要を詳細に説明してから授業を行ったことが功を奏したと考えられる。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分析>

主として以下の記述があった。

- ・ いのちや文化をいつもとは違う角度から考えることが出来るように。
- ・ 「総合的な学習」を実践するにあたっての基礎知識習得。
- ・ 面白そうだったから。
- ・ 総合学習の本質を知りたかった。

授業の副題が「現代社会と総合学習」であるためであろうが、「総合学習とは何か」、「総合的な学習の時間に何をやれば良いのか」という疑問をもって受講したという記述が大半であった。中には、個人的な知的好奇心を満たしたいという「大学院生らしい」記述もあった。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分析>

主として以下の記述があった。

- ・ 多角的に総合学習をとらえていたので、役立つ部分が多かった。
- ・ 自分の「引き出し」が増えた。
- ・ 実践にも役立つが、理論的にも役立った。
- ・ 情報メディアの活用法が有益で実践力に直結している。
- ・ 宇宙の話は現場でも役に立つ（実践力に繋がる）。
- ・ 文学作品との接し方が分かった（実践力に繋がる）。
- ・ 私は面白かったが、子どもたちにはどうだろうか。

「役立つ」という意見が多かったが、上記の7番目のようなものもいくつかあり、それらに対しては驚きを禁じえない。言うまでもなく、担当教員は大学院生のための授業をしたのであり、そのまま小学校に持ち込める話をしようという意図はなかった。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点、改善してほしい点を具体的にお書きください。また、この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

主として以下の記述があった。

- ・ 複数の教員の講義を受けることが出来て良かった。
- ・ もっと参加型にして欲しい。
- ・ もっと簡単な内容にして欲しい。
- ・ 授業の一貫性（ひとつひとつの授業は面白く、授業実践にも役立つものだった）。
- ・ パワーポイントの使用は良かった。
- ・ 授業で使ったパワーポイントのデータをネット上で見れるようにして欲しい。
- ・ レポートの課題についてもプリントを配って欲しい。

好意的な記述が大勢を占めた。「簡単な内容にして欲しい」という意見は担当教員にとっては意外であった。授業で使用したデータ等の公開を求める声もあったが、著作権等の問題もあり、要望に応えられる可能性は低いであろう。レポート課題のプリントは授業中に配布した。

5 本授業の成果と今後の課題について

本授業は、総合学習の特性を考慮して「いのち」「生きがい」という事柄についての多角的な考察を主眼におき、4人の担当者によって展開された。良好な評価結果から分かるように、担当教員の意図するところは十分に伝わったと言える。ただ、中には授業に一貫性がないと記した受講生もいたので、次年度以降はさらに授業内容の一貫性に言及する必要があるのかもしれない。アンケート [4] に見られるように、受講生からの要望の中には授業で取り上げたテーマの難解さを訴えるものもあった。さらに丁寧な解説が必要とされているのであろう。また受講生の授業参加（つまり発言機会）を求める声には応えてゆきたい。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

		評価実施日	平成 18年 7月 24日
授業科目名	地球惑星物質学特論	学期・曜日・時限	前期 月曜日 3時限
授業区分	1. 教職基礎科目 (2.) 専門科目		
担当教員名	○西村 宏, 村田 守, 香西 武	回答者数	9名

1 アンケート [1] の集計と分析について

[5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない]
 [2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 未記入]

番号	評 価 項 目	評 価 番 号					
		5	4	3	2	1	無
1	授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。	4	2	2			
2	授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。	2	3	2			1
3	授業の内容には一貫性があった。	6	2				
4	教師の実践力の育成に役立つ内容であった。	3	4	1			
5	授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。	2	4	2			
6	授業をよく準備し、熱心に教えた。	7		1			
7	授業の進む速さは適切であった。	4	3	1			
8	受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。	2	5	1			
9	受講生に授業への参加（質問、発言、討議など）をよく促した。	1	6	1			
10	教科書や参考書の使い方は適切であった。	2	3	2			1
11	視聴覚機器の使用は適切であった。	6	2				
12	配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。	6	2				
13	受講生に分かりやすく説明した。	5	1	2			
14	教員の声は聞き取りやすかった。	7	1				
15	板書の文字は見やすかった。	6	1	1			
16	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1	6	1			
17	この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	4	4				

<分 析> 大学院の授業ということもあって回答者数が9で、統計にかけるには少なすぎるものと思われるが、敢えて分析を行うと以下になる。

(1) 全体的に概ね評価5および4に集中し、評価点の平均値は4.38で高評価であるものと思われる。

(2) 特に3, 6, 11, 12, 14および15については、70%以上が5または4の評価を与えていることから、授業内容の一貫性や準備の度合いおよび内容の提示などに関しては、ほぼ授業者の意図が反映され且つ受講者に理解されているものと判断できる。

(3) これに対して2, 8, 9, 10および16についてはやや評価が低かった。2に関して、参考書は第1回目の授業時に紹介したが、この書物が英語版だったことにより積極的に利用されていなかったようである。8に関しては、授業者としては努力をしたつもりであったが、短い時間のうちにかんがりの内容を含ませる必要があったために、受講者の理解度把握がやや不足していたかもしれない。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分 析> 問題意識や興味関心については、コメントが2分されているように思われる。その1つは、「宇宙科学分野(天体)に関して興味があったから」とか「地球上の物質の起源を知りたかったから」とかいった専門的知識の吸収を旨としたもの、2つ目は「学校現場で児童・生徒に話をする際に役立つ内容を得るため」といった実践的というか対症療法的な内容を旨としたものである。

大学院の授業では、授業者としては当然のことながら前者に力点をおいて授業を行っているので、教育現場に即そのまま横流しできるような内容についての話はできる限り避けているのが実情である。後者については、市販のムック雑誌などを見ればよいことであり、このような限られた時間で専門的内容について話をするような授業に盛り込まれるべき内容でもないとの判断がある。またムックなどを見たときにその内容をそのまま鵜呑みで受け入れるのではなくそれを批判的に見るための基礎をつくるのが本授業であるとのスタンスをとっているため、後者のような希望があった院生にとってはやや不満が残る結果となったであろうことが推測できる。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析> いくつかの評価(回答)をそのまま示す。

「全体的には「自然系」ではないわたしにとって難しい内容であったが、先生の話をお聞きして、科学の面白さを感じた。授業で教えて(話して)いただいたエピソードや天文学についての知識はきっと現場で役立つものと思う。」

「授業の小話に役立つと思う。」

「どの分野でどのように指導すればよいのかを教えてくださいましたので。」

「教科書の内容は古いものなので、新しい研究について授業で話すことにより、生徒の興味を引き出せると思った。」

などが記されていた。

これから判断すると、本授業の受講者に限って言えば、概ね大学院の授業の何たるかをわきまえて、現職教員再教育といえども既知の事実の受け売りをするただ単なる研修ではないことに気づいている様子が窺える。

ただ、回答の中には、

「教科に対する知識を深めるための授業であったので、実践力の育成に役立つ内容であったかは不明」というものがあつた。実践力を養うためには基礎知識・応用力の積み重ねが重要且つ必須であることを再認識してほしいと感じる回答であった。「実践力=教育現場で直接即利用できる力」という構図から離れてほしいと感じた。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点、改善してほしい点を具体的にお書きください。また、この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

＜分析＞ 評価の中には次のようなものが見られた。

「パワーポイントを使っただけの授業は、見やすく楽しいものであった。」

「授業中に配布くださった資料が大変きれいでわかりやすかったです。日本語・英語の同時進行なので、英語の勉強にもなった(?)」

「先生の天文学についての話は興味・関心を強くいだかせるものであった。」

このように、ほとんどが好意的な反応であった。ただ、中には、

「化学式や数式はむずかしかった。自然系の授業なので仕方がないのでしょうか。」

といった評価(意見)が見られた。

これについては、自然科学の話をする際には、大学院の授業である以上、テレビ番組のように現象や結果だけを画像的にのみ扱うわけにはいかないこと、および数式や化学式を使わないとかえって理解をしにくくしてしまう授業になることなどを考慮して、必要最小限の数式、化学式(核反応式)などを含ませざるを得ないという宿命のようなものがある。しかし、今後に向けてこの指摘のように難しいと受講者が感じているかどうかを確かめ、数式を出すことはやむを得ないとしても、その内容を噛み砕いて十分に理解できる程度に説明することとしたいと考えている。

5 本授業の成果と今後の課題について

本アンケートの結果については、最初にも記したが、回答(評価)者数が極めて少数であることから、平均的なものとは捉えることができない。しかし、全般的に見ると、受講者はほぼ満足しているようであり、評価平均点4.38という結果から見ても、授業の内容については十分に理解されたものと判断できる。

本授業の筋書きについては毎年ほぼ同じ内容とし、学年ごとの相对比较が可能となるようにしているが、どうしても一定の時間内で情報を伝達すべき事項が多数あることなどに伴って、途中の時間節約のため、院生との議論または対話方式に重点をおいた授業展開が不可能に近いことは、各受講者からのレスポンスでも挙げられていることである。この点については、2単位の授業時間に取り入れる内容を今よりもさらに取捨選択し、一つの項目(章)に費やす時間に余裕をもたせる工夫をすることが必要となるかもしれない。しかし、あまり話題をトピックス化してしまうと、紙芝居を見ているような授業となり、地球惑星物質学の目指す全体像の把握が困難となることも心配される。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

		評価実施日	平成 18 年 7 月 20 日	
授業科目名	日本文学研究Ⅱ	学期・曜日・時限	前 期 木 曜 日 1 時 限	
授業区分	1. 教職基礎科目 ②. 専門科目			
担当教員名	赤松万里	回答者数	14 名	

1 アンケート [1] の集計と分析について

(5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない)
 (2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 --- 未記入)

番号	評 価 項 目	評 価 番 号					
		5	4	3	2	1	無
1	授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。	4	6	3	1		
2	授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。	7	4	3			
3	授業の内容には一貫性があった。	7	4	3			
4	教師の実践力の育成に役立つ内容であった。	5	5	4			
5	授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。	4	5	5			
6	授業をよく準備し、熱心に教えた。	7	5	2			
7	授業の進む速さは適切であった。	5	8	1			
8	受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。	6	8				
9	受講生に授業への参加（質問，発言，討議など）をよく促した。	10	4				
10	教科書や参考書の使い方は適切であった。	5	8	1			
11	視聴覚機器の使用は適切であった。	—	—	—	—	—	—
12	配布された資料・文献等は，授業内容を理解する上で役に立った。	5	8	1			
13	受講生に分かりやすく説明した。	8	6				
14	教員の声は聞き取りやすかった。	8	6				
15	板書の文字は見やすかった。	4	7	3			
16	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	6	6	2			
17	この授業は，自分自身にとって満足できるものであった。	7	7				

<分 析>

受講者の評価が高い項目としては「9 受講生に授業への参加（質問，発言，討議など）をよく促した。」5=10名、4=4名、「13 受講生に分かりやすく説明した。」5=8名、4=6名、「14 教員の声は聞き取りやすかった。」5=8名、4=6名、であり、評価が5または4であるので現在の授業の方法をほぼ受講生は満足しているものと考えられる。

一方評価の低い項目としては、「5 授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。」5=4名、4=5名、3=5名であるので、成績の評価方法についての、受講生に対する説明を、詳しく具体的に行う必要があると思われる。特に1名の受講生が「1 授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。」に対して評価2〈あまりそう思わない〉と記しているのので、この項目については早急に対策する必要があると考えられる。

他の項目についてはほぼ5、4、3、に評価が分布しており、中でも5、4にやや評価が分布しているが、どんな場合も、さらに各項目について工夫と改善が必要である。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分 析>

「これまでの学生生活、教職において、近世和歌はあまり触れられてこなかった分野でした。万葉、古今、新古今を学習し、何となく子規に移る。短歌の革新を最も思いながらその前を知らないというブラック・ホールの部分について学びたいと思い受講しました。これまで知らなかった近世和歌の世界を知ることが出来たように思います。」

「和歌に対する知識もほとんど無く、雅な世界とは縁遠い人間なので、自分の世界を広げたいと思いました。」

「教育現場ではあまり触れることのない近世和歌であり、第1時間目の講義では歌人の名前すら読むことが出来なかった。講義がすすむにつれ、和歌を味わう余裕もでき、近世和歌が中学校ではあまり取り上げられないことの原因について考えてみたいとも思いました」

「古典にたいして詳しくないため、少しでも勉強しようと受講した」

等の意見があり和歌文学について研究を深めたいという動機と、知識をもっと必要とするという受講生の状況があることが分かる。さらに、古典に対して苦手意識をいっていた、もっと和歌を知りたいという受講生がかなりいるので、そのような受講生と、専門的にかんりの程度知識のある受講生とがお互いに刺激しあいながら授業を進めることが出来たように思われる。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

「即教室で使える、そのまま生かせる知識を実践力と呼ぶなら、少し違う気もします。しかし興味を持って新しい事を学ぶ経験や、これまでとは違った視点を与えて頂いたことは、自分の授業を組み立てて行く上で、新しい力となるとおもいます。長く教職にいと一定のパターンができてしまうので。」

「和歌に対する自分が持っていたイメージが広がり、なるほどこんな考え方をすればいいのか、と思いました。」

「近世和歌に限らず、形式にあまり縛られず歌を味わう楽しみを感じることができ、これを実践に生かしていきたいと思う」

等の意見があり、受講生においておおむね和歌に対する硬直的な先入観などは無くすることが出来たのではないだろうか、と思われる、また基礎的な知識もかんりの程度を、授業中に言及することが出来た。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点、改善してほしい点を具体的にお書きください。また、この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

「先生の話して下さる江戸時代歌人のエピソードを大変興味深くきかせて頂きました。一つのことから次々と話題を広げて下さり、また古典の文献を紹介して下さいだったので、難しい和歌の流れも、すんなりと頭に入ってきたように思います。」

「和歌の流れ、時代背景などがわかりやすかったです。時間があれば人物エピソードなどもっと紹介してもらえたら親しみがぐっと増したと思います。」

「楽しい雰囲気のもとで進められたので、自由に間違いをおそれず発言出来て良かったです」

等の意見があり、専門的な中にもエピソード的な話を織り込み、和歌史の展開の中で、文学史を知るといような工夫が効果があったと思われる。

5 本授業の成果と今後の課題について

[2] 受講の問題意識や期待については、和歌文学そのものについての知識をつけることをめざしたという受講生が多い。またさらに踏み込んで近世和歌という江戸時代の和歌についての知識を得たかったという受講生も数名いる。和歌は現職教員の受講生にとっては、興味があり授業に必要な領域であると認識しつつも、改めて学ぶ機会が少なく、本授業によって学べたという意見も多かった。

[3] 実践力育成に役立つかという問いについては、知識がそのまま使えるというよりも、和歌文学に対する概念を構築し直せたことや、難しいという先入観をなくすことが出来たという意見が多かった。和歌を身近な存在として研究できたことが、良かったようである。

[4] 和歌作品を読解するとともに、時代背景や文学史の展開、作者の経歴や人物エピソードなど様々なアプローチが受講生に幅広い知識をつけるとともに、興味をかき立てるものであり、授業の効果が高まると考える。

また一方的に講義するのではなく、受講生に考えるさせる事を心がけ、教室が質問や疑問を発言し易くなるようにしたことは有効であったと思われる。基礎知識が不十分なままで一方的に講義することは、受講生には退屈な思いをさせるだけである。受講生には得意不得意の領域があるのだから、知識の足りない部分は随時補うことにより、いい授業が出来たと思う。常に受講者の状態を確認することは、重要であると思われる。

以上の点に関して、今後工夫をさらに凝らして、受講生のニーズに応じながら、研究方法を提示しつつ“興味深く知識のつく授業”を展開出来るようにしたいと考える。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

		評価実施日	平成 19 年 1 月 24 日		
授業科目名	言語教育基礎論 I	学期・曜日・時限	後 期 水 曜 日 2 時 限		
授業区分	1. 教職基礎科目 ②. 専門科目				
担当教員名	原 卓志 ・ 茂木 俊伸		回答者数	9 名	

1 アンケート [1] の集計と分析について

(5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない)
 (2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 --- 未記入)

番号	評 価 項 目	評 価 番 号					
		5	4	3	2	1	無
1	授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。	3	6				
2	授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。	1	7	1			
3	授業の内容には一貫性があった。	5	3	1			
4	教師の実践力の育成に役立つ内容であった。	3	3	3			
5	授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。	3	4	2			
6	授業をよく準備し、熱心に教えた。	7	2				
7	授業の進む速さは適切であった。	5	4				
8	受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。	2	5	2			
9	受講生に授業への参加（質問、発言、討議など）をよく促した。	5	2	2			
10	教科書や参考書の使い方は適切であった。	3	6				
11	視聴覚機器の使用は適切であった。	4	5				
12	配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。	6	3				
13	受講生に分かりやすく説明した。	5	4				
14	教員の声は聞き取りやすかった。	6	3				
15	板書の文字は見やすかった。	3	4	2			
16	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	6	1			
17	この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	2	7				

<分 析>

全項目の平均は 4.6 であり、かなり高い評価を得た。その中で、評価に幅が見られる項目は、4・5・8・9・15 である。

項目 4・5 については、初回の説明をより丁寧に行う必要がある（項目 4 についてはアンケート [3] の分析で後述）。項目 8・9 に関しては、ディスカッションの方法とも関連するため、さらに検討したい。項目 15 は反省材料である。

なお、今年度の評価は、昨年度の 3.6 より改善している。昨年度の評価をふまえ、事前に担当教員間で授業改善に関する打ち合わせを行った成果だと思われるが、新たな問題点も出ている。運営・評価の方法を含め、あらためて検討を加えたい。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分 析>

本授業が、英語学・英語科教育担当教員による言語教育基礎論Ⅱと合同で実施されることから、英語・英語教育への興味や、日本語を母語としない人に対する日本語教育への関心から受講したという回答の他、つぎのような理由が述べられた。

- 英語教育に関しては、全くの無知なので、現在どのような問題があるのか、対応策があるのかなどに関心があった。また、外国人児童支援の具体内容も知りたかった。
- 国語科・英語科の授業連携について。
- 英語に興味があったことと、日本語は母語であるにもかかわらず難しいと感じることがあったため。言葉を両方の視点から見ることができたらと思い受講した。
- 言語を教える上でどのような問題点や課題があるのかを見つけ、考え、理解しようと思った。
- 言語教育の問題点を知り、考えること。
- 教育現場の実践で言語習得に必要な理論について知りたいと思い受講した。
- 文法などに対しての基礎力を身に付けたいと考えていました。
- これまでに関わる機会の無かった言語教育について考える。

この授業が言語教育のハウツー物ではないことをシラバスに記し、また授業初日のオリエンテーションでも、本授業の目的について丁寧に説明した結果、過去の授業アンケートに見られた、「どのように言語の教育をするのかについて知りたい」といった期待を持って受講しようとする者はいなくなった。しかし、言語そのものへの関心から受講しようとした者は少ない。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

「実践力」をどのように捉えるかによって、回答は異なっているように思われる。「実践力」をハウツーと考えるならば、この授業は「実践力」からは遠いものとなる。

- 現場に出たことがないので、先生方や他の院生が発表されたことを現場レベルで考えられなかった。実践力というより、どちらかといえば、知識が身に付いたという感じであった。外国人児童の支援に関しては、近年特に問題となっており、これから私も直面しうることなので、問題点や対応策が明確になり勉強になった。
- 実際の授業力を身に付けるには、ピンポイントに教材を絞り、それについて考える…などがいいのではと思いました。
- 私の中では「教師の実践力」というよりも、自分の中にあった先入観であったり固定観念を見出せたことが大きかったため。

以上の回答を述べた受講生は、評価項目4の評価を3とした者である。これ以外の受講生は次のように述べている。

- 具体的な問題が示されていたから。
- 教師としてのあり方や、授業での方法のてがかりとなった。
- 外国人生徒が増加している現状など、最新の情報を知ることができ、現場で自分が問題に直面した場合、どのように対応すればよいか手だてを知ることができた。
- 国語や英語における文法の本質的な部分にまで言及していただいたからです。
- 言語教育という側面から、母語・外国語教育について見解を新たに持つことができた。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点、改善してほしい点を具体的にお書きください。また、この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分析>

良かった点としては、次のような回答がある。

- ディスカッション方式なので、いろいろな意見が聞けて良かった。
- 現在の教育現場においての問題点について学ぶことができ、とてもよかった。
- 国語コースの人間が、英語教育について考えるのは、非常に難しかったが、勉強になった。
- 文法のおもしろさについて教えていただきました。

改善すべき点については、次のような意見があった。

- レポート提出の時期が早かったため、調べる時間があまり取れなかった。
- ディスカッション時に思ったこと。
 - ・疑問点や意見が出て終わりになってしまっていた。
 - ・いくつかの討議の柱を決め、それについて話し合えば面白かったのでは？

ディスカッションは、指摘されるように一つの問題について深く掘り下げるといよりも、関連する様々な問題の存在を知るとい方向へ拡散し流れていった。このようなディスカッションにも意味があると思う。しかし、問題によっては、深く掘り下げよう議論も必要であろう。ただし、この場合、ディスカッション参加者が、それなりの知識を持っていることが前提となる。この点をどのように克服して、実り多いディスカッションにしていくかが課題である。

5 本授業の成果と今後の課題について

全体として高い評価を受けることができたことは良かった。が、手放しで喜んでいるわけにはいかないような不安がある。

このアンケートで興味深かったことは、受講生の多くが、言語の「教育」について述べている点であり、「言語」そのものについて述べるのが少ない点である。また、「言語」そのものに対する興味や関心を述べるのが少ない点である。「言語」そのものの理解を「教育」に結び付けようとした記述の少ない点である。

受講生に課したレポート発表（プレゼンテーション）では、オノマトペや文法など、言語そのものをテーマとして取り扱ったものが多かったにもかかわらず、このアンケートでは「教育」に傾いている。受講生のなかで、「言語」そのものに対する興味や関心、あるいは「言語」を分析するということが、はたして「言語教育」に結び付いているのかどうか、分析者としては不安である。昨年度のアンケートの回答が「言語（学）」の基礎的内容に関する内容に偏ったのとは対照的であり、受講者によってもゆれが存在するようにも思われる。

今後は、「言語理解」と「言語教育」との有機的な関連付けを図るための具体的な方策を模索しつつ、本授業を展開していかなければならない。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

		評価実施日	平成 18年 7 月 28 日		
授業科目名	日本文学研究 I	学期・曜日・時限	前 期 金 曜 日 1 時 限		
授業区分	1. 教職基礎科目 ② 専門科目				
担当教員名	松原 一義	回答者数	14 名		

1 アンケート [1] の集計と分析について

(5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない)
 (2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 --- 未記入)

番号	評 価 項 目	評 価 番 号					
		5	4	3	2	1	無
1	授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。	7	5	2			
2	授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。	3	9	2			
3	授業の内容には一貫性があった。	11	3				
4	教師の実践力の育成に役立つ内容であった。	7	6	1			
5	授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。	7	5	2			
6	授業をよく準備し、熱心に教えた。	6	7	1			
7	授業の進む速さは適切であった。	7	6		1		
8	受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。	5	7	2			
9	受講生に授業への参加（質問，発言，討議など）をよく促した。	11	3				
10	教科書や参考書の使い方は適切であった。	4	7	3			
11							
12	配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。	9	5				
13	受講生に分かりやすく説明した。	7	6	1			
14	教員の声は聞き取りやすかった。	11	3				
15	板書の文字は見やすかった。	2	8	1	2	1	
16	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	7	5	2			
17	この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	8	5	1			

<分 析>

授業のテキスト、参考書について、工夫しなければならぬと思う。また、板書の工夫も必要である。この評価には、受講生の様々な思いがこもっており、それが授業者に伝わってきた。改めることができること、できないことを仕分けしながら、新たな授業の構築に向けて努力したい。板書ノートなどもできればよいのだが。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分 析>

中学校教科書で扱われる枕草子について、歴史的背景も併せて勉強したいと思った。

古典が苦手なので、力をつけたいと思いました。

授業で使える知識を得たいと思った。

自分の知らない世界を広げたい、いろいろな考えに触れたいと思いました。

古典に触れる機会があまりないので、この授業で少しでも取り組もうと思った。

読みを重視した授業を意識した。

古典について、理解が足りないと思ったので、古典についての興味を喚起し、力をつけたいと思った。

枕草子の特質について学びたいと思いました。その点、シラバスにあった章段は、枕草子の特質を理解する上で代表的な段であり、興味をもちました。

教材として取り上げられることの多い枕草子であるが、その実、全体的に読んだことがなかった。平安文学は様々な時代知識や作品知識が有機的に結びついて、初めて深い読みが可能になる。そこで、枕草子を様々な資料と結びつけながら読むということを前提にして、この授業を受講した。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

様々な文献をあたり、1つの教材を深く読み解く大切さを学ぶことができた。

教材研究する視点を学ばせていただきました。こういう機会だからこそかもしれません、歴史的背景についても学ぶことができ、古典の奥深さを知ることができました。

小学校においては直接古典を教えないのだが、自分自身の教養として、また興味関心の範囲を広げるという点で、役立った。

現場で活かすことのできる授業でした。枕草子のバックボーンを知る上でもよかったです。

読みの解釈や物語世界観、当時の時代的背景もつかむことができたから、実践力の育成に役立った。

教科書に書かれていることだけを教えるのではなく、裏にある話などを子供たちに話すと、より興味をもってくれるのではないかと思う。

いろいろなエピソードを紹介してあげるヒントがありました。

枕草子の世界をよく理解することができた。

調べることや読むということに重点をおいた内容が、実践力の育成になった。

古典の苦手意識を和らげ、指導の仕方を考える上でも役立つものであったと思う。

教師は教材を深く読み込まなければ、その教材を魅力的に教えることができない。そういった意味で本授業は実践力の根底の力を養うものであった。しかし、今回扱った章段がそのまま実践に実用できるかといえば、自身で十分に精選する必用がある。その方法まで踏み込んだ授業ではなかったため、この評価とした。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点、改善してほしい点を具体的にお書きください。また、この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

感想がおもしろかった。調べる楽しさを味わえた。

楽しく勉強できた。

ともかく自分の知らないことばかりだったのでよかった。視覚的な資料がもう少しあれば、理解の助けになったかなと思います。

講義形式ではなく、自分たちで調べてまとめることによって、より深く枕草子を読むことができてよかった。

演習の形式で一人一人が授業に主体的に参加することができてよかった。オリエンテーションの際、枕草子の時代的背景や意義などについて、もう少し詳しくお話しいただいたらよいと思う。

有益な他の人の感想や意見はコピーして配布してもらえるとありがたいと思う。

中・高の教科書教材のおもしろさを味わえるような機会となるといい。

以上のような感想があったが、教科書教材と関連づけた教材選択をすること、有益な感想の1部は配布したが、その回数を増やすことなどをこころがけたいと思う。

5 本授業の成果と今後の課題について

「今回扱った章段がそのまま実践に活用できるかといえば、自身で十分に精選する必要がある。その方法まで踏み込んだ授業ではなかったので、この評価とした」という評価があった。当人の評価は全体としての満足度を5としており、やや違和感があるが、授業者としては、その方法にまで踏み込んだ授業を考えないわけではない。例えば、その教材で何を教えるのかまでは踏み込んでも、それをいかに教えるかということになると、それは古典教育そのものになってくる。そこまで踏み込んだ授業をすることが実践力の育成に直結することは分かるが、それを控えていた向きがないでもない。来年度は、思い切ってそういうところにまで踏み込んだ授業を試みてみたい。

その他、教材選択において、小学校・中学校に適した教材の選択をもする必要がある。

また、資料配付をもさらに有効なものにしたい。

受講生が様々なレベルであり、それを包括した形での授業形成の難しさも実感している。

特に、この授業のための教科書の必要性が感じられた。できれば、それを作成して、今後に備えたい。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

		評価実施日	平成 19 年 2 月 23 日		
授業科目名	日本文学演習 I	学期・曜日・時限	後 期 金 曜 日 1 時 限		
授業区分	1. 教職基礎科目 <input type="checkbox"/> 2. 専門科目 <input checked="" type="checkbox"/>				
担当教員名	松 原 一 義	回答者数	1 2 名		

1 アンケート [1] の集計と分析について

(5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない)
 (2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 --- 未記入)

番号	評 価 項 目	評 価 番 号					
		5	4	3	2	1	無
1	授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。	8	3	1			
2	授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。	6	5	1			
3	授業の内容には一貫性があった。	7	5				
4	教師の実践力の育成に役立つ内容であった。	6	6				
5	授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。	5	5	2			
6	授業をよく準備し、熱心に教えた。	5	5	2			
7	授業の進む速さは適切であった。	8	3	1			
8	受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。	6	6				
9	受講生に授業への参加（質問、発言、討議など）をよく促した。	8	3	1			
10	教科書や参考書の使い方は適切であった。	6	6				
11	視聴覚機器の使用は適切であった。						
12	配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。	7	5				
13	受講生に分かりやすく説明した。	8	4				
14	教員の声は聞き取りやすかった。	8	4				
15	板書の文字は見やすかった。	3	3	6			
16	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5	6	1			
17	この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	8	4				

<分 析>

全体として満足度は、5が8名、4が4名であり、教師の実践力の項も5が6名、4が6名となっている。

ただ、板書の文字については、3が6名あり、突出している。授業開始時や成績評価についても3が2名おり、熱心に教えたというところにも、3が2名いる。

小学校教育を考えると、反省しなければならぬところである。板書計画を今後の課題とし、板書の文字を読みやすくするための方策が必要という分析ができる。その他、成績評価の方法など、授業の区切りをきちんとする必要を認めた。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分 析>

代表的な古典文学について学び、自身の授業に活かしたい。多くの人の考え方を聞き、作品に対する理解を深めたい。

徒然草、兼好のものの見方と考え方を考えること。

徒然草は日本の代表的古典であり、中学校の古典入門で扱われる教材でもある。深く読み、教科書以外の教材資料を開発したいと考えて授業にのぞんだ。

徒然草・方丈記・平家物語は、中学、高校で学習するが、文学としてよりいっそう読み味わいたいと思った。

実践の現場で教えるという立場ではなく、まずは調べる、学ぶという立場で徒然草を学びたいと考えた。

兼好の生きた時代、考え方について、もう少し知りたいと考えていたので、現在の考え方、昔の人の考え方の対比もおもしろいだろうと思った。

古典もあまり読んだことがないので、古い書物に学ぼうと思って参加した。

現代とは異なる文化背景を学ぼうと思いました。

徒然草に対する理解を深め、自分で発表する際には、資料の集め方、まとめ方などについて学びたいと考えた。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

歴史的背景、ことばの解釈、兼好の人物観など、大いに勉強になりました。目から鱗の連続でした。

多くの人の解釈をうかがい、指導書や参考書だけからは学べない様々な考え方を知ることができ、見識が広がった。

作品の鑑賞、解釈の仕方について、よく理解できたから。

今回の授業で、徒然草などを文学として味わうことで、現場で生徒により深く教えることができると思う。

詳しく調べ、学ぶことで、自らの中に、「教える」土台が築かれたと思う。

小学校では直接に教える教材ではないが、何かの折にエピソードとして話すことができるのではないか。

直接的に役に立つとは思わないが、自分の教養という点では、小学校の教師なので、「古典」は大いに役立った。

解釈を深めることができた。

受講者のいろいろな感想を知ることができ、受け取る幅が広がったように思う。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点、改善してほしい点を具体的にお書きください。また、この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

自分一人ではどうも調べることのできない貴重な資料の数々を入手できた。

挿絵や先生が出された資料は自分の知らない部分がたくさんあったので、とても興味深かった。

先生がわたしたちに合わせてわかりやすく教えてくださったのがよかった。みんなとのディスカッションが面白かった。

ありがとうございました。授業実践で活かしたいと思います。

おもしろい授業でした。

おもしろかったです。

5 本授業の成果と今後の課題について

全体として満足度は、5が8名、4が4名であり、どちらかといえばいい評価と考えられる。教師の実践力の項も比較的好評であり、まずは授業として成功であったといえよう。

しかしながら、板書の文字が読みにくかったという批判が多く、小学校教育を考えると、反省しなければならぬところである。板書計画を今後の課題とし、板書の文字を読みやすくするための方策を考えたい。その他、成績評価の方法など、授業の区切りをきちんとする必要性を認めた。

また、視聴覚機器は評価の対象とはしていないが、今後、絵画資料だけでなく、機器類を取り入れた授業も考案してみたい。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

		評価実施日	平成 19 年 02 月 21 日		
授業科目名	日本語教育学演習	学期・曜日・時限	後 期 火 曜 日 3 時 限		
授業区分	1. 教職基礎科目 ○ 2. 専門科目				
担当教員名	小野由美子	回答者数	4 名		

1 アンケート [1] の集計と分析について

(5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない)
 (2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 --- 未記入)

番号	評 価 項 目	評 価 番 号					
		5	4	3	2	1	無
1	授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。	1	2	1			
2	授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。	2	1	1			
3	授業の内容には一貫性があった。	2	2				
4	教師の実践力の育成に役立つ内容であった。	2	1	1			
5	授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。	1	1	2			
6	授業をよく準備し、熱心に教えた。	2	2				
7	授業の進む速さは適切であった。	1	1	1	1		
8	受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。	2	1		1		
9	受講生に授業への参加（質問，発言，討議など）をよく促した。	3		1			
10	教科書や参考書の使い方は適切であった。	2	2				
11	視聴覚機器の使用は適切であった。	3	1				
12	配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。	3	1				
13	受講生に分かりやすく説明した。	3	1				
14	教員の声は聞き取りやすかった。	3	1				
15	板書の文字は見やすかった。	1	2	1			
16	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1	3				
17	この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	2	1	1			

<分 析>

全体の平均値は 4.3 で、5 が 34、4 が 23、3 が 9、2 が 2 であった。受講者おおむね高く評価している。

個々の番号で評価が高かったものは、番号 11～14 で、平均 4.75 である。一方、番号 7 は平均 3.5 と最も低い。番号 11～14 は授業中の進行について、番号 7 は授業全体の進度について問うていることから、授業中の進行については評価が高いが、授業全体の進度については評価が割れていることが分かる。

また、番号 5 は平均 3.75 で番号 7 と同様平均が 4 を下回った。成績評価の方法についてわかりにくかった受講者がいたことが分かる。

個別に見ると、番号 7・8 で 2 と評価している受講者は同一で、番号 17 で 3 と評価している受講生である。授業全体の進め方についてやや不満に思うところが、全体の評価に影響を与えたと考えられる。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分析>

《個々の回答》

- ・日本語教育学の勉強
- ・日本語を指導する技術や知識を身につけるため
- ・「教授法」的な内容を思い描いていたが、「異文化間理解」的な内容であったので、受講前の問題意識としては若干のずれがあった。

シラバスで案内されている内容にそった受講意識である。

実際の授業内容については、受講前にイメージしていたものとずれを感じた受講生がいた。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分析>

《個々の回答》

- ・教師と学習者の間の様々なコミュニケーション問題の解決方法を教えてくださいました。
- ・教師が自分の経験を生かして、わかりやすく授業をすすめる。
- ・今回学んだ内容が直接実践に役立つわけではないが、根底で知っておく（身につけておく）必要があると思う。
- ・「実践力の育成」＝「具体性」ととらえると、授業時には基本的な考えや、教師の持つべき意識については多く学べたが、「テ形の習熟はこうすればよい」←（そのものズバリはないのは承知の上であるが・・・）という具体性が知りたかった。

日本語教師として必要な態度・意識については、受講者全員に理解された。

評価が分かれた要因は「実践力」という言葉の解釈によると考えられる。「実践力」を教師としての基礎基盤と理解した受講者は評価が高かった。一方、「実践力」を具体的な即効性のある知識・技能と理解した受講者は評価が3となっていた。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点，改善してほしい点を具体的にお書きください。また，この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

《個々の回答》

- ・先生が色々具体例を出してくれてとても良かったと思う。
- ・先生の要求で Power point を使えるようになった。
- ・やはり短期集中よりも、少しずつでも長いスパンで行う方が、その問題についての意識が継続でき、より深まると感じる。

授業内容についてと発表手段の習得について、良かった点としてあがっている。

最後の回答は、1の番号7・8で評価を2とした受講生のものである。授業の進め方全体について教授者との考えの不一致が見られる。

5 本授業の成果と今後の課題について

授業の成果

コミュニケーション能力や文化間適応など日本語教師として基盤になる内容について、教材教具の使い方を工夫して受講者の興味を高め、分かりやすく伝えた。また、発表技術の習得も促しており、幅広い授業が行えている。受講生の満足度もおおむね高く、授業の目的は達成されたと考えられる。

今後の課題

成績評価の方法について、さらに具体的に提示し説明することが望まれる。

授業内容について、授業当初に教授者と受講生との共通理解を図ることが望まれる。また、即効性のある技能・知識を知りたいという要望があることも留意されたい。

授業の進行については、受講生に周知の上、理解を求めるようにされたい。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

		評価実施日	平成 18 年 7 月 25 日		
授業科目名	国語科授業研究	学期・曜日・時限	前 期 火 曜 日 2 時 限		
授業区分	1. 教職基礎科目 ②. 専門科目				
担当教員名	幾 田 伸 司	回答者数	16 名		

1 アンケート [1] の集計と分析について

(5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない)
 (2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 --- 未記入)

番号	評 価 項 目	評 価 番 号					
		5	4	3	2	1	無
1	授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。	11	5				
2	授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。	10	5		1		
3	授業の内容には一貫性があった。	12	3	1			
4	教師の実践力の育成に役立つ内容であった。	5	9	2			
5	授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。	6	8	2			
6	授業をよく準備し、熱心に教えた。	14	1	1			
7	授業の進む速さは適切であった。	9	6	1			
8	受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。	8	7	1			
9	受講生に授業への参加（質問、発言、討議など）をよく促した。	4	8	3	1		
10	教科書や参考書の使い方は適切であった。	9	4	2	1		
11	視聴覚機器の使用は適切であった。		1	7	1		7
12	配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。	13	2	1			
13	受講生に分かりやすく説明した。	12	4				
14	教員の声は聞き取りやすかった。	14	2				
15	板書の文字は見やすかった。	10	3	2	1		
16	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	8	8				
17	この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	8	7	1			

<分 析>

今期の授業は、国語教育史における種々の論争を観点として戦後国語教育における思想と課題を鳥瞰するという内容で構成した。結果として、おおむね肯定的に評価されたようである。

項目⑦「授業の進度」については、おおむね適切であったと評価されているが、少し早すぎると感じた受講生もいたのではないかと。シラバス執筆の段階で内容を欲張りすぎたため、授業が窮屈になった感がある。次回以降、内容の精選を図りたい。

項目⑧については、受講生の知識や理解度を十分に把握しきれないまま、授業を進めてしまった部分もあった。そのため、説明が前後したり、後から付け足したりして、わかりにくかった面もあったのではないと思う。受講生はおおむね肯定的に受け入れてくれてはいるが、授業者としては反省が残った点である。理解度の確認とともに、既有知識の把握を十全に行う必要を感じる。

項目⑨「受講生の参加を促した」は、最も評価の低い項目であった。受講生の討議よりも、授業者の講義を中心に授業を進めた結果であろう。ただし、もっと質問や発言を求める必要はあったと思う。

項目⑩「板書の文字」について、自身で上手ではないと自覚している。できるだけ丁寧に書くように心がけたい。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが、具体的な書きください。

<分 析>

現職の受講生は、「自身の実践を振り返るため」「自分の立つ位置を確かめるため」「現代の国語教育実践を考えるため」など、歴史に鑑みて現代を見る観点を持つという問題意識を持って受講してくれたようである。また、ストレートマスターの受講生は「これから国語教育を学ぶ上で知っておくべきことだと考え」て受講している。

前述のように、本授業では国語教育史を扱っている。授業者の目的意識は、歴史を学ぶとともに、歴史から学んで現代を見る視点を得る一助にするという点にあった。受講生の記述からは、授業者のそうした意図を汲んでもらえたようである。ありがたいと思う。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

本授業では国語教育史における論争を取り上げたので、実践力の育成に直結するものではないと思う。実際、「論争を中心に考察してきたため、実際の実践力をつけるという意味ではどうか」と指摘してくれたコメントもあった。また、「ストレートマスターの方には少し難度が高すぎるのでは」という意見ももらった。「実践力の育成というより、実践に向かうための基礎教養」だという指摘は、その通りであろう。一方で、歴史の流れを学ぶことは「国語教育の”今”を見つめる上で」欠かせないというコメントもある。基礎教養として、歴史を学ぶとともに歴史から学ぶという位置づけであったのだと感じる。

そのうえで、大学院の授業として歴史を扱うことは必要であると考え。受講生のコメントでは、「今まで認識していなかったことを知識として身につけることで、今後現場での意識の持ち方が大きく変わってくると思う」、「国語教育の不易の部分と課題が明確になり、多くの理論を学んでいきたいという意欲につながった」といったものがあった。過去の問題点を見ることは現代を見るために意味があることだと、受講生にはとらえてもらえたようである。直接的な実践力ではないが、そうしたことを感じ考えてもらえたのであれば、歴史を取り上げることに意味があったのではないか。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点、改善してほしい点を具体的にお書きください。また、この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

「難易度が高い」「授業についていくのに必死だった」といった意見をもらった。前述したように、受講生の共通理解があると思って話し始めた事柄が、全員が知っていることではないと途中でわかり、改めて説明し直すということもあった。特に理論や術語などは、もっと具体的に説明していくことが必要だと改めて感じる。それと同時に、自身の理解の浅さも痛感した。

また、「テーマが多すぎたのでは」という意見ももらった。これは、前述の難しかったということとも関連していると思われる。初めてということもあってペースがわからなかったため、シラバスの段階で少し欲張りすぎ、進度が速くなりすぎた感は否めない。個々の論争を丁寧に見ていこうと思えば、もう少し時間をとって論争者の理論的背景にまで踏み込む必要があるが、論争者の思想や理論といった面については表層的に触れただけにとどまってしまったように思う。今後の課題としたい。

5 本授業の成果と今後の課題について

本授業は、直接実践力向上に資するという面から見れば若干疑問視される部分もある。しかし、受講生の興味・関心に照らし、自身や現代の授業実践に対する見方・考え方を培うという面では、有意義なものとしてとらえてもらえたようである。

課題としてあげられるのは、まず、内容の精選を図ることである。今期は、取り上げたテーマが多すぎたため、結果的に進度が速くなり、難度も上がってしまうということになった。また、配付資料が多すぎて、授業内で十分に消化しきれなかったという感じも、授業者としてはある。配付資料については、一応かなり肯定的にとらえてもらえているが、資料の精選は必要であったように思う。

第二に、受講生の参加度を高める工夫をすることである。今期は内容の多さに追われて、十分に受講生の参加を保障することができなかったという反省がある。今後、内容の精選を図ることによって時間的余裕ができれば、もっと受講生の討議や意見を促すことが可能になると思われる。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

		評 価 実 施 日	平成 18 年 7 月 25 日		
授業科目名	現代日本語研究	学期・曜日・時限	前期	火曜日	1 時限
授業区分	1. 教職基礎科目 ②. 専門科目				
担当教員名	茂木 俊伸	回答者数	17 名		

1 アンケート [1] の集計と分析について

〔 5 まったくそう思う
4 かなりそう思う
3 どちらともいえない〕
2 あまりそう思わない
1 まったくそう思わない
無 未記入

番号	評 価 項 目	評 価 番 号					
		5	4	3	2	1	無
1	授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。	10	6	1			
2	授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。	13	2	2			
3	授業の内容には一貫性があった。	14	3				
4	教師の実践力の育成に役立つ内容であった。	9	8				
5	授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。	9	7	1			
6	授業をよく準備し、熱心に教えた。	15	2				
7	授業の進む速さは適切であった。	11	6				
8	受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。	11	6				
9	受講生に授業への参加（質問、発言、討議など）をよく促した。	9	6	1	1		
10	教科書や参考書の使い方は適切であった。	11	5	1			
11	視聴覚機器の使用は適切であった。	-	-	-	-	-	-
12	配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。	15	2				
13	受講生に分かりやすく説明した。	13	4				
14	教員の声は聞き取りやすかった。	10	6	1			
15	板書の文字は見やすかった。	8	9				
16	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	6	11				
17	この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	12	5				

<分 析>

この授業では、音声・語彙・文法などの現代日本語に関する諸問題を概観・検討しながら、国語学習指導において必要となる国語学（日本語学）の知識を再構成することを主な目標とし、講義を行った。受講者数は 18 名（聴講生含む）であった。

授業評価の全体の平均値は 4.61 である。最も平均値が高かったのは項目 6 と 12（ともに 4.88）であり、教員が準備した資料に基づいて講義するという形式が評価されたと考えられる。一方、最も平均値が低かったのは項目 9 と 16（ともに 4.35）であり、教員・受講者間の双方向性に課題があることを示している。また、項目 15 に関しても、改善の余地が残されている。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分 析>

回答者 17 名のうち、15 名の記入があった。これらの記述から、受講の動機は概ね 3 種類に分けられることが分かる。それぞれの具体例と人数（重複を含む）を示す。

(1) 教育現場への還元 (4名) :

- ・ 読む・書く・話す・聞くという言語活動が中心になりがちな国語の授業ですが、言語としての国語の力を子どもたちにつけるための手がかりを見つけないと思いません。

(2) 国語学の知識の獲得・復習 (2名) :

- ・ 一度大学で習っている内容でもあったので、復習の意味が大きかった。

(3) 日本語そのものへの関心 (11名) :

- ・ 日本語の特徴、現在問題とされている言葉遣いなどについて知りたいと思った。

これは、受講者が、国語教育、日本語教育、現職教員、留学生といった、多様な専門や背景を持っているためであると考えられる。しかし、身近な現象から日本語の面白さを味わい、それを分析する知識・能力を身に付けることは、いずれの立場にも望まれる。このため、敢えて大学院で「概論」的な講義を試みたわけであるが、項目 17 の平均値が 4.71 であったことから、この授業のねらいと方向性は、評価されたものと考えている。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

項目 4 の評価の平均値は 4.53 である。回答者 17 名のうち、15 名の記入があった。具体例としては、次のようなものがあった。

- ・ 教室で教えていても、自分自身があいまいな点がよくあったが、明らかになったことが多くあった。
- ・ 実践力というか、平素の授業を盛り上げるためのトピックを多く得た。
- ・ 参考書等の紹介が適切で、かつ最新のものを含んでおり、大変ありがたかった。
- ・ 毎回の講義で提示された資料や内容がとても分かりやすく、興味をひきつけるものであった。また、紋切り型の「これが正しい」「これが間違い」という日本語の見方ではなく、ひとつのことを考える際の姿勢も学ぶことができた。

コメントで指摘されている資料配布（毎回）や参考図書の紹介（適宜）は、単に講義を聞いて終わるのではなく、その先の活用材料としてほしい、という意図の下に行ったものである。これが実際の教育実践にどのように繋がるかは未知数であるが、一定の評価を得たと考えたい。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点、改善してほしい点を具体的にお書きください。また、この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

回答者 17 名のうち、11 名の記入があった。これらはいずれも、「良かった点」に関する記述と考えられるものである。具体例を次に挙げる。

- ・ 現状でよいと思います。
- ・ 教える内容をおもしろく工夫されていてよかったです。
- ・ 資料の準備がいつもていねい。
- ・ 講義プリントが分かりやすく、参考文献が明記されており非常によかったです。また、実際の言葉の活用例を挙げて授業を進めていたため、理解しやすかった。
- ・ 先生の普段からの探究心が生徒の学ぶ意欲をひきだすのだと改めて勉強になりました。

この欄において、具体的な「改善すべき点」は特に示されなかったが、評価された点は維持しつつ、（先の集計の分析でも述べた通り）一方的な講義にならないような工夫が課題であると考えている。

5 本授業の成果と今後の課題について

初めての授業担当ということで、毎回手探りの中で講義を行ったが、全体的に好意的な評価であったことは、大変ありがたい結果であり、刺激を受けた。

アンケートの集計結果およびコメントから、シラバスに提示した本授業の目標のうち「国語学習指導において必要となる知識の再構成」「実践的言語能力の充実」という点は、概ね達成できたと判断している。

また、講義の中でも述べたことであるが、身近な日本語の現象について不思議に思い、楽しみ、具体的に色々と調べ考えてみるという感覚や発想は、国語教師・日本語教師いずれの職業においても必要とされる。この点に関して、受講者に伝わるものがあったということは、大変うれしく思っている。

課題としては、繰り返しになるが、受講者の主体的な授業参加をより促す、ということが挙げられる。この点に注意しつつ、より魅力ある授業作りを心がけていきたい。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

		評価実施日	平成 18 年 7 月 28 日	
授業科目名	日本語音声表現研究	学期・曜日・時限	前期・金曜日・2時限	
授業区分	1. 教職基礎科目 ②. 専門科目			
担当教員名	永田良太	回答者数	9 名	

1 アンケート [1] の集計と分析について

[5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない]
 [2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 未記入]

番号	評 価 項 目	評 価 番 号					
		5	4	3	2	1	無
1	授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。	8	1				
2	授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。	8	1				
3	授業の内容には一貫性があった。	8		1			
4	教師の実践力の育成に役立つ内容であった。	8		1			
5	授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。	8	1				
6	授業をよく準備し、熱心に教えた。	8	1				
7	授業の進む速さは適切であった。	7	1	1			
8	受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。	8		1			
9	受講生に授業への参加（質問、発言、討議など）をよく促した。	8	1				
10	教科書や参考書の使い方は適切であった。	-	-	-	-	-	-
11	視聴覚機器の使用は適切であった。	6	3				
12	配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。	8		1			
13	受講生に分かりやすく説明した。	8	1				
14	教員の声は聞き取りやすかった。	8	1				
15	板書の文字は見やすかった。	7	2				
16	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	7	2				
17	この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	7	2				

<分 析>

本授業においては日本語の音声に関する知識および聴解力を身につけることを第一の目標として授業を行った。このうち、音声に関する知識に関しては網羅的かつ体系的な学習を行うことを念頭においたが、③を見ると、この点については概ね達成されたと言える。また、聴解に関しては受講者一人一人が主体的に取り組むことを意識して授業を行ったが、⑨や⑩を見ると、この点についても概ね達成されたと言える。

改善点としては授業の進度(⑦)が挙げられる。授業中、質問を積極的に行うよう促したが、質問が出すぎたために、授業の進度が遅くなってしまうことがあった。授業の進度と理解の確認とのバランスをとることが今後の課題である。今回のアンケートによって、本授業で達成できた点と改善点とが明らかになったが、全体としては受講者にとって有意義な授業を展開できたと考える。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分 析>

学生からの回答は以下のようにまとめられる。

- 日常、話していることばについて意識的に考えたい。
- 音声学の基本的な知識を身につけたい。
- よりよい日本語教師になるため。

上記の結果を見ると、本授業における受講生の問題意識は二つに大別されることが分かる。一つは「普段、無意識に用いている日本語を意識化して見つめ直し、その特徴を理解する」という問題意識である。もう一つは「日本語を教えるための知識を身につける」という問題意識であり、これには「どのように教えるか」についての知識も含まれる。いずれも本授業を開設するにあたって想定していたものであった。ここでは前者について分析を行い、後者については次項において記すこととする。

本授業においては、まず日本語の音がどのように作られるのかについて確認を行った。同時に、聴解の練習を行い、産出と聴解の両面からそれぞれの音の特徴について考えた。これらのことを通じて、受講生は普段無意識に行っている音の産出・聴解を意識化することの難しさを体感したようであった。また、本クラスには様々な国からの留学生が参加していたが、それぞれの言語の音と日本語の音とを対照することで、日本語の音の特徴をより明らかにすることが出来た。このように他の言語と対照することが出来たことも日本語の音を意識化する上で有益であった。これらを通して、上記のような受講者のニーズに応えることができたと考える。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

学生からの回答は以下のようにまとめられる。

- 調音法や音の聞き取り方など具体的に学ぶことができ、実践に役立つと思われる。
- 音声学の知識以外にどのように教えたら良いかということも教えてもらった。
- 教材を使って学習意欲を高めるということを教わった。

日本語を教えるためには教師自身が日本語について理解しておく必要があるが、前項で述べた通り、産出と聴解の両面から日本語の音について意識化し、理解することで、教えるための基礎的知識が獲得されたと考える。

これ以外にも、実践力の育成に関しては次の2点を特に意識して授業を行った。1点目は学習上の問題点を理解することである。日本語学習者の母語と日本語の音は完全には一致しない。授業においては他の言語と比較することで、当該言語の母語話者が日本語を学習する際にどのような問題点が生じると考えられるかについても説明を行った。2点目は視聴覚教材を用いた授業の行い方について理解することである。音声教育を行う際には、テープやCDなどの視聴覚教材を用いて教育を行うことが有効であると考えられる。本授業においてはこれらの視聴覚教材を用いることで学習上どのような効果があるかを受講者自身に体験してもらい、今後、自らが教育を行う際に活用できる力を身につけることを目指した。これらの2点について、上記の結果を見ると、概ね達成されたと考えられる。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点、改善してほしい点を具体的にお書きください。また、この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

学生からの回答は以下の通りであった。

○配布プリントに項目だけでなく、詳しく記述してほしい(あるいは詳しく板書してほしい)。

授業の改善点として、配布プリントの改善と視聴覚機器の使用法の改善という2点を指摘しておきたい。1点目は上記のような受講生からの回答によるものである。授業に際しては、話題と要点のみを記したプリントを配布した。これは受講者が自分自身で主体的に授業の内容をまとめるという作業を行うことで知識の整理と定着を目指したものであるが、上記のような回答を見ると、このようなねらいが受講者に必ずしも伝わっていなかったと思われる。授業の内容を詳しくプリントに記述するべきか、記述するとすればどこまで詳しく記述するべきかということについては今後さらに検討しなければならないが、学習効果を高める配布資料とはどのようなものかということ念頭に置き、配布資料の改善に努めたい。

2点目は視聴覚機器の使用法の改善である。アンケート結果を見ると、本授業における視聴覚機器の使用法は概ね適切であったことが伺えるが、他の項目と比べて「5. まったくそう思う」の割合が若干低くなっている。これは機器の使用法に改善の余地が残されていることを示唆するものであると考えられる。本授業では聴解練習を行うためにCD教材を用いたが、他の視聴覚教材についても利用の可能性を探るとともに、より効果的な使用方法についても考えていきたい。

5 本授業の成果と今後の課題について

本授業における目標は普段無意識に発している日本語の音を意識化してその特徴を客観的に捉えること、そしてそのような特徴を理解した上で日本語教育における教え方を身につけることという2点であった。アンケートおよび自由記述の結果を見ると、これらの目標は概ね達成することが出来たと考えられる。

当初は日本語の音を客観的に捉えることに難しさを覚える受講生もいたが、音と音とを比較したり、他の言語と比較することで、その特徴を捉えることが出来たようであった。また、授業においては「どのように教えるか」ということを随時問題として投げかけたが、教えるためには音の特徴を正確に把握しておかなければならないため、このことも音の特徴を理解することに役立ったようである。さらに、これらの学習目標の達成には留学生の存在が大きかったように思われる。様々な国からの留学生の参加によって、様々な言語と日本語の音を比較することが出来た。また、日本語学習者としての意見を聞くことで、音声指導の際の留意点についても考えることが出来た。

このように、当初の目的は達成することが出来たが、それに加えて、新たな成果も得られた。それは日本語の音に関する知識は日本語教育のみならず学校教員にとっても重要であるということである。本授業において、現職教員の受講生からこの点についての指摘を得たことは非常に有益であった。学校現場においては発音に問題を抱える子どもたちが少なくないという。そのような子ども達に発音指導を行う際には教師自身が日本語の音についての知識を有していなければならない。自由記述の中に「色々な専攻の学生に受講してほしい」という感想があったが、日本語教育に留まらず、他の領域についても重要な知識であることをクラス全員で確認できたことは本授業における成果の一つである。

今回のアンケートによって指摘された配布資料および視聴覚機器の有効な使用方法については今後さらに検討していきたい。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

		評価実施日	平成19年3月2日		
授業科目名	英語科教育特論Ⅰ	学期・曜日・時限	後期	金曜日	1時限
授業区分	1. 教職基礎科目 ②. 専門科目				
担当教員名	伊東治己	回答者数	14名		

1 アンケート [1] の集計と分析について

(5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない)
 (2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 --- 未記入)

番号	評 価 項 目	評 価 番 号					
		5	4	3	2	1	無
1	授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。	5	7	2			
2	授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。	4	9	1			
3	授業の内容には一貫性があった。	6	7	1			
4	教師の実践力の育成に役立つ内容であった。	8	4	2			
5	授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。	3	8	3			
6	授業をよく準備し、熱心に教えた。	7	6	1			
7	授業の進む速さは適切であった。	1	5	6	2		
8	受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。	1	4	8	1		
9	受講生に授業への参加（質問、発言、討議など）をよく促した。	6	5	3			
10	教科書や参考書の使い方は適切であった。	2	9	3			
11	視聴覚機器の使用は適切であった。	/	/	/	/	/	/
12	配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。	4	9	1			
13	受講生に分かりやすく説明した。	6	5	3			
14	教員の声は聞き取りやすかった。	7	6	1			
15	板書の文字は見やすかった。	6	6	2			
16	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	11				
17	この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	5	7		2		

<分 析>

まず、評価の対象となった16項目全体の評価平均値は4.12(昨年度は4.76)、最高が4.43、最低が3.36で、受講生からは概ね好意的な評価を得ることができたと言えるであろう。次に、評価項目ごとに結果を分析してみると、比較的高い評価が得られたのが

- 「4 教師の実践力の育成に役立つ内容であった」(4.43)、
- 「6 授業をよく準備し、熱心に教えた」(4.43)
- 「14 教員の声は聞き取りやすかった」(4.43)の3項目であった。

逆に、評価が相対的に芳しくなかったのは

- 「7 授業の進む速さは適切であった」(3.36)
- 「8 受講生の理解度を確認しながら授業を進めた」(3.36)

「10 教科書や参考書の使い方は適切であった」(3.93)の3項目で、これらは来年度への反省事項として押さえておきたい。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分 析>

14名中11名から回答が得られた。具体的には、

- ・ CLT を実際の授業の中でどう使っていくか、よりよい英語教育について考える材料を得る。
- ・ 自分が授業を行うという立場に立った時、どのように目標を立てたり、実践できるか身につけたいと思 いました。
- ・ 英語の実践力を身につけたいと思ったし、振り返りたいと思った。
- ・ 将来、教師になった時、実際に取り組む事ができるかどうかの問題点を考えながら受講した。
- ・ 実践的な英語教授法の取得
- ・ 第二言語習得理論に基づく CLT の有効性、運用の解明
- ・ 授業力を高めたい、授業理論の模索

等のようなコメントが寄せられた。今回寄せられたコメントの多くは授業シラバスに示された授業のテーマを十分意識したものであった。しかも実践的な指導法の習得が意識されており、授業実践力を育てるという要請に応える上でも、今後の授業の立案においては、この点を今以上に意識し、具体化していく必要性を感じている。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

この質問項目に対しては、受講生全員（14名）から回答が得られた。具体的には、

- ・ 理論を勉強しつつ、模擬授業もするので、実践的だと思う。また、その後の反省にも先生が分かり やすく具体例を挙げてくださったので、分かりやすかった。
- ・ 実際に授業で使う活動を発表したことで、とても実践的だったと思う。論文の内容も現場の参考に なるものだったと思う。
- ・ CLT について、理論（論文）と実践（activity）の両方から取り組むことができ、これからの自分の授業にとっても参考になった。
- ・ 授業案やアクティビティーの例を多く紹介してくださったため。
- ・ 実際に模擬授業形式だったので、よかった。
- ・ 実際に Practice Teaching をする機会があり、いろいろ学ぶことができました。

等のコメントが寄せられた。いずれも授業の前半に行ったコミュニケーション活動を取り入れた模擬授業に対して好意的評価をしたものであり、実践力の育成する上での模擬授業の有効性を再認識させられた。今後も、模擬授業を核としながら理論と実践を融合させた授業改善に取り組んでいきたい。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点、改善してほしい点を具体的にお書きください。また、この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分析>

14名中11名から回答が得られた。良かった点としては、

- ・受講の構成もとてもよく練られていて、そのことが大いに参考になった。
- ・CLT について具体的にどう授業で行うべきか、よく分かっていなかったのも、模擬授業もあり、とてもいい勉強になった。教育大学のわりに模擬授業のようなものが少ないので、この授業のように実際にやることは大切だと思う。

等の意見が聞かれた反面、今年度はこれまでと比べて多くの改善意見が寄せられた。具体的には、

- ・現場で起こりうる課題に（授業がうまく行かない状況）について [意見を] 出し合えたり、話し合ったり、コメントをもらえたらさらによかったと思う。
- ・公立の現場の状況より高学力の生徒が対象のような気がしたので、そこがどうにかならないかと思う。
- ・Teaching と Essay の両方を 90 分で行うのはかなり無理があったと思います。
- ・一時間の中に模擬授業と論文講読の構成だったが、前半が模擬で、後半が論文と後期の長いスパンの中で区切って欲しかった。思考力が継続するので。
- ・一時間にやる内容が多かったため、いつも忙しかった。
- ・内容、情報量が多かったのは良かった点だが、そのため時間が足りなかったと思う。
- ・盛り沢山すぎて feedback の時間が十分にとられていないこと。特に論文はいつも駆け足になってしまっていて、自分の中で理解を深めることが難しかった。

等のコメントが寄せられた。多くが前半の模擬授業に時間がかかりすぎ、論文講読の時間が足りなくなってしまった事に多少の問題があったようである。今後、論文講読の形式および取り上げる論文に関して、再検討していきたい。

5 本授業の成果と今後の課題について

本授業に寄せられた受講生からの授業評価の結果を総合的に判断する限りにおいては、受講生の教育実践力を高める上で一応の成果が得られたものと考えられる。具体的な成果としては、学習指導要領でもその重要性が強調されている「実践的コミュニケーション能力」を英語授業の中で育成していくための方略、特にコミュニケーション活動やタスク活動について一定の理解を受講者に授けることができたと思う。ただ、昨年度と基本的には同じ形式で授業を実施したにも拘わらず、授業評価の数値は全体的に昨年度と比較してかなり下降している。因みに、授業への満足度は昨年度は 4.76 であったが、本年度は 4.12 に留まっている。その原因としては、昨年度の受講生は大半が現職教員であったが、本年度から現職教員の割合が激減したことが考えられる。模擬授業や論文講読の捉え方が現職とストレートマスターとの間では微妙に異なっていることを示唆していると思われる。

今後の課題としては、この受講生の質的变化を考慮し、授業の内容があまり加重にならないように配慮する必要性を感じている。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

		評価実施日	平成 18 年 7 月 28 日		
授業科目名	教育課題探究 (英語科/英語教育基礎論)	学期・曜日・時限	前期 金曜日 5 時限		
授業区分	①.教職基礎科目 2. 専門科目				
担当教員名	太田垣正義・前田一平・藪下克彦	回答者数	21 名		

1 アンケート [1] の集計と分析について

[5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない]
 [2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 未記入]

番号	評 価 項 目	評 価 番 号					
		5	4	3	2	1	無
1	授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。	4	4	10	3		
2	授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。	3	5	7	4	1	1
3	授業の内容には一貫性があった。	3	2	12	4		
4	教師の実践力の育成に役立つ内容であった。	4	4	8	4	1	
5	授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。	4	5	8	4		
6	授業をよく準備し、熱心に教えた。	3	4	10	4		
7	授業の進む速さは適切であった。	7	6	5	3		
8	受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。	4	7	5	4	1	
9	受講生に授業への参加 (質問, 発言, 討議など) をよく促した。	3	8	9	1		
10	教科書や参考書の使い方は適切であった。	5	5	8	3		
11	視聴覚機器の使用は適切であった。	-	-	-	-	-	-
12	配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。	3	5	10	3		
13	受講生に分かりやすく説明した。	3	6	8	4		
14	教員の声は聞き取りやすかった。	6	8	6	1		
15	板書の文字は見やすかった。	2	8	10	1		
16	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	8	9			
17	この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	7	5	6	3		

<分 析>

英語教育の中の問題点をそれぞれの立場から論ずるということで、英語学、英米文学、英語教育を専門とする3人が担当した。特にテーマについては、打ち合わせしなかったが、大学院生の中でそれを消化し実践に利用してくれることを期待していた。しかし、授業評価を書いてもらったところ、内容がばらばらであるとか、不統一であるという指摘がなされた。同様に3人で担当するのであれば、内容的に関連性を持たせるよう開講する前に打ち合わせを行い、どのように進めていけばよいのか検討する機会を持ちたい。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分 析>

次のような意見が述べられていた。

- 英語教育を行う上での留意点を知るため
- 英語教育の基礎の理論を知りたかったから
- 英語教育における理想と現実を知りたかった。
- 英語教育向上のための具体策
- 理論をふまえ実践に役立てたかったから
- 問題点や課題について具体的示唆を得るため
- 英語教育にとって重要なこととは何か考えたかった。
- 現場の先生がたの意見を聞きたかったから

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

次のような意見が述べられていた。

- 実践にあまり役立つものでなかった。
- 現職でない受講生には難しかった。
- 具体例が少なかった。
- 有意義であったが、受講生の知識不足であった。
- 英語のいろいろな見方や文化を知ることができた。
- 直ぐ役立つというより、考えてから役立てたい内容だった。
- 英語教育の現状にふれ実践力になるものであった。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点、改善してほしい点を具体的にお書きください。また、この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

次のような意見が述べられていた。

- 英語教育を文化と関連させて見た点はよかった。
- 現場経験のある教員に授業をしてほしい。
- 英語科とそれ以外の人と交流するような形式がよい。
- 3人の担当で統一が欲しかった。
- オムニバス形式でも筋を通した内容にしてほしい。

5 本授業の成果と今後の課題について

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

		評 価 実 施 日	平成 18年 7月 25日
授業科目名	英米文化研究Ⅱ	学期・曜日・時限	前期 火曜日 2時限
授業区分	1. 教職基礎科目 ②. 専門科目		
担当教員名	前田一平	回答者数	7名

1 アンケート [1] の集計と分析について

[5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない]
 [2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 未記入]

番号	評 価 項 目	評 価 番 号					
		5	4	3	2	1	無
1	授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。	2	3	2			
2	授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。	2	3	2			
3	授業の内容には一貫性があった。	4	2	1			
4	教師の実践力の育成に役立つ内容であった。	3	3	1			
5	授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。	2	3	2			
6	授業をよく準備し、熱心に教えた。	4	1	2			
7	授業の進む速度は適切であった。	3	1	3			
8	受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。	2	3	2			
9	受講生に授業への参加（質問、発言、討議など）をよく促した。	4	2	1			
10	教科書や参考書の使い方は適切であった。	1	3	3			
11	視聴覚機器の使用は適切であった。	2	4	1			
12	配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。	2	4	1			
13	受講生に分かりやすく説明した。	3	3	1			
14	教員の声は聞き取りやすかった。	3	3	1			
15	板書の文字は見やすかった。	2	3	2			
16	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	4				
17	この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	2	4	1			

<分 析>

今年度の授業評価結果には複雑な思いが残る。おそらく、授業評価を受け初めて最低の数値ではないかと思える。本学は大学院全入時代に入り、英語コースの学生でありながら基本的な英語力が十分には身につけていない大学院生を引き受けることになり、英語のテキストを使用した授業の実施が極めて困難になってきている。本授業ではその思いを近年になく強く抱いた。アメリカ文学の授業であるにもかかわらず、英語そのものの指導に時間と労力を費やさなければならない実に困難な授業となった。その結果がこれまでで最悪の授業評価となったことは実に皮肉である。

もちろん、いずれの項目も悲観するほどの評価ではないが、これまで非情に高い評価を受けてきただけに、全入時代の大学院教育を真剣に考えなければならないときが来ていることを痛感した。学生諸君にも、基本的な学力の伸長や知識の習得はもちろんのこと、深くて広いものの見方、資質を身につけてもらいたい。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分 析>

「文学・文化に興味があった」、「英語力を伸ばそうと思った（英語以外のコースの学生）」、「文化の勉強に接する機会があまりないため」、「日系人についてほとんど知らないし、教養を養いたかった」、「英米文化について知りたかった」、「文学に触れることがなかったため」という回答があった。

学校英語教育に英米文学が直接に関わることはほとんどないので、受講生たちのモチベーションも、どちらかというところ消極的に思える。しかし、英語学習と英語教育が自己目的化し、コミュニケーションな英語指導と小学校英語への傾斜の中で学習英語のレベルが平易化する現状で、英語教員の資質とは何かを今こそ再考する必要があるように思えてならない。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

「教科指導＋生徒をひきつける知識と情報があればよい授業になる。そんな知識と情報が多くあって楽しい授業であった」、「単に知識だけではなく、その背景にあるものの大切さが伝わった」、「他者を深く理解していく視点を養う」、「大きな背景はあるが、実際には役に立つ場面はない」、「読書の大切さを強く考えるようになった」という回答があった。

英米文学は英語教科書で扱われることが少なくなったので、英米文学の授業が「教師の実践力の育成に役立つ」という質問そのものが矛盾するのかもしれない。しかし、教員養成は専門学校ではなく大学で行われている意味を考えたい。直接役に立つことしか必要としないという考えは、今日よく批判される市場原理にもとづく姿勢である。せめて学校教育は豊かな人間性を培う場でありたい。間接的なこと、迂遠なこと、一見ムダに思えること、のりしろ、見えないもの、これらは英語教育においてもその一部であってほしいものである。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点、改善してほしい点を具体的にお書きください。また、この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

脱線や個人的なエピソードがおもしろかった、という意見が3人からあった。また、テンポを上げてほしい、個人的で偏った意見が多かった、という批判もあった。

わたしは常に竹村健一が文科大臣に進言した「とがったところのある」意見を学生たちにぶつけるので、上記の批判は覚悟である。しかし、授業中に忘れずに言っている。「議論をしましょう、教室で言いくければ研究室を訪ねてください」と。学部生なら配慮が必要かと思われるが、大学院生には“risky”な議論にも参加してもらいたい。「ゆとり教育」の一期生が大学に入学して、いわゆる「2006年問題」が取りざたされる今年度、学部新入生の教育と支援には何がしかの対処が必要だろうが、すでに大学院生にも同様のことが言えるのかもしれない。ほかの場合ならいざ知らず、現職教員あるいは教員志望大学院生なら「教室」でしっかりと発言してもらいたい。私の問題としては、どのような学生であろうとも、教室で発言しやすい環境を、「甘やかし」にならない程度に作っていかなければならないということであろう。本学における大学院教育の転換期を個人的には感じ取っている。

5 本授業の成果と今後の課題について

大学院全入時代に対応する大学院授業を模索しなければならない、の一言に尽きる。学部教育で求められている「補習教育」を大学院でも実施しなければならないと、個人的には思っている。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

	評 価 実 施 日	平成19年2月27日	
授業科目名	英語科教育演習Ⅱ	学期・曜日・時限	後期 火曜日 1時限
授業区分	1. 教職基礎科目 ② 専門科目		
担当教員名	山 森 直 人	回答者数	10名

1 アンケート [1] の集計と分析について

[5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない]
 [2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 未記入]

番号	評 価 項 目	評 価 番 号					
		5	4	3	2	1	無
1	授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。	1	6	3			
2	授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。	2	8				
3	授業の内容には一貫性があった。	6	3	1			
4	教師の実践力の育成に役立つ内容であった。	1	9				
5	授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。	5	5				
6	授業をよく準備し、熱心に教えた。	7	3				
7	授業の進む速さは適切であった。		5	5			
8	受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。	2	5	3			
9	受講生に授業への参加（質問、発言、討議など）をよく促した。	1	8	1			
10	教科書や参考書の使い方は適切であった。		8	2			
11	視聴覚機器の使用は適切であった。	2	8				
12	配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。	4	5	1			
13	受講生に分かりやすく説明した。	1	7	2			
14	教員の声は聞き取りやすかった。	7	3				
15	板書の文字は見やすかった。		7	3			
16	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	8				
17	この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	3	6	1			

<分 析>

全項目について、評定は3以上だったので高評価を得たと判断できる。各項目において、評定の得点(1-5)とそれを選んだ人数を掛け合わせた数値の総計を全体人数(10)で除し、各項目の平均得点を算出すると、相対的に評定の低い3点台であった項目は、「(7)授業の進む速さは適切であった。」(3.5), 「(15)板書の文字は見やすかった。」(3.7), 「(1)授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。」(3.8), 「(10)教科書や参考書の使い方は適切であった。」(3.8), 「(8)受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。」(3.9), 「(13)受講生に分かりやすく説明した。」(3.9)であった。特に「授業の進度」(項目1, 8)と「分かりやすい説明」(項目13)については、これまでも指摘されてきた点であるが、次回からは、さらに受講生に進度や理解状況を確認しながら授業を進めるなど、改善の工夫を施したい。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが、具体的にお書きください。

<分 析>

- ・ 英語の理想の授業について考えるきっかけや、考え方を見つけようと思っていた。
- ・ 山森先生の授業は初めてだったので、楽しみでした。先生はわかりやすい実例を挙げながらグループ討議もあるのでどんなかんじかなと思っていました。
- ・ 英語教育について全体的に考えることを望んだ。特に組織についてを望んだ。
- ・ 現場の授業経営のヒントを得よと考えた。
- ・ 恐らく、自分が知らないことが大半を占めているだろうと思い、期待を持って授業に挑んだ。
- ・ Action Researchの概念や現状の理解。
- ・ 英語教育に関する概念や知識の学習。
- ・ 自分の英語教育の考えを再認識するため。

英語教育観の認識、英語の理想授業、総合的な授業の組織、英語科の経営、アクション・リサーチなど受講生の課題意識は多様である。が、いずれの項目も本授業でカバーできていると考える。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

- ・ 考え方の枠組みを知ることができたから。
- ・ 英語教育実践について、大切なことを知ることができたと思います。
- ・ 現場を知らない院生には、分からないこともあり、「はぁ現場はこうなんだ…」と思わされることが多かったです。
- ・ アクション・リサーチなど今後現場でじっしできるものであった。内容全体についても、英語授業を総合的に組織をして考えられるものであった。
- ・ 現実の現場の抱えている問題に光をあてていて示唆に富むものであった。
- ・ 自分が過去に疑問に思っていたことや、全く知らなかった事柄が大半を占めていた内容だったために、また、個人的に実践的であると感じたため。
- ・ 省察についての概念を学び、それを実際に行うことでその有効性を認識できた。
- ・ 現場で必要とされるが、忘れられていることを思い出すきっかけになった。
- ・ 現場に立ったとき、教えられた内容を実感できると思ったから。
- ・ 前もって多くの問題意識をもてる。

学校現場における英語授業を意識して本授業内容を構成しているため、以上の受講生からのコメントにおいてそれが評価されていることを考慮すると、本授業の企画実施はおおむね良かったのではないかと思う。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点、改善してほしい点を具体的にお書きください。また、この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分析>

- ・ 英語教育の根幹にかかわる話だった点がよかったです。ただ、もっと具体的な話が聞けたらと思いました。どうやって、それをしていくのか、という点で、ややもやつと感が残りました。もつとも、そのもやつと感が何か、といわれると？というところもあるのですが、そのもやつと感が明らかになる授業であると、さらによかったのかもしれない。
- ・ 全体的に、とても良かったです。現職にとって、英語教育を考える上で、とても参考になりました。
- ・ 授業計画が綿密で一貫性があった。
- ・ もっとどんどん生徒を指名して発言させてもよいかもしれない。
- ・ マイクロレポートなどこまめに課題が与えられていてレポートにとりくみやすかった。
- ・ 授業内容で取り扱った教材（ビデオ）が、少し気になった。
- ・ もう少し自然体でもよかったです。
- ・ 熱心に細かく、丁寧に授業を進めてくれたのは良かった点の1つだと思う。そのため、後半の時間が減り、少し残念な点でした。
- ・ 現職の方に時折話を振り、今の学校現場を照らし合わせるように授業をおこなったこと。
- ・ お互いに話す機会が多かったのがよかった。
- ・ パワーポイント資料をプロジェクターでなくPC毎にだせばいい。

特に、具体例の提示がまだまだ少ないようである。また、授業の進度については、これまでも指摘されており、授業内容を精選してきたつもりであるが、まだ不十分なようである。具体的な実例の提示や演習を多くすればするだけ、授業進度も遅くなる。次回は両者のバランスに工夫を施し、このジレンマを解消したい。

5 本授業の成果と今後の課題について

<本授業の成果>

全体的に高評価を得たように思う。特に授業の内容については、学校教育現場を意識して構成している点が高評価の要因であると思う。

<今後の課題>

- ・ 学校現場を意識した授業内容に、さらに具体的な実例や演習的要素を加えて、授業内容を発展的に改善する。
- ・ 具体的な実例の提示と演習的内容を増やすことと授業進度の遅れの間にあるジレンマを解消する手だてについて検討する。
- ・ 教職経験をもたない新卒大学院生に対しても、分かりやすい授業を心がける。
- ・ 受講生の授業内容についての理解状況を確認しながら授業を進める。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

		評価実施日	平成 19 年 2 月 5 日			
授業科目名	歴史学研究 I	学期・曜日・時限	後 期 月 曜日 2 時限			
授業区分	1. 教職基礎科目 ②. 専門科目					
担当教員名	大石 雅章	回答者数	10 名			

1 アンケート [1] の集計と分析について

(5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない)
 (2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 ---- 未記入)

番号	評 価 項 目	評 価 番 号					
		5	4	3	2	1	無
1	授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。	3	5	2	0	0	0
2	授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。	4	4	2	0	0	0
3	授業の内容には一貫性があった。	7	3	0	0	0	0
4	教師の実践力の育成に役立つ内容であった。	4	4	2	0	0	0
5	授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。	2	3	5	0	0	0
6	授業をよく準備し、熱心に教えた。	6	3	1	0	0	0
7	授業の進む速さは適切であった。	4	5	1	0	0	0
8	受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。	2	4	3	0	0	0
9	受講生に授業への参加（質問，発言，討議など）をよく促した。	2	5	0	3	1	0
10	教科書や参考書の使い方は適切であった。	4	3	2	0	1	0
11	視聴覚機器の使用は適切であった。	0	0	0	0	0	10
12	配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。	4	6	0	0	0	0
13	受講生に分かりやすく説明した。	3	6	1	0	0	0
14	教員の声は聞き取りやすかった。	5	4	1	0	0	0
15	板書の文字は見やすかった。	2	5	0	1	3	0
16	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1	6	3	0	0	0
17	この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	4	4	2	0	0	0

<分 析>
 1～17の項目の内、視聴覚機器を使用しなかったために解答は0となった。今後授業をより分かりやすくするために、視聴覚機器の利用の検討を今後進めたい。低い評価がある9と15の項目については今後改善していきたい。また5の項目については、半数が3を付けたことは、前もって評価の基準を示しておく必要である。しかし、レポートによる論述形式であるため、個人によって記述内容が異なるため、正解を求めるような評価基準はつくれず、現実にレポートを見て評価基準を考え変更することもしばしばである。適切な評価、すなわち受講生の理解度・考察力・表現力など総合的に正確に判断するためには、なかなか前もってきっちり定めた評価基準を提示することは難しいのが実情である。今後この点はどのようにできるか検討したい。4・6・7・17の項目で80～90パーセントの受講生が4と5の評価であったことは、改善すべき点はあるとしながらも、一応の評価を得たと考える。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分 析>

「宗教的側面について、教科書に載っていない所について、より理解できればと思い受講した」「仏教と民衆の関わりを知りたかった」「日本史を宗教的な側面から、そして庶民史的な側面から考えようとして」「宗教と民衆生活の関係について」「仏教に興味があったので、受講しました」「教育の現場で歴史を教える上で、教員側の新しい視点を養うため」「歴史学とは何かについて知りたいと思った。歴史を学び、それを伝えることの意義とは何かを知り、教師になった時に児童・歴史の学ぶ意義を伝えたい」「教育の現場で歴史を教える上で、教員側の新しい視点を養うために」などの受講生の記述があった。本講義では、前近代の民衆生活史を語る上で欠くことの出来ない宗教・信仰の問題を取り上げてその時代の歴史の特徴にせまることを目的とした。とくに教科書において宗教と生活はほとんど語られず、現在の歴史教育の最大の弱点となっているといえよう。受講生の中には「単位を取るため」という消極的な意見などもあったが、大半の受講生がそのような本講義のねらいを踏まえて受講したといえる。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

「現在の中学校教科書内容とも関連づけた講義内容であり、大変参考となった」「5にした理由は、歴史教育において教科書に書かれていない事ではあるが、教えなければならない知識を、授業の中でどのように伝えるかなど、1つのことに対して、最後まで教える手順や手法など、授業方法からも役立つ内容だったから」「教科書の語間を埋めるような内容であり、資料もあって、非常によかったからです。大学での学習をまとめるような形となったので、身になりました」「ただ暗記することだけでなく、その背景、その時代のとらえ方など、具体的で分かりやすかった」「中世の寺社が社会に及ぼした影響について分かり易く説明してくれたので、今までと違う歴史観になれた」などの記述がみられ、大半の学生教師の実践力に役立つと評価をした。とくに現在の教科書が祖師や祖師の作品の暗記活動を主としており、宗教が現実の民衆生活の再生産のためにどのように機能してきたのか、具体的に示すことはない。その点を踏まえ宗教と民衆生活との結びつきを具体的に説明するように心懸けたことが、受講生の評価につながった。また現在の教科書の不十分さについて理解し、豊かな歴史学の授業ができることに評価を得たと見られる。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点、改善してほしい点を具体的にお書きください。また、この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

「資料がカラーの方が色々と感じることもあると思うので、カラー印刷で資料を見せて頂ければもう少し、おもしろかったと思います」「写真、映像等、プレゼンがよりカラーで動いていたら、分かりやすい」「図表が白黒ではなくカラーだともっと良かった」とあるように配付するプリントをカラーにすべきという意見が最も出された。実際宗教など文化とかかわる内容であるので、カラーである方がリアリティがあり、資料として有効である。問題はカラーコピーがたやすく棟事務室でできないことと経費の問題がある。この点は今後の課題としておきたい。「ビデオなどの器機を使用して視覚的に訴えるとより効果的ではないかと思う」とあり、今後視聴覚の機器がどのように授業に活用できるか検討したい。また改善する点とは別であるが「もっと回数があつて歴史全般についてのお話が聞きたかったです。大変興味深い授業でした」という意見もあった。なかなか限られた時間で宗教を含めた社会全体の歴史像を説明しきることは難しいが、一つのテーマでありながらも社会全体史にかかわるように授業を構成することが大切であり、今後もさらにこの点もよく考えながら授業づくりにつとめたい。

5 本授業の成果と今後の課題について

本授業では、歴史教育のなかでほとんどなおざりにされている、前近代の宗教に視点をあてながら、日本中世の社会や国家について講義を行った。宗教については、中学校・高等学校の教科書においてもその具体的な説明はなく、祖師の名前や祖師の作品を列挙するのみで、民衆がなぜ宗教を信仰し、社会が宗教をいかに必要としたのかなどは全く説明されていない。前近代の宗教の機能は現代社会のそれをはるかに超えたものであり、したがって宗教や信仰の問題は歴史教育上においても欠くことのできないものである。受講生の多くはそのことへの理解を深め、教育現場に活かしたいという期待から受講している。今後さらに資料を豊富にし、分かりやすい授業内容にするようつとめたい。なおそれを考える上で、受講生間の日本史の基礎的知識や授業での講義への理解度における格差が大きな問題となっている。今回の学生評価においてもその点はうかがえる。全ての受講生が満足できる講義をどのようにつくりえるか、その点を今後の重要な検討課題としておきたい。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

		評価実施日	平成 6 年 7 月 28 日
授業科目名	哲学・倫理学研究	学期・曜日・時限	前期 金曜日 2 時限
授業区分	1. 教職基礎科目 ②. 専門科目		
担当教員名	齋木哲郎	回答者数	8 名

1 アンケート [1] の集計と分析について

(5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない)
 (2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 --- 未記入)

番号	評 価 項 目	評 価 番 号					
		5	4	3	2	1	無
1	授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。	7		1			
2	授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。	7	1				
3	授業の内容には一貫性があった。	7	1				
4	教師の実践力の育成に役立つ内容であった。	5	1	2			
5	授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。	6	1	1			
6	授業をよく準備し、熱心に教えた。	6	2				
7	授業の進む速さは適切であった。	5	3				
8	受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。	4	3	1			
9	受講生に授業への参加（質問，発言，討議など）をよく促した。	4	3	1			
10	教科書や参考書の使い方は適切であった。	6	1	1			
11	視聴覚機器の使用は適切であった。						
12	配布された資料・文献等は，授業内容を理解する上で役に立った。	5	3				
13	受講生に分かりやすく説明した。	7		1			
14	教員の声は聞き取りやすかった。	6	1	1			
15	板書の文字は見やすかった。	4	3	1			
16	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	3	2			1
17	この授業は，自分自身にとって満足できるものであった。	5	2	1			

<分 析>

受講生はもう少し多かったが、アンケート当日が徳島県の教員採用試験と重なったため、アンケートの回答者は、8名に止まった。大学院の授業といっても受講生は私が担当する中国の哲学や倫理学に対して応分の素養を持ち合わせているということはなく、従ってこの領域の内容をごく身近に、且つわかりやすく講ずることが必要となる。それがうまくいったということであろう。ほぼ期待した結果になっている。次年度からは、私の研究課題としてやっている唐・宋代の春秋学の話も加えてみたい。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分 析>

圧倒的に多いのが中国の哲学や思想に興味があったから、であった。それに続くのが哲学や倫理学について概括的にしりたかったから、道徳というものに興味があったから、人間の探求をめざした、自分の考えを豊かにしようと思った、等が続く。これまで獲得している知見を深めるといった上積み型の受講生はいなかった。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

実践力とつながったという回答はなかった。知識が得られた、論理的に話す能力が養われた、世界史や国語の領域でも扱われるような話が聞けた、という回答があったのみ。こうした面で実践力の増強に役立ったということか。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点、改善してほしい点を具体的にお書きください。また、この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

この問いに答えたのは3名のみ。「説明が丁寧でわかりやすかった。『〇〇と言われるけど△△だった』という意外性もよかった」「中国の思想を様々な人を取り上げ講義を聴かせていただき、すごくおもしろかったです」「先生のお話が楽しかったです」がその内容である。中国の哲学や思想というと、どうしても堅苦しく、概念的にもなかなか理解しにくいものであるが、よく理解してもらえたようである。

5 本授業の成果と今後の課題について

これまでの授業を基本的に継承し、その上で今現在私が進めている研究の成果もそこに加えて講じてゆきたい。また今日的視野での研究成果を加味し、活かした授業を構築してゆきたいが、そこにまた中国哲学固有の難しさが表れないような授業展開を考えてみたい。ただしこれらはいずれも受講生の希望ではなく、私自身の希望である。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

		評価実施日	平成18年7月 27日	
授業科目名	現代の諸課題と社会認識教育	学期・曜日・時限	前期 木曜日 2時限	
授業区分	1. 教職基礎科目 (2.) 専門科目			
担当教員名	西村 公孝	回答者数	15 名	

1 アンケート [1] の集計と分析について

[5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない]
 [2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 未記入]

番号	評 価 項 目	評 価 番 号					
		5	4	3	2	1	無
1	授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。	3	10	2			
2	授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。	3	9	2	1		
3	授業の内容には一貫性があった。	3	9	3			
4	教師の実践力の育成に役立つ内容であった。	6	7	2			
5	授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。	5	7	3			
6	授業をよく準備し、熱心に教えた。	8	5	2			
7	授業の進む速さは適切であった。	4	8	2	1		
8	受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。	6	5	4			
9	受講生に授業への参加（質問、発言、討議など）をよく促した。	9	4	2			
10	教科書や参考書の使い方は適切であった。	4	5	5	1		
11	視聴覚機器の使用は適切であった。	1	3	9	1		
12	配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。	3	11	1			
13	受講生に分かりやすく説明した。	4	9	2			
14	教員の声は聞き取りやすかった。	7	5	3			
15	板書の文字は見やすかった。	3	5	4	3		
16	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	7	3	1		
17	この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	6	7	2			

<分 析>

現代社会には様々な課題がある。その課題についての多面的多角的認識は、社会系教科教育として至極重要である。受講生は目的意識をもって授業に参加し、参加型の発言を求める展開を工夫したので、講義の満足度はかなり高いものになっている。

しかし、現代社会には政治、経済、社会、文化、倫理、国際関係など実に多種多様な課題が山積しており、受講生の関心事項を全て扱うわけにはいかない。また、現職派遣の院生が減少し、長期プログラムで履修している院生も多く、教育学や教科教育学の基礎的単位が履修されておらず共通の課題意識をもって取り組むには限界がある。したがって、評価項目によって学生の満足度にもかなりのバラツキが見られる。

来年度も本年度の授業評価を活かして学生の主体的な学びを保障する講義に改善したい。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分 析>

受講生の意見を参考に分析する。

- ・現代社会の課題を乗り越えるための全てを知るため。
- ・問題の見方・考え方を相対的に考えようと思って。
- ・生徒の社会認識はどのようになっているのか。
- ・自分が感じた疑問を解決する糸口になればと思い受講した。
- ・現代の諸課題を社会と結んでどのような問題解決を行っていけばよいか、具体策を考察していきたい。
- ・将来、教員になるとき、子ども達に社会問題についてどう考えさせればよいかとすることを勉強しようと思い受講した。
- ・現代社会で問題となっていることに対して先生の意見や問題提起を討論を通して自己の成長に生かしていくため。

以上のように、講義のタイトルが広義であるためにそれぞれの目的意識が異なり、受講の問題意識も多様である。シラバスの記入の工夫によりより講義のねらいを明確化し、受講生の現代社会での課題に対する多角的多面的社会認識を育成する内容構成を図りたい。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

本項目に対する受講生の評価の平均点は、4.0であり一定の満足度のあった講義と判断したい。

以下、主な意見を紹介してみる。

- ・教師となる上で現代社会の諸問題について考えを深めることができた。
- ・すぐに使えるある事象に対して二項対立でのディベートに使える教材を多く提出していただいた。生きる力を育成する授業に使える。
- ・公民の授業をする上で、多面的な視点から社会的事象を教えるという所では重要であると思う。
- ・様々な意見や様々な諸問題を知ることができた。
- ・教師として子ども達にどのような考えをもって社会を捉えさせることが良いのか考察することができた。
- ・社会科の授業で出るであろう疑問やその対応の一例を知ることができたから。
- ・具体的な実践例や学生の課題意識の発表といったすぐにでも実践に利用できそうな事例紹介が多かったため。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点，改善してほしい点を具体的にお書きください。また，この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

本講義の改善意見として、次のような意見があった。

- ・もっと多くの人に発表する機会があればよかった。
- ・もう少し分かり易く説明して欲しかった。
- ・もう少し板書を丁寧にして欲しかった。

演習と異なり講義科目であり、できる限りの時間を取り受講生の課題意識を発表してもらったが、来年度ではこの点に配慮したい。受講生が多様化している。現職派遣の院生からほとんど教育に関する講義を受けたことのない教職プログラム希望の院生まで、一つの講義で学生の多様性に合わせた説明は難しい。しかし、多様な興味関心のある受講生に対応するのが教師であり、教育である。今後もこの意見には謙虚に対応していきたい。板書の件は、学部の授業では計画的に行っている。大学院の講義でも今後、計画的な見やすい板書を心がけたい。

5 本授業の成果と今後の課題について

本講義の成果は、「授業を通していろいろな人の考え方や価値観を聞くことができ勉強になったこと」という意見にあるように、現代社会の諸課題についてどのような社会認識を必要としているか、受講生が問題意識を持つことができた点である。また、講義の最初にそれぞれの課題意識をアンケートにより捉え、講義の内容に関連させて発表していったことも成果の一つといえる。

課題は、学生の要望にあるように七月にはいると教室内の温度が高く講義に集中できない点がある。教育環境の整備も今後は外的な条件整備として課題となる。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

		評価実施日	平成 / 8 年 8 月 / 日		
授業科目名	法学・政治学研究	学期・曜日・時限	前 期 火 曜日 5 時限		
授業区分	1. 教職基礎科目 ② 専門科目				
担当教員名	麻生 多 甫	回答者数	6 名		

1 アンケート [1] の集計と分析について

[5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない]
 [2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 未記入]

番号	評 価 項 目	評 価 番 号					
		5	4	3	2	1	無
1	授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。	3	2	/			
2	授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。	4	/	/			
3	授業の内容には一貫性があった。	5	/				
4	教師の実践力の育成に役立つ内容であった。	3	3				
5	授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。	4	2				
6	授業をよく準備し、熱心に教えた。	4	2				
7	授業の進む速さは適切であった。	2	2	2			
8	受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。	3	3				
9	受講生に授業への参加（質問、発言、討議など）をよく促した。	4	2				
10	教科書や参考書の使い方は適切であった。	4	/	/			
11	視聴覚機器の使用は適切であった。	2		2			2
12	配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。	5	/				
13	受講生に分かりやすく説明した。	5	/				
14	教員の声は聞き取りやすかった。	4	/	/			
15	板書の文字は見やすかった。	3	2	/			
16	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	3	/			
17	この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	4	2				

<分 析>

授業の進行速度が速いことを自覚しました。

また、主体的に授業に取り組んでもらうためには、どのような工夫が必要であるのか、しっかりと考えたと思っています。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分析>

授業のテーマとして日本国憲法9条の平和主義を選択しました。
法と政治が交錯する領域であり、法と政治の関わりについて
とてもよく学んでくれたように思います。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分析>

普通教育課程における教育に、そのまま適用できるような内容の
授業ではなく、大学院生に適していると思われる書物を読んで
いきました。
各自が社会科教育において、憲法9条に関わる授業を行う際
には、獲得した知識・情報をもとに、自分の言葉でわかりやすく
生徒に教えてもらえたらと思います。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点、改善してほしい点を具体的にお書きください。また、この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分析>

現在の社会情勢において、憲法9条の問題が重要であるという認識も皆人にもっていただけたように思っています。

反省点として、教員志望である学生の視点に立ちながら、授業を展開していかねばならないと思います。

5 本授業の成果と今後の課題について

毎週の予習をいかり準備してくれました。

議論にも主体的に臨んでいただき、とてもやり甲斐を感じつつ授業を進めることができたことに感謝しています。

今後も新聞報道を毎日読んで、法と政治の問題について主体的に考えていただきたいと思います。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

		評 価 実 施 日	平成 18年 7 月 27 日		
授業科目名	社会科教材開発演習Ⅱ	学期・曜日・時限	前期	木曜日	4時限
授業区分	1. 教職基礎科目 ②. 専門科目				
担当教員名	梅津 正美	回答者数	10 名		

1 アンケート [1] の集計と分析について

[5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない]
 [2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 未記入]

番号	評 価 項 目	評 価 番 号					
		5	4	3	2	1	無
1	授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。	6	4				
2	授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。	4	4	2			
3	授業の内容には一貫性があった。	8	2				
4	教師の実践力の育成に役立つ内容であった。	10					
5	授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。	4	5	1			
6	授業をよく準備し、熱心に教えた。	9	1				
7	授業の進む速さは適切であった。	5	4	1			
8	受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。	5	3	2			
9	受講生に授業への参加（質問、発言、討議など）をよく促した。	6	3	1			
10	教科書や参考書の使い方は適切であった。	4	4	2			
11	視聴覚機器の使用は適切であった。	—	—	—	—	—	—
12	配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。	8	2				
13	受講生に分かりやすく説明した。	6	4				
14	教員の声は聞き取りやすかった。	10					
15	板書の文字は見やすかった。	9	1				
16	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	5	2			
17	この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	6	3	1			

<分 析>

本講義は、受講学生の歴史授業研究能力、特に授業の事実を分析し評価し、改善案を提案できる能力の育成を目標に展開した。受講生は、全部で10名であった。上記の目標を達成するために、教員は社会科教育研究としての授業分析の方法論を実践の事実にもとづいて具体的に講じた。受講生はその方法論を活用して、授業論と実践の性格を異にする複数の歴史授業研究事例（仮説を組み込んだ授業計画書）を分析し評価を加え、発表した。そして、教員と受講生がともにそれぞれの理論と実践の特質・課題・位置について討議していった。

受講生による授業評価の全体平均点は、4.6であった。本講義は、社会科教師としての教育実践力、なかんづく歴史授業実践を分析し評価できる力量の形成に努めたが、それに直接的に関わる評価項目(3)(4)(17)の平均値は、(3)が4.8,(4)が5.0,(17)が4.5あった。本講義の目的と内容は、受講生から概ね意義あるものとして評価されたとみることができる。

教員の授業方法や態度についても概ね良い評価を得た。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分 析>

受講生からの主な回答には、次のようなものがあった。

- 歴史教育における学習指導のあり方について知りたかったから。
- 歴史領域の授業の構成内容について勉強したかった。
- 歴史教材開発の方法について知りたかった。

本講義の目的・内容・方法は、受講生の問題意識・ニーズと概ね合致していると考えられることができる。ただ、今年度は、授業論の分析・評価に力点をおいたため、受講生による実際の教材開発には着手しなかった。「教材開発の方法」を実践的な演習を通じて習得したいという一部受講生の期待には十分応えることができなかつたかもしれない。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

本項目に対する受講生評価の平均点は、5.0であった。そのように評価する理由については、つぎのような記述がみられた。

- 教科教育を深く追求し、問題意識を常に持ち続けた授業であり、発表などの実践が組み入れられていた。
- 歴史授業の分析方法と望ましい授業のあり方について学べた。
- 歴史領域の授業構成や内容について様々に理解することができた。
- 歴史授業について、どういうふうな捉え方をすればいいのか、どういうふうに教えなければならぬかを考える必要性に気づくことができた。
- 学習の意義・目的を具体的にすることで、生徒に対する問いの内容や仕方が明確になることが分かった。

本講義は、受講生から教師の実践力形成に意義ある授業として評価されているとみることができる。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点，改善してほしい点を具体的にお書きください。また，この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

アンケート[4]に対する自由記述は，受講生の側からは寄せられなかった。

授業担当者としては，歴史授業の類型・特質・課題をより具体的に受講生に把握してもらうために，適宜授業担当者によるマイクロティーチング（歴史授業計画書の一部を短時間で追試すること）を組み込む工夫をした。

5 本授業の成果と今後の課題について

本講義の成果は，歴史授業の分析と評価を中心とする授業研究能力育成をめざした授業の目標・内容・方法が，学生の授業評価を通じてその意義を認められたことである。

課題としては，受講生のキャリアの多様化が進んでいる（現職教員・教育実習を経験したストレートマスター・長期履修プログラム学生等）現状を一層自覚して，授業内容をより具体的で実践的なものにするとともに，質問用紙の配布と回答など，学生の理解度をスモールステップで把握していく方法を工夫していかねばならないと考えている。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

		評 価 実 施 日	平成 18年 7月 26日		
授業科目名	社会科教育学研究	学期・曜日・時限	前期	水曜日	2時限
授業区分	1. 基礎科目 2. 専攻科目 (専門分野・ <u>教科教育分野</u>)				
担当教官名	草原 和 博	回答者数	7 名		

1 アンケート [1] の集計と分析について

[5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない]
[2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 未記入]

番号	評 価 項 目	評 価 番 号					
		5	4	3	2	1	無
1	授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。	5	0	2	0	0	0
2	授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。	4	1	2	0	0	0
3	授業の内容には一貫性があった。	4	3	0	0	0	0
4	教師の実践力の育成に役立つ内容であった。	4	2	1	0	0	0
5	授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。	5	0	2	0	0	0
6	授業をよく準備し、熱心に教えた。	5	2	0	0	0	0
7	授業の進む速さは適切であった。	3	3	1	0	0	0
8	受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。	3	1	3	0	0	0
9	受講生に授業への参加（質問、発言、討議など）をよく促した。	5	1	1	0	0	0
10	教科書や参考書の使い方は適切であった。	4	2	1	0	0	0
11	視聴覚機器の使用は適切であった。	6	1	0	0	0	0
12	配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。	5	1	1	0	0	0
13	受講生に分かりやすく説明した。	3	2	1	0	1	0
14	教員の声は聞き取りやすかった。	6	0	1	0	0	0
15	板書の文字は見やすかった。	4	1	2	0	0	0
16	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	6	1	0	0	0	0
17	この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	5	1	0	1	0	0

<分 析>

おおむね受講生の満足度は高かった（問17）。とくに授業計画の適切さ（問1）、評価方法の具体性（問5）、授業の準備と熱心さ（問6）、視聴覚機器の使用（問11）、資料・文献の適切さ（問12）、授業への主体的な取り組み（問16）、において、高い評価を得ることができた。これは、社会科授業論の体系（対立と相克の関係）をビデオや指導案等の資料に即して検討するとともに、各論の得失をめぐって受講者のディスカッションを促したこと、初回の講義で文献・資料を精選し編集したコースパッケージを配布したことに起因すると解される。これらの点は次年度も継続したい。

今年度データを整理して明らかになったのは、評価の二分化である。ほぼ全ての項目に評価5をつけた受講生グループ（4名）と、それ以外の評価を与えた受講生グループ（3名）に大きく分かれた。問13で極端に低い評点をつけた受講生は、後者のグループに入る。このような点数分布の二分化は、受講生の評価基準にバラツキがあることを示唆している。次年度以降は、受講生の多様性に応じた、きめ細やかな対応と指導をしてゆくことを課題としたい。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分 析>

(回答の抜粋)

- ・教科教育というものの存在意義について認識しようと思って受講した
- ・自分の専攻であるから、自分の知識を高めるため
- ・将来のため、がんばっていこうと思って受講した

学生の問題意識は、①研究対象として教科教育について深く知りたいというニーズと、②将来教職に就くにあたっての基礎を養いたいというニーズに分かれている。学術志向と実践志向といってもいいだろう。実はこの二者以外にも、隠れた(明示・表出されていない)ニーズがある。それは、本欄に回答していない受講者のニーズである。とくに明確な問題意識はないものの、修了要件や教職免許の関係で受講する、という消極的な意図で受講しているグループである。

教員養成プログラムの導入、学部単位の履修枠拡大など、大学院教育を取り巻く環境の大きな変化で、修士教育のあり方が改めて問われている。

関心や知識を異にする院生が同一講義に参画しても、プラスの相乗効果をもたらす、指導上の方策が問われている。例えば、関心や知識の交換・交流、共有化を促すグループワークを、これまで以上に取り入れてゆく必要があるだろう。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

(回答の抜粋)

特に理由はない、が2名。他は、無回答だった。

アンケートの間6では、7人中6人が評点5&4点をつけている。このデータから、本講義は概ね「教師の実践力の育成に役立つ内容だった」と評価されていると見做してよい。

教員の側で解釈するに、本講義では、具体的な指導案や授業VTRの分析を繰り返し行ったことが、高評価につながったと推測される。大学院教育における「実践力育成」は、ケーススタディーと原理的理論的説明の往復によって保証される。

「社会科授業の分析論・開発論を、実践事例に即して探求させる」指導の原則を、今後も洗練させていきたい。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点、改善してほしい点を具体的にお書きください。また、この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

(回答の抜粋)

とくに理由はない、が2名。他は、残念ながら無回答だった。

好意的に解釈すれば、とくに「改善の必要はない」のかもしれない。

実際には、回答時間が足りなかったことが、自由記述欄の無回答を増やしたと推測される。

5 本授業の成果と今後の課題について

1～4の自己評価を踏まえ、成果と課題を箇条書きにまとめる。

(授業の成果)

- ・具体的な実践（指導案・VTR）の分析を通して、社会科の教科論・授業論を探求させることができた。受講生も、社会科教育学の学問的な研究成果を学ぶことに意義を見出していた。
- ・社会科の教科論・授業論の体系を構築させる過程で、受講生がこれまで（小中高で）受けてきた授業の課題を振り返らせることができた。結果的にそれが、将来の実践に役立つと判断された。
- ・とくに受講生相互のディスカッション、ウェブやメールを媒介にしたインターアクティブな指導が、教育効果をあげていた。アンケートでは、高評価につながった。

(今後の課題)

- ・教員養成プログラムの設置を受けて、教職課程を既に修め、教育実習を終えた（理論と実践にある程度通じた）院生と、そうでない院生が、同一講義を受けるようになった。この状況は、①教員のねらいと受講者の問題意識の「ミスマッチ」はもちろん、②各受講者の問題意識にも「ズレ」を生みだしている。
- ・したがって、講義の冒頭（第1講）で受講者の問題意識を適切に把握するとともに、多様なニーズに応える講義計画と指導法を開発してゆかなくてはならない。大学院教育としての共通の到達目標をどこに、何に求めるかが、あらためて問われている。
- ・今年度高く評価された点については、さらなる改善をはかりたい。とくに事例研究を踏まえて社会科の教科論と授業構成論を探求させる内容構成は、次年度も継承、発展させたい。
- ・今年度の最終講義では、アンケートへの回答時間を十分に確保できなかった（自由記述欄の無回答が目立ったのは、これが理由と思われる）。自由記述欄の回答を保証し、授業改善に欠かせない受講者の声＝データを、確実に収集、分析してゆきたい。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

		評価実施日	平成 18 年 7 月 19 日		
授業科目名	歴史学研究Ⅲ	学期・曜日・時限	前 期 水 曜 日 3 時 限		
授業区分	1. 教職基礎科目 ②. 専門科目				
担当教員名	原田 昌博	回答者数	12 名		

1 アンケート [1] の集計と分析について

〔 5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない 〕
〔 2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 未記入 〕

番号	評 価 項 目	評 価 番 号					
		5	4	3	2	1	無
1	授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。	5	6	1			
2	授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。	4	4	4			
3	授業の内容には一貫性があった。	6	6				
4	教師の実践力の育成に役立つ内容であった。	1	8	2	1		
5	授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。	3	7	1	1		
6	授業をよく準備し、熱心に教えた。	11	1				
7	授業の進む速さは適切であった。	3	8	1			
8	受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。	2	7	3			
9	受講生に授業への参加（質問、発言、討議など）をよく促した。	4	7	1			
10	教科書や参考書の使い方は適切であった。	4	5	3			
11	視聴覚機器の使用は適切であった。	—	—	—	—	—	—
12	配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。	7	5				
13	受講生に分かりやすく説明した。	8	3	1			
14	教員の声は聞き取りやすかった。	12					
15	板書の文字は見やすかった。	8	3	1			
16	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1	5	4	2		
17	この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	4	5	3			

<分 析>

全体的に見て、各質問項目とも「5」または「4」に評価されており、授業担当者としては概ね目標を達成できたのではないかと考えている。とりわけ質問6、13、14、15は評価が高く、授業の進め方は適切であったといえる。質問2で4名が「3」をつけており、紹介したテキスト・参考書が一部の学生にはそれほど役に立たなかったようである。また、質問4では2をつけた学生があるが、これは歴史学という教科内容を扱う授業では現場の実践に直接結びかない部分もあるためこのような結果になったものと考えられる。しかし、この場合でも9名が「5」または「4」の評価をつけていることから、ある程度の成果はあったものと考えられる。質問16での評価が低く、学生の主体的参加を促す工夫が必要である。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分 析>

受講者の回答

- ・ナチスを学ぶことによって日本のことを考えたいと思った。
- ・高校で学習した世界史の知識が役立つだろうと思い受講した。
- ・第二次世界大戦前後のドイツ史・ナチス史に対する新たな認識を作ること（同意見他1名）。
- ・ヒトラーやナチスに単純に興味があったので。
- ・ナチスの深いところまで理解すること（同意見他1名）
- ・世界史が苦手だったので

受講者は世界史の知識を深めたり、自分の歴史認識を高めるという問題意識・期待をもって受講を決めたようである。また、この講義の内容であるナチズムそのものに興味があつて受講した者もいた。

この授業は「ナチズム」という現代史の1つの歴史事象をテーマに取り上げているが、その際には専門的で難解なまた殊更に細かい内容に深入りするのではなく、高等学校の教科書記述を入り口にナチズムを事例に関する研究史・研究状況が現場で使われる教科書にどのように影響を与えているのかという点を受講者が掴むことを目標とし、その旨をシラバスに記載した。教員養成大学の大学院での西洋史の授業という性格を考慮した場合、西洋史専攻の学生だけが受講するとは考えにくく、よつてこのような配慮は学生の本授業に対する問題意識の涵養には不可欠ではないかと考えられる。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であつた」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

受講者の回答

- ・教師にとって多面的に物事を捉えることは重要であり、この授業ではそういった考えを養うことができた。
- ・高校の授業内容以上のことを学ぶことができた。
- ・教える立場として深く物事を知ることは必要であり、その育成ができた。
- ・自分の中で持っていた固定された考えが誤っていたことを知ることができた。
- ・国際的感覚や世界観を広める上で役に立った（同意見他1名）。
- ・学習範囲が狭く、教師の実践力育成にはあまり役に立っていないと感じた。
- ・内容的にはかなり難しかった。

ここでは「教師の実践力育成に役立つ内容」をどう捉えるかによって意見が分かれている。1つは、中・高等学校での教授内容を「広く万遍なく」解説することであり、この立場では今回の講義内容は限定的なものに感じられてしまい、評価は低くなる。しかし、そもそも半期間の講義で「広く万遍なく」というのは不可能であり、授業担当者の意図はそこにはない。本講義が目指したのは、一つの歴史事象には「複数の解釈」があり、現場に立つ教員にはこの多様なものの見方・考え方が必要とされる点を実感させることであり、このように授業を捉えた受講者からの評価は高かつたようである。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点、改善してほしい点を具体的にお書きください。また、この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

受講者の回答

- ・大変深い知識の習得に役立った。様々な立場からの研究成果に触れることができた。
- ・受講者の意見交換をどのように取り入れるかが課題。
- ・授業外でも分からないこと、興味を持ったことに対してしっかりと分かりやすく、相談・説明してくれたことがよかった。

講義内容については改善意見は見られなかった。ただ、第2の回答にあるように、受講者の意見をいかに取り入れるかは来年度以降の課題としたい。実際、講義中の意見・感想は特定の学生に限定されていた。授業への主体的参加に対する相対的に低い評価もこの点に起因すると考えられる。受講者全体からの意見をくみ上げ、それを可能ならば「議論」へと発展させていくことができるよう心がけたい。

5 本授業の成果と今後の課題について

上述したように本講義の内容は次の3点に要約できる。

- ①現在の高等学校の世界史教科書の「ナチズム」に関する記述を10年前の教科書と比較し、その変化を確認する。
- ②この変化の背景にある研究の進展を最新の著書・研究から明らかにする。
- ③この作業とともに、講義での概説を通じて西洋現代史についての知見を深める。

本講義はこの3つの目標を達成するため、授業担当者による概説（講義）と受講者による報告を織り交ぜ、また受講者各人の積極的な意見発表を取り入れながら進められた。アンケートの諸結果からこの目標は概ね達成できたものと考えられる。また、講義の理解を促進するために事前に30頁のレジュメ集を作成し、受講者に配布し、さらに各講義において補足資料を追加した。

授業の進め方としては世界史の内容を通史的に概説する授業も考えられるが、本講義は来年度以降も今年度と同様に特定の「歴史事象」に対してそれを多様な見方で捉えていく形で進めていきたい。今後の課題としてはレジュメおよび配布資料の改良、視覚資料の更なる充実を図り、受講者の理解の一助とするとともに、歴史そのものの理解にだけでなく、歴史教育実践者として歴史教科書記述の背景に至る広範な理解を促すような授業作りを意識的に行って生きたい。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

		評 価 実 施 日	平成 18 年 7 月 20日		
授業科目名	歴史学演習Ⅱ	学期・曜日・時限	前期	木曜日	3時限
授業区分	1. 教職基礎科目 ② 専門科目				
担当教員名	町田 哲	回答者数	6 名		

1 アンケート [1] の集計と分析について

(5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない)
 (2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 --- 未記入)

番号	評 価 項 目	評 価 番 号					
		5	4	3	2	1	無
1	授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。	3	2	1			
2	授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。	3	2	1			
3	授業の内容には一貫性があった。	1	4	1			
4	教師の実践力の育成に役立つ内容であった。	1	2	3			
5	授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。	2	3	1			
6	授業をよく準備し、熱心に教えた。	3	3				
7	授業の進む速さは適切であった。	3	3				
8	受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。	2	2	2			
9	受講生に授業への参加（質問、発言、討議など）をよく促した。	3		2	1		
10	教科書や参考書の使い方は適切であった。	—	—	—	—	—	—
11	視聴覚機器の使用は適切であった。	—	—	—	—	—	—
12	配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。	3	2	1			
13	受講生に分かりやすく説明した。	3	2	1			
14	教員の声は聞き取りやすかった。	3	1	2			
15	板書の文字は見やすかった。	3	2	1			
16	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	1	1			
17	この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	4	1	1			

<分 析>

本演習では、毎週論文を1本ずつ取り上げ、議論した。日本近世の社会の特徴をつかむ優れた論文を精選し、また、こうした日本近世の刻印をうけた近代社会の特徴を示す論文を選び、議論した。とくに近世身分制の特徴、近世身分制の解体（賤民制・地域）、近世から近代への生業・労働、近世近代の民衆思想、そして近代と現代の画期となるいわゆる高度経済成長期について、取り上げた。これによって、近世近代の特徴変化を見ることができたように思う。こうした演習内容の一貫性が、ある程度の高い評価につながったように思える。

また、演習の採点や、教員の熱心さ等については、ある程度の評価が得られたと考える。

その一方で、(問9)については、評価がわかれた。これは、教員が論文の内容を説明し、その上で議論する場合、特定の院生は発言するが、発言しない院生に発言をうながすだけの時間的余裕がなくなってしまうことによる。また場合によっては、教員が一方的にポイントのみを指摘するということが何回もあった。今後改善していきたい。

なお、問4については[3]を参照されたい。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分 析>

「論文の読み方や分析について、自分がこれまでにしてきた事をいかせるのかどうかということを通して受講しました」という答えのみがあった。

歴史学で修士論文を書こうとする院生にとっては、単なる歴史の知識だけでなく、論理・分析・叙述といった面での歴史を視る眼・歴史を構想する力量を得たいという気持ちが多い。そうした期待に応える演習になったのではないかと考える。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

本アンケートの中で、この項目は評価点が若干低い。

単なる教材内容や知識を本演習に求めれば、その評価が低くなるのは、演習の目的からして当然だろう。

しかし、その内容をみると「実践力ということに関していうなら、講義の内容が専門的であり、その手法など技術に対するものには、共通するところもある…」という意見があった。つまり授業＝「実践」とみた場合には評価が低くなるが、授業の背景となるような理解力・実力・論理構成力の向上というような、本当の意味での実践力につながる内容であったと確信できる記述が得られた。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点、改善してほしい点を具体的にお書きください。また、この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

アンケートの記載はなかった。

論文は、良質なものを精選したつもりだが、次年度以降も努力を続けることで、受講生の期待に応えていきたい。

5 本授業の成果と今後の課題について

本演習では、日本近世史ないし近代史に関する基本的な論文を取り上げて、議論することで、歴史学研究の方法論や、論文読解力の養成を重視してきた。これは受講生が、院修了後に、自らの手で、学校周辺の地域の具体的歴史を取り上げ、分析し、これを教材化するだけの力量をつけることが、学校・社会に求められている喫緊の課題だからである。

②については、歴史学研究Ⅱとも連動した目標であり、必ずしも一つの授業・演習で修得できるものではないが、①については、良質の論文をテキストに、相当程度議論し、理解を深めることができたように思う。

受講生には、演習の目的を正面からうけとめて歴史学の方法を積極的に学ぼうとし、これを修士論文に生かそうとする院生が多い。しかしその一方で、中には、事前に論文を読まずに参加し、報告者の報告を聞き、教員の説明を聞くにとどまる院生もいる。こうした院生から主体性を引き出すのは、教員の努力だけによるものではないだろうが、可能な範囲で努力を続けていきたい。

第 3 部

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

		評価実施日	平成 18 年 7 月 25 日		
授業科目名	数学科教育学研究	学期・曜日・時限	前期 火曜日 4 時限		
授業区分	1. 基礎科目 ②. 専攻科目（専門分野・ <u>教科教育分野</u> ）				
担当教官名	○齋藤 昇・秋田美代	回答者数	9 名		

1 アンケート [1] の集計と分析について

[5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない]
 [2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 未記入]

番号	評 価 項 目	評 価 番 号					
		5	4	3	2	1	無
1	授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。	8	1				
2	授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。						
3	授業の内容には一貫性があった。	8	1				
4	教師の実践力の育成に役立つ内容であった。	8		1			
5	授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。	6	2	1			
6	授業をよく準備し、熱心に教えた。	7	2				
7	授業の進む速さは適切であった。	7	2				
8	受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。	8	1				
9	受講生に授業への参加（質問，発言，討議など）をよく促した。	5	3	1			
10	教科書や参考書の使い方は適切であった。						
11	視聴覚機器の使用は適切であった。	7	2				
12	配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。						
13	受講生に分かりやすく説明した。	7	2				
14	教官の声は聞き取りやすかった。	7	1	1			
15	板書の文字は見やすかった。						
16	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5	2	2			
17	この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	7	2				

<分 析>

この授業では、算数・数学学習において、児童・生徒が学習内容をしっかりと定着し創造的思考を活性化する原理と方法を概説し、その具体的な指導方法として「山登り式学習法」についての実践を行った。

この授業に対する評価は、ほとんどが「4と5」であった。回答から、特に「授業計画は理解しやすく、適切であった」「授業の内容に一貫性があった」「教師の実践力の育成に役立った」「授業は満足できるものだった」こと等の様子がうかがわれた。

受講者は、算数・数学の学習教材の開発に興味・関心を高め、理解を深めたようである。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分 析>

受講者の主な回答は、次のようであった。

- ・ 数学教育の現状を知りたいと思ったから。
- ・ 山登り式学習法の実践法に興味があったから。
- ・ どのように教えると生徒が理解するのか、よりよい教育法を探したかったから。
- ・ 学習に対する意欲・関心が低い生徒に対して、どのような取り組みを行うべきかについて学びたいと思ったから。
- ・ 日本と他国の数学教育の違いを学びたいと思ったから。

これらの回答から、受講者は算数・数学の授業において、児童・生徒の関心・意欲や理解力、創造性等を高める指導方法が必要であることを認識していることが分かった。特に、そのための方法として「山登り式学習法」に強い関心・意欲をもって学習に取り組もうとしていた様子が見えられた。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

受講者の主な回答は、次のようであった。

- ・ 「学習構造チャート」の作成方法、使用方法が理解できた。さらに、数学が苦手、嫌いといった生徒に大変有効であることが分かった。
- ・ 「山登り式学習法」について学び、教師が生徒に理解しやすく教える方法として、生徒に「学習構造チャート」を使用させるという新しい方法を知ることができた。
- ・ 諸外国の学習形態を知ることを通して、これまで自分たちが受けてきた教育の良い点、悪い点について考えることができた。
- ・ 実践的な内容が示され、教師としての指導能力を高めることができた。

これらの回答から、受講者が「山登り式学習法」や「学習構造チャート」に強い関心を抱き、生徒の理解を深めたり創造性を活性化したりする指導方法を身に付け、教員としての資質や実践力の向上させたことが分かった。また、諸外国の教育事情を知ることにより、自国の教育の課題及び改善策等についての理解を深めたことが分かった。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点、改善してほしい点を具体的にお書きください。また、この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

良かった点についての、受講者の主な回答は、次のようであった。

- ・ OHP, 映像等の資料が見やすく分かりやすかった。
- ・ 日本と他国の数学教育の比較が大変参考になった

改善してほしい点についての記述はなかったが、次のような要望があった。

- ・ 学習構造チャートを取り入れることによって授業が十分に理解しやすいものになっている。さらに、コンピュータを利用した場合の実際の雰囲気を見せたりすることで、より一層の緊張感や実感が出るのではないかと思う。

この授業では、受講者が主体的に活動し自らの考えを発言する場面をできるだけ多く取り入れた。受講者たちは、「山登り式学習法」や「学習構造チャート」について理論や実践方法について議論する中で、学習指導方法についての理解を深めたようである。

現場での経験がない学生にとっては、教科書を基に「学習構造チャート」を作成するのは難しかったと思われる。コンピュータ利用による方法等を紹介し、学生が学習構造チャートの使用方法について実感を深められるような方策をとることも必要であるように思われる。

5 本授業の成果と今後の課題について

この授業では、算数・数学学習において、児童・生徒が学習内容をしっかりと定着し創造的思考を活性化する原理と方法を概説し、その具体的な指導方法として「山登り式学習法」についての実践を行った。

理論を実際の実践データにもとづきながら講義をしたので、受講者は、学習内容についての構造を理解させることが、児童・生徒に算数・数学の学習内容をしっかりと理解させ、創造性を活性化させるために必要であることを理解したようである。受講者は、指導内容・指導方法についての認識を深め、教育実践力を高めたものと思われる。

しかし、発表・討議を中心として授業を行ったため、多くの題材について取り扱うことはできなかった。次年度は、もう少し理論面を取り入れたいと考えている。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

		評価実施日	平成 19 年 2 月 13 日
授業科目名	幾何学研究	学期・曜日・時限	後期 火曜日 3 時限
授業区分	1. 教職基礎科目 ②. 専門科目		
担当教員名	松岡 隆	回答者数	8 名

1 アンケート [1] の集計と分析について

[5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない]
 [2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 未記入]

番号	評 価 項 目	評 価 番 号					
		5	4	3	2	1	無
1	授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。	3	5				
2	授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。	5	2	1			
3	授業の内容には一貫性があった。	4	4				
4	教師の実践力の育成に役立つ内容であった。	4	3	1			
5	授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。	6	2				
6	授業をよく準備し、熱心に教えた。	5	3				
7	授業の進む速さは適切であった。	6	2				
8	受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。	4	4				
9	受講生に授業への参加（質問、発言、討議など）をよく促した。	6	2				
10	教科書や参考書の使い方は適切であった。	—	—	—	—	—	
11	視聴覚機器の使用は適切であった。	—	—	—	—	—	
12	配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。	7	1				
13	受講生に分かりやすく説明した。	3	5				
14	教員の声は聞き取りやすかった。	7	1				
15	板書の文字は見やすかった。	3	5				
16	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	4				
17	この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	6	2				

<分 析>

各項目の評価平均値は、4.4から4.9の間に分布しており、受講生からの評価は概ね良好であると考えられる。昨年度の評価点とそれほど大きな変化は無かったが、項目8、13が少し下がっている。昨年度はこれらの項目はかなり高い評点を得たため、今年は内容をより高度にしたせいかもしれない。題材の扱い方にさらに工夫を重ねたい。一方、昨年度、4.2と評価の低かった項目5が、今回4.8に上昇した。前年は、授業中に提出した課題への解答の取り扱いにおいて若干首尾一貫していない点があったので、この点を改善した成果かと考える。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分析>

以下の回答があった。

- ・数学のいろいろな分野への視野を広げる。楽しく受講しようと思った。
- ・幾何学の内容が学校現場でどう生かすことができるかということ
- ・幾何について詳しく学びたい。
- ・ I expected to deepen my knowledge in geometry and be introduced to new areas.
- ・ I decide to take the course because I want to improve my knowledge in geometry study. I hope from this course I will get a lot of new information and new knowledge.

これらから、幾何学についての新しい知識を得たい、学校現場でどう生かせるか知りたいという動機で受講したことが伺える。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分析>

以下の回答があった。各回答の末尾の数字は、選択した評点を示す。

- ・現場で使えるような教え方をして下さったから。 5
- ・いろいろな模様があり、視点を変えると違う模様にも見えたりするので、こだわりをなくすことや、いろいろな視点から物を見ようとするのを勉強できたので。 5
- ・総合的な学習で、使えるかもしれないから。児童に紹介したいと思った。 5
- ・ We were involved in practical demonstrations of concepts using concrete materials. From these activities conceptual understanding was promoted, leaving the participating students with practical skills. 5
- ・折り紙やモアレなど、実際の現象に関係している内容だったから。 4
- ・ This course foster the practical competence for teachers because in this course, we have to think creatively in order to solve the problems given. 4
- ・実践力というよりも専門的な力を高めるという方が強いと思ったから。 3

最後の回答以外は、現場で使えるようであった、いろいろな視点から見ることを学べた、創造的に考察する必要があったため教師の力量形成に役立ったなどの回答であり、実践力の育成に役立っていると考えられる。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点、改善してほしい点を具体的にお書きください。また、この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

以下の回答があった。

- ・目で見える教材が用意されていたのでよかった。
- ・授業内容は非常に興味深かった。
- ・ The course was practical. The instructor was very sensitive and gave ample assistance to non-Japanese speakers. It was a very exciting experience.
- ・ I hope that, in future ,there are a lot of reference books in English, because quite difficult for the foreign students to understand in detail the course. So that they can find the information and get the ideas to solve the problems.
- ・ 特になし

5 本授業の成果と今後の課題について

本授業の主な目的は、折紙やモアレ模様など、我々の身の回りに潜む数学の実例を紹介することにより、数学に対する視野を広げ、その有用性を理解してもらうことであったが、この目的はある程度達成されたと感じる。

改善してほしい点の回答の中に、「英語で書かれた関連書籍が将来多数出版されることを望む」との意見があった。授業で扱った題材について詳しく知ろうとすれば当然の希望であろうが、本授業の内容は、これまでに書かれた数少ない関連論文を自分なりに発展させたものであり、英語、日本語に拘わらず参考書として使える書籍が無い状態である。日本語と英語による自作テキストを作って配布するよう努力したい。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

		評価実施日	平成 19 年 2 月 23 日	
授業科目名	解析学演習	学期・曜日・時限	後期金曜日 5 時限	
授業区分	1. 教職基礎科目 ② 専門科目			
担当教員名	成川 公昭	回答者数	6 名	

1 アンケート [1] の集計と分析について

(5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない)
 (2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 --- 未記入)

番号	評 価 項 目	評 価 番 号					
		5	4	3	2	1	無
1	授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。	3	2	1			
2	授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。	4		1		1	
3	授業の内容には一貫性があった。	5	1				
4	教師の実践力の育成に役立つ内容であった。	5	1				
5	授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。	4	1	1			
6	授業をよく準備し、熱心に教えた。	5	1				
7	授業の進む速さは適切であった。	3	3				
8	受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。	5	1				
9	受講生に授業への参加（質問，発言，討議など）をよく促した。	5	1				
10	教科書や参考書の使い方は適切であった。	4	1			1	
11	視聴覚機器の使用は適切であった。						
12	配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。	4		1		1	
13	受講生に分かりやすく説明した。	5	1				
14	教員の声は聞き取りやすかった。	5	1				
15	板書の文字は見やすかった。	4	2				
16	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5	1				
17	この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	6					

<分 析>

すべての項目でおおむね5と4の評価を得ており、授業者、受講者共に満足 of いく講義が出来たと評価される。本演習では特に学生の積極的な参加を目的として、学生自身の調査研究をもとに、それについて発表させ、その検討を受講者全員で行うという形態をとった。そのため、学生自身の授業への参加も積極的に行われ、その結果、それぞれの学生が深い理解を得られたようである。また、学校教学での関わりについてもとくに注意しながら説明を行い、教師の実践力の養成にも重点を置いて授業を進めた。その結果、評価項目4でも従来の専門の数学の授業にはなかなか見られなかった評価（5が5名、4が1名）が得られた。この授業を通じて実際の現場で行われている授業内容と大学の授業の関わりを深く理解できるよう努めたが、このアンケートによると十分にその目的が達成できたように思われる。また、評価項目17では全員が評価5で授業が満足 of いくものであったとの評価を出しておりこちらの目的が十分に学生に伝わったと思われる。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分 析>

- ・解析学の内容について復習
- ・楽しもうと思って受講しました。
- ・数学の知識の分野を広げる
- ・実践で中学・高校授業が使えるネタを紹介してくれた。

との記述があった。

演習を通して数学の面白さを味わい、内容も深めることを授業の目的にしていたため、学生の問題意識と一致していた。また、出来るだけ現場においても使える内容にしようと思ったことも学生の期待に応えられたと思われる。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

- ・実際に教育現場に出て使える内容ばかりだったから。
- ・自ら教材（問題）を考える機会が多かった。
- ・数学の解析という分野を中・高生のわかる内容で“触れる”ことが出来る内容だったから。
- ・実生活にかかわる輪ゴムや距離の最小問題を数学で説明されていたから。
- ・演習で自分の問題も用意できたので。

との記述があった。

特に学校現場における数学と大学で行う専門数学の関わりに注意しながら、また、理論だけに偏らず実際に日常に現れる現象を取り上げながら授業を進めたことが、学生の興味を引くことに繋がった。また、演習ということで学生に自ら調査・研究を行わせ、発表させたことも、受け身的な授業から脱却できよかったと思われる。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点，改善してほしい点を具体的にお書きください。また，この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

・授業では理解してなかったらもう一度説明してくれたのでよかったです。
との記述があった。

演習の時間であったため理解を深めることにその時間を費やすことが出来た。具体的な演習を通じて説明をすることによって十分な理解に到達したようである。今回の経験をふまえ，更に現場において行われている学校数学と大学での専門数学が切り離すことの出来ないものであるという認識を学生に伝えることが出来るよう工夫を重ねたいと思う。

5 本授業の成果と今後の課題について

特に学校現場における数学と大学の専門数学との関わりを明確にするため，様々な例を挙げ，演習を通して学生が認識できるよう努めた。アンケート結果や学生のコメントを見てみると，この意図は十分に伝わっており，そのことを改めて認識することにより，やる気を出して授業に取り組んだ様子が見えてくる。大学の授業は高校までのものとかげ離れており，抽象的すぎてわかりづらいし，興味もわかないという意見が従来多かったが，焦点をその結びつきに当てて講義を行ったことが，この意識を無くすことになり，授業を工夫した成果が十分に上がったと評価できる。また，演習ということもあって学生の積極的な調査・研究，発表の機会を多くとったことも，興味を持って，やる気を引き出すことに繋がった。時間をかけて調査・研究したものにたいし，授業中多くの議論やコメントが為されたが，このことにより自分で深く考え，検討する機会を与えることが出来た。少人数の演習の授業であったため進度や内容にあまりこだわることなく進めることが出来たが，進めなければならない内容が設定されている講義形式の多人数の授業において，どの程度今回と同じようなやり方が出来るかが問題である。例として日常の現象を取り上げ，理解を深めさせることは可能と思われるし，そのことは各授業において既に実施しているが，多人数の授業において学生参加型の授業をどの程度実現出来るかが今後の課題である。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

		評価実施日	平成 18 年 7 月 26 日		
授業科目名	数学科教材開発研究	学期・曜日・時限	前 期 水 曜 日 2 時 限		
授業区分	1. 基礎科目 ②. 専攻科目 (専門分野・ <u>教科教育分野</u>)				
担当教官名	○秋田美代・齋藤 昇	回答者数	10 名		

1 アンケート [1] の集計と分析について

[5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない]
 [2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 未記入]

番号	評 価 項 目	評 価 番 号					
		5	4	3	2	1	無
1	授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。	7	2				1
2	授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。						
3	授業の内容には一貫性があった。	6	4				
4	教師の実践力の育成に役立つ内容であった。	9	1				
5	授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。	5	4	1			
6	授業をよく準備し、熱心に教えた。	8	2				
7	授業の進む速さは適切であった。	8	2				
8	受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。	8	2				
9	受講生に授業への参加（質問、発言、討議など）をよく促した。	10					
10	教科書や参考書の使い方は適切であった。						
11	視聴覚機器の使用は適切であった。	2	2	6			
12	配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。						
13	受講生に分かりやすく説明した。	8	2				
14	教官の声は聞き取りやすかった。	10					
15	板書の文字は見やすかった。						
16	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	8	2				
17	この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	10					

<分 析>

この授業では、算数・数学学習において、児童・生徒の多様な考えや創造性を伸ばす教材の開発の原理と方法を概説し、それを基に受講者が学習教材の開発を行った。

この授業に対する評価は、ほとんどが「4と5」であった。回答から、特に「授業は満足できるものだった」「実践力の育成に役立つ内容であった」「受講生の理解度を確認しながら授業を進めた」「受講生に分かりやすく説明した」こと等の様子うかがわれた。

受講者は、算数・数学の学習教材の開発に興味・関心を高め、理解を深めたようである。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分 析>

受講者の主な回答は、次のようであった。

- ・ 教材開発をどのように行えばよいか、また、よい教材とはどのような教材なのかを知りたかったから。
- ・ 教材開発力を高めて、日本での経験を自国の教育に役立てることができるようにしたかったから。
- ・ 教師の指導及び生徒の学習における数学概念獲得についての洞察力を高めたかったから。
- ・ 教育現場における教材開発に役立てたかったから。

これらの回答から、受講者は小・中学校において児童・生徒に分かりやすい算数・数学授業を実践するために、教材のもつ役割が大きいことを認識し、強い関心・意欲をもって学習に取り組もうとしていた様子がうかがわれた。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

受講者の主な回答は、次のようであった。

- ・ 実際に教材を開発したり、その教材について発表したりしたことが教師になったとき役立つと感じた。
- ・ 教材開発の有効性を感じることができた。
- ・ 実際に教材開発を行ったり、模擬授業の形式で発表及び質疑応答を行ったりすることを通して教授方法や教授技術を高めることができた。

これらの回答から、受講者は算数・数学の学習教材開発に強い関心を抱き、教員としての資質や実践力の向上に役立てたことが分かった。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点，改善してほしい点を具体的にお書きください。また，この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

受講者の主な回答は，次のようであった。

- ・ 作った教材がまだ途中段階であるので，完成させたい。
- ・ この授業では習うことがたくさんあった。時間があれば教材開発について自分なりにゆっくりに考えてみたい。

この授業では，受講者が主体的に活動し自らの考えを発言する場面をできるだけ多く取り入れた。受講者たちは，理論や実践方法について議論する中で，他の受講者の考え・意見を聞き，自己の考えを一層練り上げていったようである。そのためか，授業の良かった点についての記述はあったが，改善してほしい点についての記述は，「クーラーが無く暑かった」という意見だけであった。

回答から，受講者は互いの考えや意見を論議し，学習教材を開発・改善する活動を通じて，学習内容の理解を深め，授業に対する充実感を得たものと思われる。

5 本授業の成果と今後の課題について

この授業では，算数・数学学習において，児童・生徒の多様な考えや創造性を伸ばす教材の開発の原理と方法を概説し，それを基に受講者が学習教材の開発を行った。

受講者は，今後「教材をよりよいものに改善したい」「教材開発について自分で考えたい」等の感想を述べており，教材開発に対する認識を深め，教材開発能力を高めたものと思われる。

しかし，発表・討議を中心として授業を行ったため，取り扱うことができた題材は少なかった。次年度は，この点を改善したいと考えている。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

		評価実施日	平成 19 年 2 月 19 日		
授業科目名	数学科教材開発演習	学期・曜日・時限	後 期 月 曜日 2 時限		
授業区分	1. 教育基礎科目 2. 専門科目				
担当教員名	秋田美代, 齋藤 昇	回答者数	4 名		

1 アンケート [1] の集計と分析について

[
5 まったくそう思う
4 かなりそう思う
3 どちらともいえない
]
2 あまりそう思わない
1 まったくそう思わない
無 未記入

番号	評 価 項 目	評 価 番 号					
		5	4	3	2	1	無
1	授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。	3	1				
2	授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。	2	2				
3	授業の内容には一貫性があった。	3	1				
4	教師の実践力の育成に役立つ内容であった。	4					
5	授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。	4					
6	授業をよく準備し、熱心に教えた。	3	1				
7	授業の進む速さは適切であった。	3	1				
8	受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。	4					
9	受講生に授業への参加（質問、発言、討議など）をよく促した。	4					
10	教科書や参考書の使い方は適切であった。						
11	視聴覚機器の使用は適切であった。	3	1				
12	配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。	3	1				
13	受講生に分かりやすく説明した。	3	1				
14	教員の声は聞き取りやすかった。	4					
15	板書の文字は見やすかった。						
16	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	1				
17	この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	4					

<分 析>

この授業では、前期の「数学科教材開発研究」の授業で獲得した、算数・数学学習において児童・生徒の興味・関心を高めたり、学習内容についての理解を深めたりするための教材についての知識を基に、受講者自身が数学学習教材の開発を行い、教材開発力を高めることを目的とした。

この授業に対する評価は、全ての項目で「4または5」であった。回答から、特に「実践力の育成に役立った」「成績評価の方法は、具体的であった」「理解度を確認しながら授業を進めた」「授業への参加をよく促した」こと等の様子がうかがわれた。

受講者は、算数・数学の学習教材の開発について理解を深め、教育実践力を高めたようである。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分 析>

受講者の主な回答は、次のようであった。

- ・ 新しい教材を開発できたらよいと思った。
- ・ 数学を教えるための知識を深めたいと思った。

これらの回答から、受講者は児童・生徒に算数・数学の学習内容をしっかりと理解させるための算数・数学科担当教員としての資質・能力を身に付けるためには、教材開発力が必要であることを認識し、関心・意欲をもって授業に取り組もうとしていた様子が見えられた。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

受講者の主な回答は、次のようであった。

- ・ 教育の質を高めるための教授方略や教材を開発し討議することを通して実践的な指導力を伸ばすことができたので役に立った。
- ・ 教科書の内容をもう一度注意深く考える機会を得ることができ、より深く理解することができたのでよかった。
- ・ 自分で選択した分野について理解を深めることができ、さらに新しい課題も見つけることができたのでよかった。

これらの回答から、受講者は児童・生徒の算数・数学に対する興味・関心を高めたり、学習内容についての理解を深めたりするための教材の開発に強い関心を抱き、教員としての資質や実践力の向上に役立てたことが分かった。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点，改善してほしい点を具体的にお書きください。また，この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

1名の受講生が「全体としてとてもよかった」と記述していた以外は，授業の良かった点，改善してほしい点について，受講者からの回答はなかった。

この授業では，受講者が主体的に活動できるように，数学の授業で使用する教材に対しての考えを発表したり，自ら開発した教材を紹介したりする場面をできるだけ多く取り入れた。受講者たちは，児童・生徒の算数・数学に対する興味・関心を高めたり，学習内容についての理解を深めたりするための教材について議論し，新しい教材を開発する中で，他の受講者の考え・意見を聞き，自己の考えを一層練り上げていったようである。互いの考えや意見を論議し，学習教材を開発・改善する活動を通じて，学習内容の理解を深め，授業に対する充実感を得たものと思われる。

5 本授業の成果と今後の課題について

この授業では，受講者は，前期の「数学科教材開発研究」の授業で獲得した，算数・数学学習において，児童・生徒の興味・関心を高めたり，学習内容の理解を深めたりするための教材についての知識を基に，教材の開発を行った。

受講者は，今後「他の単元についても教材を開発したい」「この授業で作成した教具をさらに改善し，使いやすいものにしたい」との感想を述べており，教材開発に対する認識を深め，教材開発能力を高めたものと思われる。

発表・討議を中心として授業を行ったが，受講者は自分が選択した1つの単元の内容については深く研究することができたものの，他の単元については深く取り扱うことはできなかった。次年度は，もう少し多くの単元について教材開発ができるように授業を改善したいと考えている。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

		評価実施日	平成 18 年 7 月 3 日		
授業科目名	数理科学研究	学期・曜日・時限	前 期	月 曜日	3 時限
授業区分	1. 教職基礎科目 ②. 専門科目				
担当教員名	鳥巢 伊知郎	回答者数	8 名		

1 アンケート [1] の集計と分析について

〔 5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない 〕
〔 2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 未記入 〕

番号	評 価 項 目	評 価 番 号					
		5	4	3	2	1	無
1	授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。	1	3	2	1	1	
2	授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。	1	1	3	2	1	
3	授業の内容には一貫性があった。	2	2	2	1	1	
4	教師の実践力の育成に役立つ内容であった。	1	2		2	3	
5	授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。	3	1	1	2	1	
6	授業をよく準備し、熱心に教えた。	1	3	2		2	
7	授業の進む速さは適切であった。	1	1	3	2	1	
8	受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。	1	2		1	4	
9	受講生に授業への参加（質問，発言，討議など）をよく促した。		3		1	4	
10	教科書や参考書の使い方は適切であった。		1	4	1	2	
11	視聴覚機器の使用は適切であった。			5		2	1
12	配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。		1	3	1	2	1
13	受講生に分かりやすく説明した。		1	2	2	3	
14	教員の声は聞き取りやすかった。	1	1	1	2	3	
15	板書の文字は見やすかった。	2	2		2	2	
16	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	1	1	1	1	2
17	この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	1	1	3	1	1	1

<分 析>

評価結果は全般にばらばらといえる。そうなった原因の一つは授業内容が純粋数学(微分位相幾何学)であり、学部次に習得する基礎知識をほとんど復習せずに講義を進めたことにもあると思われる。その他の原因としては授業内容が抽象的すぎたことも考えられる。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分 析>

学生の主な回答をまとめると次のようであった。

- ・ 数学の専門性を高めたい。
- ・ 学部時代に学んだ基礎知識の再確認をしたい。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

学生の主な回答をまとめると次のようであった。

- ・ 実践力の育成の役には立たないと思った。
- ・ 数学の知識がとりあえず増えた。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点、改善してほしい点を具体的にお書きください。また、この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

学生の主な回答をまとめると次のようであった。

- ・ 声をもう少し大きくしてほしい。
- ・ もっと日本語と英語の両方で説明して欲しい（留学生の意見）。

5 本授業の成果と今後の課題について

最先端の数学理論の解説という講義内容であったが、それでも2、3名は最後まであきらめずについてきてくれた。「声を大きくしてしゃべって欲しい」という意見等があったので、その点については今後は改善していかななくてはならない。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

		評価実施日	平成 18 年 7 月 25 日		
授業科目名	有機化学特論	学期・曜日・時限	前期	火曜日	3時限
授業区分	1. 教職基礎科目 2. ○専門科目				
担当教官名	今倉 康宏	回答者数	7 名		

1 アンケート [1] の集計と分析について

[5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない]
 [2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 未記入]

番号	評 価 項 目	評 価 番 号					
		5	4	3	2	1	無
1	授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。	4	3	0	0	0	0
2	授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。	4	2	1	0	0	0
3	授業の内容には一貫性があった。	4	2	1	0	0	0
4	教師の実践力の育成に役立つ内容であった。	2	4	1	0	0	0
5	授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。	3	4	0	0	0	0
6	授業をよく準備し、熱心に教えた。	4	2	1	0	0	0
7	授業の進む速さは適切であった。	3	3	1	0	0	0
8	受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。	2	3	2	0	0	0
9	受講生に授業への参加（質問、発言、討議など）をよく促した。	2	4	1	0	0	0
10	教科書や参考書の使い方は適切であった。	3	2	2	0	0	0
11	視聴覚機器の使用は適切であった。	4	2	1	0	0	0
12	配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。	4	2	1	0	0	0
13	受講生に分かりやすく説明した。	3	3	1	1	0	0
14	教官の声は聞き取りやすかった。	4	3	0	0	0	0
15	板書の文字は見やすかった。	2	3	2	0	0	0
16	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	5	0	0	0	0
17	この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	3	2	2	0	0	0

<分 析>

○ 授業内容について (1～4)

長期履修の院生もいたので、実践力を育成する内容を中心にスライドを多く使用し、授業を行ったので、比較的高い平均4.4の評価を得たと思っている。

○ 教員の授業の進め方 (5～15)

平均4.3の評価であり、私の意図する教育目的がほぼ達成されていると思っている。

○ 院生さんの授業への取組 (16)

平均4.3の評価であり、ほとんどの院生が主体的・積極的に取り組んだと高い自己評価をしている。担当教員から見ても院生の授業態度は大変良かった。

○ 満足度 (17)

平均4.2の評価であり、ほとんどの院生が満足しているようである。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分 析>

院生によって書かれた原文を示す。

- 有機化学の専門的知識を修得し、理解を深めたかった。
- 有機化学をもう一度やり直す気持ちで受講しました。
- 生物の体の仕組みを理解するためには有機化学の知識が大切であると考え受講した。
- 基礎的な有機化学を学びたいと思って受講した。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

院生によって書かれた原文を示す。

- 学校で使っている物質などで利用できるものについて講義があり役に立った。(5の評価)
- 教材開発についての講義があり、実践で使える内容であった。(4の評価)

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点，改善してほしい点を具体的にお書きください。また，この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

院生によって書かれた原文を示す。

- これで勉強しなさいというテキスト的なものをレベルに応じて紹介してほしい。

5 本授業の成果と今後の課題について

有機化学の専門のみならず，教育実践例と教材の開発方法を中心に展開したことによって院生たちは，ほぼ満足する高い評価をいただいたが，毎年，受講生がこれまでに有機化学を学んできた環境が異なるため，授業の進め方が非常に難しく感じているのが正直な感想である。

事前にどのような講義内容を受講生が希望するかを尋ね，授業を進めているが，受講生の理解度を高めるための授業を推進しなければと思っている。しかし，受講生の皆さんも，もっと有機化学を理解する努力（勉強）をする気持ちを高めて頂きたいと思います。（私の授業だけでなく）

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

		評価実施日	平成 18 年 7 月 31 日			
授業科目名	分子生物学特論	学期・曜日・時限	前 期 月 曜日 1 時限			
授業区分	1. 教職基礎科目 ②. 専門科目					
担当教員名	清水宏次	回答者数	7 名			

1 アンケート [1] の集計と分析について

[
5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない
]
2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 未記入

番号	評 価 項 目	評 価 番 号					
		5	4	3	2	1	無
1	授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。	1	2	4			
2	授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。	1	6				
3	授業の内容には一貫性があった。		5	2			
4	教師の実践力の育成に役立つ内容であった。	1	2	4			
5	授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。	1	3	3			
6	授業をよく準備し、熱心に教えた。		6	1			
7	授業の進む速さは適切であった。	2	3	2			
8	受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。	1	3	3			
9	受講生に授業への参加（質問、発言、討議など）をよく促した。		4	3			
10	教科書や参考書の使い方は適切であった。	1	4	2			
11	視聴覚機器の使用は適切であった。	—	—	—	—	—	—
12	配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。	1	4	2			
13	受講生に分かりやすく説明した。	1	3	2		1	
14	教員の声は聞き取りやすかった。	3	4				
15	板書の文字は見やすかった。	2	3	3			
16	授業に主体的・積極的に取り組んだ。		4	3			
17	この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。		5	2			

<分 析>

1. 受講生には、生物学と生化学の基礎学力の無い者から、ある程度の知識があり少し専門的な最新の知識を得たい者まで居て、幅が広く奥行きが深い分子生物学の何を教授すれば良いのかは、限られた授業時間であり、また、分子生物学をこれから専門とする職業に就かない者を相手にするわけで、当然、いろいろな評価が出てくる。
2. 受講者からアンケートの項目と内容に不満があるとの意見が数名から出た。受講者側からのアンケートに対する妥当性も検討するべきである。
3. 英語の教科書を使用しているのでも、基礎学力がなく英語力も低い者は当然理解が浅くなるが、それでもやさしく解説すればその時は分かってくれる。問題は必要な時に役立つ知識として培っているかどうかである。それを試される受講生がどれだけ居るのかは全く分からない。これは不便である。
4. 教育実践にどれだけ役立つかは授業内容ではなくて受講者の側の取り組みに掛かっている。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分 析>

1. 最新の生物学的成果に関するニュースとか必要性に遅れないように授業を選択した受講者が多い。この目的が成就されるかどうかは受講者も積極的に授業内容に取り組む必要がある。受け身ばかりでは何も身に付かないし、発展性も期待できない。
2. 何を学びたいか、という準備がなされていないと、受講者の要求に応えることは不可能である。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

1. 高校教諭の受講生は、現場と専門的知識の活用にうまく適合できていたように思う。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点，改善してほしい点を具体的にお書きください。また，この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

1. 専門に関する知識が出来てから質問できる内容である。専門性が必要でない受講生には答えにくいと思う。

5 本授業の成果と今後の課題について

1. 専門知識を教員養成系大学院修士課程でどの程度必要とするのかは相変わらず分からない。このくらいは知っておいて欲しいと思っても、受講生の多様性には対応出来ない。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

		評 価 実 施 日	平成	19年	2月	13日
授業科目名	電磁気学特論	学期・曜日・時限	後期	火曜日	3 時限	
授業区分	1. 教職基礎科目 2. ○専門科目					
担当教員名	松川徳雄	回答者数	2名			

1 アンケート [1] の集計と分析について

[5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない]
 [2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 未記入]

番号	評 価 項 目	評 価 番 号					
		5	4	3	2	1	無
1	授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。	2					
2	授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。	2					
3	授業の内容には一貫性があった。	2					
4	教師の実践力の育成に役立つ内容であった。	2					
5	授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。		1	1			
6	授業をよく準備し、熱心に教えた。	2					
7	授業の進む速さは適切であった。	2					
8	受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。	2					
9	受講生に授業への参加（質問、発言、討議など）をよく促した。	1	1				
10	教科書や参考書の使い方は適切であった。	2					
11	視聴覚機器の使用は適切であった。			2			
12	配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。			2			
13	受講生に分かりやすく説明した。	2					
14	教員の声は聞き取りやすかった。	1		1			
15	板書の文字は見やすかった。			2			
16	授業に主体的・積極的に取り組んだ。		2				
17	この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	2					

<分 析>

受講生の2名は現職教師とストレートマスターで、両名とも大学で物理を履修しており、更に進んだ物理学に関心を示していた。理科教師または希望している人たちであったので、内容論とは別に高校物理の背後にある思考方法論，原理論について理解するようつとめた。関心と理解度を見ながら洋書輪読を進めたが講義の趣旨はよく理解されたようである。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分 析>

物理に関心があり、高校物理の基礎となる専門知識を深めたいと意欲と関心を示していた。

洋書輪読のテキストの選択、輪読の進め方を通して十分に期待に添えたと思う。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

高校の教科書に出てくる公式の原理、教育法について興味を示していた。

輪読中の自分の観察もそのようだったので、意識して話の重点をそちらに考慮して進めたので期待に添えたと思う。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点，改善してほしい点を具体的にお書きください。また，この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

輪読テキストとして使った英文教科書は受講者の興味，関心に適合していたようだ。

授業で演習を望む意見もあったが，そこまで話を具体的に展開するには絶対的に時間が足りなかった。

5 本授業の成果と今後の課題について

高校よりさらに進んだ物理内容を自学できるように出来たと思う。

物理履修歴のない受講生に，どの程度の内容をどのように教えるかが課題として残る。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

		評価実施日	平成 18 年 7 月 27 日		
授業科目名	地球科学特論Ⅱ	学期・曜日・時限	前 期 木 曜 日 5 時 限		
授業区分	1. 教職基礎科目 x 2. 専門科目				
担当教員名	○村田 守・香西 武・西村 宏	回答者数	12 名		

1 アンケート [1] の集計と分析について

〔 5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない 〕
〔 2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 未記入 〕

番号	評 価 項 目	評 価 番 号					
		5	4	3	2	1	無
1	授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。	9	3	0	0	0	0
2	授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。	10	2	0	0	0	0
3	授業の内容には一貫性があった。	11	0	0	0	0	0
4	教師の実践力の育成に役立つ内容であった。	11	1	0	0	0	0
5	授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。	7	4	1	0	0	0
6	授業をよく準備し、熱心に教えた。	11	1	0	0	0	0
7	授業の進む速さは適切であった。	10	2	0	0	0	0
8	受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。	9	3	0	0	0	0
9	受講生に授業への参加（質問，発言，討議など）をよく促した。	7	3	1	1	0	0
10	教科書や参考書の使い方は適切であった。	6	3	3	0	0	0
11	視聴覚機器の使用は適切であった。	9	2	1	0	0	0
12	配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。	9	2	1	0	0	0
13	受講生に分かりやすく説明した。	11	1	0	0	0	0
14	教員の声は聞き取りやすかった。	10	2	0	0	0	0
15	板書の文字は見やすかった。	8	3	1	0	0	0
16	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	9	3	0	0	0	0
17	この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	11	1	0	0	0	0

<分 析>

大学院生（含現職教員）にもノートがとれない者がいるので、極力図の配布や投影での説明を止め、図を板書することで、受講生に図と説明が一体化したノートができるように努めた。12名全員が熱心に受講してくれたので、講義内容が深く・広くなり、説明の説明が必要になるなど時間的に余裕がなく、残念であった。しかし、彼等のノートは、今後の授業のバックボーンとして良い参考書となるであろう。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分 析>

- 地震や防災教育について興味があったし、シラバスを見て面白そうだった。
- 総合理科Bに地学分野の内容を教えなければならぬので、新しい知識を得たいと思った。また、災害について正しい認識をもちたいと思った。
- 地球内部のつくりや、なぜプレートがおこるのか、深いことがわからなかったので、知りたいと思いうけた。
- 地震、防災について知りたい。プレュームテクトニクスについて興味があった。
- 地学分野に関する知識をより深めようと思った。
- 専門教育を学ぼうと思った。
- 地学に興味があり、地球規模の動きを知りたかったから。
- プレートテクトニクスからプレュームテクトニクスへの基礎知識を学びたくて受講した。また、防災教育についても学びたかった。
- 近未来の南海地震に大変興味があったので。
- 内容（分野）に興味があったので、受講しました。
- 地震防災について非常に興味があり大変魅力を感じた。講義内容、話し方、毎回楽しみな授業だった。
- 最初の地学教育の内容を知りたかった。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

- 理解しやすく、「子ども達にもこういう風に教えられたらいいのか」とか「授業の進め方が参考になるな」と思ったから。
- 総合理科Bに地学分野の内容を教えなければならぬので、新しい知識を得たいと思った。また、災害について正しい認識をもちたいと思った。
- マグマができる理由やプレートが動く理由、地震のひがひ等たいへんよくわかった。授業でもバックボーンをもって教えられそうである。
- 学校現場で「防災」について学習するのにとても役立ちそうだった。また地学の授業を中学校の内容までしか受けたことがなかったので、現場に帰ったときに、知識として持っておくと授業に役立つと思いました。
- 今までプレートの移動については、簡略化された説明しか聞いたことがなかったので、非常に為になった。
- 今まであまり勉強していない分野であったので、非常に役立った。
- 具体的な内容（地震についての知識）を教えてもらい、学校での安全教育に直結する内容であった。
- 前半の地震と防災についての話題はとても学校現場でも役立つ話であった。理科の授業だけでなく、教員研修等にもよいのではないかと思う。
- 防災訓練や、近づいている南海地震について学校で大変役立ちます。
- 生活に関連する内容もあったので、この知識を使える場がたくさんありそうだから。
- 専門的な内容という要素が強かったが、防災教育という面での話があったため、それについては教師が現場で役立つ内容だった。
- 大陸移動説からプレュームテクトニクスへ変わってきたところを具体的に教えて下さって、地学の授業に大いに役立つ内容であった。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点、改善してほしい点を具体的にお書きください。また、この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

- 授業がとても楽しくて、興味深くて、良かったと思います。
- 大変わかりやすい説明で、OHPの図はわかりやすかったです。ただ、少し見えずらいものがあった残念でした。先生のユーモアあうれる講義は毎週とても楽しみでした。
- OHP板書ともわかりやすく、「なるほど」と思えました。また先生のユーモアあるジョークもふくめて、たいへんたのしく授業をうけることができました。
- わかりやすい例をあげて説明してください、よく理解できました。とてもおもしろかったです。
- 授業の最後に、スライドのプリントが欲しかった。配布は不可ですか？
- スライドを見せるのは良いが、プリントとして手元に資料があれば、復習も出来るので、もっと授業ができると感じた。
- 受講者に分かりやすく丁寧に教えて下さった。後で、ノートを見直すと、内容がよく理解出来た（内容がうまくまとめられていた）。
- 様々な地層の写真を見せていただけてよかった。鉱物や岩石の話も聞かせていただけてよかったかな...と思う。
- 目に優しいOHPで大変分かりやすかったが、途中で質問も受け付けてほしかった。
- 図と文字がいりみだれ、ノートが整理しにくい時があったので改善していただければありがたいです。話は体験例などでわかりやすく説明していただいたのが良かった。
- 先生の説明がとてもわかりやすく、とにかく理解しやすかった。OHPを勝つような資料提示が多かったが、若干暗く見えにくいことが多かった。パワーポイント等とプロジェクターを組み合わせることで、より効果的に資料を提示できると思った。
- OHPシートが見えにくかったのが残念であった。重要な内容は、もう一度板書して下さったが、OHPももっとくわしく見えればさらに良いと思う。明るさを調整するだけでも違うと思う。

5 本授業の成果と今後の課題について

理科コースの現職教員、他コースの現職教員、理科コースの院生、他コースの院生、長期履修院生と、その経歴も多様な受講生に最大公約数的な講義を行った。アンケートに白紙がなく、全員が各項目に真面目に答えてくれたことから分かるように、満足度の高い評価を受けた。今後も、この講義方式でやっていきたい。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

		評価実施日	平成 19 年 1 月 30 日		
授業科目名	自然科学史	学期・曜日・時限	後 期 火 曜 日 1 時 限		
授業区分	1. 教職基礎科目 2. 専門科目				
担当教員名	粟田高明, 村田勝夫, 清水宏次		回答者数	4 名	

1 アンケート [1] の集計と分析について

[5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない]
 [2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 未記入]

番号	評 価 項 目	評 価 番 号					
		5	4	3	2	1	無
1	授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。	3	1				
2	授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。	2	2				
3	授業の内容には一貫性があった。	4					
4	教師の実践力の育成に役立つ内容であった。	2	1	1			
5	授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。	3	1				
6	授業をよく準備し、熱心に教えた。	4					
7	授業の進む速さは適切であった。	4					
8	受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。	2	1	1			
9	受講生に授業への参加（質問、発言、討議など）をよく促した。	1	1	2			
10	教科書や参考書の使い方は適切であった。	3		1			
11	視聴覚機器の使用は適切であった。	4					
12	配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。	4					
13	受講生に分かりやすく説明した。	4					
14	教員の声は聞き取りやすかった。	4					
15	板書の文字は見やすかった。	3		1			
16	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4					
17	この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	2	2				

<分 析>

受講者は現職教員1名、長期履修学生3名の計4名であった。母数が少ないために、学生の評価を統計的に分析することはできないが、概ね、授業内容や方法に不満は無かったようである。但し、授業形態が講義形式であったので、授業者から受講者への一方通行になりがちであった点は、今後改善していく必要があると考えられる。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分 析>

「分野ごとに科学史を学べるために、それぞれの分野がどのように発展していったか、系統的に学んでいこうと思った。」「理科分野の歴史を学ぶことを目的とした。」「現在の科学の基になっている部分のを知り、理解したかった。」など、純粋に自然科学の歴史や自然観の変遷を学ぼうとして受講した者が大半であった。これは当初の目的に近いものである。また内容を今後の授業に役立てたいと考えている者もいた。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

「科学的法則を教える際のエピソードになりうる。」「教壇に立ってすぐに役立つ内容ではないが、知っていて損のない内容であった。」「(自然科学の) 歴史や流れを知ることによってより深い知識を教えることができそうである。」といった、好意的な意見が大半を占めた。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点，改善してほしい点を具体的にお書きください。また，この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

「受講者がより参加しやすい授業形式に。」「日本における科学史の変遷や最近の話題をもう少し紹介してほしい。」といった意見があった。後者の意見に関しては，時間の関係で触れることができなかった。来年度に向けて，時間の配分等を考慮して触れていきたい。

5 本授業の成果と今後の課題について

受講者は概ね，講義に満足しているようであるので，4の項目で触れた，受講者がより参加しやすい授業，最近のトピックスにも触れられるような時間配分を次年度以降，目指していきたい。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

		評 価 実 施 日	平成 18 年 7 月 20 日		
授業科目名	進化生物学特論	学期・曜日・時限	前期 木曜日 2時限		
授業区分	1. 教職基礎科目 ② 専門科目				
担当教員名	工藤慎一	回答者数	8 名		

1 アンケート [1] の集計と分析について

[5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない]
 [2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 未記入]

番 号	評 価 項 目	評 価 番 号					
		5	4	3	2	1	無
1	授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。	4	4				
2	授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。	4	4				
3	授業の内容には一貫性があった。	6	2				
4	教師の実践力の育成に役立つ内容であった。	5	2	1			
5	授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。	5	3				
6	授業をよく準備し、熱心に教えた。	6	2				
7	授業の進む速さは適切であった。	3	4	1			
8	受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。	5	3				
9	受講生に授業への参加（質問、発言、討議など）をよく促した。	2	5		1		
10	教科書や参考書の使い方は適切であった。	1	5	2			
11	視聴覚機器の使用は適切であった。	2	3	2			1
12	配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。	6	2				
13	受講生に分かりやすく説明した。	6	2				
14	教員の声は聞き取りやすかった。	4	4				
15	板書の文字は見やすかった。	3	3	2			

16	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	3	1			
17	この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	5	3				

<分 析>

平均スコアは4.44±0.42 (SD) と低くなかった。授業内容や方法に大きな不満はなかったようである。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分 析>

「学問内容自体への興味」が受講の主な動機だったようである。授業概要で内容は確認済みだろうから、当然、その範囲内で各人期待することは多様であろう

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

「授業を行う上で基礎となる知識や考えを学ぶことができた」という解答が複数あった。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点、改善してほしい点を具体的にお書きください。また、この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

「講義内容が興味深かった」という解答が複数あった。また、「ゼミ形式が効果的だったので、もっと時間を割いてほしかった」という要望があった。

5 本授業の成果と今後の課題について

講義内容や方法に大きな問題は無いと判断している。理解の程度は受講生各人異なるだろうが、(進化生物学の基礎知識習得に加えて) 素朴な一般知識を鵜呑みにする危険性、物事を論理的に考え真偽を判断することの重要性に気づいてもらえれば、この講義の目的は達せられたと考えている。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

		評価実施日	平成 19 年 2 月 28 日		
授業科目名	物理化学特論	学期・曜日・時限	後 期 金 曜 日 3 時 限		
授業区分	1. 教職基礎科目 2. 専門科目				
担当教員名	武田 清	回答者数	2 名		

1 アンケート [1] の集計と分析について

[5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない]
 [2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 未記入]

番号	評 価 項 目	評 価 番 号					
		5	4	3	2	1	無
1	授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。	2					
2	授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。	2					
3	授業の内容には一貫性があった。	2					
4	教師の実践力の育成に役立つ内容であった。	1	1				
5	授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。	2					
6	授業をよく準備し、熱心に教えた。	2					
7	授業の進む速さは適切であった。	2					
8	受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。	2					
9	受講生に授業への参加（質問，発言，討議など）をよく促した。	1	1				
10	教科書や参考書の使い方は適切であった。	2					
11	視聴覚機器の使用は適切であった。	1	1				
12	配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。	2					
13	受講生に分かりやすく説明した。	2					
14	教員の声は聞き取りやすかった。	2					
15	板書の文字は見やすかった。	2					
16	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1	1				
17	この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	2					

<分 析>

たった2名の回答では分析そのものに意味はない。全体として高い評価となっていることは、少人数での授業では当然の結果であり、特にコメントの必要はない。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分 析>

受講者はいずれも高い“専門性”を身につけることを目的として本授業を受講している。ただし本学においては“専門性”が何を意味しているのかは、しばしば齟齬のあることがある。基本的にこの授業では、物理化学的内容に関して身近な物質の状態を解説することを目指しているが、これだけで十分な専門性を獲得するのは難しいと考えている。受講者諸君にはより高い専門的知識・技能の習得に励んでいただきたい。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

授業では、身近な物質の状態変化や、専門的内容の理科内容との連関に注意を惹きながら解説を行うよう努めた。その点を評価してもらっていることはよいことであった。一方で、元来教師の実践力の育成を目指した授業ではないことから、それに役だったとすれば、より抽象的な内容も含めて授業展開することにより、より高度な内容についての解説も可能であったかと反省している。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点，改善してほしい点を具体的にお書きください。また，この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

各受講者ともに，改善点は特に指摘していなかった。

5 本授業の成果と今後の課題について

自ら反省するとすれば，より抽象的な内容まで発展させていくことにより，より高度な内容の授業を展開できるのではないかと考えている。一方で，実物を見せる努力も必要であり，演示実験などを増やしていくことができないか考えている。しかしながら，専門的講義の内容を演示するための簡単な実験は存在せず，適当な実験を考えているところである。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

		評価実施日	2006年7月26日
授業科目名	物性物理学特論	学期・曜日・時限	前期・水曜日・1時限
授業区分	1. 教職基礎科目 <input checked="" type="checkbox"/> 2. 専門科目		
担当教員名	本田 亮	回答者数	5名

1 アンケート [1] の集計と分析について

[5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない]
[2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 未記入]

番号	評 価 項 目	評 価 番 号					
		5	4	3	2	1	無
1	授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。	3	2				
2	授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。	2	2	1			
3	授業の内容には一貫性があった。	3	2				
4	教師の実践力の育成に役立つ内容であった。	3	2				
5	授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。	5					
6	授業をよく準備し、熱心に教えた。	4	1				
7	授業の進む速さは適切であった。	3	2				
8	受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。	4	1				
9	受講生に授業への参加（質問、発言、討議など）をよく促した。	3	2				
10	教科書や参考書の使い方は適切であった。	3	2				
11	視聴覚機器の使用は適切であった。						1
12	配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。	3	2				
13	受講生に分かりやすく説明した。	4	1				
14	教員の声は聞き取りやすかった。	4	1				
15	板書の文字は見やすかった。	2	3				
16	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	3				
17	この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	3	2				

<分 析>

受講生が少ないという利点をいかして、受講生の様子をうかがいながら授業を行なった。毎年のことであるが、アンケート[2]-[4]に対する回答内容が乏しいため、どの項目についても詳細な分析は不可能である。この種の授業評価アンケートは形式だけのもので、時間と用紙の浪費である。アンケートを実施する価値が見出されない。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分 析>

受講者にはそれぞれの思いがあるので、そのことに関してコメントするつもりはない。物理的内容を少しでも理解していただければ良しと思っているに過ぎない。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

授業担当者は、質問事項にある「教師の実践力」が意味しているところを理解していないので、分析は不可能である。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点、改善してほしい点を具体的にお書きください。また、この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

授業に対する否定的な意見はなく、受講生からの要望も記述されていない。したがって、コメントすることは無い。

5 本授業の成果と今後の課題について

過去に記載した内容と同じで、受講生の物理の既得情報を考慮し、授業内容の細かな部分を柔軟に変えてきた。今後も同様な方法をとる。

第 4 部

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

		評価実施日	平成19年2月16日		
授業科目名	歌唱表現演習	学期・曜日・時限	後期 金曜日 2時限		
授業区分	1. 教職基礎科目 2. 専門科目				
担当教員名	草下 實	回答者数	4名		

1 アンケート [1] の集計と分析について

[5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない]
 [2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 未記入]

番号	評 価 項 目	評 価 番 号					
		5	4	3	2	1	無
1	授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。	3	1				
2	授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。	3	1				
3	授業の内容には一貫性があった。	4					
4	教師の実践力の育成に役立つ内容であった。	3	1				
5	授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。	3		1			
6	授業をよく準備し、熱心に教えた。	3	1				
7	授業の進む速さは適切であった。	4					
8	受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。	4					
9	受講生に授業への参加（質問、発言、討議など）をよく促した。	4					
10	教科書や参考書の使い方は適切であった。	3	1				
11	視聴覚機器は使用は適切であった。	—	—	—	—	—	—
12	配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。	3	1				
13	受講生に分かりやすく説明した。	4					
14	教員の声は聞き取りやすかった。	4					
15	板書の文字は見やすかった。	4					
16	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	1				
17	この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	3	1				

<分 析>

各設問に係る評価は概ね良い結果が得られている。従って、授業の内容・方法については特に問題はないものとする。しかし、設問5における成績の評価の方法、テキスト・参考書・配布資料の選択及び内容の精査・使用のあり方について、さらに工夫したい。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分 析>

授業に対する履修学生の問題意識や期待については、授業シラバスに記載した授業の目標、趣旨、内容を比較的にしっかりと理解して受講していることがわかる。全履修者が一応に歌唱に関わる表現の方法や表現構成要素となる言葉や旋律、発声のあり方についての知識や技法の理解に期待感をもって受講していることがわかる。(以下、受講生の意見を抜粋)

- 声楽は自分の専門ではないが、音楽で大切な表現するということを学びたかった。
- 歌曲の歌詞と旋律や和音との関連、音楽の持つ内容をいかに表現するか
- 自分の声の可能性を引き出してもらいたいと思った。また、表現の具体的な方法を知りたかった。
- 音楽に触れて表現したいとおもっても、その裏付けや表現方法がわかかなければ表現できません。そのことを学びたかった。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

(以下、受講生の意見を抜粋)

- 心に描いたこと、感じたことをありのままに表現する。このことを伝えられたら、心豊かに育つことができるのではないかと思いました。
- 単に音程を正しく歌詞をつけて歌うというだけでは音楽を表現できない。また、教師自身がそのような歌を範唱しては子ども達の音楽への関心を減じてしまいかねない。
- 自分や友達の声が先生の指導によって変わっていくのが分かった。歌う側の体や声や心について知るとともに、どういう指導が人を変えていくのかがわかった。
- 発声の仕方から丁寧に教えていただいた。音楽という枠から離れ、文学的のところまで説明していただき視野が広まった気がする。個人指導があり、個々のレベルに合わせた丁寧な内容であった。

上掲した受講生の意見にあるように、本授業は歌唱表現を学ぶに当たって、山田耕筰の童謡を扱い、単に表現技能の習得を目的とするのではなく、子どもだけではなく大人のうちにある「童心」という心の問題とその思想観を思考することで、音楽科教育実践の中心をなす歌唱指導のあり方を導くという授業の意図は達成されている。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点，改善してほしい点を具体的にお書きください。また，この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

この設問に対しては、「丁寧で良い」、「わかりやすい」、「このままの授業で良い」など肯定的な意見が占めている。従って，授業の目標・趣旨・内容・方法・展開を含め，良い評価を得ている。

5 本授業の成果と今後の課題について

当該授業については，受講生からの評価は概ね良好である。しかしながら，授業内容や指導方法について，さらに工夫を加えて充実した学習成果をあげられるよう努力したい。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

		評価実施日	平成 18年 7 月 25 日		
授業科目名	声楽発声法	学期・曜日・時限	前期	火曜日	5時限
授業区分	1. 教職基礎科目 ②. 専門科目				
担当教員名	頃安 利秀	回答者数	14 名		

1 アンケート [1] の集計と分析について

[
5 まったくそう思う
4 かなりそう思う
3 どちらともいえない
]
2 あまりそう思わない
1 まったくそう思わない
無 未記入

番号	評 価 項 目	評 価 番 号					
		5	4	3	2	1	無
1	授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。	11	3	0	0	0	0
2	授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。	8	6	0	0	0	0
3	授業の内容には一貫性があった。	12	2	0	0	0	0
4	教師の実践力の育成に役立つ内容であった。	11	2	1	0	0	0
5	授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。	9	5	0	0	0	0
6	授業をよく準備し、熱心に教えた。	12	2	0	0	0	0
7	授業の進む速さは適切であった。	9	5	0	0	0	0
8	受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。	10	4	0	0	0	0
9	受講生に授業への参加（質問、発言、討議など）をよく促した。	7	6	1	0	0	0
10	教科書や参考書の使い方は適切であった。	5	9	0	0	0	0
11	視聴覚機器の使用は適切であった。	9	5	0	0	0	0
12	配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。	10	4	0	0	0	0
13	受講生に分かりやすく説明した。	11	3	0	0	0	0
14	教員の声は聞き取りやすかった。	11	3	0	0	0	0
15	板書の文字は見やすかった。	8	5	1	0	0	0
16	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	11	3	0	0	0	0
17	この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	11	3	0	0	0	0

<分 析>

全体の平均値をとると4.68であった。項目別に見ると、項目3と項目6が最も高い平均値(4.86)を示している。逆に最も低い平均値は問10の4.36であった。全体的にほとんどが4ポイント以上で、3ポイントが3項目あるだけである。その中で項目4では14人中11人が評価5をつけており、十分に評価されていると考えられる。項目2、項目9、項目15が若干他の項目に比べ、評価が低くなっており、改善の余地があるように思う。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分 析>

まず第1に自分自身がうまく歌えるようになりたいと思って受講しているようである。その上でそれを学校現場で教えることに役立てたいと考えている。ただし受講生の中には現職教員以外の学生も多く含まれているので、まずは自分自身の声の問題や、歌うことに関する疑問を解決したいと考えて受講しているものと考えられる。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

授業の中で、実践を通して何かをつかんだ受講生は、それを学校現場で役立てていきたいと考えている。また自分の中にあった歌うことに関する疑問が解決されたために、学校で子どもたちの疑問にも的確に答えてやることができる、という回答もあった。

しかしまだ「歌う」ことについて、自分自身の自信とつながっていない人の場合は、教師としての実践力までにはなっていないようである。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点、改善してほしい点を具体的にお書きください。また、この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

授業の前半は理論的な講義が中心であったために、中には最初から声を出して歌いたい人もいたようである。しかし学校現場で教える教師としては、実践の裏づけとなる理論についても理解しておく必要があるように思う。歌唱課題は各自自由に選び、それを発表するというようにしたが、共通課題があったほうがいい、と考えた人もいたようである。ただ一人ひとりのこれまでの音楽的な経験に差があるため、共通課題を与えることにはあまり賛成できない。しかし、部分的に、たとえば発声練習に限って共通課題を与えることはできると思うので、検討したい。

5 本授業の成果と今後の課題について

本授業は全体的に大変良い評価が与えられたと考えている。「歌う」ということを、理論から始め、からだの仕組みや、使い方、またからだほぐしなどを実践的に学び、そして「自然で無理のない声で歌う」ということにつなげていくことができたように考える。

今後さらに声を出す様々な行為、例えば、話すこと、朗読すること、呼びかけることなどにも範囲を拡げて考えていきたい。また学校教員として、生徒にしっかりと声が届くような声の出し方にも言及していけるようにしたい。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

		評価実施日	平成 18年 7月 27日
授業科目名	楽曲分析研究	学期・曜日・時限	前期 金曜日 4時限
授業区分	1. 教職基礎科目 2. ○専門科目		
担当教員名	松岡貴史	回答者数	12名

1 アンケート [1] の集計と分析について

[5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない]
 [2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 未記入]

番号	評 価 項 目	評 価 番 号					
		5	4	3	2	1	無
1	授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。	5	6	1	0	0	0
2	授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。	8	3	1	0	0	0
3	授業の内容には一貫性があった。	9	3	0	0	0	0
4	教師の実践力の育成に役立つ内容であった。	8	2	2	0	0	0
5	授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。	8	3	1	0	0	0
6	授業をよく準備し、熱心に教えた。	10	2	0	0	0	0
7	授業の進む速さは適切であった。	6	3	2	0	1	0
8	受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。	5	6	0	0	1	0
9	受講生に授業への参加（質問、発言、討議など）をよく促した。	8	3	1	0	0	0
10	教科書や参考書の使い方は適切であった。	0	0	0	0	0	12
11	視聴覚機器の使用は適切であった。	9	3	0	0	0	0
12	配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。	9	3	0	0	0	0
13	受講生に分かりやすく説明した。	6	4	0	1	1	0
14	教員の声は聞き取りやすかった。	7	4	1	0	0	0
15	板書の文字は見やすかった。	6	4	0	2	0	0
16	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	7	3	2	0	0	0
17	この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	8	3	0	1	0	0

<分 析>

受講者15名（音楽コース以外の受講者3名、及び留学生1名を含む。）のうち3名が当日欠席し、12名の回答を得た。概ね良好な結果が出ている。授業者・受講者とも熱心に取り組み、授業は盛り上がりのある展開となった。

この授業で取り扱う内容は、音楽的基礎の十分でない受講者にとってはむずかしく感じられる面があり、今回もそうした受講者がわずかにあるものの、全体としては、受講者の満足度が高かったようである。それでも、様々な受講者の立場に立って考えるという授業への姿勢は、ずっと維持していくつもりである。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたか？ 具体的にお書きください。

<分 析>

たくさんの期待が綴られていたが、概ね以下のようにまとめることができる。

- ・音楽を専門に学んだことがなかったので、楽譜を解釈する方法について是非学びたい。
- ・楽曲を分析する手がかりと、分析によって何が得られるかを知りたかった。
- ・楽曲分析した上で演奏にのぞみ、演奏の技術を向上させたい。
- ・楽譜に隠されたおもしろさを知りたい。
- ・楽曲分析によって何気なく聞き流していた曲も別の見方や新たな発見ができると思い、その視点を教えて欲しい。
- ・作曲するための力を養いたい。

受講の目的として、楽曲分析の知識がないので学びたい、新たな発見の機会としたい、演奏に生かしたい、作曲に生かしたい等が読み取れる。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

多くの記述があったが、概ね以下のようにまとめることができる。

- ・楽曲分析は、授業実践で、準備段階において必要なものだと思う。
- ・楽曲分析の実際を通して、分析の基礎的なことを丁寧に教えてくれた。
- ・説明の仕方、アプローチの方法など、興味深かった。
- ・様々な地域の文化に触れることができ、視野を広めることができた。
- ・自分の祖国の音楽を日本のみんなに紹介できて良かった。
- ・教師になるために何を学んでおくべきか、何が足りないのかが分かった。
- ・難しい高度な内容は小学校教員コースには直接的に役立つとは言い難いかもしれないけど、曲の見方や旋法、拍節感などが大切だということが分かった。
- ・授業内容はとても高く評価しているし、十二分に満足できるものであったが、専門外の自分の仕事に直接役立つところは少ないと思った。
- ・様々なコースから受講生が来ていてとても良いのだが、時折段違いにハイレベルな内容に触れるので、刺激的なのだがついていけない時がある。

分析する楽曲については、学校教材をはじめ、様々な時代、様式、地域、ジャンルにまたがりつつも、受講者の希望に添うようにした。その結果、今回の授業では学校教材は決して多くなかったため、即戦力として直接的に、教師の実践力の育成に役立てることはできなかったかもしれない。しかし、分析の方法を伝授したにとどまらず、様々な文化に深く触れることができ、幅広い視野、応用力、問題解決能力など、教師の実践力として重要な、いわば表には見えにくい奥行き部分を提示できたと思う。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点、改善してほしい点を具体的にお書きください。また、この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

多くの記述があったが、概ね以下のようにまとめることができる。

- ・ 学生が持ちよる楽曲を分析するので、「やらされている」感じがなく、自主的に参加できた。
- ・ 毎回違ったテーマで、それに合った話をしていただけておもしろかった。
- ・ とても丁寧ないろいろなジャンルをとりあげてもらい、楽しかった。
- ・ 分析したあと、すぐにその曲の（生）演奏が聴けて、より良く理解ができた。
- ・ 素晴らしい内容で、とても満足しました。もっと長く受けていたかった。
- ・ かなり詳しく説明してくださったと思いますが、板書され始めると少し早くなる傾向があったと思います。
- ・ 少し理論が入り込みすぎてついていけないところもあった。
- ・ 最初から難しく、理解できない。もっと基礎から話をしてほしい。

受講者のニーズや学習段階に大きな開きがあるので、ひとつのクラスの中で授業を展開する難しさはあるが、また逆にそれが様々な視点や感性を提供することになり、受講者にとっても授業者にとっても新たな発見があり、クラスとしての活力を高めることにもなる。こうした授業を長年やってきて思うことは、これは大学院の授業なので、（基礎をもっと身につけたい者には個別指導も行うので、）受講者にはもっと高いところを目指して切磋琢磨して欲しいということである。ただ、板書を始めると確かに話のテンポが速くなる傾向があると思うので、もっと冷静に進めるよう心がけたい。

5 本授業の成果と今後の課題について

成果については、これまでの記述がすでにそれを物語っている。

今後は、理解を確かめる声かけを、更にもっと頻繁に行うように努めたい。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

		評価実施日	平成 18年 7月 20日		
授業科目名	ピアノ演奏基礎演習	学期・曜日・時限	前期	木曜日	2時限
授業区分	1. 教職基礎科目 ②. 専門科目				
担当教員名	村澤 由利子、森 正	回答者数	12名		

1 アンケート [1] の集計と分析について

〔 5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない 〕
〔 2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 未記入 〕

番号	評 価 項 目	評 価 番 号					
		5	4	3	2	1	無
1	授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。	7	4	1			
2	授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。						
3	授業の内容には一貫性があった。	8	4				
4	教師の実践力の育成に役立つ内容であった。	6	2	4			
5	授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。	4	6	1	1		
6	授業をよく準備し、熱心に教えた。	7	5				
7	授業の進む速さは適切であった。	7	3	2			
8	受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。	8	4				
9	受講生に授業への参加（質問、発言、討議など）をよく促した。						
10	教科書や参考書の使い方は適切であった。						
11	視聴覚機器の使用は適切であった。						
12	配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。						
13	受講生に分かりやすく説明した。	9	2	1			
14	教員の声は聞き取りやすかった。	9	2	1			
15	板書の文字は見やすかった。						
16	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	10	2				
17	この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	8	3	1			

<分 析>

概ね受講した学生から評価された授業であると考えが、修了演奏試験の準備として受講した学生もいれば、教育現場において少しでも役に立つピアノの演奏方法を身につけることを目的に受講した学生、教員採用試験の対策のために受講した学生、このような受講生の立場の違いから多少の評価のばらつきがあったと思われる。

今回の授業はあくまでも個人個人の課題に対して研究をスタートさせることがねらいであり、授業が終了した後もピアノに対する興味を失わず積極的に学習が継続できるように、事後の指導についても機会をみては行っていきたい。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが、具体的に書きください。

<分 析>

ピアノ演奏の基礎を習得する、または以前に学習した内容を基礎から再確認することを期待する受講生が多く、その点では個人レッスンやグループ・レッスンが中心となるので、各受講生の状況に応じた授業を行うことができた。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的に書きください。

<分 析>

「教師の実践力」というよりは「自己の実践力」の点で役にたったと答えた学生もいたが、教師の実践力ということに具体的なイメージがわからない学生もいた。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点、改善してほしい点を具体的にお書きください。また、この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

もう少し学生の意向や意見を取り入れてほしい、という意見もあったが、基礎という位置付けから、当然身に付けてほしい事柄を中心とした授業だったわけで、その点を授業概要や授業で説明する必要を感じた。

5 本授業の成果と今後の課題について

個人の状況に応じた指導が高く評価されたが、その分、個人個人がこちらからの要求に応えることができず、悩んでいた場合もあった。また長期履修制度との関係で、今まで以上に教員採用試験の準備の為に受講した学生もいた。

教員採用試験を想定した授業はこれまで、学部を中心に行っていたが、それを大学院の授業でとりあげるのかは今後の検討が必要である。あくまでも大学院の授業であり、いくら個人指導が中心になっているとはいえ、評価等のことから足並みを揃える必要もあり受講生にはあくまでも大学院での開講授業という認識は必要であると考えます。また、そのためにも授業概要の書き方を工夫する必要を感じた。

指導する立場としては、すでに述べたように入学当初の慌ただしい時期に行われる授業で、学生個人への習熟度も幅広いために準備不足の学生もおり、不本意な状況で授業を受けざるを得ないようであった。

学生ひとりひとりの日頃の練習が、授業を進める際には非常に重要な要点となるので、今後はこのような状況も踏まえて授業を計画、実行する必要があると考えます。また授業概要の段階でも、その点を考慮した記述を行いたい。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

	評 価 実 施 日	平成 18 年 7 月 31 日	
授業科目名	塑造制作演習	学期・曜日・時限	前期 ・月曜日・ 3 時限
授業区分	1. 教職基礎科目 2. 専門科目		
担当教員名	長 岡 強	回答者数	3 名

1 アンケート [1] の集計と分析について

[5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない]
 [2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 未記入]

番号	評 価 項 目	評 価 番 号					
		5	4	3	2	1	無
1	授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。	1	2				
2	授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。	2	1				
3	授業の内容には一貫性があった。	2	1				
4	教師の実践力の育成に役立つ内容であった。	1	2				
5	授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。	1	1	1			
6	授業をよく準備し、熱心に教えた。	3					
7	授業の進む速さは適切であった。	1	2				
8	受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。	1	1	1			
9	受講生に授業への参加（質問，発言，討議など）をよく促した。						
10	教科書や参考書の使い方は適切であった。						
11	視聴覚機器の使用は適切であった。		2				1
12	配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。	3					
13	受講生に分かりやすく説明した。	2	1				
14	教員の声は聞き取りやすかった。	2	1				
15	板書の文字は見やすかった。						
16	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3					
17	この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	2	1				

<分 析>

評価項目には、制作中心の実技の授業としてはふさわしくないものも含まれていたため、評価項目9,10,15,を削除して実施した。

わずか3名の受講生のため、指導も徹底したためか概ね肯定的な評価が多かった。
 3人の受講生の内2名は、学部時代に人体具象彫刻を経験していない初めての体験であったが、大変意欲的な取り組みがみられた。
 いかにして制作途中の評価を取り入れるか、この点が次年度の検討課題である。
 この授業は、受講生にとって十分満足のいく授業であったようである。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分析>

受講生はわずか3名なので、すべての回答を列記すると以下のとおりである。

- ・ 彫塑の基本について、実技を通して学べたらと思った。
- ・ 人体塑造の制作技術の向上。
- ・ モデルの形をそのまま写し取るというよりも、作品のムーブマンを意識して制作する。

全員、人体具象彫刻の基本的な技術の習得に期待を寄せながら受講しているようである。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分析>

受講生はわずか3名なので、すべての回答を列記すると以下のとおりである。

- ・ 作業や素材を扱う上での留意点や、教員独自の工夫点など多くのことを話題にし、参考になった。
- ・ 今回のような大きな作品は小・中学校では無理ですが、立体造形に対する考え方は、現場でも役に立つと思います。またFRPではなく石膏を使ったエスキースレベルの作品なら教材として扱えると思います。
- ・ 制作のスケジュールを記録することを促すところが良い。

この授業は、専門性の強い実技能力を高める内容であるが、間接的には教師の実践力の育成に繋がっていくものと確信し、授業を進めている。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点，改善してほしい点を具体的にお書きください。また，この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

受講生はわずか3名なので，すべての回答を列記すると以下のとおりである。

- ・ 熱心に指導していただき嬉しかった。出来れば型取りの段階あたりで，今後の作業の段取りなど再確認できる機会があればと思う。
- ・ 時間外に制作している時なども，覗いて下さって熱心に教えて下さったのが良かったと思います。

特別な改善要望事項や提案事項の記入は無かった。

5 本授業の成果と今後の課題について

この授業では，粘土による原型の制作に加えて，型取りやFRPによる成型など多岐にわたる制作過程に長時間を要し，とうてい授業時間だけでは作品は完成しない。

シラバスにも「授業以外に制作が必要」と4プロセスにおいて明記している。

例年のことであるが，制作時間は，授業時間外に授業時間の3倍以上に及ぶ。受講生には強靱な意志と体力が求められる。

本授業の受講生3名の内2名は，初めての人体具象彫刻の経験ということもあって，想像以上にきつかったようだ。

本授業では，単に彫刻作品が完成したという喜びを得るだけでなく，図画工作・美術教育の根幹となるべき新鮮な感動，創造の喜び，作品に対する情熱や心情，仕事への責任など実技制作の本質を体得してもらうことを願っている。受講生にとっては，かなりのオーバーワークを強いるけれどもこの授業をいつまでも位置づけたい。

これからも意欲的に取り組んでくれる受講生と共に，さらに充実した授業となるように授業改善を図っていきたいと考える。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

		評価実施日	平成 19年 2月 日
授業科目名	平面造形演習	学期・曜日・時限	後期 火曜日 5時限
授業区分	1. 教職基礎科目 2. 専門科目		
担当教員名	西田 威 汎	回答者数	5名

1 アンケート [1] の集計と分析について

[5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない]
 [2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 未記入]

番号	評価項目	評価番号					
		5	4	3	2	1	無
1	授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。	2	2	1			
2	授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。			5			
3	授業の内容には一貫性があった。	2	3				
4	教師の実践力の育成に役立つ内容であった。	1	1	3			
5	授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。		1	4			
6	授業をよく準備し、熱心に教えた。	1	1	3			
7	授業の進む速さは適切であった。	2	1	2			
8	受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。		2	3			
9	受講生に授業への参加（質問、発言、討議など）をよく促した。	3	2				
10	教科書や参考書の使い方は適切であった。						
11	視聴覚機器の使用は適切であった。						
12	配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。						
13	受講生に分かりやすく説明した。	2	1	2			
14	教員の声は聞き取りやすかった。	2	2	1			
15	板書の文字は見やすかった。						

16	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	2			
17	この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	1	2	2		

<分析> 概当りしい項目への評価が幾つかあるが、このところは有答した。
もう少し全体的にわかり易く説明する必要がありそうだ。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分析> 普段の制作では違う新しい造形制作に対する期待が感じられる。授業の目的に沿っている。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分析> 2名の評価がある。1名は教師の実践力にかかわり、内容では無いという答えであり、他の1名は様々な素材を利用した作品づくりを授業の課題として、これにより幅広く研究できるように答えている。
様々な素材を使用することで授業における材料研究や鑑賞の幅を狭くもするといった期待している。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点、改善してほしい点を具体的にお書きください。また、この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分析> 3名の評価をみる。

機材の一の不足形や、可子と意図がわく(わい) 等々もあつたが、
作品の設置場所を特定し(わい) 可子の作品の多様性
も、作り手の主体が可子の、この可子に於ける。

5 本授業の成果と今後の課題について

最近では、東京芸大や愛知芸大の学生は、絵を描く人が少なくな
り、現代美術に向う人が多くなつた。その中では、本学陸生は、絵画制作に
取り組む人が多し。その中で、学生
達に、普段の制作とは違つて造形世界を体験(し) 可子
大切に考へている。違和感のあつた授業も、知(ち) 可子
に於ける。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

		評価実施日	平成 18 年 7 月 26 日		
授業科目名	美術科教育学研究	学期・曜日・時限	前 期 水 曜 日 2 時 限		
授業区分	1. 教職基礎科目 2. 専門科目				
担当教員名	橋本 泰幸	回答者数	5 名		

1 アンケート [1] の集計と分析について

[5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない]
 [2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 未記入]

番号	評 価 項 目	評 価 番 号					
		5	4	3	2	1	無
1	授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。	3	2				
2	授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。	3	2				
3	授業の内容には 貫性があった。	1	4				
4	教師の実践力の育成に役立つ内容であった。	3	2				
5	授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。	2	2	1			
6	授業をよく準備し、熱心に教えた。	4	1				
7	授業の進む速さは適切であった。	3	2				
8	受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。	3	1	1			
9	受講生に授業への参加（質問，発言，討議など）をよく促した。	4	1				
10	教科書や参考書の使い方は適切であった。	4	1				
11	視聴覚機器の使用は適切であった。	5					
12	配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。	4	1				
13	受講生に分かりやすく説明した。	4	1				
14	教員の声は聞き取りやすかった。	5					
15	板書の文字は見やすかった。	1	1	3			
16	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	3				
17	この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	2	3				

<分 析>

受講生が少ないこともあって、学生との対話も十分持て、意図したとおりの授業が出来たと思う。学生からも、内容について「新しい発見が多かった」など、よい評価を得た。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分 析>

美術教師の必須の知識を求めているといえる。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

美術教育について、理解を深めることが出来た内容であった。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点、改善してほしい点を具体的にお書きください。また、この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

日本美術の見直しに役だったことを、良い点にあげる学生がいた。美術の学生でも、日本美術に限らず、美術についての理解が不足していると感じられた。

5 本授業の成果と今後の課題について

授業内容については、おおむね、学生の要求を満たしていたと思う。
今後は、美術館訪問など、演習授業を増やしていきたいと思う。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

		評 価 実 施 日	平成 18 年 7 月 27 日		
授業科目名	視覚デザイン演習	学期・曜日・時限	前期 木曜日 3 時限		
授業区分	1. 教職基礎科目 ② 専門科目				
担当教員名	松島 正矩	回答者数	17 名		

1 アンケート [1] の集計と分析について

[5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない]
2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 未記入

番号	評 価 項 目	評 価 番 号					
		5	4	3	2	1	無
1	授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。	6	8	3			
2	授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。	-	-	-	-	-	-
3	授業の内容には一貫性があった。	9	6	1			1
4	教師の実践力の育成に役立つ内容であった。	6	9	2			
5	授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。	7	7	2		1	
6	授業をよく準備し、熱心に教えた。	7	6	3			
7	授業の進む速さは適切であった。	5	7	5			
8	受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。	4	8	5			
9	受講生に授業への参加（質問、発言、討議など）をよく促した。	4	5	7	1		
10	教科書や参考書の使い方は適切であった。	3	4	9	1		
11	視聴覚機器の使用は適切であった。	9	5	2			1
12	配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。	4	8	5			
13	受講生に分かりやすく説明した。	5	6	6			
14	教員の声は聞き取りやすかった。	3	8	5			
15	板書の文字は見やすかった。	-	-	-	-	-	-
16	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	8	7	2			
17	この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	8	8	1			

<分 析>

この授業は、マルチメディア教育実習室のコンピュータを利用して行った。美術コースの学生が15名、他コースの学生が5名の計20名が受講してくれた。出席率は平均85%から90%くらいであり、4名の欠席が目立つ学生がいたのが残念であった。

今回のアンケート結果で気になるのは、5番と10番の項目である。5番の項目に関しては、この授業は毎回積み上げていく内容であるため、出席状況を重視した成績評価を行うこと、作品を提出すれば単位がもらえるというような甘い考えは捨ててもらいたいことを何度か伝えてきた。多分、1名の学生はこのとき欠席していたものと思われる。10番の項目に関しては、今年度からマルチメディア教育実習室の機器とアプリケーションが更新され、昨年度まで配布していた印刷物では対応できなくなったため配布を中止したのが影響していると思われる。17番の項目からは、大部分の学生がこの授業に満足してくれた様子がうかがえるので、概ね良好な評価をしてもらえたと感じている。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<学生の声>

- ・グラフィックソフトの基礎的な使い方を修得し、それを使った平面デザインを制作できるようになりたいと思った。
- ・これまで、単発の研修に参加したことがあり、ソフトも使用したことがあったが、体系的に使い方を学び、プレゼンテーション等に生かしたいと考えていた。
- ・画像処理等について、知識が全くなかった。しかし、必要とする場面も出てきたので、すこしでも知識や技術を身につけたいと思い参加した。
- ・学校でパンフレットを作成したり、案内状を作成する時に役立つと思い受講した。

<分 析>

本年度はデザイン分野の学生が少ないため、受講生が激減するかもしれないと覚悟していたのであるが、意外にも昨年度よりも多い学生が集まってくれた。大部分の学生は、デザインに関して学ぼうとするよりも、ドロー系の図形制作ソフトとペイント系の画像編集ソフトに興味をもって受講してきたようである。コンピュータ上で図形や画像を扱うことに興味があり、自分の関わる分野に応用することができると考えている学生も多かったように思える。全く初めてという学生がかなりいたため、その人たちに合わせてコンピュータの概説からスタートし、基礎的な部分の理解と操作に多くの時間を割くことになった。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<学生の声>

- ・コンピュータを用いたデザインは、美術分野の重要な一部であると考えてるので、そのためには好ましい授業であった。
- ・美術科では、コンピュータの活用が推進されているので、教員の基礎知識として、役立つ内容であったと思う。
- ・義務教育の授業では、ここまで専門的なコンピュータグラフィックの授業はしないと思うが、授業中の説明や教材作り、配布資料の作成などで生かせると思う。
- ・代表的な画像処理ソフトを使いこなすことで、教育現場での資料作成などに大変役立つと考えた。

<分 析>

この授業で使用したドロー系の図形制作ソフトとペイント系の画像編集ソフトは、グラフィックデザインの代表的、専門的なアプリケーションであり、他のアプリケーションに比べると理解と操作はやや難しいと思われる。美術以外の学生が沢山受講してきたのは、教育現場ではコンピュータを利用して授業を行うことが増えていることから、早くコンピュータに慣れて自由自在に操れるようになりたいという願望が強かったためと思われる。それが自然に実践力の向上につながっていくと考えてくれていたようである。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点、改善してほしい点を具体的にお書きください。また、この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<学生の声>

- ・「習うより慣れろ」といった感覚で学べてよかった。
- ・課題制作に関して、具体的な参考作品を見せていただけたので理解しやすかった。自分が課題を作成する時の参考になった。
- ・もう少しPhotoshopについての説明の時間が欲しかった。
- ・初心者にとっては、説明の内容、処理の手順がプリント化されていれば、より分かりやすいと思った。

<分 析>

この授業は、マルチメディア教育実習室の2台のプロジェクタをフル活用して、教卓のモニタ画面を前後に投影しながら行っている。具体的には、参考作品等を提示しながら、また、グラフィック・アプリケーションを操作しながら解説し、学生にも各自のパソコンを操作してもらっている。ある程度使い慣れている学生にとっては、試行錯誤しながら修得できるので、心地良い環境になっていると思われる。しかし、デザイン分野で使用する専門的なアプリケーションは、初心者にとってはかなり難しいようである。途中からスピードを上げ過ぎて、きめ細かな指導に欠けてしまったのではないかと反省している。また、機器とアプリケーションが更新され、昨年度まで配布していた印刷物では対応できなくなったため配布を中止したのであるが、この点も不評であったようだ。

5 本授業の成果と今後の課題について

従来は、デザイン専攻の学生だけがコンピュータを使用した制作を行うという傾向が強かったのであるが、しだいに美術の他の分野の学生も、ポスターや案内ハガキをコンピュータで制作するようになってきた。また、他コースの学生たちも、教育現場でコンピュータを使用した授業が多くなっていることから、コンピュータの操作に習熟しようと熱意を持って受講してくるようになってきている。今後この傾向が続き、もっとコンピュータによるデザイン表現に興味をもってくれる学生が増えることを期待している。

この授業では、出席が完璧な熱意のある学生が多かった反面、出席の悪い学生も見られた。この授業は毎回の積み重ねで成り立っていて、時間的な余裕もないため、欠席者を次回にどう扱うかが大変難しい状況にある。肝心なことではできるだけ次回にもくり返して全員に理解してもらおうように努めているのであるが、欠席が重なった場合は対処できなくなってくる。この点は多くの教員が苦慮していると思われるが、なるべく欠席者にも連続性が保たれるような工夫を考えなければならないと思っている。

また、[4]で指摘されたように、プロジェクタによる提示だけではなく、印刷物も配布してもらいたいという意見はよく理解できるので今後の課題としたい。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

		評価実施日	平成 19 年 2 月 15 日		
授業科目名	油画制作演習	学期・曜日・時限	後期	木曜日	5時限
授業区分	1. 教職基礎科目 ②. 専門科目				
担当教員名	鈴木 久人	回答者数	7 名		

1 アンケート [1] の集計と分析について

[5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない]
 [2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 未記入]

番号	評 価 項 目	評 価 番 号					
		5	4	3	2	1	無
1	授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。	6	1				
2	授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。	5	1	1			
3	授業の内容には一貫性があった。	6	1				
4	教師の実践力の育成に役立つ内容であった。	6		1			
5	授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。	4	2	1			
6	授業をよく準備し、熱心に教えた。	5	2				
7	授業の進む速さは適切であった。	4	1	1	1		
8	受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。	6	1				
9	受講生に授業への参加（質問、発言、討議など）をよく促した。	4	1	2			
10	教科書や参考書の使い方は適切であった。	-	-	-	-	-	-
11	視聴覚機器の使用は適切であった。	-	-	-	-	-	-
12	配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。	3	2	2			
13	受講生に分かりやすく説明した。	5	2				
14	教員の声は聞き取りやすかった。	7					
15	板書の文字は見やすかった。	5		2			
16	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	2	1			
17	この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	5	2				

<分 析>

概ね、好意的評価と言える。目立つ評価項目は7, 9, 12であろう。本授業の後半は学生の希望からテンペラによる混合技法の制作研究を行った。このためテンペラ制作には時間的に無理があり7のような回答になったと思われる。9, 12については制作意図に対する発言をより促し、資料配布の充実に取り組みたい。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分析>

- ・ テンペラを経験することに期待を持った。
- ・ 未経験の技法を体験してみたかった。
- ・ 油絵を勉強できる。自分の油絵を先生に見てもらえるという期待がありました。
- ・ 自画像は初めてだったので幅を広めようと思った。
- ・ 今後の自分、油画制作に役立つと思って、教師になる上で役立つと考えて。
- ・ 絵画の実践力向上を期待して受講しました。

(以上はすべての記述内容を原文のまま記載)

例年言えることであるが、普段とは違う描画材による絵画制作や技法体験を受講目的にあげている。また絵画制作自体を動機としている。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分析>

- ・ テンペラを学校でやってみようと思いました。
- ・ テンペラ画という技法を実践的にすることによって知識がついた。
- ・ テンペラは一回はやっておきたかった。
- ・ 教師の実践力に関係あることは直接はしていなかったと思います。
- ・ 経験あつての実践力であると思うから。

(以上はすべての記述内容を原文のまま記載)

授業内容の現場での展開の可能性や方法について意識して取り扱ってきたことで授業評価が始まった頃と比べると改善が見られる。だが依然として十分とは言えず、記載の中には否定的なものもある。今後も学生とディスカッションなどを通してドローイングやテンペラの学校現場での展開の可能性を周知したい。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点，改善してほしい点を具体的にお書きください。また，この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

- ・ テンペラにとりくみやすい環境をととのえてくれた点がよかった。
- ・ 制作していく過程が楽しかったし，要所所で先生の言葉をもらえたのも良かったです。
- ・ 自画像ではないモチーフの方がやる気が出た。
- ・ 特にないです。

(以上はすべての記述内容を原文のまま記載)

まず半数のものしか記述がないのが気にかかる。モチーフについても今後は学生のニーズの吸い上げを行いたい。

5 本授業の成果と今後の課題について

本授業の履修者は，例年，授業期間の前半は紙を支持体とした制作，後半はタブローを支持体としたものとし，履修学生にその希望などを聞き，なるべく個々の学生のニーズに応えることを基本とした。そのため授業期間の前半ではパステル画，クレヨン画，水彩画，鉛筆デッサンなど多岐にわたり，後半では水彩系絵具による有色画と油彩画に分かれ，またモチーフも人物，静物，風景などに分かれていた。1つの授業としてある程度の統一感は模索する必要があり，今年は後半，技法はテンペラとし，モチーフは自画像とした。学生は他のものの制作を参考とし，効率的なものとなり，この点は評価できるのではないか。また今後とも引き続き本授業内容の現場での展開の可能性や方法，児童・生徒の作品の鑑賞方法や評価法についてもより学生とディスカッションなどを通して深めていきたい。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

		評 価 実 施 日	平成 19 年 2 月 26 日		
授業科目名	映像デザイン演習	学期・曜日・時限	後 期 月 曜日 3 時限		
授業区分	1. 教職基礎科目 ②. 専門科目				
担当教員名	内藤 隆	回答者数	5 名		

1 アンケート [1] の集計と分析について

5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない
 2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 未記入

番号	評 価 項 目	評 価 番 号					
		5	4	3	2	1	無
1	授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。	5	0	0	0	0	0
2	授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。	3	2	0	0	0	0
3	授業の内容には一貫性があった。	4	1	0	0	0	0
4	教師の実践力の育成に役立つ内容であった。	1	4	0	0	0	0
5	授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。	0	3	2	0	0	0
6	授業をよく準備し、熱心に教えた。	5	0	0	0	0	0
7	授業の進む速さは適切であった。	0	4	1	0	0	0
8	受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。	3	2	0	0	0	0
9	受講生に授業への参加（質問、発言、討議など）をよく促した。	3	0	2	0	0	0
10	教科書や参考書の使い方は適切であった。	2	2	1	0	0	0
11	視聴覚機器の使用は適切であった。	2	3	0	0	0	0
12	配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。	4	1	0	0	0	0
13	受講生に分かりやすく説明した。	5	0	0	0	0	0
14	教員の声は聞き取りやすかった。	5	0	0	0	0	0
15	板書の文字は見やすかった。	0	2	3	0	0	0
16	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	3	0	0	0	0
17	この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	2	3	0	0	0	0

<分 析>

本年度の受講者は9名（うち3名が他講座からの受講生）、アンケートの回答者はそのうち5名。
 本年度は授業内容を大幅に変えた。昨年2月のNIKON社のデジタル移行の発表をふまえ、フィルムカメラの実習を外し、段ボールと虫眼鏡でカメラ自体（印画紙を装填し撮影できる）を制作する内容と、デジタルカメラでの撮影実習とを主な内容とした。他講座からの受講生に配慮し宿題を避けたため、段ボールの工作が続く内容となった。このため大変低い評価を予想していたが、そこそこの評価点だったことは逆に大変意外である。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分 析>

以下に記述内容を列記する。「写真を撮るときの構図などに興味があった。段ボールでどうやってカメラが作れるかにも興味があった」「カメラのしくみを学ぶことができた」「私の専門は理科であるが、カメラの製作ということで、現場へ帰ってからの『目の構造』の授業に役立つかもしれないと思い受講した。また日頃から写真を撮るのが好きなためレベルアップになると思った」「カメラを扱う際、安易にフルオートモードに頼っていたが、絞り、露出、シャッタースピード等について学びたいと思った」「『映像』という自分にとって未知なる領域への関心を高めたいと思って受講した」

基本的に、こちらが意図した内容（ガイダンスで行った説明）を理解した上で受講してくれているのが判る。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

以下に点数と記述内容を順次列記する。「4：学校現場ではあまり取り上げられていない分野だと思うので、工夫次第で面白い授業ができそうな題材だったので」「5：授業の中でも映像について取り扱い、デジタルカメラを使用することは不可避になっている。そのための基礎的なものを学ぶことができた」「4：[2]に書いた通り、ヒトの目はカメラ眼であるので、授業で段ボールを用いて作ったカメラが教材として役立つのではないかと思っている」「4：紙カメラの作成（を）することで、身近な存在なのに良く知らなかったカメラのしくみに興味を持った。実際に作ってみることでその大変さや楽しさが判った。一眼デジタルカメラの授業では、教育の現場で役立つと思う」「4：段ボールのカメラは小学校理科の焦点の説明などにも応用できるかも？ また、クラブや自由研究の課題、工作としても面白いと思う」

本授業の内容が、基本的に教育向けとしても理解されていると考えられる。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点、改善してほしい点を具体的にお書きください。また、この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

以下に記述内容を列記する。「段ボールのカメラで『このような撮影方法をするところ映る』という撮影のポイントや工夫が知りたかった（比較などして）」「製作が遅れがちになったのですが、丁寧に指導して頂き有り難うございました。ご迷惑をおかけしました。製作は大変でしたが楽しかったです」

「虫眼鏡カメラの制作が興味深かった。活用して行きたい」「特にありません」

比較については、次年度は資料を準備し、提示できる様にしたい。

5 本授業の成果と今後の課題について

今回の授業は、カメラの構造について身を以て理解する為に「全て紙素材で、撮影のできるカメラを作る」、デジタルカメラの現状に対応できるようになるため「デジタルカメラの実習」を目標とした。アンケート評価内容からは、とりあえず両方の目的が理解され、さらに現場教育への応用も期待できる様子である。授業の目標から言うと充分以上に達成できていると考えられる。

しかしながら、前半の段ボールカメラの制作には前述した通り当初計画したスケジュールを大幅に越えた制作時間が必要となった。来年は本年の実績に応じたスケジュールの組み替えや、設計図の改善といった工夫が必要だろう。

なお、このアンケート評価次第で段ボールカメラの制作を授業内容から降ろすことも考えていたが、上記の結果から来年もとりあえず継続してみようとする。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

		評 価 実 施 日	平成 18年 7月 28日		
授業科目名	石彫制作演習	学期・曜日・時限	前 期	金 曜 日	2 時 限
授業区分	1. 教職基礎科目 2. 専門科目				
担当教員名	野 崎 窮		回答者数	8 名	

1 アンケート [1] の集計と分析について

(5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない)
 (2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 --- 未記入)

番号	評 価 項 目	評 価 番 号					
		5	4	3	2	1	無
1	授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。	4	3	1			
2	授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。	—	—	—	—	—	—
3	授業の内容には一貫性があった。	7		1			
4	教師の実践力の育成に役立つ内容であった。	2	6				
5	授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。	5	2	1			
6	授業をよく準備し、熱心に教えた。	7	1				
7	授業の進む速さは適切であった。	4	4				
8	受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。	6	1	1			
9	受講生に授業への参加（質問，発言，討議など）をよく促した。	3	4	1			
10	教科書や参考書の使い方は適切であった。	—	—	—	—	—	—
11	視聴覚機器の使用は適切であった。	3	3	2			
12	配布された資料・文献等は，授業内容を理解する上で役に立った。	—	—	—	—	—	—
13	受講生に分かりやすく説明した。	4	4				
14	教員の声は聞き取りやすかった。	5	3				
15	板書の文字は見やすかった。	2	5	1			
16	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	6	2				
17	この授業は，自分自身にとって満足できるものであった。	3	5				

<分 析>

全体として，どの評価項目も3以上なのでそれなりの評価を得ている。特に評価項目6. については，授業へ主体的に取り組めるよう，制作環境を整えることに努力した結果であると考えている。今後の課題として，評価項目11. の視聴覚機器の活用があげられる。プロジェクター等の利用がいまひとつ習熟していないので経験を積んでいきたい。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分 析>

学生の問題意識として、「石彫制作における技法の習得」、「抽象表現の理解」、「石彫教材の研究」があげられた。また、初心者として石彫制作に魅力を感じるとの記述があった。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

当該分野に関わる学校現場を意識した教材の提示を行ったせいか、教師の実践力の育成に役だったとの意見が多かった。

また、実際に石彫実技を経験することの意義、大切さをあげる回答があった。実技教科として各自の表現力向上と彫造彫刻の特性を制作を通して理解することの重要性が伝わったものと思われる。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点、改善してほしい点を具体的にお書きください。また、この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

実技制作が中心であったのがよかったという回答と野外で行う授業の面白さや、難しさを指摘する回答があった。

その中で、雨天でも制作ができたという、施設の改善を求める意見があった。今後、検討していくべき課題である。

5 本授業の成果と今後の課題について

本授業は過去に、授業時間に対して石彫制作の量としての問題をあげる学生が多かった。今年もこの点が懸念されたが、回答欄にこれにふれた記述がなかったので、ある程度適正なカリキュラムになったと分析をしている。次年度以降、さらにこの点を留意していきたい。

今後の課題としては、前述したが、パブリックアートの紹介をプロジェクター等を利用してうまく教授するということである。

第 5 部

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

		評 価 実 施 日	平成 19年 2月 28日
授業科目名	運動学演習	学期・曜日・時限	後期 水曜日 2時限
授業区分	1. 教職基礎科目 <input type="checkbox"/> 2. 専門科目 <input checked="" type="checkbox"/>		
担当教員名	乾 信之	回答者数	1 名

1 アンケート [1] の集計と分析について

[5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない]
 [2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 未記入]

番 号	評 価 項 目	評 価 番 号					
		5	4	3	2	1	無
1	授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。	1					
2	授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。	1					
3	授業の内容には一貫性があった。	1					
4	教師の実践力の育成に役立つ内容であった。	1					
5	授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。		1				
6	授業をよく準備し、熱心に教えた。	1					
7	授業の進む速さは適切であった。	1					
8	受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。	1					
9	受講生に授業への参加（質問，発言，討議など）をよく促した。	1					
10	教科書や参考書の使い方は適切であった。	1					
11	視聴覚機器の使用は適切であった。	1					
12	配布された資料・文献等は，授業内容を理解する上で役に立った。	1					
13	受講生に分かりやすく説明した。	1					
14	教員の声は聞き取りやすかった。	1					
15	板書の文字は見やすかった。	1					

16	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1					
17	この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	1					

<分析> この受講生は教育課題探究を受講せずに、この講義を受講したので、前半は教育課題探求の内容を講義した。その後、受講生は「脳の学習力」(岩波書店)の抄録を毎時間作り、発表した。演習終了後、付属養護学校で動作タイミングと力の微調整の実験を行った。

演習の内容が彼にとっては新鮮であったようで、1対1の演習であったが、教授者にも受講生にも満足のいくものであった。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分析> 「障害児教育において、健常者の運動の発達を学ぶことはとても意味があります。また、障害児教育では医学的側面のアプローチが弱い部分があるため、勉強になると考えた。」と受講生は記述しており、この期待に応えることができる演習であった。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分析> 「後半、毎回、課題が出され、自分の言葉で相手に伝えることを毎回習教わりました。つまり、学んだことを相手に伝えることの伝え方を学んだことになります。」と受講生は記述しており、理解したことを他人に伝えることを訓練した。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点，改善してほしい点を具体的にお書きください。また，この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

「今のままでよいと考えます」と受講生は記述しており，演習の進め方に問題はないと思うが，演習で扱う文献を受講生の興味と能力に合わすことがどの講義，演習も最も気を使うところである。

5 本授業の成果と今後の課題について

教育課題探究が設置されて以降，この演習は受講生が激変した。受講生を増やすことが最大の課題であり，前段階の教育課題探究と運動学研究との継続性を模索しなければならない。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

		評 価 実 施 日	平成 18年 7月 24日
授業科目名	体育・スポーツ心理学研究	学期・曜日・時限	前期 月曜日 4時限
授業区分	1. 教職基礎科目 2. 専門科目		
担当教員名	賀 川 昌 明	回答者数	3 名

1 アンケート [1] の集計と分析について

[5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない]
 [2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 未記入]

番号	評 価 項 目	評 価 番 号					
		5	4	3	2	1	無
1	授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。	2	1				
2	授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。	2	1				
3	授業の内容には一貫性があった。	2	1				
4	教師の実践力の育成に役立つ内容であった。	2	1				
5	授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。	1	1	1			
6	授業をよく準備し、熱心に教えた。	3					
7	授業の進む速さは適切であった。	2	1				
8	受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。	1		2			
9	受講生に授業への参加（質問、発言、討議など）をよく促した。	1	2				
10	教科書や参考書の使い方は適切であった。						3
11	視聴覚機器の使用は適切であった。	3					
12	配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。	2	1				
13	受講生に分かりやすく説明した。	1	2				
14	教員の声は聞き取りやすかった。	2	1				
15	板書の文字は見やすかった。	1	2				
16	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1	2				
17	この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	2	1				

<分 析>

回答者全員の人数は少ないが、平均で4.5の評価を得た。最も低い評価は「受講生の理解度を確認しながら授業を進めた」であり、2人が評価3、1人が評価5、平均3.7であった。その次に低い評価は「授業開始時や途中の成績評価の説明の方法は、具体的であった」であり、評価3から5に1人ずつ、平均4.0であった。

以上のことから、全体的には高い評価が与えられたと考えられる。しかしながら、「受講生の理解度確認」「成績評価の説明」については、それほど高くなかった。教員側としては、いずれもそれなりの配慮をしたつもりではあるが、受講生にとっては不十分だったのかもしれない。特に理解度の確認に関しては、各授業の最後で「今日の授業に関して何か質問はありませんか」と尋ねていたが、その際にはほとんど反応がなかった。講義方式による授業の限界を感じる。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが、具体的な書きください。

<分析>

受講生3名のうち、2名が記述していた。それをそのまま記載する。

「体育に対する意識を調査するときに、信頼性や妥当性のある尺度とはどのようなものか知りたいと思って受講した。」「体育・スポーツ心理学に興味があったので受講しました。」

以上のように、かなり具体的な問題意識や期待を持って受講した者、漠然とした問題意識や期待で受講した者が混在している。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分析>

受講生全員が記述していた。それをそのまま記載する。

「体育学習において心理的影響は大きい。そのことについてどのような視点をもてばいいのか、よくわかった。」「体育嫌いや楽しさなどについて、研究した内容から読み取れることを説明して下さったり、心理学用語や統計について教えて下さったりしたからです。」

以上の記述をした受講生は、この質問に対していずれも5の評価を記していた。このことからすると、授業のねらいは十分に達成されたと考えられる。

次に、この質問に対して4の評価を記した受講生は「子どもたちの心理面を少しでも知ることができたから。」と記述している。この受講生は数値評価も他の受講生に比べて低く、自由記述による回答もこの部分だけであった。残念ながら、授業の意図が十分に伝わらなかったようである。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点、改善してほしい点を具体的にお書きください。また、この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

1人だけ記述があった。その内容は以下の通りである。

「ホワイトボードというのは見づらいものです。見やすいマジックを大学側に用意してもらいたい。」

講義全体はPowerPointによるプレゼンや文献のコピー等を使って進めた。したがって、ホワイトボードへの書き込みは、それを補うものとして使っていたため、少しインクが薄くなったマーカーをそのまま使用したこともあった。やはり、使うからには常に受講生が見やすいものを準備する必要があることを痛感した。

5 本授業の成果と今後の課題について

受講生の数が少ないため反応に散らばりがあるが、全体的には授業のねらいは達成されたものと考えられる。しかしながら、教員側で準備した内容がある一定の期間内で提示しようとしたため、受講生が消化不良を起こした部分も認められる。講義形式による授業において、講義内容の理解を授業時間内だけで達成することには限界を感じるが、今後検討してみたい。

また、補助的手段として用いたホワイトボードによる説明にも工夫が必要なことが示された。使う限りは、十分に効果を上げる方法で行うことが大切だと思われる。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

		評価実施日	平成 19年 2月 22日
授業科目名	体育・スポーツ心理学演習	学期・曜日・時限	後期 月曜日 4時限
授業区分	1. 教職基礎科目 ② 専門科目		
担当教員名	賀川昌明	回答者数	2名

1 アンケート [1] の集計と分析について

[5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない]
 [2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 未記入]

番号	評 価 項 目	評 価 番 号					
		5	4	3	2	1	無
1	授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。	2					
2	授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。	2					
3	授業の内容には一貫性があった。	2					
4	教師の実践力の育成に役立つ内容であった。	2					
5	授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。	1	1				
6	授業をよく準備し、熱心に教えた。	2					
7	授業の進む速さは適切であった。		1	1			
8	受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。		1	1			
9	受講生に授業への参加（質問、発言、討議など）をよく促した。	2					
10	教科書や参考書の使い方は適切であった。	2					
11	視聴覚機器の使用は適切であった。	2					
12	配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。	2					
13	受講生に分かりやすく説明した。		2				
14	教員の声は聞き取りやすかった。	1	1				
15	板書の文字は見やすかった。	1		1			
16	授業に主体的・積極的に取り組んだ。		2				
17	この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	2					

<分 析>

全体的には満足のいく評価が得られたと考える。ただ、授業の進度については、少々先を急ぎすぎた感があり、受講生が消化不良を起こしたようである。

今回の授業においては、取り組むべき課題として「因子分析による要因抽出」「各要因別尺度構成」「多変量解析による要因分析」「分析結果を基にした授業用調査用紙の作成と処理システムの構成」というように、実に多彩なものを準備した。受講生全員が私のゼミ所属ということもあって、修論作成に必要な手法を全て盛り込んだのであるが、前述のように少々過重負担となったようである。

次年度は、あまり欲張らないで授業内容を考えたい。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分 析>

回答数が少ないため、受講生の記述をそのまま記載する。

「統計の仕方について詳しく知り、演習を通して自分でも使えるようになりたかった。」

「データの分析方法を学びたかったから。」

以上の記述からも明らかのように、今回の受講生はきちんとした学習目標を持って参加しており、それだけに積極的な学習活動が展開された。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

いずれの受講者も5の評価をしているが、回答数が少ないため、受講生の記述をそのまま記載する。

「教育現場では(自分自身を振り返ってのことなので、一般的にそうだというわけではない)ある子の成績が伸びたという言葉はよく使われる。しかし、それは統計的にみたものでない場合もある。この授業を受けることによってそれが分かったし、これからは、少しでも統計的な見方ができるようになるのではと考えた。」

「統計処理のことを知ることができたから。」

受講者のうち1名は現職教員であるため、現場における統計学的な見方の重要性を意識したようである。残りの1名は教職を希望していないが、修士論文の作成に際して必要な統計処理の方法が理解できたことを評価している。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点，改善してほしい点を具体的にお書きください。また，この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

回答数が少ないため，受講生の記述をそのまま記載する。

「実際に行われた調査結果を基に，分析の方法や分析結果の考察が行われたので，身になる学習ができた。」

「視聴覚機器を使ってわかりやすく説明して下さったところが良かった。」

以上のことから，具体的な事例を用いて分析の演習をしたこと，視聴覚機器による解説に基づいて授業を進めたことが評価されたと思われる。

5 本授業の成果と今後の課題について

1の分析においても記述したが，概ね満足のいく成果が得られたと考える。ただ，授業の進度については，少々先を急ぎすぎた感があり，受講生が消化不良を起こしたことが反省点である。今後，もう少し授業内容を精選し，受講生の能力や授業時間数に見合ったものを準備するように心がけたい。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

		評価実施日	平成 18 年 7 月 24 日		
授業科目名	運動生理学研究	学期・曜日・時限	前期	月曜日	1時限
授業区分	1. 教職基礎科目 ②. 専門科目 運動生理学研究				
担当教員名	田中弘之	回答者数	6名		

1 アンケート [1] の集計と分析について

[5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない]
 2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 未記入

番号	評価項目	評価番号					
		5	4	3	2	1	無
1	授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。	1	5				
2	授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。	-	-	-	-	-	-
3	授業の内容には一貫性があった。	4	2				
4	教師の実践力の育成に役立つ内容であった。	4	1	1			
5	授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。	1	4	1			
6	授業をよく準備し、熱心に教えた。	4	1	1			
7	授業の進む速さは適切であった。		2	4			
8	受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。	3	1	2			
9	受講生に授業への参加（質問、発言、討議など）をよく促した。	5	1				
10	教科書や参考書の使い方は適切であった。	-	-	-	-	-	-
11	視聴覚機器の使用は適切であった。	6					
12	配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。	-	-	-	-	-	-
13	受講生に分かりやすく説明した。	3	3				
14	教員の声は聞き取りやすかった。	5	1				
15	板書の文字は見やすかった。	1	1	4			
16	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	1	1			
17	この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	3	2	1			

<分 析>

平均値の概観から、最も評価が低かった項目は、『7. 授業の進む速さは適切であった。』と『15. 板書の文字は見やすかった。』であるが、総平均値は4.3であり、概ね高い評価が得られたものと考えている。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが、具体的な書きください。

<分析>

- ・ 体のことを生理学的に勉強したかった
- ・ 発展的な知識を身につけたかった
- ・ 健康面に関する知識を増やす
- ・ 人体の構造と機能に関する理解を深めたい
- ・ 運動処方への運動生理学的知見
- ・ 体育学習を見直す観点としての運動生理学

上記のような要旨の自由記述が得られたが、評価結果を勘案して、受講目的は概ね達成されたと考えられる。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分析>

- ・ とても役に立った
- ・ 学校での話題が多かった
- ・ 正しいやり方が分かった
- ・ 事例に基づく丁寧な説明があった
- ・ 教員の問題点を提起しながら授業を行い、それを解決する方策を示した
- ・ 違ったアプローチで教育実践に取り組んでいけると感じた

上記のような要旨の自由記述が得られ、評価結果を勘案して、所期の講義目的は概ね達成されたと考えられる。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点，改善してほしい点を具体的にお書きください。また，この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

- ・ とくにありません
- ・ とくになし
- ・ 速度が若干速い
- ・ 問題点を改善するという立場で授業が聞けた
- ・ 進行がはやい

上記のような要旨の自由記述が得られ，授業改善に関する強い要望は認められなかった。

5 本授業の成果と今後の課題について

例年通り，この領域を真に理解するための受講生の自然科学的な基礎知識が不足している現状を打開することは，今年度もできなかった。

多岐にわたる専攻分野の大学院生を対象とする講義には限界があるものと想定され，受講条件の問題も視野に含めつつ，授業の効率的運営については今後も継続して検討を重ねたい。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

		評 価 実 施 日	平成 18 年 7 月 25 日		
授業科目名	学校保健学研究	学期・曜日・時限	前 期 火 曜 日 3 時 限		
授業区分	1. 教職基礎科目 ② 専門科目				
担当教員名	吉本佐雅子	回答者数	2名		

1 アンケート [1] の集計と分析について

〔 5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない 〕
〔 2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 未記入 〕

番号	評 価 項 目	評 価 番 号					
		5	4	3	2	1	無
1	授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。			2			
2	授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。			2			
3	授業の内容には一貫性があった。		2				
4	教師の実践力の育成に役立つ内容であった。	2					
5	授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。	2					
6	授業をよく準備し、熱心に教えた。		2				
7	授業の進む速さは適切であった。	1	1				
8	受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。	2					
9	受講生に授業への参加（質問、発言、討議など）をよく促した。	1	1				
10	教科書や参考書の使い方は適切であった。			2			
11	視聴覚機器の使用は適切であった。			2			
12	配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。		1	1			
13	受講生に分かりやすく説明した。	2					
14	教員の声は聞き取りやすかった。	1	1				
15	板書の文字は見やすかった。		2				
16	授業に主体的・積極的に取り組んだ。		2				
17	この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。		2				

<分 析>

受講者は現職教員2名であった。当初の授業で受講者の要望、基礎知識の状態を把握し、予定していたシラバスの内容を、より実務的に役立つ内容へと方針を変更して授業を行った。このことが質問1, 2等の授業計画に関わる評価が低いことの原因である。一方、授業法、進め方、授業の満足度に関してはほぼ高い評価を得たと考える。特に本年度の方針に関わる、質問4（実践力の育成に役立つ内容）は5点を得、授業内容の変更が妥当であったことを示す評価結果であった。このように本年度は受講者が少なく、しかも両名とも現職教員で背景が同じであったため、例年より一貫性のある授業を行い易かった。他方、このことは例年の課題である多種多様な背景を持つ受講者に対する授業の進め方が、さらに憂慮すべき問題となることを推量させる結果となった。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分 析>

受講者1：学校保健について広く教養を深めたい。

受講者2：学校での保健活動に役立てるため。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

受講者2名とも、5点の評価を選択した。

受講者1：前半の健康対策と生活習慣病などの講義では学校保健に役立つ知識を得ることが出来た。
後半の統計では今後、保健統計を行っていくうえでとても勉強になった。

受講者2：データの取り方、生かし方について、実践的・具体的に学ぶことが出来た。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点、改善してほしい点を具体的にお書きください。また、この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

受講者1：人数が少なかったので授業の内容の疑問点などが聞きやすかった。

受講者2：人数が少なかったこともあり、パソコンを利用して、個に応じた指導をうけることができた。

5 本授業の成果と今後の課題について

本年度の授業では、受講者の構成が均一で、人数も2人と少なかったため、シラバス記載の内容を変更し、受講者の関心に沿うよう、より実務的、演習的な内容を取り入れた。このため、概ね評価は良かったと思われる。しかし、教授者としては、現職教員であるからこそ、大学院での授業では、この段階で、全体的な保健の位置づけ、保健活動の内容・理論を再確認・理解させ、実務への取り組み態度の改善を図る事が必要であると考えていた。このことから、本年度の授業内容には上滑りの感を持たざるを得なかった。今後は、この観点から授業内容、方法の改善を試みたい。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

		評価実施日	平成 18 年 8 月 1 日		
授業科目名	スポーツ社会学研究	学期・曜日・時限	前期 金曜日 3 時限		
授業区分	1. 教職基礎科目 ②. 専門科目				
担当教員名	木原資裕	回答者数	3 名		

1 アンケート [1] の集計と分析について

[5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない]
 [2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 未記入]

番号	評 価 項 目	評 価 番 号					
		5	4	3	2	1	無
1	授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。	1	2				
2	授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。	1	2				
3	授業の内容には一貫性があった。	3					
4	教師の実践力の育成に役立つ内容であった。		2	1			
5	授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。	1	2				
6	授業をよく準備し、熱心に教えた。	2	1				
7	授業の進む速さは適切であった。	1	2				
8	受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。	1	2				
9	受講生に授業への参加（質問，発言，討議など）をよく促した。	3					
10	教科書や参考書の使い方は適切であった。		3				
11	視聴覚機器の使用は適切であった。	1	2				
12	配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。	1	2				
13	受講生に分かりやすく説明した。	3					
14	教員の声は聞き取りやすかった。	2	1				
15	板書の文字は見やすかった。		1	2			
16	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	1				
17	この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	1	2				

<分 析>

「5 まったくそう思う」の評価数 23 (45.1%)

「4 かなりそう思う」の評価数 25 (49.0%)

「3 どちらともいえない」の評価数 3 (5.9%)

「2 あまりそう思わない」の評価数 0 (0%)

「1 まったくそう思わない」の評価数 0 (0%)

全体的に「5 まったくそう思う」「4 かなりそう思う」の評価数が、48 (44.1%)であり、まずまずの評価を得ている。ただ、受講生数が平成18年度は3名、平成17年度は10名、平成16年度は11名であり、平成18年度に激減している。このことは、保健体育講座の入学生が少なく、その気質や運動経験の差にも影響していると思うが、私自身の授業への取り組みの工夫と試行錯誤が必要と考えている。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分 析>

受講者の自由記述と授業の満足度をまとめると以下のようなようになる。

- ・ あまり問題意識を持ってスポーツそのものについて考えたことがなかったので考えてみるよい機会だったから(満足度 5)
- ・ 相撲や柔道など日本の国技について知らない事が多かったので、この授業を通して学んでいきたいと思い受講した 満足度 4

スポーツや日本の国技について、これまで考えてこなかったことや知らないことを学びたいとの問題意識を持って受講していることが伺え、授業後の満足度も平均 4.3 であった。しかし、3名という少人数での授業であったことを考慮すると、さらに満足度をあげる対話形式の授業展開を多く取り入れる工夫が必要であったと思う。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

受講者の自由記述とその評価をまとめると以下のようなようになる。

- ・ 様々なスポーツの起源を知ることができたので、子どもたちに説明しやすい 評価 4
- ・ サッカーの講義ではフェアプレー・ラフプレーの判断についての話を聞いて、教師の指導面で考えなければならぬ事と通じると思った 評価 3
- ・ 論文(資料)や視聴覚教材を授業でどう組み合わせをするか等が参考になった 評価 4

評価 3 と 4 が相半ばする結果となっている。私自身、直接的に教師の実践力に役立つ授業内容とはなっていないと思うが、「子どもたちに説明しやすい」「指導面で考えなければならぬ事に通じる」等の感想もみられ、当初の意図した授業内容はある程度理解してくれたと思われる。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点、改善してほしい点を具体的にお書きください。また、この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

この授業においては、できるだけビデオ等の視聴覚教材を多く使用しており、そのことについては受講生から好評であった。武道やスポーツを理解する上で、特にその種目の経験のない者にとっては、視聴覚教材の利用は有効であると思う。

5 本授業の成果と今後の課題について

今回の授業では、3回のレポート提出を求め、その内容およびレイアウトを成績評価の要件とした。少人数であったことで、前回のような優秀レポートを公表することができなかった。レポートの内容を互いに批評する時間を設け、授業の活性化を図るべきであったが、それを実施するまでには至らなかった。

「教師の実践力の育成に役立つ内容」については、授業内容だけではなく、私自身がこの授業にたいする教える気力や教師としての構えの体現を受講生に見せることも重要ではないかと考えている。授業内容を含め、さらなる試行錯誤を実施したいと思う。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

		評価実施日	平成 18年 7月 25日		
授業科目名	学校体育経営研究	学期・曜日・時限	前期	火曜日	1時限
授業区分	1. 教職基礎科目 ○2. 専門科目				
担当教員名	藤 田 雅 文	回答者数	3名		

1 アンケート [1] の集計と分析について

[5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない]
 [2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 未記入]

番号	評 価 項 目	評 価 番 号					
		5	4	3	2	1	無
1	授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。		3				
2	授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。	1	1	1			
3	授業の内容には一貫性があった。	2	1				
4	教師の実践力の育成に役立つ内容であった。	2	1				
5	授業開始時や途中の成績評価の方法の説明は、具体的であった。		2	1			
6	授業をよく準備し、熱心に教えた。	2		1			
7	授業の進む速さは適切であった。	1	2				
8	受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。	1	2				
9	受講生に授業への参加（質問，発言，討議など）をよく促した。		2	1			
10	教科書や参考書の使い方は適切であった。	1	1	1			
11	視聴覚機器の使用は適切であった。						3
12	配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。	2	1				
13	受講生に分かりやすく説明した。	1	2				
14	教員の声は聞き取りやすかった。	2	1				
15	板書の文字は見やすかった。	1	1	1			
16	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3					
17	この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	2	1				

<分 析>

視聴覚機器を使用しないで講義を展開したため、項目11は削除して評価をしてもらった。
 16の項目の平均評価点は4.3であり、総合的には高い評価を得たと考えている。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分 析>

講義のねらいに添った問題意識をもつ意欲的な受講生であった。具体的な回答は以下の通りである。

- 1) 体育施設の安全管理の考え方などを学びたかった。
- 2) 体育経営の本質と安全管理について学びたかった。
- 3) 学校体育経営の目的や理念などについて学びたかった。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

この項目の回答は、5が2名、4が1名であった。具体的な回答は以下の通りである。

- 1) 体育施設の安全管理の考え方がよく分かったから。
- 2) 体育経営に関わる基礎的な知識と発展的な内容をしっかり学習できたから。
- 3) 現場とつながった講義で、資料も非常にわかりやすいものであり、現場での実践に役立つと思ったから

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点，改善してほしい点を具体的にお書きください。また，この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

3名中1名から回答があった。具体的な回答は以下の通りである。

- 1) 機会をとらえて現状を話してくれたことが，参考になった。学校経営のプレプランづくりなどがあっても面白いと思う。

5 本授業の成果と今後の課題について

本年度の受講生は，小学校現職教員1名，小学校教員志望の学部卒院生1名，中学校保健体育科教員志望の学部卒院生1名であったため，小・中学校の体育経営に焦点をしばって講義を進めた。

講義の後半には，現職教員による学校体育経営の事例発表を毎年行っており，学部卒院生には自分の関心のあるテーマについて調べさせ，発表させている。このような取り組みが「4.3」という高い評価の要因になっていると考えている。

なお，今後もビデオ教材などを準備し，よりよい講義に改善して行きたいと考えている。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

		評価実施日	平成 18 年 7 月 24 日		
授業科目名	スポーツ・バイオメカニクス研究	学期・曜日・時限	前 期 月 曜日 3 時限		
授業区分	1. 教職基礎科目 2. 専門科目				
担当教員名	松井 敦典		回答者数	6 名	

1 アンケート [1] の集計と分析について

[5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない]
 [2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 未記入]

番号	評 価 項 目	評 価 番 号					
		5	4	3	2	1	無
1	授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。	3	2	1			
2	授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。	2	3	1			
3	授業の内容には一貫性があった。	4	2				
4	教師の実践力の育成に役立つ内容であった。	1	5				
5	授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。	3	1	1	1		
6	授業をよく準備し、熱心に教えた。	5	1				
7	授業の進む速さは適切であった。	4	2				
8	受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。	2	3	1			
9	受講生に授業への参加（質問、発言、討議など）をよく促した。	3	2				
10	教科書や参考書の使い方は適切であった。	2	2	2			
11	視聴覚機器の使用は適切であった。	4	2				
12	配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。	3	2	1			
13	受講生に分かりやすく説明した。	3	3				
14	教員の声は聞き取りやすかった。	5		1			
15	板書の文字は見やすかった。	2	4				
16	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	3	1			
17	この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	2	4				

<分 析>個々の受講生の興味や指向に合わせた授業が展開できるように心がけた。本年度は特に生活・健康系（保健体育）コース以外の受講生が3人受講しており、体育・スポーツの範疇を超えた内容を取り扱うことができた。現職2名（うち体育専門1名、他専門2名）、現役3名（うち体育専攻2名、他専攻1名）であったため、全員の理解が促せるような授業展開を心がけた。受講生の授業中の反応も比較的良好であった。懸案であった教科書にはいくつかの新作も見られるようになってきたので、適切な教科書の選定や、授業内容の参考資料との関連などについても配慮し、授業内容を高めていく必要がある。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分 析>

- ・ 体育・スポーツを物理的な面からみたかった。
- ・ 体育スポーツ場面での動作をどのように変えたらよりよいパフォーマンスを得ることができるのか知りたかった
- ・ 基本的な運動の動きや見方を理解し、体育の授業に生かす。
- ・ 体のうごきのよい・わるいを客観的にみることができるようになりたいと思い、それがわかると思い、受講した。
- ・ 修論がバイオメカニクス系のテーマだったので、それに役立つと思い、受講した。
- ・ バイオメカニクスの視点から人を見ることによって、人を教育する際、より客観的に教育できると思った。

体育やスポーツの練習や指導を実施する上で、それを支える理論的な学習を望む回答が多い。今までの教員養成の教育課程にあって、体育・スポーツの肝心な理論教育が十分とはいえない現状を反映しているようだ。受講生がこのような運動理論を求めることは、職業上当然のことである。教育機関としてこのような需要にしっかり応えていきたい。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

- ・ 様々な事例を考えさせてくれたから。
- ・ 実際の体育・スポーツ場面のことを応用させて授業を行ったため。
- ・ 具体例を挙げていねいに説明したり、他の受講生の調べたことを紹介した。
- ・ 体育の授業においては、体の動かし方、またそれを見取る力は大変重要だと思う。そういう意味でこの講義は役立った。
- ・ 客観的に教育できるようになるので、より域を広げて教育できるようになると思った。

授業内容を正しく理解していればこそその望ましい反応と考えられる。反面、今まで受講生がこのような内容の学習機会に恵まれていなかったことも推察できる。今後も、教員やスポーツ指導者の指導を裏付ける、理論の獲得を目指して授業を展開していきたい。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点、改善してほしい点を具体的にお書きください。また、この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

- ・ なかなか物理的なことが難しく、理解できないこともあった。かなり専門的であった。充実していた。
- ・ ひとつひとつ丁寧に教えて下さったので、とても理解しやすかった。
- ・ わからないことはその場で解決してくれたので、この点が一番良かった。

保健体育コース以外の受講生が3名いたため、本年度は特に体育の専門的な内容や用語をあまり多用せず、一般的な表現を用いて授業を実施した。また、専門外ならではの素朴な疑問については、その場で説明し理解できるように心がけた。回答は少ないが、本年度は特に好意的な反応がみられた。

5 本授業の成果と今後の課題について

受講生には身体運動を理論的・力学的に理解したいという欲求や熱意がみられる。それは職業・職責上の理由から生ずるものである。現職教員を多く受け入れる本学にあって、そのような期待に答える授業内容を整備し、教育活動を実施することは、当然かつ必要なことである。

反面、身体運動の教育に関するプロフェッショナルである受講生の、運動理論に関わる知識や理解力が、人によっては十分で無い場合も多い。それに気づき、理論研究やその応用をするためのきっかけとしても、本授業はそれに貢献できると考える。

今後は、受講生の受講の目的や保健体育科教員にふさわしい知識と理解の度合いを考慮し、授業内容と方法をさらに改善・充実させるとともに、体育専門外の受講生にも役立つ授業として育て上げていきたい。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

		評価実施日	平成 18 年 7 月 27 日		
授業科目名	スポーツ・トレーニング研究	学期・曜日・時限	前期	木 曜日	3 時限
授業区分	1. 基礎科目 (2) 専攻科目 (専門分野・教科教育分野)				
担当教官名	南 隆尚	回答者数	9 名		

1 アンケート [1] の集計と分析について

[5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない]
 [2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 未記入]

番 号	評 価 項 目	評 価 番 号					
		5	4	3	2	1	無
1	授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。	2	5	2			
2	授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。	2	3	4			
3	授業の内容には一貫性があった。	3	5	1			
4	教師の実践力の育成に役立つ内容であった。	2	4	2	1		
5	授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。	2	5	2			
6	授業をよく準備し、熱心に教えた。	6	2		1		
7	授業の進む速さは適切であった。		4	3	2		
8	受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。		4	4	1		
9	受講生に授業への参加（質問，発言，討議など）をよく促した。	1	1	4	3		
10	教科書や参考書の使い方は適切であった。	1	4	2	2		
11	視聴覚機器の使用は適切であった。	4	4	1			
12	配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。	7	1	1			
13	受講生に分かりやすく説明した。	4	4		1		
14	教官の声は聞き取りやすかった。	4	5				
15	板書の文字は見やすかった。	5	3	1			
16	授業に主体的・積極的に取り組んだ。		5	3	1		
17	この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	1	5	2	1		

<分 析>

授業内容については、「(6) 授業を良く準備し、熱心に教えた」の評価は高いが、「(7)授業の進む早さは適切であった。」や「(8) 受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。」の評価が芳しくなく、また「(8)受講生の理解度を確認しながら授業を進めた」や「(9)受講生に授業への参加を良く促した。」の最瀬値が3であった。また、授業の進め方で「(10) 教科書や参考書の使い方は適切であった」についても、評価4や3が多く、参考書などを活用し、効率よく授業を進めることが必要である。学生自身の授業に取り組みについては、評価4が多く、より全員が積極的に関わられるような授業目的や課題の設定が必要である。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分 析>

受講生からの回答として、「自分または指導しているチームに役立つ用法や知識を得ようと思っていた」や「学校現場でも顧問として指導しているので、それに役に立つ内容を得ようと思った」、「自分自身の経験が正しいかどうか検証したい」などがあつた。ただ、より実践に近い内容を求めており、概念的な内容に偏っていた反省もある。しかしながら後期同演習授業との兼ね合いもあり、来年度以降の授業計画に生かしたい。また授業の希望内容は基礎理論から最新の情報など様々であるが、これまで大まかなイメージであつたスポーツトレーニングをより理論的な背景を持った実践力の習得を期待しているものと思われる。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であつた」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

受講生は、学校でのクラブ活動のためのトレーニングの立案やスポーツ傷害についてなど、具体的な知識の習得を期待していた。毎時の質問紙への回答などから、その多くの目的が、概念的な講義の展開より、トレーニングの方法や実際の指導の方法などに興味を持っているようである。より具体的な内容やトレーニングの立案に時間を割く必要があり、実践力に直結できていないと考えられる。

質問4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点、改善してほしい点を具体的にお書きください。また、この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

受講生からは、概ね良好であるとの回答がよせられた。

しかしながら、授業の内容が広範囲にわたり、トレーニングをはじめ運動生理学や解剖学、スポーツ力学の知識や専門用語も使用するため、難解に感じる意見もあった。多くの受講生が体育外コースの学生であり、スポーツの指導経験があったとしても、その多くは自身のスポーツ経験に沿った内容のものであり、より基礎的知識の重要性を伝える必要がある。

また、受講生からの意見交換が少なく、講義形式の授業に偏った。これを「毎時間学生同士の討論する場が欲しかった」との意見もあり、もっと活発な発言または意見交換が有効であると考えられる。

5 本授業の成果と今後の課題について

授業内容が、幅広くまた受講生の問題点も様々であることから、その焦点を絞る必要がある。これは、継続的に挙げられている課題であるが、達成できていないのが現状である。

本授業は、他専攻の学生も多く、また競技レベルの差も大きい。これまで以上に学生間の知識と経験の差も大きく、最後までその格差を解消することができなかった。中には体育・スポーツの指導経験のない学生もおり、問題意識に差がある。ある課題に焦点化すると無理が生じるため、授業方法の検討が必要であるが、現在のところ、解決策を見いだせていない。

目標と掲げる「高度な実践者」の育成には、現在のところ達しているとは言えない。受講生からはより具体的な内容を求められていることもあり、内容を絞り、計画・立案—実践—評価の実践的な内容にシフトすることも必要である。この点は本学の理念と照らし合わせ、授業目標と内容を再構築する必要がある。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

		評価実施日	平成 18 年 7 月 18 日		
授業科目名	スポーツ人間学研究	学期・曜日・時限	前期	火曜日	3時限
授業区分	1. 教職基礎科目 ②. 専門科目				
担当教員名	綿引 勝美	回答者数	6名		

1 アンケート [1] の集計と分析について

[5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない]
 [2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 未記入]

番号	評価項目	評価番号					
		5	4	3	2	1	無
1	授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。	2	2	2			
2	授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。	3	3				
3	授業の内容には一貫性があった。	1	1	4			
4	教師の実践力の育成に役立つ内容であった。	1	1	4			
5	授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。	1	2	3			
6	授業をよく準備し、熱心に教えた。	2	1	2			1
7	授業の進む速さは適切であった。	2	1	2			1
8	受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。	2	3	1			
9	受講生に授業への参加（質問，発言，討議など）をよく促した。		4	2			
10	教科書や参考書の使い方は適切であった。	3	2	1			
11	視聴覚機器の使用は適切であった。		1	5			
12	配布された資料・文献等は，授業内容を理解する上で役に立った。	3	3				
13	受講生に分かりやすく説明した。	1	3	2			
14	教員の声は聞き取りやすかった。	1	3	1			1
15	板書の文字は見やすかった。	1	1	3			1
16	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	4				
17	この授業は，自分自身にとって満足できるものであった。	2	3	1			

<分 析>

全体として、好意的な評価をえているが、実践力の育成という点に、どのようなつながりがあるのか、再考が必要である。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分 析>

スポーツトレーニングにおける人間のあり方や指導のあり方という問題と、科学的なトレーニング研究との関連性をより具体的に示すことが必要である。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

長期の選手養成制度の問題を扱ったが、具体的な指導上の問題については、十分時間をとれなかった。高度能力開発に係る指導実践上の問題をわかりやすく整理することが必要である。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点、改善してほしい点を具体的にお書きください。また、この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

受講生には多様難しい内容であったが、新しい資料をもとに講義することができた。翻訳資料が多かったので、周辺資料の提示に工夫が必要であると感じた。

5 本授業の成果と今後の課題について

スポーツ科学の原理的な問題と、実践的な課題との結びつきについて、丁寧に解説することが必要である。また講義全体の配分についても、できるだけ現代的な話題との関連性を示すことが必要である。スポーツにおける高度能力開発に関連する具体的な資料について、より詳細な検討が必要である。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

		評価実施日	平成 18 年 7 月 27 日		
授業科目名	信号情報処理研究	学期・曜日・時限	前 期 木 曜 日 4 時 限		
授業区分	1. 教職基礎科目 (2) 専門科目				
担当教員名	菊 地 章	回答者数	4 名		

1 アンケート [1] の集計と分析について

[5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない]
 [2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 未記入]

番号	評 価 項 目	評 価 番 号					
		5	4	3	2	1	無
1	授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。	1	3				
2	授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。	3	1				
3	授業の内容には一貫性があった。	3	1				
4	教師の実践力の育成に役立つ内容であった。	1	1	2			
5	授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。	1	3				
6	授業をよく準備し、熱心に教えた。	3	1				
7	授業の進む速さは適切であった。	1	3				
8	受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。	2	2				
9	受講生に授業への参加（質問、発言、討議など）をよく促した。	2	2				
10	教科書や参考書の使い方は適切であった。	2	2				
11	視聴覚機器の使用は適切であった。	1	1	2			
12	配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。	2	2				
13	受講生に分かりやすく説明した。	2	2				
14	教員の声は聞き取りやすかった。	4					
15	板書の文字は見やすかった。	2	1	1			
16	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	2				
17	この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	2	2				

<分 析>

本年度は従来と異なった科目として、情報専修免許科目に対して授業評価を行った。情報の専門科目であり、かつ通常の学生が苦手とする数式を基礎とした授業内容にも関わらず、結果としては学生の反応が良かったと思える。

授業の進む速さについては十分に理解できるようにゆっくりと進めたつもりであったが、やはり学生にとって苦手な数式のため少しスピードが早かったのかもしれない。ただ、これ以上ゆっくりと進むと授業にならないため、授業進行スピードとしてはこれが限界であろう。情報免許取得のための最低限必要な教育内容と学生の知識理解の妥協点と思える。

板書については数式の細かい表現が見えにくかったかもしれず、今後は丁寧に記載するように気をつけていきたい。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分 析>

これについては回答者から下記の記載があった。

- ・ 自分の研究分野なので、そういった知識を深めること。
- ・ 信号処理について理論的な知識を勉強しようと思いました。
- ・ モータの位置制御を行うためのラプラス変換やZ変換の制御工学的理論を学びたかったので受講した。
- ・ 音を処理するプログラミングがしたかったので参考になると思い受講しました。

当初から専門的な内容を期待して受講しており、また自分の修士研究との関連を明確にして受講していることが理解できる。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

これについては回答者から下記の記載があった。

- ・ 専門的過ぎる内容のため。
- ・ 教職の講義ではないため。
- ・ 信号処理の基本を身に付けることにより、将来教師になるときにもっと本質的な知識を生徒たちに教えられると思いました。
- ・ 高校の教科書にある自動制御のないように対して、より深く理解できた。よって高校へ戻った時の自動制御分野の授業がより本質的な事柄について説明できる力が付いたと思われる。
- ・ 小学校希望なので、直接指導に結びつくかは未知数です。

今回の受講者は現職の工業高校の教員や一般企業希望者、中学校教員希望者、小学校教員希望者等の様々な将来目標を持った学生が受講している。その分、各々の目的に応じた理解として授業を進めることができたようである。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点、改善してほしい点を具体的にお書きください。また、この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

これについては回答者から下記の記載があった。

- ・ 教科書が数式的な内容のためか、あまり視覚教材が使われなかった。グラフ等を利用してはどうだろうか。
- ・ 数式の処理ばかりでなく本質的なことを分かり易く説明してくれることは良かったと思います。この授業とともに信号情報処理実践の科目があれば良いと思います。
- ・ 信号処理の内容は、数学的に高度なので、演習による理解が必要である。よって、授業中に章末の演習を取り入れて戴ければより理解と自宅での復習にも役立ったと思われる。
- ・ 質問に対して丁寧に式を導出して戴けたので良かったです。それに授業の数学レベルは高く、大学院の授業としてよかったです。
- ・ 劇場の音響効果設備についてなど、具体的な例を出して説明して下さった所が分かり易かった。

どのコメントも参考になるコメントであり、この部分は授業評価の有効性が認められる。ただ、科目の追加は他の科目を削除する必要がある、演習部分を含めるためには授業進行を早くする必要があり逆に理解度が弱くなる危険性がある。事例を多く出しての理解促進、数式の意味を十分に説明しての理解促進、演習を十分に行っての理解促進、グラフ等を多用しての理解促進等の様々な手段があるが、全て対応すると授業時間がとても足らず、どの手法を採用するかは受講者の反応を見ながら選択しているのが現状である。今後も継続的に検討していきたい。

5 本授業の成果と今後の課題について

従来は技術専修免許に関連した科目の授業評価を行っていたが、本年度は情報専修免許科目に対して授業評価を行った。また、敢えて、一般的に技術コースの学生が嫌う数式的な内容の科目を授業評価に選んでみた。

結果としては、技術コースの学生のみならず、美術コースの学生さんが音響処理に興味があって受講するなど、従来とは異なった層の学生も受講した結果となった。何れの学生も積極的に授業に参加し、教える側としても珍しく授業進行が楽な授業であった。この理由としては、数学的な内容の授業は学生にとって得手不得手の違いが大きく、この授業を受講する学生自体がある程度数式に興味を持った学生しかいない状況になっているためと思われる。このあたりは、万人に対する授業内容構成を行うか特殊分野に興味がある学生のみを対象として授業内容を構成するかによる。

本学の一般的な特徴として、誰にも分かる授業の展開を意識する傾向が強く、逆に言うと本質的な深みに迫る授業の展開をあまりしない授業に学生が慣れている傾向もあると思われる。本質が分からなければ将来学生が教員になったときに面白い授業は展開できず、その意味では一部の授業は専門性が強い内容の授業展開も必要であり、本授業の専門性追及の授業展開は正解であったと解釈することもできる。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

		評価実施日	平成 18 年 8 月 28 日		
授業科目名	エネルギー工学研究	学期・曜日・時限	前 期 金 曜 日 2 時 限		
授業区分	1. 教職基礎科目 ②. 専門科目				
担当教員名	木下凱文	回答者数	3 名		

1 アンケート [1] の集計と分析について

[5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない]
 [2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 未記入]

番号	評 価 項 目	評 価 番 号					
		5	4	3	2	1	無
1	授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。	2	1				
2	授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。	2	1				
3	授業の内容には一貫性があった。	2	1				
4	教師の実践力の育成に役立つ内容であった。	1	2				
5	授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。		2	1			
6	授業をよく準備し、熱心に教えた。	3					
7	授業の進む速さは適切であった。	3					
8	受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。	3					
9	受講生に授業への参加（質問，発言，討議など）をよく促した。	1	1	1			
10	教科書や参考書の使い方は適切であった。	3					
11	視聴覚機器の使用は適切であった。	3					
12	配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。	3					
13	受講生に分かりやすく説明した。	3					
14	教員の声は聞き取りやすかった。	3					
15	板書の文字は見やすかった。	3					
16	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1	2				
17	この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	3					

<分 析>

評価点の単純に平均したは4.75点であった。この結果は極めて高く、受講生と相談しながら講義内容を数あるうちから選択して講義したことや講義内容、方法が受講生に受け容れられたものと考えられる。やはり受講生の求めるものを判りやすく教えることが重要であることが判った。また、講義内容をより良く理解させるため、最重要点では例題問題を出して理解を深めさせたことも高く評価されたこと一因であろう。なお、5番の問いについては授業中に具体的に示したのであるが、レポートについての評価についてやや理解できなかったのかも知れない。今後の検討課題としたい。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分 析>

アンケート {2} の結果、全受講生が今後のエネルギー資源の枯渇問題に危機感を持っており、将来のエネルギーをどうすればよいのかに対して興味を抱いて本講義を受講したことが判った。このため、エネルギーの現状と将来問題について、さらに、学校現場でのエネルギー教育はどうあるべきかを本講義でおこなった。

いずれ石油は枯渇するものであり、エネルギー問題は、単に省エネルギーのみを考えただけではだめである。使い易く、安全で、安価で、大量に、安定的に将来のエネルギーを賄っていけるエネルギーとは何かを本質的に分析し、その可能性を追求することが重要である。本講義では将来のエネルギー源の1つとしてバイオエタノールのようなバイオマスエネルギーを取り上げ、その可能性について考究した。特に、バイオマスエネルギーを利用して自動車や飛行機等に搭載されるエンジンの燃料としての可能性を考え、さらに学校現場でのエネルギー教材への可能性を考えた。受講生は特にバイオマスエネルギーで模型飛行機を飛ばすことに大変興味を持ったようである。今後この問題に取り組みたいと考えている。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

受講生の一人は、教師として必要な、高い専門的知識を養えた。やはり専門教科の研究が、教師にとって一番重要なことであると再認識したと回答している。確かに教え方、生徒指導等がきちんとできることは大変重要であるが、教科の基となる専門性を深め、それを土台として授業を行い、その内容を生徒達に的確に、正しく伝えることも大変重要であることを認識した。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点，改善してほしい点を具体的にお書きください。また，この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

受講生の回答を列挙すると

- OHPでの判りやすい講義がとてもよかった。
- 流れの現象を視覚的に捉えることができ、とてもよかった。
- エネルギー問題とその現状について、一歩進んだ知識を得ることができた。
- 満足です。
- 先生の考え方がいいです。授業の進め方もうまく行っていました。
- 多くの専門知識が養えました。
- 楽しかった。

以上の結果から、ほぼ満足する講義を提供することができたのではないかと考えている。

今後もさらに受講生たちが何を求め、それに対し何を提供できるかを考慮した講義を行いたい。

5 本授業の成果と今後の課題について

アンケート4の回答が全てと考えている。今後ともより良い講義を行いたいと考えている。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

		評価実施日	平成 19 年 2 月 20 日		
授業科目名	機械工学演習	学期・曜日・時限	後 期 火 曜 日 2 時 限		
授業区分	—1. 教職基礎科目— 2. 専門科目				
担当教員名	宮下晃一	回答者数	3 名		

1 アンケート [1] の集計と分析について

[5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない]
 [2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 未記入]

番号	評 価 項 目	評 価 番 号					
		5	4	3	2	1	無
1	授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。	1		2			
2	授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。						3
3	授業の内容には一貫性があった。	1		1	1		
4	教師の実践力の育成に役立つ内容であった。		2		1		
5	授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。	1			1	1	
6	授業をよく準備し、熱心に教えた。	1		1	1		
7	授業の進む速さは適切であった。	1	1		1		
8	受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。	1	1		1		
9	受講生に授業への参加（質問、発言、討議など）をよく促した。	1	1	1			
10	教科書や参考書の使い方は適切であった。	1		1	1		
11	視聴覚機器の使用は適切であった。	1	1	1			
12	配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。	1		2			
13	受講生に分かりやすく説明した。	1	1	1			
14	教員の声は聞き取りやすかった。	2	1				
15	板書の文字は見やすかった。	1		1			1
16	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1		2			
17	この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	1	1		1		

<分 析>

この授業ではCADと三次元造形装置を用いて、産業界で行われている先端的な生産・加工のシステムを体験することを目指した初めての試みであった。そのために学生からの評価が幅広くばらついているように思われる。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分 析>

- ・ CADを使った実際の作業やそれから作られる実際の部品が実現できるようリアルティなもの。
- ・ パソコンを用いての製図作業の知識や技術を学ぶ。
- ・ 機械工作をもっと実際に使用し、知識と経験を学習したかった。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

- ・ 現在のものづくりにおいて使用されているツールを用いて設計・加工を体験できることは、生徒にとって非常に役立つことであるから。
- ・ 実際の授業にCADソフトを利用することは学校側の設備面も考えなければならないので。
- ・ CADも勉強になり、使用法についての説明を受け良かった。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点，改善してほしい点を具体的にお書きください。また，この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

・受講人数に合わせた内容で、みんなで1つの物を作る、そのパーツを個人で製作し、最後に組み合わせるとかあれば、もっと統一感や達成感が出ると思いました。

・もう少し身近にあるものや実用性の高いものを製図・製作することで意欲が高まり、結果、良いものが製作できるように思う。

5 本授業の成果と今後の課題について

この授業ではCADと三次元造形装置を用いて、産業界で行われている先端的な生産・加工のシステムを体験することを目指した初めての試みであった。最終的に受講生全員がCADソフトを使って自らの構想を設計図に表現することができるようになり、さらに三次元造形装置を用いて加工も行うことができ、授業の目的は達成できたと考えている。一方、CADの指導方法や課題の選び方、三次元造形装置を用いた加工実習の進め方に改善すべき点がかなりあるようにも感じている。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

		評価実施日	平成 19年 3月 1日		
授業科目名	画像情報処理研究	学期・曜日・時限	後期 木曜日 3時限		
授業区分	1. 教職基礎科目 2. 専門科目				
担当教員名	伊藤 陽介	回答者数	2名		

1 アンケート [1] の集計と分析について

[5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない]
 [2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 未記入]

番号	評 価 項 目	評 価 番 号					
		5	4	3	2	1	無
1	授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。		1	1			
2	授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。		2				
3	授業の内容には一貫性があった。	1	1				
4	教師の実践力の育成に役立つ内容であった。	1	1				
5	授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。	1	1				
6	授業をよく準備し、熱心に教えた。	1		1			
7	授業の進む速さは適切であった。	1	1				
8	受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。	1	1				
9	受講生に授業への参加（質問、発言、討議など）をよく促した。		1	1			
10	教科書や参考書の使い方は適切であった。	1	1				
11	視聴覚機器の使用は適切であった。	2					
12	配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。		2				
13	受講生に分かりやすく説明した。	2					
14	教員の声は聞き取りやすかった。	1	1				
15	板書の文字は見やすかった。	1		1			
16	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1		1			
17	この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。		2				

<分 析>

今年度は受講者が2名と少なく客観的な授業評価は難しいが、デジタル画像情報処理の理論的な面を理解しやすい図を交えた解説と、具体的な処理例を示すことにより、授業概要に示した目的を達成できたと推測できる。また、教師の実践力の育成に関する内容の評価では、専門的な内容と学校教育で取り扱う内容の関連を詳細に説明することによって高い評価を得ている。

しかし、授業に用いた教科書は画像情報処理の専門書としたため受講生にとってやや難しく感じた面もあるようなので、今後、数種類の教科書を予め用意し受講生の予備知識に応じて選択できるように改善する必要がある。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分 析>

受講生からの回答は、画像情報処理の原理に関する探究心、画像情報処理の適用範囲、情報科学とそれに含まれる画像情報処理に対する興味・関心などであり、本授業の目的である画像情報処理に関する基本事項の理解と合致している。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

受講生からの回答は、画像情報処理の基礎から深く原理を学べたこと、及び、本授業で取り扱った内容をそのまま学校教育に適用することは難しいが、教師が基礎を知りそれに基づいて教えることは有益などであった。

本授業では、画像情報の加工に関する操作方法を取り使うのではなく、画像情報の本質的な特徴や処理方法の原理を取り扱ったため、直接的に教師の実践力の育成に役立つものではなかった。しかし、教師となって画像情報を取り扱う場合、単にその処理を行う操作方法を教える場合でも、その本質を知っていることによって、より教師としての実践力がつくことを受講者は理解できていると推測できる。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点、改善してほしい点を具体的にお書きください。また、この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

本授業の良かった点として、授業中に示された多くの数式を図などを利用してわかりやすく解説したことがあった。一方、改善点に関する指摘はなく授業内容ならびに授業方法について問題は少ないと考えられる。

5 本授業の成果と今後の課題について

本授業によって、情報科学の一分野である画像情報処理に関する基礎的な知識と処理アルゴリズムを授業と演習などを通して、受講生は深く理解したと考えられる。しかし、画像情報を取り扱うためのソフトウェアに関する予備知識がない受講生にとっては、概念をかなり詳細に解説したとしても、本授業で取り扱った内容のすべてを習得できなかったかも知れない。大学院生なりに自宅学習などで自己フォローを期待したい。

今後とも、身近になったデジタル画像情報の構成と処理方法に関する課題を中心にして、教師としての実践力を育成するという観点から、単に画像情報に関する専門的な知識のみを教授するにとどまらず、専門的な内容に基づいてどのような形で教師としての実践力と結びつくかについても折につけ触れる必要がある。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

		評価実施日	平成 18 年 7 月 28 日		
授業科目名	食生活学研究	学期・曜日・時限	前 期	金曜日	4 時限
授業区分	1. 教職基礎科目 2. 専門科目				
担当教員名	前田 英雄、西川 和孝		回答者数	3 名	

1 アンケート [1] の集計と分析について

[5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない]
 [2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 未記入]

番号	評 価 項 目	評 価 番 号					
		5	4	3	2	1	無
1	授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。	1	2				
2	授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。	2		1			
3	授業の内容には一貫性があった。	1	2				
4	教師の実践力の育成に役立つ内容であった。	2		1			
5	授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。	1	2				
6	授業をよく準備し、熱心に教えた。	1	2				
7	授業の進む速さは適切であった。	1	2				
8	受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。	2	1				
9	受講生に授業への参加（質問、発言、討議など）をよく促した。	2	1				
10	教科書や参考書の使い方は適切であった。		2	1			
11	視聴覚機器の使用は適切であった。			1		1	1
12	配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。		2	1			
13	受講生に分かりやすく説明した。	1	1	1			
14	教員の声は聞き取りやすかった。	2	1				
15	板書の文字は見やすかった。	2		1			
16	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1	2				
17	この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	2	1				

<分 析>

講義受講者は3名と少なかったが分析した学生評価の単純平均値は4.2であり、前年度の単純平均値4.1より上昇した。

評価項目 2, 4, 10, 11, 12, 13, 15 に関して「3. どちらともいえない」がみられた。

評価項目 11 の「視聴覚機器の使用は適切であった。」に関しては、「3. どちらともいえない」、「2. あまりそう思わない」あるいは「無. 未記入」がみられた。実際、授業中ではこれらの機器は使用しなかった。

他の項目については概ね担当教員が意図した講義内容と受講者の要求が一致したために評価されたものと理解している。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分 析>

下記のような問題意識をもって学生は受講したようである。

- ・ 食生活についてより深い知識の修得と理解を深めたかった。
- ・ 食育が叫ばれているので食べることの意義を再度考えたかった。
- ・ 食生活は生きていく上で不可欠のものであるので、自分の食生活を見つめ直したかった。
- ・ 食育の研究をしているので授業に参加した。

受講生の中には学部で自然科学分野の授業を選択していない学生がみられる。一方、栄養学や食品学、調理学領域の専門的な内容を修得している学生も散見される。例年、授業担当者としてどの学生に授業内容の焦点を合わせるかで悩んでいる。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

回答例としては下記のようなようであった。

- ・ 食育が重要視されている中で食べることの仕組みや疾病など関係が深かったため、子どもたちに伝えなければいけないことが明確になった。
- ・ 講義中で調理実習があり新鮮であった。

学生の評価では、教師の実践力の育成に講義中で行った調理実習を取り上げた学生が複数名いたが、講義だけでも授業や教材、プレゼンテーションの工夫を行うことによって実験や実習と同等の評価を受けることができるようにすることが今後の課題である。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点、改善してほしい点を具体的にお書きください。また、この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

回答例としては下記のようなものであった。

よかった点

- ・ 授業担当者との距離が近かったのが楽しかった。
- ・ 調理実習をしたこと。
- ・ 問題や課題を考えたこと。

改善してほしい点

- ・ 授業中に配布するプリントよりも視聴覚教材を利用する方が理解度が高まる。

今年度の授業では視聴覚教材をほとんど利用しなかったが、「1 アンケート[1]の集計と分析について」の評価項目11でも視聴覚機器の使用についての評価が悪かった。この点は今後、検討しなければならない。

5 本授業の成果と今後の課題について

今年度も前年度同様、受講者から高い評価を得たのは、実習や実験等を組み合わせた授業展開である。体験的に授業を行うことの重要性が改めて認識された。

一方、授業者が講義中に実習や実験等を行うことは授業内容に興味関心をもち理解を深めることとはなすける。しかし、限られて講義時間の中では物理的に困難な場合が多く、授業の前後で物品の用意や準備や後片付け等に相当の時間を要する。今後、DVDなどで教材をつくり視聴覚機器を利用した方法で実験や実習の疑似体験をできるように教材の工夫を検討する必要がある。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

		評価実施日	平成 19 年 2 月 21 日		
授業科目名	住生活学研究	学期・曜日・時限	後 期 水 曜 日 2 時 限		
授業区分	1. 教職基礎科目 ② 専門科目				
担当教員名	金 貞 均	回答者数	2 名		

1 アンケート [1] の集計と分析について

- 5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない
 2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 未記入

番号	評 価 項 目	評 価 番 号					
		5	4	3	2	1	無
1	授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。	1	1				
2	授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。	1	1				
3	授業の内容には一貫性があった。		1	1			
4	教師の実践力の育成に役立つ内容であった。		2				
5	授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。		2				
6	授業をよく準備し、熱心に教えた。	1	1				
7	授業の進む速さは適切であった。	1		1			
8	受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。	1		1			
9	受講生に授業への参加（質問，発言，討議など）をよく促した。	1	1				
10	教科書や参考書の使い方は適切であった。		2				
11	視聴覚機器の使用は適切であった。	1		1			
12	配布された資料・文献等は，授業内容を理解する上で役に立った。		2				
13	受講生に分かりやすく説明した。		1	1			
14	教員の声は聞き取りやすかった。		2				
15	板書の文字は見やすかった。		1	1			
16	授業に主体的・積極的に取り組んだ。		1	1			
17	この授業は，自分自身にとって満足できるものであった。		2				

<分 析>

「問3 授業内容の一貫性」「問7 授業の進む速さ」「問8 受講生の理解度の確認と授業進度」「問11 視聴覚機器の適切な使用」「問13 説明の分かりやすさ」「問15 板書の文字の見やすさ」における「評価3」の回答は「若干不満足」の意思表示と捉えている。授業は三つの大きなカテゴリの中の各テーマ別に行っており、カテゴリの中では一貫性を持たせているはずである。受講生にとっての一貫性の意味を追究していきたい。問7と8は同じ脈絡のものであり、今後の授業進行上の参考にしたい。問13に関しては、受講生の専門的土台を十分把握した上、個人差に対応していきたい。問15の板書についても改善を図りたい。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが、具体的な書きください。

<分析>

○受講生側から

- ・ 自身のこれからの生活や教師の立場としてどう指導すべきかを学ぶことを目的とした。
- ・ 住居学についてあまり知識がなく、実際に教師になったとき、子どもたちに教える自信がなかったなのでその知識を少しでも増やしたかった。

○意見に対して

受講生は自分自身の住まいに関する知識のなさから専門知識に対する要望とどう教えるかという住教育の実践方法に関心を持って受講している。受講生の中には学部で住居学を受講していない人もおり、こうした受講生の個人差に対応しながら授業内容を工夫する必要がある。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分析>

○受講生側から

- ・ 現在の日本における住生活の変容は子どもにとっては大きな問題である。特に地域と家の連携の低下は子どものコミュニケーションの低下につながるもので非常に重要なことである。また、住宅の安全面も子どもの頃から教えることによって住まいに対する意識向上が期待できる。
- ・ 様々な課題を与えていただいたお陰で、こういう教材をこのように活かすと子どもたちの興味がわくのではないかと、などのイメージをすることができたから。

○意見に対して

住まいの安全性、社会・公共性に気付き、受講生本人の意識向上が見られたのは授業者として大きな励みとなる。なお、今日の居住をめぐる様々なテーマを実践課題に結び付け、住教育課題として認識できたのはよかったと考える。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点、改善してほしい点を具体的にお書きください。また、この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

○受講生側から

- ・ 住まいに関する様々な問題を知ることができまた理解することができ、今後自身の生活にも活かせることができ非常によかった。
- ・ 自分たちにグラフの読み取りやどう考えるかなど、発言する機会を設けていただいたので、自分の意見を言う練習にもなったし、住居学について本当に理解しているのかを知る指標になった。先生と近い感じがしてよかったです。

○意見に対して

居住問題は家族や社会の変化や問題と関わることが多く、学際的視点が求められる。授業を通して住まいをめぐる様々な問題や見方を学び、また意見を述べ合うことで知識の統合化を図った。授業から得た知識と知見が生活に還元され、住生活の向上につなげることができれば学問としての役割は果たせたと考える。

5 本授業の成果と今後の課題について

本授業は、「どう住むかを考えることは個人・家族の生き方を考えること」という本質から出発し、今日の住まいをめぐる状況と問題に向かわせ、社会や環境問題と関連させながら居住面からの解決方法を探ることを中心に行われた。

授業を通して、①住まいをめぐる様々な問題や見方を学び専門知識を確かなものにしたこと、②今日の居住問題を身近な問題として認識し、住意識の向上がみられたこと、③様々なテーマを実践課題として認識し、住教育の実践力につなげたことが成果として上げられる。

今後、受講生のレベルに合わせた授業内容の選定に配慮する一方、「考える授業・議論しあう授業・実践力の向上につながる授業」を目指して更に工夫していきたい。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

		評価実施日	平成 18 年 7 月 25 日		
授業科目名	衣生活学研究	学期・曜日・時限	前 期 火 曜 日 2 時 限		
授業区分	1. 教職基礎科目 ②. 専門科目				
担当教員名	福井 典代	回答者数	2 名		

1 アンケート [1] の集計と分析について

[5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない]
 [2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 未記入]

番号	評 価 項 目	評 価 番 号					
		5	4	3	2	1	無
1	授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。	2					
2	授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。	1	1				
3	授業の内容には一貫性があった。	2					
4	教師の実践力の育成に役立つ内容であった。	1	1				
5	授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。	1	1				
6	授業をよく準備し、熱心に教えた。	1	1				
7	授業の進む速さは適切であった。	1	1				
8	受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。	1	1				
9	受講生に授業への参加（質問、発言、討議など）をよく促した。	1	1				
10	教科書や参考書の使い方は適切であった。	1	1				
11	視聴覚機器の使用は適切であった。	-	-	-	-	-	-
12	配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。	1	1				
13	受講生に分かりやすく説明した。	1	1				
14	教員の声は聞き取りやすかった。	1	1				
15	板書の文字は見やすかった。	1	1				
16	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1	1				
17	この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	2					

<分 析>

この授業では受講者数が2名と少人数であったため、受講者の理解度に合わせて授業を進めることができた。その結果、すべての項目において、5または4の評価が得られた。

講義内容については毎年受講者の要望にあわせて授業内容を決定するため、本年度は講義と実験を繰り返す授業形態を用いて、専門の授業内容の定着を図った。受講生にとっては実験後のレポート提出があったため、負担の大きい授業であったと思う。しかし、17「この授業は、自分自身にとって満足できるものであった」において、2人の学生が「まったくそう思う」として評価した点から、学生が得たものが多いと判断した。来年度以降もこの授業形態を続ける予定である。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分 析>

「現場で役に立つ実験について知りたかった」

「自分の生活と衣生活分野がどれだけ密着しているのか理解したかった」

本授業の最初にオリエンテーションとして、この授業で何を知りたいのか各受講生に問いかけている。その要望になるべく近い授業内容を実施するように心がけている。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

「具体的に自分で体験したのでよくわかった」

「教師になるための知識をたくさん学びました」

2名の受講生のうち、1名が現職教員であったため、衣生活分野の中でも、特に教材として利用可能な実験を中心に取上げた。実験後に実験内容に関連のある講義を行うことにより、衣生活の理論が理解できる工夫をした。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点、改善してほしい点を具体的にお書きください。また、この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

「教科書で理解させる内容を実際に数字に出せるような実験で、体験できて有意義でした。身近な材料で実験できる方法があれば知りたいと思いました」

「衣生活というのは服を作ったりするだけでなく、化学的な理解が必要なんだと思いました」

2名の受講生ともに、私がこの授業で伝えたかったことをよく理解している。衣生活というのは毎日の生活の中で何気なく着用して、繰り返し洗濯しているものであるが、科学的な根拠に基づいて衣服を取り扱うことにより、より快適で合理的な生活が送れる。その裏付けとして実験を実施した。

「身近な材料で実験できる方法」については、学部の「初等家庭科教育論」で取り扱っていることを受講生に知らせている。

5 本授業の成果と今後の課題について

この授業で例年実施している内容と、本年実施した内容は大きく異なる。これは受講生の要望を取り入れて授業内容を変更したのであるが、衣生活の基本について曖昧な知識を学習している者にとっては有意義な講義内容であったと思われる。衣生活に関係のある専門的な実験を行い、その次の時間に実験にあわせた講義内容を実施することにより、専門知識の定着が図れた。

来年度以降もこの授業形態をとりながら、実践的な活動を通して専門知識の習得ができるようにしたい。

附属教育研究施設等

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

		評価実施日	平成 18 年 7 月 20 日	
授業科目名	版画制作演習	学期・曜日・時限	前期 木曜日 5 時限	
授業区分	1. 教職基礎科目 ②. 専門科目			
担当教員名	武市 勝	回答者数	7 名	

1 アンケート [1] の集計と分析について

[5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない]
 [2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 未記入]

番号	評 価 項 目	評 価 番 号					
		5	4	3	2	1	無
1	授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。	6	1				
2	授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。	1	4	2			
3	授業の内容には一貫性があった。	6	1				
4	教師の実践力の育成に役立つ内容であった。	4	2	1			
5	授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。	3	2	2			
6	授業をよく準備し、熱心に教えた。	4	2	1			
7	授業の進む速さは適切であった。	3	3	1			
8	受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。	5	2				
9	受講生に授業への参加（質問，発言，討議など）をよく促した。	5	2				
10	教科書や参考書の使い方は適切であった。		3	4			
11	視聴覚機器の使用は適切であった。		2	4	1		
12	配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。	1	3	2	1		
13	受講生に分かりやすく説明した。	4	3				
14	教員の声は聞き取りやすかった。	6	1				
15	板書の文字は見やすかった。	3	3	1			
16	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	6	1				
17	この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	3	4				

<分 析>

総じて感じることは、今年度は版画のゼミ生が5名（院3学部2，内現職1）と急激に増加したため、これらの学生が研究・制作するためのスペースを急いで確保しなければならなかったことである。

これは筆者が実技センター所属ということもあって、なかなか難しい問題であった。センターの部屋は授業との共用であり、ゼミ生が専用のできるスペースはなかったためである。このため、授業をする部屋にゼミ生たちの制作机を置くしかなく、このことは受講者とゼミ生の両者から苦情が来た。

このことがアンケートの結果にもいくつかあらわれている。

この問題の解決には、スペースの拡張しかないのだが、長期履修の増加のため全体の教室が手狭になっていることや、他の実習室を簡単に転用できないこともあり、今後の見通しは困難である。

定員減少による空き研究室を使用できないか申し出ることを検討している。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分 析>

教職現場へにつなげている者は6人中1人であり、他は「自分の作品制作に生かしたい」という考えが目立った。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

コラグラフについては、現場でのアレンジが可能で生かしたいという答えもあったが、木版凹版についてはなかった。前者が凸版印刷として転用すれば小中学校でも可能なのに対し、後者はそれが困難だからであろう。

教育大学の授業でも必ずしも現場に転用できるものばかりを内容とすべきではないため、これはこれでいいと思われる。

ただいずれの方法においても、版画には材料費は安価であっても教師側の手数はかかることが多い。この点に絞った教材開発が、今後の実践力育成に役立つと思われる。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点、改善してほしい点を具体的にお書きください。また、この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

- ・ 授業作品の学内展示はわりあい好評であった。その際に個々の作品を批評したことも印象に残ったようである。
- ・ 進度の差が生じるために授業外で制作する条件の整備が必要になるが、このことで「材料がない」「用具が見つからない」などの苦情もあった。教師がいなくても可能なように整えなければならぬことを感じたが、ゼミ生への配慮もあって用具を小分けすることもできず、問題を感じた。
- ・ 「毎年受講したい」という回答もあった。以前からのことだが、受講者数が多い現在、これは固辞しなければならない。

5 本授業の成果と今後の課題について

1 狭いスペースの中で、5人のゼミ生の制作と10人前後の授業受講生の研究を同居させるのは無理である。臨時でも現学生が在籍する間はどこかの部屋を手当てしなければならない。

2 シラバスの内容は基本的には現行のままでいいと思われる。授業は小品製作に徹し、できるだけ進度差が起きないように配慮する必要がある。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

		評価実施日	平成 18 年 7 月 27 日	
授業科目名	漢字文化史研究	学期・曜日・時限	前期 木 曜日 2 時限	
授業区分	1. 教職基礎科目 ② 専門科目			
担当教員名	養毛 政雄	回答者数	15 名	

1 アンケート [1] の集計と分析について

[5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない]
 [2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 未記入]

番号	評 価 項 目	評 価 番 号					
		5	4	3	2	1	無
1	授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。	12	3				
2	授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。	10	5				
3	授業の内容には一貫性があった。	14	1				
4	教師の実践力の育成に役立つ内容であった。	13	2				
5	授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。	11	3	1			
6	授業をよく準備し、熱心に教えた。	14	1				
7	授業の進む速さは適切であった。	13	2				
8	受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。	9	4	2			
9	受講生に授業への参加（質問、発言、討議など）をよく促した。	3	10	2			
10	教科書や参考書の使い方は適切であった。	12	3				
11	視聴覚機器の使用は適切であった。	14	1				
12	配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。	13	2				
13	受講生に分かりやすく説明した。	14	1				
14	教員の声は聞き取りやすかった。	13	2				
15	板書の文字は見やすかった。	13	3				
16	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	9	5	1			
17	この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	14	1				

<分 析> 授業内容としては、例年通り高い評価を得ている。講義なので、教員側から一方的に話すだけにならぬよう、話の区切りで質問はないか尋ねるよう心がけているが、質問が比較的少ない。これは学生側の受け身の受講態度にも問題があると思われる。自分で関連する書物を読んだり調べたりするような積極性を引き出すよう、働きかけていきたい。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分析> 学生の記述をまとめると、以下のようになる。

- ・漢字の歴史
- ・書写教育に関する知識（日本と中国）
- ・中国の文化
- ・漢字教育
- ・漢字の成り立ちについて

こういった学生の期待に十分応えられる内容で授業を展開している。今年は、日本への漢字の伝来とその後の展開についても詳しく話したので、漢字と日本文化の深い関わりを理解してもらえたのではないと思う。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分析> 学生の記述をまとめると、以下のようになる。

- ・授業へのアイデアが生まれた。
- ・漢字の歴史について知っておくことは、日本の教師にとっては必要なのではないかと思った。
- ・漢字の文化を知ることにより、子どもたちに興味を持たせることのできる知識を得ることができた。
- ・資料を豊富に用意していただき、内容も学校現場で使用できるものだったため。
- ・知識を深めることができました。漢字に対して、大切に使いことうという気持ちになりました。
- ・参考図書の紹介等が適切であり、時にはビデオやOHP等を使い、実践の場で応用・実施できるような授業であった。
- ・漢字指導について大きな視野に立って考えることができるとともに、本当に大事なものは何かを考えさせられた。歴史の流れと共に、漢字について多くの知識・情報を得ることができた。

授業では学校での実践にも応用できるような内容も心がけていたが、その成果が出ているように思う。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点、改善してほしい点を具体的にお書きください。また、この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分析> 学生の記述をまとめると、以下ようになる。

- ・先生が実際に書（篆書）を書いてくださり、とても印象に残り、感動した。ぜひ、このようなことを多く授業に取り入れてもらえたらと思いました。
- ・資料や視聴覚機器の多用により、理解がスムーズにできた。
- ・中国のビデオ等は、興味が大きくなるので良かったです。
- ・実物を紹介してもらったのがよかった。
- ・いろいろな形での提示があり、本当に変化に富みかつ充実していました。
- ・資料がとても充実していた。説明が丁寧で分かりやすかった。

改善点については、学生の記述にはなかった。視聴覚機器を使うことで、学生にとっては分かり易い授業になっているようなので、今後も続けていきたい。

5 本授業の成果と今後の課題について

以上の学生たちの記述からも読み取れるように、授業内容についてはおおむね満足しているようなので、今後もこれを継続していきたい。

教材や説明の仕方を研究し、さらに分かり易くかつ内容の濃い授業をめざして努力したい。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

		評価実施日	平成 18 年 8 月 1 日		
授業科目名	数学科授業研究	学期・曜日・時限	前 期 火 曜 日 2 時 限		
授業区分	1. 教職基礎科目 (2.) 専門科目				
担当教員名	服部勝憲	回答者数	11 名		

1 アンケート [1] の集計と分析について

(5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない)
 (2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 --- 未記入)

番号	評 価 項 目	評 価 番 号					
		5	4	3	2	1	無
1	授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。	4	6	1			
2	授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。	4	6	1			
3	授業の内容には一貫性があった。	7	2	2			
4	教師の実践力の育成に役立つ内容であった。	4	7				
5	授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。	5	6				
6	授業をよく準備し、熱心に教えた。	7	4				
7	授業の進む速さは適切であった。	7	4				
8	受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。	5	5	1			
9	受講生に授業への参加（質問，発言，討議など）をよく促した。	5	6				
10	教科書や参考書の使い方は適切であった。	7	4				
11	視聴覚機器の使用は適切であった。		2	7			2
12	配布された資料・文献等は，授業内容を理解する上で役に立った。	6	5				
13	受講生に分かりやすく説明した。	8	3				
14	教員の声は聞き取りやすかった。	9	1	1			
15	板書の文字は見やすかった。	8	2	1			
16	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5	6				
17	この授業は，自分自身にとって満足できるものであった。	8	3				

<分 析>

・概ね積極的な評価が得られている。教材が数学教育・授業の内容・論文であり多岐にわたるために、最初に考えていた我が国、諸外国の算数・数学の授業のビデオの視聴を通しての授業研究をとりあげることができなかった。
 ・教員による一方的な講義に終わらずに、学生が内容・領域を分担して、事前に調査・学習をしておいて、報告・発表する形態を採ったのはよかった。またその後の討論，教員によるコメントは全体的に高く評価されている。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分 析>

- ・ 数学教育・授業についての知識を伸ばすこと。
- ・ 数学教育の現状を深く学ぶこと。
- ・ 学校の数学教育の現状を知り、その改善のための考え方を身につけるため。
- ・ 戦後の数学教育の変遷を学び、今後のあり方を考えるため。
- ・ 修論の基礎としての論文の読解力・要約力を身につけるため。
- ・ 数学教育についての論文を読むことを通して、数学教育の重点を知ること。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

- ・ 現在の数学教育の課題とその解決の仕方について理解すること。
- ・ 具体的で実践的な内容だったから。
- ・ 学生個人の担当内容が明確で、分かりやすくまとめ表現する機会だったから。
- ・ 現状をよく知り、改善点を理解することができたから。
- ・ これまで、そして現在の数学教育を知ることができ、今後の授業づくりに役立つから。
- ・ 学んだことがこれからの学校教育に生かせると考えるから。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点，改善してほしい点を具体的にお書きください。また，この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

- ・ここで学んだ内容・方法を今後の実践，研究に生かしたい。
- ・内容の難しいところや短時間では理解しにくいところがあった。
- ・学生が発表し，議論し，先生がそれについてコメントするので，様々な意見が聞けてよかった。
- ・もっと現場の先生の声が聞きたかった。
- ・学生が内容を担当し，まとめ発表したのはよかった。
- ・若い人の意見をもっと聞きたかった。

5 本授業の成果と今後の課題について

- ・内容的には，算数・数学教育，算数・数学授業を広く取り上げたのはよかったが，時間的に無理な面もみられた。
- ・受講生が領域・内容を分担し，調査，発表，報告したのはよかった。またその後の討議，教員のコメントも積極的に評価されている。
- ・時間的な問題があり，我が国，諸外国の算数・数学の授業のビデオの視聴を通しての授業研究をとりあげることができなかった。
- ・算数・数学についての模擬授業の実施も視野に入れていたが，実際には時間的に無理であった。
- ・今後，本授業を担当することがあれば，内容，授業時間数，シラバスの関連を熟慮し，上記のような課題の解決について検討したい。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

		評価実施日	平成 19 年 2 月 21 日		
授業科目名	地学実験法特論	学期・曜日・時限	後 期 水 曜 日 2 時 限		
授業区分	1. 教職基礎科目 2. 専門科目				
担当教員名	小澤・村田(守)・香西・西村	回答者数	8 名		

1 アンケート [1] の集計と分析について

[5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない]
 [2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 未記入]

番号	評 価 項 目	評 価 番 号					
		5	4	3	2	1	無
1	授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。		6	2			
2	授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。	2	4	2			
3	授業の内容には一貫性があった。	2	6				
4	教師の実践力の育成に役立つ内容であった。	1	6	1			
5	授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。	1	4	3			
6	授業をよく準備し、熱心に教えた。	2	6				
7	授業の進む速さは適切であった。	3	5				
8	受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。	4	4				
9	受講生に授業への参加（質問、発言、討議など）をよく促した。	5	3				
10	教科書や参考書の使い方は適切であった。	1	6	1			
11	視聴覚機器の使用は適切であった。	3	5				
12	配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。	4	4				
13	受講生に分かりやすく説明した。	2	6				
14	教員の声は聞き取りやすかった。	3	4	1			
15	板書の文字は見やすかった。	2	5	1			
16	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	4				
17	この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	4	4				

<分 析>

平均評価は4.2であり、おおむね高い評価であった。特に「授業の参加を促す」「教科書・参考書の使用」「わかりやすく説明」が高く、今後も継続していきたい。一方「授業計画」「成績評価」に関する評価が相対的に低く、今後改善を要することが判明した。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分 析>

岩石に関する調査法や基礎知識について詳しい内容を知りたいために受講した院生が多かった。また一部地学全体に対する苦手意識があり受講したものもいた。本来の目的が「地学分野の実験法の理解を通じ地球物質科学の論理を学ぶこと」であり、実験対象は岩石・鉱物であるため、多くの受講生の期待・問題意識と一致している。「苦手意識の克服」については直接つながらないが、今後授業当初に問題意識を確認し、受講生のニーズを知ることが重要と考えられる。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

岩石・鉱物に関する実験法や知識が得られ、現場での応用につながると回答している受講生が多かった。また学校教科書の一部をテキストとして用いたため、現場とのつながりがあると回答したものいた。おおむね専門的な知識をもとに現場への実践につなげているようである。一方苦手意識を持っていた受講生は「専門的で難しい」と回答している。ニーズ把握が重要であろう。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点，改善してほしい点を具体的にお書きください。また，この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

「岩石学の応用の初歩を知りたい」という要望があった。今後の講義に取り入れていきたい。

5 本授業の成果と今後の課題について

本授業の目的である「岩石鉱物を対象とし，地学分野の実験法の理解を通じ地球物質科学の論理を学ぶこと」は受講者のコメントにもあるように十分達成できたと考えられる。専門的な知識と実践力との連関についてもかなり達成されている。ただすべての受講者のニーズにこたえることができなかった。今後積極的に受講者のニーズを探り，より満足度の高い授業にしていきたい。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

		評価実施日	平成 18 年 7 月 14 日		
授業科目名	健康科学研究	学期・曜日・時限	前 期 金 曜 日 4 時 限		
授業区分	1. 教職基礎科目 ②. 専門科目				
担当教員名	廣瀬政雄	回答者数	4 名		

1 アンケート [1] の集計と分析について

[5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない]
 [2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 未記入]

番号	評 価 項 目	評 価 番 号					
		5	4	3	2	1	無
1	授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。		2	2			
2	授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。	2	1	1			
3	授業の内容には一貫性があった。	1	1	2			
4	教師の実践力の育成に役立つ内容であった。	1	2		1		
5	授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。	1	2	1			
6	授業をよく準備し、熱心に教えた。	1	2		1		
7	授業の進む速さは適切であった。	1	1	1	1		
8	受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。	1	1	1	1		
9	受講生に授業への参加（質問，発言，討議など）をよく促した。		2	2			
10	教科書や参考書の使い方は適切であった。	1	1	1	1		
11	視聴覚機器の使用は適切であった。	3		1			
12	配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。	2	1	1			
13	受講生に分かりやすく説明した。	1	2		1		
14	教員の声は聞き取りやすかった。	2	1	1			
15	板書の文字は見やすかった。		1	2		1	
16	授業に主体的・積極的に取り組んだ。		3		1		
17	この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。		3		1		

<分 析>

選択した学生が少ないのに評価が分かれた。授業計画とは別に授業のはじめに学生に参加目的を聞いて、多少の修正を加えつつ授業を進めたが、全員にとって満足できる授業とならなかったことが分かる。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分 析>

授業初日に聞いた学びたい内容では、単純に「生活習慣病について学びたい」というものがほとんどであった。しかし、最終日に学生が記載した目的は、「心身の健康について学びたい」、「学校で役立つ健康について科学的に学びたかった」、「健康に生活するための具体的な方法について学びたい」、などに広がっており、前期の間にも授業や学生生活を通じて学びの興味と将来の関心の方向とに変化と深化が認められる。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

学生の記載内容は、「実際の教育現場で役立つことを教わった」、「児童の指導に当たって専門的な知識が得られた」、「AEDの使用方法が役立った」、など肯定的な評価と「難しすぎて理解できなかった」という否定的な評価に分かれた。授業初日に聞いた要望に沿って例年よりも易しい内容としたが、基礎医学的内容に触れることや医学用語が授業で使われることは避けられない。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点、改善してほしい点を具体的にお書きください。また、この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

学生の提案には「ビデオも見たい」、「プレゼンテーションの機会を増やす」があがった。前年までの学生の要望でビデオ視聴も学生によるプレゼンテーションの機会も設けたが、授業理解を進める補助教材として考慮する必要がある。ただ、学生の多様化に伴って、授業計画とは別に学生の要望に沿って、修正を加えながら授業を進める必要がある。

5 本授業の成果と今後の課題について

授業計画とは別に学生の要望を聞き、授業内容を、学校の指導において必要なこと、学生自身にとって必要なこと、現代人の健康問題などの分野に分け、それぞれの分野で最小限必要な内容に触れることが出来た。当初の授業内容を修正しながら授業を進めたことは良かったと考えている。

鳴門教育大学大学院学校教育研究科教務委員会 委員名簿
(平成18年度)

委員長	田中雄三	理事	
副委員長	清水宏次	第3部	(教授)
委員	山下一夫	第1部	(教授)
"	田村隆宏	第1部	(助教授) (大学院生による授業評価専門部会委員)
"	村川雅弘	第2部	(教授)
"	原田昌博	第2部	(助教授) (大学院生による授業評価専門部会委員)
"	秋田美代	第3部	(助教授) (大学院生による授業評価専門部会委員)
"	頃安利秀	第4部	(教授)
"	鈴木久人	第4部	(助教授) (大学院生による授業評価専門部会委員)
"	田中弘之	第5部	(教授)
"	福井典代	第5部	(助教授)
"	深田哲	教務課長	
"	八幡ゆかり	研究科長指名	(教授)
"	余郷裕次	研究科長指名	(助教授)
"	藪下克彦	研究科長指名	(助教授)
"	坂本智	研究科長指名	(助教授) (大学院生による授業評価専門部会委員)

平成18年度 大学院生による授業評価実施報告書

平成19年8月発行

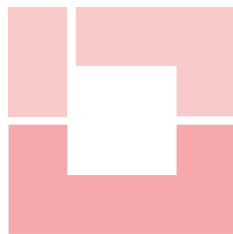
編集 鳴門教育大学大学院学校教育研究科教務委員会

発行 鳴門教育大学

〒772-8502 鳴門市鳴門町高島字中島748番地

電話 088-687-6097

FAX 088-687-6107



国立大学法人
鳴門教育大学

〒772-8502 鳴門市鳴門町高島字中島748番地
<http://www.naruto-u.ac.jp/>